

生)あり(宮崎、南那珂、飯肥町)

**岡 宗一郎** 滋賀縣多額納税者、醬油醸造業  
妻 直三郎 明二五、七生、現戸主  
女 さと 明三五、一五、日野實科高等女学校出身  
女 花 明四一、五五、日野實科高等女学校出身  
君は滋賀縣人木本利兵衛の四男にして安政五年十月を以て生れ先々代宗一郎の養子となり明治二十年家督を相続し大正十五年退隠す醬油醸造業を營み滋賀縣多額納税者たり(滋賀、蒲生、鎌掛村)  
参照 岡直三郎の項

**岡 惣平** 岡山縣多額納税者、土木建築請負業、岡山縣在籍  
妻 ヨシ 明一九、四生、岡山、桶川喜十二女  
男 儀 弘 大二、一五、現戸主  
君は徳島縣人岡儀平の五男にして明治九年十一月を以て生れ大正十年分家して一家を創立す土木建築請負業を營み岡山縣多額納税者たり家族は尙養子一衛(明四五、七生、徳島、岩田磐之進六男)繼子政子(大二、九生)あり(岡山、小田、笠岡町)

**岡 太一** 長崎海運(株)代表取締役、大日本漁業(株)取締役、兵庫縣在籍  
父 常四郎 明二九、三生、現戸主  
妻 てい 明二九、三生、兵庫、ト田魯平長女  
君は兵庫縣人岡常四郎の長男にして明治二十五年十一月を以て生れる現時長崎海運會社代表取締役たる外前記會社の重役を兼ね姉ひとり(明二九、三生)は兵庫縣人廣本萬吉の養子となり(長崎市南山手町二四)

**岡 胤信** 從五位勳五等、工學博士、大林組(株)顧問、東京府士族  
男 新 明三三、七生  
男 郁 子 明三四、一五、長男新妻、島根、内垣實衛長女  
男 千 勝 明二七、一二生  
君は東京府士族淺尾胤徳の二男にして安政六年十二月を以て生れ後先代昌輪の養子となり家督を相続す明治

十三年東京帝國大學工學科大學土木工學科を卒業し内務省御用掛同五等技師第六區各土木監督署長大阪府市警務事務所技師等に任官を辭し現に大林組顧問たり同三十二年工學博士の學位を受く家族は孫一郎(大一一、五生、長男新長男)あり二女三枝(明二一、三三)生、三重縣土族日比重明長男法學士重雅に嫁せり(東京、本郷、駒込上宮土前町七三電小石川七六一)

参照 菅淺野順一の項

**岡 千賀松** 正五位勳三等功五級、陸軍少將、歩兵第三十二旅團長、岡山縣在籍  
妻 れん 明二一、六生、茨城、中山岡四郎妹  
養子 正 明四五、二生、岡山、高木岩吉長男  
君は岡山縣人岡傳吉の三男にして明治十二年十一月を以て生れる岡山陸軍士官學校を卒業し同三十四年歩兵少尉に任じ爾來果敢して昭和二年陸軍少將に陞る其間朝鮮軍參謀第十四師團參謀長等に歴補し現時歩兵第三十二旅團長たり家族は尙兄敬治(明七、五生、現戸主)同妻壽野(同一、四生、岡山、難波忠三郎長女)及其一子妹與志(同一、五、九生)あり兄岩吉(同一、四生、中外商業新報社參事)は岡山縣人高木作造の養子となり(和歌山市豊原町)  
参照 菅天谷虎之助の項

**岡 常吉** 埼玉縣多額納税者、酒造業  
妻 なか 明三、九生、東京、佐久間半兵衛長女  
男 專太郎 明二六、八生  
男 春子 明三五、九生、長男專太郎妻、埼玉縣多額納税者たり家族は尙四男與四郎(明四五、一五、三、生、長男專太郎長女)同常藤(同一、五、三、生、同長男)あり長女ます(明三一、三、生)は埼玉縣人安田三郎治に嫁せり(川越、川越八二九)

**岡 常吉** 砂糖商  
東京府在籍

養子 喜市郎 明一七、九生、東京、秋山善吉長男  
婦 きみ 明二三、二生、養子喜市郎妻、埼玉、町田昌太郎二女  
君は東京府人岡市之助の叔父にして安政六年二月を以て生れ明治十八年分家して一家を創立す砂糖商を營む家族は尙孫兼一(明四四、一五、養子喜市郎長男)同時雄(大八、一〇生、同二男)あり(東京、日本橋、本町三ノ一電日本橋一七三三)

**岡 直三郎** 滋賀縣多額納税者、醬油醸造業  
父 宗一郎 安政五、一〇生  
妻 知以 明三二、三生、滋賀、伊夫岐直一妹  
君は滋賀縣人先代宗一郎の二男にして明治二十五年七月を以て生れ大正十五年家督を相続す醬油醸造業を營み縣下の多額納税者たり家族は尙長女隆子(大一〇、三生)二女愛子(同一、二生)三女園子(同一、五、八生)あり(滋賀、蒲生、鎌掛村)  
参照 岡宗一郎の項

**岡 甫** 愛國貯蓄銀行(株)常務取締役、日本信託銀行(株)監査役、新報社(株)監査役、東京府士族  
母 シン 文久元、七生、祖父正甫長女  
妻 トヨ 明三六、一二生、大阪、今澤彌七女  
君は東京府士族岡正夫の長男にして明治十七年十月を以て生れ大正六年家督を相続す現時前記銀行會社の重役たり家族は尙妹つる(大五、二生)あり同高麗(明三九、一〇生)は東京府人高橋秀晴に嫁し弟正雄(同四三、一〇生)は分家せり(大阪、西、江戸堀南通一ノ三八電土佐堀四二五)

**岡 治光** 諏訪銀行(株)頭取、山梨縣在籍  
母 きく 慶應二、九生、宮城、土、小野源  
妻 ハツノ 明二三、六生、新潟、山川彌長女  
男 治保 大一一、五生、山梨、矢澤覺三女  
君は山梨縣人岡治光の二男にして明治二十三年十一月を以て生れ大正八年家督を相続す現に明治大學に學び先代の遺業たる諏訪銀行の經營に任じ現に同行頭取たり家族は尙長女治子(大六、一二生)二男治良(同一三、五八一)

五生)あり姉はるの(明二一、九生)は山梨縣人山下虎馬雄に妹美好(同二七、二生)は同縣人青柳欽一に同鴻子(同三三、二生)は同縣人山中木公磨に叔母この(同一〇、四生)は同縣人岡伊兵衛長男虎年(同三三、九生)は同縣人と田彌次兵衛に同義角(同八、二生)は同縣人若尾保重郎に各養子となり(山梨、東山梨、諏訪村)

参照 若尾義角の項

**岡 春雄** 正五位、男爵、陸軍歩兵中尉、近衛歩兵第二聯隊附、東京府華族  
母 登 茂 明二、四生、京都、坂上和七長女  
妻 元子 明三六、二生、文學博士松井簡治女  
當家は先代市之助より顯る市之助は京都府士族岡吉春の長男にして陸軍士官學校を卒業し明治十四年陸軍歩兵少尉に任じ同四十五年陸軍中將に累進す其間陸軍省軍事課參謀本部員歩兵第二十二第二十九各旅團長陸軍省軍務局長陸軍次官第三師團長陸軍大臣等に歴任し大正五年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其長男にして明治三十一年二月を以て生れ大正五年襲爵仰付けらる陸軍士官學校を卒業し同八年陸軍歩兵少尉に任じ同十一年中尉に陞り現時近衛歩兵第二聯隊附たり姉はつ(明一八、七生)は山口縣士族津野一輔に同みち(同二〇、七生)は同縣士族福原佳哉に妹房子(同三六、二生、三輪田高等女學校出身)は兵庫縣人森孫八郎に嫁し叔父五郎(同九、一五)同妻やす(同一六、一五、三重、水谷喜七二女)は其二子と共に叔父檢之助(同一八、五生)は其妻く(同二三、八生、千葉、鶴岡信包妹)を伴ひ各分家せり(東京、四谷、須賀町一電四谷三四四)

参照 福原佳哉、松井簡治、森山作樹の項

**岡 退** 從五位勳五等、檢事、東京府華族  
妻 義 俊 明二二、四生、大阪、大出憲之養子  
男 義 俊 明四一、六生  
女 昭 子 明四三、一五生  
君は奈良縣人岡義抄の二男にして同實の弟なり明治九

年二月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す同三十五年明治法律學校を卒業し判檢事登用試験に合格同三十八年判事に任じ南關東地方各裁判所判事を經て大正元年朝鮮總督府判事に轉じ大邱京城釜山各地方法院判事に歴補し同七年檢事に任じ下關區山口地方同區廣島地方同區水戸同區地方高田區靜岡地方同區新潟地方同區浦和同地方各裁判所判事を經て昭和三年二月現職に補せらる(東京、麹町、地方裁判所内)

参照 岡實の項

**岡 半右衛門** 同半商事、津魚市場各(株)社長、滿鮮開拓、第一證券、丸小商店各(株)取締役、津農商銀行(株)監査役、期米及魚粉商、三重縣在籍  
妻 とく 慶應元、八生、三重、川島喜左衛門三女  
養子 長平 明一五、一五、三、養子長平妻、三重、土、松浦高麗三女  
君は三重縣人先代市兵衛の二男にして萬延元年三月を以て生れ明治九年家督を相続す期米及魚粉商を營み傍ら同半商事津魚市場各會社社長たる外前記諸會社の重役たり家族は尙孫正子(大元、一五、一五、養子長平長女)あり(津、北濱町八)

参照 菅笹野長持の項

**岡 文六** 京都府多額納税者、萬足屋、西陣織物業、京都府在籍  
母 ちか 門二、四生、京都、寺村助右衛門妹  
君は京都府人岡文六の二男にして明治三十八年三月を以て生れ大正十五年家督を相続し襲名して前名貞三を改む萬足屋と稱し西陣織物業を以て知られ京都府多額納税者たり家族は尙弟龍吉(明四〇、七生)同善郎(大四、一〇生)あり同順一(明四二、五生)は京都府人中川三太郎の養子となり同七郎(大一一、一五)は同府人大島ミチの死跡を相続し伯父常三郎(明五、五生)は分家せり(京都、下京、六角通東洞院東入電中五〇四)

参照 寺村助右衛門の項

**岡 正路** 從五位勳六等、會計検査官、第三部第二課長、宮城縣士族  
父 瀧 高永六、一五生、現戸主

**岡 昌世** 高知縣多額納税者、農業  
妻 豐 龜 明一五、一五、高知、北川益衛叔母  
男 幸 昌 明四三、九生  
女 晴 壽 明四〇、七生  
君は高知縣士族先代義和の長男にして明治九年九月を以て生れ同三十七年家督を相続す農業を營み現に高知縣多額納税者たり家族は尙二男豊政(大元、一〇生)あり妹尚香(明二四、一五)は熊本縣人永島雄弟眞雄に嫁せり(高知市大川筋一三)

**岡 政吉** 染色業  
大阪府在籍  
妻 竹三郎 安政四、八生  
養父 ちく 明九、九生、養父竹三郎長女



に嫁し弟建吉同一〇、四生、豫備海軍大佐(同妻はな...)

岡崎 邦輔 正四位勳三等、貴族院議員

岡崎 國臣 東京株式取引所理事、銀行事務長

岡崎 忠雄 銀行商工會議所副頭、神戸岡崎銀行頭取

岡崎 哲郎 從五位勳六等、朝鮮總督府道務官

岡崎 初次郎 福井縣多額納稅者、福井縣商會副頭

岡崎 正雄 從四位勳四等、陸軍少將

岡崎 貞伍 正四位勳二等、豫備海軍中將

長衆議院書記官長等に歴任し現時東京株式取引所理事

岡崎 慶次郎 岡山縣同族(株)取締役

岡崎 佐次郎 富山縣多額納稅者、農業

岡崎 末二 長野縣多額納稅者、酒造業

君は富山縣人岡崎藤十郎の長男にして文久元年九月を

君は福井縣人先代善右衛門の長男にして明治八年九月

君は東京府士族岡崎壽の長男にして明治五年十一月を

君は先代生三より家名を揚生三は舊高知藩士にして

母 嘉永五、三生、長野、香掛正一叔母

岡崎 善太 正五位勳四等、判事、青森地方裁判所長

岡崎 泰助 從五位、製鐵所技師

君は福井縣人先代善右衛門の長男にして明治八年九月

君は富山縣人岡崎藤十郎の長男にして文久元年九月を

君は東京府士族岡崎壽の長男にして明治五年十一月を

君は先代生三より家名を揚生三は舊高知藩士にして

オヲ之部 岡崎

オヲ之部 岡崎

オ一七三

君は宮城縣人岡崎七郎太の三男にして明治四年九月を

君は宮城縣人岡崎七郎太の三男にして明治四年九月を

君は宮城縣人岡崎七郎太の三男にして明治四年九月を

君は宮城縣人岡崎七郎太の三男にして明治四年九月を

君は宮城縣人岡崎七郎太の三男にして明治四年九月を

君は宮城縣人岡崎七郎太の三男にして明治四年九月を

君は宮城縣人岡崎七郎太の三男にして明治四年九月を

君は宮城縣人岡崎七郎太の三男にして明治四年九月を

君は宮城縣人岡崎七郎太の三男にして明治四年九月を



藥太郎(大八、九生、養子乙三郎長男)同安二郎(同二、四、一〇生、同二男)あり(大阪、港、南安治川通一、四電西七〇九)

参照 河合十太郎の項

**岡島 音吉** 岡山縣多額納税者  
妻 嘉永三、九生、養父源二郎長女  
養子 芳太 明一〇、一、生、長女いち、岡山、今田瀧次郎二男  
女 いち 明一四、四生、養子芳太妻  
君は岡山縣人岡田半兵衛の二男にして弘化四年四月を以て生れ先代源二郎の養子となり明治七年家督を相続す豪商にして岡山縣多額納税者たり(岡山、吉田、津山町)

**岡島勝之助** 友禪染物商  
京都府在籍  
妻 カメ 慶應三、七生、京都、渡邊茂助長女  
養子 明二、一、二生、京都、富岡榮七  
女 明二、一、二生、京都、富岡榮七  
男 一郎 大四、一〇生  
君は京都府人岡本卯兵衛の四男にして明治二十五年五月を以て生れ大正八年京都帝國大學醫學科を卒業し現に縣立松江病院小兒科部長たり家族は尙長女和子(大一一、九生)二女小枝子(同九、八生)三男理(同二、三、生)あり(京都、下京、新町通四條下ル三五二電下六一六九)

**岡島 癸巳郎** 縣立松江病院小兒科部長、醫師  
京都府在籍  
父 英一 文久二、五生、現戸主  
母 とくの 慶應三、三、生、京都、人見彦一郎  
妻 八千代 明二、八、一、二生、京都、人見鹿太郎二女  
君は京都府人岡島英一の長男にして明治二十六年三月を以て生れ大正八年京都帝國大學醫學科を卒業し現に縣立松江病院小兒科部長たり家族は尙長女和子(大一一、九生)二女小枝子(同九、八生)三男理(同二、三、生)あり(京都、下京、新町通四條下ル三五二電下六一六九)

同格(同四、七生)は分家せり(松江、内中原御出頭町)参照 八見鹿太郎 松江藤吉郎の項

**岡島 喜八郎** 山梨縣多額納税者、吳服洋品商  
妻 嘉永三、九生  
養子 明三、二、一、二生、山梨、雨宮源兵衛二女  
男 喜一郎 大四、九生  
君は山梨縣人岡島茂兵衛の長男にして明治二十七年九月を以て生れ同三十二年家督を相続す吳服洋品商を營み山梨縣多額納税者たり家族は尙長女榮(大一一、六生)二女操(同二、一、生)あり叔父彌吉(明一七、四生)は分家せり(甲府、柳町)

**岡島 久七** 吳服商  
京都府在籍  
妻 とみ 明四、七生、養父定右衛門長女  
養子 久次郎 植田卯之吉長男  
女 梅子 明三、四、一〇生、養子久次郎妻  
君は兵庫縣人黒田正二の叔父にして安政六年七月を以て生れ山梨縣人岡島定右衛門の養子となり明治二十四年分家して一家を創立す吳服商を營む家族は尙孫貞一郎(大一一、三、四生、養子久次郎長男)あり養子三枝子(同二、一〇、一、生、東京、大塚繁松孫は埼玉縣人城所ハマ源七の養子となり(東京、日本橋、富澤町二八電花九八九))

**岡島 銀次** 正五位勳四等、鹿兒島高等農林學校教授、福井縣士族  
妻 弘化二、四生、福井、土、淺山直姉  
養子 明一七、二、生、福井、加藤與次兵衛長女、福井高等女學校出身  
男 多賀 明三、五、一、二生  
女 敏行 明四、一、一、生  
君は福井縣士族岡島七郎の長男にして明治八年四月を以て生れ同十六年家督を相続す同三十二年東京帝國大學農科大學を卒業し大學に入り山口縣立農學校校長論東京農業講習所技師等に在り現時鹿兒島高等農林學校教授たり大正三年養蠶學及昆蟲學研究の爲め英米

**岡島 千代造** 岡島商店(株)社長、京都絹毛染工  
京都府在籍  
妻 リウ 明一四、一、二、生、奈良、萩田元平妹  
養子 源治 明三、二、三、生、養子源治妻  
女 房子 明三、七、二、生、養子源治妻  
君は大阪府人先代千代造の長男にして明治十年一月を以て生れ大正十年家督を相続し前名新三郎を改め製名サモスリン商を營み岡島商店社長にして京都絹毛染工會社取締役たり弟友五郎(明二六、一、生)は分家し同嘉造(同二一、一、生)は同妻キキ(同二四、四、生、大阪、福田喜兵衛二女)と共に同健次郎(同二四、二、生)は同妻富子(同二八、九、生、西淀川、野間宗七妹)及其二子を伴ひ各分家せり(大阪、兵庫、浦江町番外七四電土佐堀四二)

獨に留學せり妹たけ(明一一、四生)は山口縣士族田中銀彦長男英輔に嫁し弟慎太(同一一、七、六生)は福井縣士族岡島行光の養子となり神奈川縣箱根底倉にて醫院を開業し同辰五郎(同一一、三、九生)は同妻(同二一、一、生、長野、三浦清侍二女)及び其一子を伴ひ分家せり(鹿兒島市上荒田町四六〇)

参照 高島茂平 野村行一の項

**岡島 太十** 味噌商  
愛知縣在籍  
妻 ヤサ 元治元、九生、愛知、龜山竹次郎二女  
男 吉郎 明二、三、一、生  
女 千代 明二六、一〇生、長男吉郎妻、愛知、宮地兼二郎二女  
君は愛知縣人先代太十の長男にして安政五年十二月を以て生れ慶應三年家督を相続し製名味噌商を營む(名古屋、西、大船町三電西一六九〇)

**岡島 政藏** 横濱取引所取引員  
神奈川縣在籍  
妻 よし 明三、一〇生、東京、佐藤喜助妹  
男 政雄 明三、五、一、生  
君は神奈川縣人岡島忠五郎の長男にして慶應三年九月

**岡田 伊三次郎** 家主  
大阪府在籍  
妻 マキ 嘉永三、六生、大阪、岡島久兵衛妹  
君は大阪府人先代壽一郎の三男にして明治二十五年四月を以て生れ大正十四年家督を相続と共に前名愛三を改む現時更進銀行取締役たり家族は尙二女信子(大七、八生)二男積(同三、一、生)三男章(同三、一、生)九生、八生、八生(明四二、三、生)あり叔父隆吉(同三、八、生)海軍中佐(三段)同雄三(同八、一〇生、從五位勳三等、海軍中佐)は各分家せり(大阪、南河内、藤井寺村電古一五)

を以て生れ明治三十三年家督を相続す横濱取引所取引員たり義に横濱丸仲會社取締役横濱取引所取引員組合長に擧げられし事あり家族は尙二男良夫(明四二、一、生)三男三郎(大二、一、生)あり父忠五郎(文政一、一、生)母愛(天保四、三、生)鳥取、淺野野八長女)は分家し長女千歳(明三二、五、生)は静岡縣人福本嘉一に嫁し庶子勳助(同四三、一、生)同正二(大二、五、生)は共に其生母神奈川縣人淺川テツの養子となり(横濱、中、仲通四ノ六二電本局二一六)

**岡島 雅太郎** 吳服太物商  
大阪府在籍  
妻 ひさ 明二、二、生、京都、山上佐七姉  
男 嘉一郎 明二、八、五、生、長男嘉一郎妻、大阪、森田万作妹  
女 ナヲ 明二、八、五、生、長男嘉一郎妻、大阪、森田万作妹  
君は大阪府人先代長兵衛の長男にして明治元年正月を以て生れ同十九年家督を相続す吳服太物商を營む家族は尙孫誠一(大六、三、生)長男嘉一郎(同七、一、〇生)同長女(同二、三、生)同二女(同二、一、〇生)あり(大阪、南、心齋橋筋二ノ四二電南二〇七六)

**岡田 明德** 谷波鐵道(株)代表取締役、美濃電氣鐵道(株)取締役兼支配人、各務岐阜縣在籍  
妻 明子 明治四、二、生、生母、愛知、吉田ちよ  
君は愛知縣人岡田明建の弟にして明治十三年十二月を以て生れ大正五年分家して一家を創立す現時美濃電氣鐵道會社取締役兼支配人にして前記諸會社の重役たり曾て亞米利加を巡遊し大正元年後數回支那各地を巡遊せり(岐阜市上竹屋町八)

**岡田 朝太郎** 正四位勳三等、法學博士、明治大學教授、東京府士族  
妻 のぶ 明四、一、一、生、東京、土、石渡三郎妹  
男 演之 明三〇、四、一、生、長男演之妻、千葉、末吉七太郎長女  
男 正夫 明二九、五、生

**岡田 伊左衛門** 更進銀行(株)取締役  
大阪府在籍  
妻 セン 明二、七、一、生、大阪、西川庄之助孫  
男 收 大一〇、一〇生  
君は大阪府人先代壽一郎の三男にして明治二十五年四月を以て生れ大正十四年家督を相続と共に前名愛三を改む現時更進銀行取締役たり家族は尙二女信子(大七、八生)二男積(同三、一、生)三男章(同三、一、生)九生、八生、八生(明四二、三、生)あり叔父隆吉(同三、八、生)海軍中佐(三段)同雄三(同八、一〇生、從五位勳三等、海軍中佐)は各分家せり(大阪、南河内、藤井寺村電古一五)

**岡田 伊太郎** 衆議院議員(北海道選出)、北海道農林(株)社長、農産物貿易商  
北海道的在籍  
妻 良 明三、二、九、生  
男 明三、六、三、生、長男良妻、北海道、田中保治郎妹  
女 チエ 明三、六、三、生、長男良妻、北海道、田中保治郎妹  
君は石川縣人岡田猪平の二男にして明治十年十二月を以て生れ同十九年家督を相続す農産物貿易商を營み傍ら北海道農林會社を主宰す大正九年以來衆議院議員に當選する事三回現に在り立憲政友會に屬す家族は尙三男平五郎(明四三、三、生)あり(北海道、札幌、江別町)

**岡田 伊平** 寺田銀行、日東商工、和泉織物、大洋製鋼各(株)取締役、綿布商  
大阪府在籍  
妻 まさ 明一七、二、生、養父伊平長女  
男 一郎 明三、七、九、生、明治大學商科出身  
女 てい子 明四、三、一、生、岸和田高等女學校在學  
女 静子 大二、一、一、生、岸和田高等女學校在學  
岡田家は古くより泉州岸和田に定住し代々八百屋を渡世とせしが先代伊平に至り綿布商に轉じ家名大に揚る君實は大阪府人北野彌之助の弟にして川崎繁太郎の實弟なり明治十六年五月を以て生れ入りて岡田家に養子となり同三十八年家督を相続と共に襲名して前名泰一を改む父業を繼ぎ綿布商を營み傍ら前記銀行會社の重役たり尙岸和田市本町郵便局長を兼ね家族は前記の外三男芳郎(大四、六、生)三女美代子(同九、五、生)五男亮平(同二、七、生)あり二男徳二(明三九、八、生)は大阪府人岡田源十郎の養子となり養妹スエ(同二四、五、生)

**岡田 伊三次郎** 家主  
大阪府在籍  
妻 マキ 嘉永三、六生、大阪、岡島久兵衛妹  
君は大阪府人先代壽一郎の三男にして明治二十五年四月を以て生れ大正十四年家督を相続と共に前名愛三を改む現時更進銀行取締役たり家族は尙二女信子(大七、八生)二男積(同三、一、生)三男章(同三、一、生)九生、八生、八生(明四二、三、生)あり叔父隆吉(同三、八、生)海軍中佐(三段)同雄三(同八、一〇生、從五位勳三等、海軍中佐)は各分家せり(大阪、南河内、藤井寺村電古一五)



岡田 啓介

正三位勳一等功三級、海軍大將、海軍大臣、東京府士族

岡田 謙太郎

高橋新助(姪)及其一女を伴ひ分家し養弟忠次郎(同九、一、生、埼玉、木村龍太郎弟)は埼玉縣人高窪牧四郎の養子となれり(埼玉、北足立、藤野町)

岡田 健次郎

勳七等、武州銀行、武州貯蓄銀行各(株)監査役、藤野町長、埼玉縣在籍

岡田 健三

藤倉電線、藤倉工業各(株)常務取締役、巴川製紙所、南住製作所、日本製鋼各(株)取締役、帝國聯合電線、東京府在籍

岡田 源之助

愛媛縣多額納税者、松山商工會議所副會頭、伊豫製絲(株)監査役

岡田 源一

愛媛縣多額納税者、松山商工會議所副會頭、伊豫製絲(株)監査役

岡田 源二

愛媛縣多額納税者、松山商工會議所副會頭、伊豫製絲(株)監査役

岡田 源三

愛媛縣多額納税者、松山商工會議所副會頭、伊豫製絲(株)監査役

岡田 源四

愛媛縣多額納税者、松山商工會議所副會頭、伊豫製絲(株)監査役

岡田 啓介

正三位勳一等功三級、海軍大將、海軍大臣、東京府士族

岡田 謙太郎

高橋新助(姪)及其一女を伴ひ分家し養弟忠次郎(同九、一、生、埼玉、木村龍太郎弟)は埼玉縣人高窪牧四郎の養子となれり(埼玉、北足立、藤野町)

岡田 健次郎

勳七等、武州銀行、武州貯蓄銀行各(株)監査役、藤野町長、埼玉縣在籍

岡田 健三

藤倉電線、藤倉工業各(株)常務取締役、巴川製紙所、南住製作所、日本製鋼各(株)取締役、帝國聯合電線、東京府在籍

岡田 源之助

愛媛縣多額納税者、松山商工會議所副會頭、伊豫製絲(株)監査役

岡田 源一

愛媛縣多額納税者、松山商工會議所副會頭、伊豫製絲(株)監査役

岡田 源二

愛媛縣多額納税者、松山商工會議所副會頭、伊豫製絲(株)監査役

岡田 源三

愛媛縣多額納税者、松山商工會議所副會頭、伊豫製絲(株)監査役

岡田 源四

愛媛縣多額納税者、松山商工會議所副會頭、伊豫製絲(株)監査役







君は栃木縣土族岡田千次郎の弟にして明治五年七月を以て生れ大正十二年兄千次郎の死跡を相続す醫師にして現時日本醫師共済生命保險會社取締役兼支配人たり家族は尙三男幸男(明四二、一〇生)二女正三(大二三、五生)四男道男(明四二、一〇生)五男和男(同七、一一生)六男規男(同二〇、六生)三女早苗(同三、二生)七女七郎次郎妻イマ(明五、七生、栃木、亡田村一平次長女)あり(東京市外濠谷町中通三丁目)

岡田文次

從四位勳二等、貴族院議員  
山形縣在籍  
妻 山形 明一〇、三三、養父義實二女  
男 孝子 明三九、三三、長男文雄妻、兵庫、安藤正敬姉  
男 周雄 明三四、一一、慶應義塾大學法學部出身、三井物産會社員  
男 敬雄 明四〇、二生  
女 藤枝 明四二、五生、御茶水高等女學校出身

君は山形縣土族濱田長之助の長男にして明治七年一月を以て生れ濱田義實の養子となり同三十二年分家して一家を創立す同三十一年東京帝國大學法科大學を卒業し同年文官高等試験に合格し爾來沖繩縣參事官山梨千葉各縣警察部長新潟縣事務官警視廳第二部長官房主事栃木縣知事榎太長官警視廳等に歷任し大正七年寺内閣内閣瓦解と同時に官を辭し貴族院議員に勅任せらるる家族は尙四男規雄(明四四、一〇生)あり養妹つね(同四、三三)は山形縣土族秋山武三郎に嫁せり(東京市外濠谷町下落合中原五九二電牛込一六八〇) 參照 秋山武三郎の項

岡田文太郎

中央殖産(株)社長、美合銀行(株)取締役、羅紗商、兵庫縣在籍  
妻 リの 明二四、四生、兵庫、倉橋彌左衛門三女  
女 文恵 明四四、三三  
女 文子 大二、四生

岡田勇次郎

從五位勳五等、檢事、新宮區裁判所檢事兼和歌山地方裁判所新宮支部檢事、京都府在籍  
妻 靜慧 明二五、六生、埼玉、大平文久三女  
女 夫佐子 明四四、四生

岡田祐二

大星公司(株)社長、鹽水港製糖(株)取締役、南昌洋行(株)監査役、愛知縣在籍  
妻 しき 明一三、一二生、愛知、小野周次養姉  
男 堅策 明三三、三三

岡田豊

バグナル・エント・ヒレス(株)常務取締役、千葉縣在籍  
妻 ち 弘長女 七生、福井、土、岡新兵衛長女  
養父 鴻三郎 文久元、九生、福井、土、加賀山學叔父  
養母 ひで 明四、三三、福岡、河井清三郎妹  
妻 みき 明一七、一二生、養父鴻三郎長女  
男 實 明四〇、一〇生  
女 ゆき 明四四、八生

君は高根縣人稻垣三郎の弟にして明治十四年三月を以て生れ岡田鴻三郎の養子となり大正十五年家督を相続す同九年早稲田大學商科出身にして現時バグナル・エ

り家族は尙四女久子(大一〇、九生)あり(神戸、相生町一ノ一)

岡田萬次

警視廳警部(株)常務取締役、高知縣在籍  
妻 清 明二六、一〇生、高知、元吉貞朝姉  
男 周作 明三九、九生  
女 常 明三九、六生

岡田美津

正五位勳四等、東京女子高等師範學校教授、東京府在籍  
母 ろく 瀧水六、一二生、東京、渡邊正七六女

岡田道次郎

廣島縣多額納稅者、酒造業、廣島縣在籍  
養父 淳 安政五、二生、廣島、岡田新藏二男  
養母 アイ 慶應元、九生、廣島、栗谷群兵衛二女  
妻 キキ 明一六、三三、廣島、山本牧太長女  
男 久也 明四〇、一〇生  
女 現代 明三六、一二生

君は廣島縣人岡田莊介の弟にして明治四年七月を以て生れ廣島縣の養子となり大正八年家督を相続す酒造業を營み廣島縣多額納稅者たり家族は尙四女須和(大一一、一二生)五男虎白(同三三、九生)あり長女昌乃(明三二、五生)は愛媛縣人高岡忠三に二女田嶋(同三小川町二ノ三)

岡田陽一

正五位勳四等、工學博士、九州帝國大學教授、工學部勤務、東京府在籍  
父 一三 嘉永四、九生、現戶主  
母 タキ 萬延元、八生、山口、土、長谷川方若二女  
妻 薰 明一七、一〇生、男爵前田直行二女  
男 健次 大二三、一二生

岡田良光

松山工業、松山染織各(株)取締役、愛媛縣在籍  
妻 タキ 明一九、九生、愛媛、三神嘉十郎長女  
男 賀之 昭二、七生  
女 綾子 明四一、六生  
女 美恵子 大二、一〇生  
女 光 明三九、七生、生母、山口タニ庶子  
君は愛媛縣人岡田周次の二男にして明治十三年七月を以て生れ大正四年家督を相続す現時松山工業會社取締役の外前記會社の重役たり家族は尙三女千壽子(大一一〇、一〇生)あり弟隆茂(明二四、六生)は同妻イ(同二八、九生、愛媛、相原利平次二女)及二男三女を伴ひ分家せり(愛媛、温泉、素鷺村)

岡田善麿

岐阜縣多額納稅者、谷波鐵道(株)取締役、農業、岐阜縣在籍  
妻 しづよ 明一四、一〇生、岐阜、岡田三逸長女  
養子 みき 大二、七生、岐阜、大久保華孫

君は岐阜縣人稻葉穂並の長男にして明治七年十一月を以て生れ後岡田唯之丞の養子となり同十九年家督を相

四、一二生)は山口縣人山縣寛に妹婿子(同三五、二生)は廣島縣人中村治造に嫁し四男陽吉(大二三、一〇生)は岡縣人岡田靜枝の家督を相続し弟一徳(同三三、九生)は分家せり(廣島、賀茂、内海町)

岡田光夫

茨城縣在籍  
祖母 とみ 嘉永三、二生、茨城、岡野伊兵衛三女  
母 なか 明一八、二生、茨城、片岡良助姉  
君は茨城縣人岡田幾之助の長男にして明治三十七年二月を以て生れ大正十五年家督を相続す農業を營む家族は尙三子(明四三、四生)弟正三(大二三、三三)同良彦(同六、三三)あり(茨城、筑波、葛城村) 參照 片岡良助の項

岡田紋治郎

川紋、乾物雜賣商、東京府在籍  
妻 あさ 明一六、一二生、先代紋治郎長女  
男 榮治郎 明三四、一〇生

岡田八十司

滋賀縣多額納稅者、江州煉瓦(株)取締役、栗太銀行(株)一井商店各(株)監査役、酒造業、滋賀縣在籍  
妻 ひさ 明三〇、一〇生、滋賀、西澤正之助姉  
男 武司 明三〇、一〇生  
男 明三二、六生、長男武司妻、三重、服部孝太郎四女  
婦 みち 服部孝太郎四女

君は滋賀縣人岡田八藏の長男にして明治七年三月を以て生れ大正四年家督を相続す酒造業を營み傍ら江州煉瓦會社取締役の外前記銀行會社の重役たり家族は尙孫あや子(大一一、一二生、長男武司長女)岡光司(同三三、二生、同長男)あり弟加壽之助(明二七、一〇生)は滋賀縣人山口豊三郎の養子となり(滋賀、野洲、守山町) 參照 山口豊三郎の項

岡田良一

從五位勳五等、地方技師、兵庫縣警察部衛生課長、新潟縣土族、岐阜縣在籍  
妻 トシ 安政四、五生、新潟、新居恒藏長女  
男 孝平 明四二、七生  
女 千代 明四五、三三

岡田良右衛門

尾陽土地經營(株)取締役、愛知縣在籍  
養母 キキ 萬延元、六生、愛知、鬼頭與三兵衛四女  
妻 しん 明九、一〇生、養父良右衛門長女  
男 登間雄 明三四、一一生、東京帝國大學在學  
男 一男 明三九、二生、名古屋高等商業學校出身  
女 あさ 明四二、八生、縣立第一高等女學校出身

當家は先代良右衛門土地の豪商岡田徳右衛門方より分家して一家を創立したるに創まる君實は愛知縣人伴經太郎の弟にして明治六年一月を以て生れ同二十八年先代良右衛門の養子となり同三十二年家督を相続し共に前名浪之助を改む現時前記銀行會社の重役として知らる書畫茶事及謡曲を好む家族は尙四男良平(明四四、二生)五男大治(大元、八生)あり養妹キキ(明二八、九生、第一市立高等女學校出身)は愛知縣人佐藤明治郎に長女フミ(同二八、一二生)縣立第一高等女學校出身は岡縣人生田治治治信に嫁す(同三三、八生)出身は岡縣同上)は岐阜縣人大野鈴七に四女登喜(同三六、五生、出身校同上)は京都府人藤藤貞一郎に養妹す(同

二五、四生、第一市立高等女學校出身)は宗家の當主岡田徳右衛門に同サダ(同二九、一〇生、出身校同上)は愛知縣人寺島彦一郎に嫁し五女みき(同四〇、二生)は京都府人杉本新左衛門に養弟榮壽(同三六、九生)は外祖父鬼頭與三兵衛に各養子となれり(名古屋、東、伊勢町六一電東一三三)

岡田 良平 正三位勳一等、貴族院議員 靜岡縣在籍

君は舊遠州掛川藩士岡田良一郎の長男にして一木喜徳郎竹山純平の兄に方り元治元年五月を以て生れ明治三十六年家督を相続す同二十二年帝國大學文學部文學科を卒業し第一高等學校教授同校教授文學部視學官同部事務官山高等中學校長文部書記官高等教育會議員文部參事官文部省實業事務局局長文部總務長官宮内省御用掛御用掛候京都帝國大學總長文部次官文部大臣等に歴任し同三十七年貴族院議員に勅選せらるる家族は尙弟文平(明二〇、一〇生)同妻きよ(同二九、八生)貴族院議員尾崎元次郎(長女)及び其の子あり同繩平(同四一、七生)妹たつ(同二四、九生)は各分家し同(同四一、七生)は醫學博士杉村七太郎に嫁せり(東京、小石川、原町一二五電小石川九八五) 參照一木喜徳郎、尾崎元次郎、杉村七太郎、竹山純平家系本小四郎の項

岡田 亮一 正六位勳六等、縣立廣島商業學校長兼教諭、岡山縣士族

君は岡山縣士族先代純夫の長男にして明治十年五月を以て生れ同三十六年家督を相続す同三十四年東京高等商業學校を卒業し八幡濱商業學校教諭を経て現時前記官職にあり舊に廣島商業會議所特別議員たり家族は尙二男敬典(大四、一二生)三女三枝子(同一五、五生)弟足穂(明一六、一〇生)同妻シノブ(同二八、三三)岡田、純平家系本小四郎の項

遠山盛一(養妹)と其の子第五男(同二七、三三)あり同實(同二一、七生)同乙彦(同三一、八生)は各分家し妹滿(同二一、九生)は京都府人藤野文次郎四男豊次郎に嫁し弟徳(同二四、四生)は岡山縣人長瀬郁子の入夫となれり(廣島市皆賀町)

岡田 和一郎 正三位勳二等、醫學博士、東京帝國大學名譽教授、根岸養生院主 醫學博士、東京府在籍

君は愛媛縣人岡田喜徳太の長男にして元治元年正月を以て生れ明治十六年家督を相続す同二十二年帝國大學醫學科を卒業し同校助手となり次で助教に任じ同二十九年耳鼻喉學科研究の爲め獨逸に留學を命ぜらるる同三十三年醫學博士の學位を授けられ同三十五年東京帝國大學教授に進み大正五年歐米に出張を命ぜらるる現時同大學教授にして根岸養生院を經營し醫師たり家族は尙孫壽々子(大三、四生)養子清三郎(長女)同武雄(同七、四生)同長男あり妹コヒデ(慶應元、一〇生)は愛媛縣人青野三郎に嫁し弟維雄(明一四、八生)は分家せり(東京、豊町三番町三六電九段九八六) 參照一岡田喜徳太、三番町三六電九段九八六

岡西 芳三 養子 兵庫縣在籍

君は兵庫縣人半田藤吉の弟にして明治三十年一月を以て生れ大正三年先代岡西の養子となり同十二年家督を相続す資産家たり家族は尙養妹マチ(大六、八生)大阪、阪上宗一郎(二女)あり(神戸、下山手通七〇五六) 參照一宗久世三郎の項

君は兵庫縣人上三郎の二男にして明治十年四月を以て生れ同二十二年先代との養子となり家督を相続す伊藤製鋼所取締役たり(大阪、西淀川、千船町) 靜岡縣多額納稅者、駿河銀行、駿河貯蓄銀行各(株)頭取、愛媛肥料各(株)取締役、沼津合同運送各(株)取締役、北海道電燈(株)監査役、靜岡縣在籍

岡野 喜太郎 正三位勳二等、醫學博士、東京帝國大學名譽教授、根岸養生院主 醫學博士、東京府在籍

君は靜岡縣人岡野彌平太の長男にして元治元年四月を以て生れ明治十六年家督を相続す現時駿河銀行頭取たる外前記銀行會社の重役を兼ね縣下の多額納稅者たり家族は尙三男彌明(明四二、一〇生)あり長女容(同一九、二生)は靜岡縣人關本文作に二女柳子(同二一、五生)は同縣人島田宅二郎に三女博(同二五、一〇生)は實業家穴水熊雄に四女充(同二八、三三)は靜岡縣人依田久軌之助に五女磯(同三〇、六生)は靜岡縣人田邊幸七(養子)大藏に六女貞(同三二、一〇生)は靜岡縣人三宅敬三に嫁せる(慶應三、一〇生)は同縣人澤田爲盛に嫁し同(明二二、七生)は同縣人岡野平八郎の養子となれり(沼津、白銀町) 參照一岡野彌平太の項

岡野 義三郎 正四位勳三等、第二高等學校校長 大阪府在籍

君は大阪府人岡野儀助の長男にして明治七年三月を以て生れ同二十七年家督を相続す同三十年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し高知縣長等尋常中學校教諭第六高等學校教授第八高等學校校長等に歴任し現に第二高等學校校長たり家族は尙三男義文(明四四、一二生)四男惠四郎(大三、九生)五男義文(同七、一〇生)あり弟當二郎(明一一、九生)は分家し儀助を襲名し父業を繼

ぎ二男寛次(同三五、一二生)は其養子となれり(仙臺、勾當臺通一六)

岡野 金治郎 岡野榮泉家、菓子商 東京府在籍

君は東京府人山田重吉の二男にして慶應二年九月を以て生れ明治二十六年先代は乃の養子となり同三十三年家督を相続す同榮泉堂と稱し菓子商を替む家族は尙孫善太郎(大一一、一〇生)長男三郎(明二八、四生)孫善太郎(大一一、一〇生)長女かね(明二八、四生)は其夫中(同二六、八生)東京、中村意助(弟)と共に分家し二女久(同三〇、九生)は東京府人笠木金之助に嫁し五女あ(同四四、一〇生)は同府人岡野金七の養子となれり(東京、本郷、森川町三〇電小石川七〇九)

岡野 欣之助 勳六等、神奈川縣多額納稅者、東京府在籍

當家は代々保土ヶ谷町に住し聞えたる舊家なり君は先代勘四郎の長男にして慶應元年十二月を以て生れ後家督を相続す義に神奈川農林銀行同業老時勤銀行各重役を就任す明治三十七年職役の功に依り勳六等に叙せらるる現時前記銀行會社の重役にして神奈川縣多額納稅者たり家族は尙孫綾子(大一一、一〇生)三男健三(長女)あり長女多満子(明一九、三三)は神奈川縣人堀田勝(身)は靜岡縣人赤松小寅(四女)葉(同三三、八生)は兵庫縣人西村實造に嫁せり(神奈川、橋本、保土ヶ谷町) 參照一子爵大園增輝、堀田實造、赤松小寅、保土ヶ谷町、山忠敬、岡野大沼、堀田實造、赤松小寅、保土ヶ谷町、三浦英太郎、一戸兵衛の項

岡野 敬胤 角丸商會(株)取締役 東京府在籍

君は東京府人岡野五兵衛の長男にして明治二十八年三月を以て生れ同四十年家督を相続し前名健吉を改む加田村と稱し酒造商を營む家族は尙弟新吉(明三三、一二生)同妻ヤエ(同三八、一〇生)東京、廣井要吉(妹)及其一女子あり妹ゆき(同三三、七生)は山形縣人神谷健治(弟)に嫁し叔父周作(同八、一〇生)は岐阜、淺野忠次郎(弟)は同妻美(同一〇、五生)は亡祖父五兵衛(長女)及其一女子あり(東京、芝、車町四〇電高輪一三五三) 參照一藤田英次郎の項

岡野 五兵衛 加田村、酒造商 東京府在籍

君は大阪府土族岡野明公の長男にして元治元年二月を以て生れ明治十四年家督を相続し後前名藤太郎を改む同十九年東京高等商業學校を卒業し現に前記各會社の重役たり家族は尙孫明子(昭二、六生)長男公之助(長女)あり(大阪、天王寺、松ヶ谷町) 參照一中山小三郎、中山太一、中山豊三の項

岡野 佐之助 亞鉛板鐵商 大阪府在籍

君は大阪府人岡野佐太郎の長男にして明治二十四年一月を以て生れ大正十四年家督を相続す亞鉛板鐵商を營む家族は尙三女富美子(大一一、一〇生)弟佐五郎(明三二、三三)同妻兼子(同三六、八生)大阪、清水喜一(妹)及一女子あり(同四四、三三)あり長女麗子(同四四、九生)は兵庫縣人三田次郎吉の養子となれり(大阪、西、西道頓堀通三ノ六電櫻川一八〇)

岡野 庄平 長野縣多額納稅者、松本病院建築(株)取締役、藥品商、長野縣在籍

君は長野縣人竹内定一郎の三男にして明治十七年十一月を以て生れ先代庄平の養子となり大正九年家督を相続し前名眞を改む現時前記會社の重役にして藥品商を營み長野縣多額納稅者たり家族は尙長女恒子(大三、五生)二女光子(同八、一〇生)あり養妹琴江(明二八、七生)は長野縣人矢ヶ崎進に嫁せり(松本市) 參照一松本市、東野、長野、内川藤一郎

岡野 誠三郎 東京府多額納稅者、岡野榮泉堂、菓子商、東京府在籍

君は東京府人高田菊三郎の二男にして明治十二年七月を以て生れ先代は乃の養子となり大正十二年家督を相続す榮泉堂と稱し菓子商を替む東京府多額納稅者たり家族は尙三男信次郎(明四五、五五)五男友三郎(大八、七生)あり(東京、下谷、下谷町二ノ七電下谷四五九四)

**岡野 節** 東京府華族  
母 明一、七生、工學士藤木德松  
當家は先代敬次郎より顯る敬次郎は舊藩臣にして明治十九年帝國大學法科大學英法科を卒業し獨逸に留學し歸朝後帝國大學法科大學教授商務參事官同官房長法制局參事官法制局長官兼内閣書記官長中野官貴族院議員行政裁判所長官司法大臣文部大臣兼農商務大臣樞密顧問官樞密院議長等に歴任し法學博士の學位を受け又東京帝國大學名譽教授帝國學士院院長中央大學學長たり大正十四年十二月勳功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其三男にして岡野昇の男なり大正六年五月を以て生れ同十五年襲爵仰付けらる家族は尙侍尙子(明四一、七生、御茶の水高等女學校出身)岡野子(同四三、一一生)岡野貞子(同四四、一〇生)あり(東京、牛込、中町一電牛込六二六二)

て生れ明治十六年家督を相続し前名長左衛門を改む日華堂と稱し洋品商を營む曩に日勝亭取締役たり家族は尙孫富枝(大三、一一生、長男尙三長女岡野三(同八、四生、同長男)岡野枝(同二〇、四生、同三女)岡野子(同二一、一一生、同四女)岡野貞(同二五、一〇生、同二男)あり(東京、日本橋、通二ノ二電日本橋三三七)

君は男爵岡野節の叔父にして明治九年六月を以て生れ後分家して一家を創立す同三十二年東京帝國大學工學科大學土木工學科を卒業し日本鐵道會社技師となり水戸保線事務所長たりしが同三十九年鐵道作業局に轉じ爾來帝國鐵道監理技師鐵道院技師兼内務技師鐵道技師兼内務技師鐵道院工務局長鐵道省工務局長鐵道技師官等に歴任し現時西武鐵道會社社長たり曩に鐵道事業研究の爲歐米各國に留學し大正八年工學博士の學位を受く家族は尙二男(明四二、六生)三男(明四三、一〇生)四男(同四三、一一生)五男(同四六、二生)六男(同四九、三生)あり(東京市外王子町上十條一五二〇電小石川四七四二)

**岡野 豪夫** 沼津市會議員、沼津商工會議所副議長、駿河銀行(株)取締役兼營業部長、駿河貯蓄銀行(株)取締役  
父 喜太郎 元治元、四生、現戸主  
妻 みね 門長女 一〇生、靜岡、乾伊右衛門  
男 喜一郎 大六、二生

**岡野 梯二**  
君は舊江州藩根藩士岡野志外(二男)にして明治三年九月を以て生れ大正十年先代兄小三郎の後を襲ひ家督を相続す明治二十一年大阪高等商業學校を卒業し直に三井物産會社に入り果進して名古屋支店長に就任せし大正四年同社を離れ爾來野洲鐵道會社日商貿易會社各社長大日本炭礦會社取締役たりしが現時前掲諸會社の重役として顯る諸曲を好み又書畫骨董を愛好す家族は尙三男(大四、八生)あり長女恭子(明三三、三生)、愛知縣立第一高等女學校出身(身)は栃木縣人法學士第一銀行員菊池峻治に嫁せり(東京、麻布、霞町一電青山五七四三)  
參照 小倉新一郎の項

**岡野 文三郎** 日清汽船(株)庶務課長兼計理課長  
妻 登志子 明三一、九生、埼玉、藤村修重二女、浦和高等女學校出身  
君は埼玉縣人山田與吾の三男にして明治二十一年十一月を以て生れ同二十三年岡野茂四郎の養子となり同二十五年分れて一家を創立す同四十四年東京高等商業學校を卒業し直に日清汽船會社に入り上海支店勤務同助役本社を歴任し大正十一年七月庶務課長兼計理課長に昇進して現在に至る家族は尙長女和子(大一一、〇三)あり(東京、四谷、筆筒町四九電四谷三八四七)

**岡野 務** 日華堂、洋品店  
妻 まき 文久二、七生、東京、越塚安兵衛  
男 侍三 明二二、四生  
男 明二六、一一生、長男尙三妻、神奈川、八島安五郎三女

**岡野 昇** 從四位勳三等、工學博士、西武鐵道(株)社長、東京府在籍  
男 安 明三八、三生

**岡野 養之助** 大阪朝日新聞社主幹、兵庫縣在籍

**岡野 由次郎** 酒類商  
妻 あき 明二三、一一生、東京、小川彌三郎長女  
男 鏡之介 大二、二生

**岡野 留吉** 岡野榮泉堂、菓子商  
妻 八重 明一六、四生、東京、中川武雄母  
養子 興之助 明二一、一〇生、東京、岡野德之助弟  
妻 奈良江 明三六、一一生、養子興之助妻、東京、大西博一姉  
女 登喜子 明四三、九生

**岡野 芳太郎** 岡野、大東貿易各(株)社長、大阪府在籍  
妻 治 明三三、三生、現戸主  
女 泰一 大六、四生

**岡野 利兵衛** 日華(興業)、管絃セメント各種、取締役、横濱貿易會社(株)監査役、太田商店(株)代表社員、神奈川縣在籍  
妻 トク 明一七、二生、神奈川、新田操母  
當家は代々靜岡に於て製茶業を營み連綿十數代先々代父利兵衛に至る利兵衛安政年間横濱開港に際し同地に於て製茶輸出業を營み遂に今日の基を築く君は先代利兵衛の弟にして文久二年六月を以て生れ明治二十八年家督を相続し前名彌八を改む現時日華興業會社取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙孫利壽(大一一、〇三)生、亡二男(利八郎長女)あり三女(明二三、一一生)は其夫英三郎(同二八、九生、神奈川、阿部孝一弟)及び其子女と共に分家し三男(明二八、五生)も亦分家し四女(明三〇、三生、横濱高女出身)は東京府人後備海軍造船少將大木治吉長男(五女)家滿登(同三六、五生)は新潟縣人高橋亮一に嫁し六女(利恵子)大八、一一生)は東京府人阿部治治の養子となれり(横濱、中、根岸町瀧下二三八一電本島三七八)

**岡野 治助** 岡野(株)取締役、大阪府在籍  
妻 ちか 明一四、三生、大阪、天野謙次郎妹  
男 芳太郎 明二三、一一生  
君は大阪府人岡野久兵衛の長男にして明治三年三月を以て生れ先代治助の養子となり同四十四年家督を相続し共に前名恒三を改め現時前記岡野會社取締役たり(大阪、東、船越町二ノ三三電東三三三三)

**岡野 林** 住友銀行(株)東京支店支配人、東京手形交換會委員、福岡縣在籍  
妻 キクエ 明二八、七生、熊本、士、菊池新三女  
男 純 大六、六生

**岡野 次郎** 酒類商  
妻 あき 明二三、一一生、東京、小川彌三郎長女  
男 鏡之介 大二、二生

**岡野 治助** 岡野(株)取締役、大阪府在籍  
妻 ちか 明一四、三生、大阪、天野謙次郎妹  
男 芳太郎 明二三、一一生  
君は大阪府人岡野久兵衛の長男にして明治三年三月を以て生れ先代治助の養子となり同四十四年家督を相続し共に前名恒三を改め現時前記岡野會社取締役たり(大阪、東、船越町二ノ三三電東三三三三)

**岡野 榮信** 群馬縣多額納稅者、甘樂銀行(株)取締役、群馬縣農工銀行(株)監査役、農務、群馬縣在籍  
妻 なつ 嘉永六、五生、群馬、岡部榮太郎長女  
男 定信 明二〇、七生、群馬、神戶篤太郎長女  
女 かみ 明四一、一一生  
女 そふ 明四三、三生

**岡野 節** 東京府華族  
母 明一、七生、工學士藤木德松  
當家は先代敬次郎より顯る敬次郎は舊藩臣にして明治十九年帝國大學法科大學英法科を卒業し獨逸に留學し歸朝後帝國大學法科大學教授商務參事官同官房長法制局參事官法制局長官兼内閣書記官長中野官貴族院議員行政裁判所長官司法大臣文部大臣兼農商務大臣樞密顧問官樞密院議長等に歴任し法學博士の學位を受け又東京帝國大學名譽教授帝國學士院院長中央大學學長たり大正十四年十二月勳功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其三男にして岡野昇の男なり大正六年五月を以て生れ同十五年襲爵仰付けらる家族は尙侍尙子(明四一、七生、御茶の水高等女學校出身)岡野子(同四三、一一生)岡野貞子(同四四、一〇生)あり(東京、牛込、中町一電牛込六二六二)

て生れ明治十六年家督を相続し前名長左衛門を改む日華堂と稱し洋品商を營む曩に日勝亭取締役たり家族は尙孫富枝(大三、一一生、長男尙三長女岡野三(同八、四生、同長男)岡野枝(同二〇、四生、同三女)岡野子(同二一、一一生、同四女)岡野貞(同二五、一〇生、同二男)あり(東京、日本橋、通二ノ二電日本橋三三七)

君は男爵岡野節の叔父にして明治九年六月を以て生れ後分家して一家を創立す同三十二年東京帝國大學工學科大學土木工學科を卒業し日本鐵道會社技師となり水戸保線事務所長たりしが同三十九年鐵道作業局に轉じ爾來帝國鐵道監理技師鐵道院技師兼内務技師鐵道技師兼内務技師鐵道院工務局長鐵道省工務局長鐵道技師官等に歴任し現時西武鐵道會社社長たり曩に鐵道事業研究の爲歐米各國に留學し大正八年工學博士の學位を受く家族は尙二男(明四二、六生)三男(明四三、一〇生)四男(同四三、一一生)五男(同四六、二生)六男(同四九、三生)あり(東京市外王子町上十條一五二〇電小石川四七四二)

**岡野 節** 東京府華族  
母 明一、七生、工學士藤木德松  
當家は先代敬次郎より顯る敬次郎は舊藩臣にして明治十九年帝國大學法科大學英法科を卒業し獨逸に留學し歸朝後帝國大學法科大學教授商務參事官同官房長法制局參事官法制局長官兼内閣書記官長中野官貴族院議員行政裁判所長官司法大臣文部大臣兼農商務大臣樞密顧問官樞密院議長等に歴任し法學博士の學位を受け又東京帝國大學名譽教授帝國學士院院長中央大學學長たり大正十四年十二月勳功に依り華族に列し男爵を授けらる君は其三男にして岡野昇の男なり大正六年五月を以て生れ同十五年襲爵仰付けらる家族は尙侍尙子(明四一、七生、御茶の水高等女學校出身)岡野子(同四三、一一生)岡野貞子(同四四、一〇生)あり(東京、牛込、中町一電牛込六二六二)

て生れ明治十六年家督を相続し前名長左衛門を改む日華堂と稱し洋品商を營む曩に日勝亭取締役たり家族は尙孫富枝(大三、一一生、長男尙三長女岡野三(同八、四生、同長男)岡野枝(同二〇、四生、同三女)岡野子(同二一、一一生、同四女)岡野貞(同二五、一〇生、同二男)あり(東京、日本橋、通二ノ二電日本橋三三七)

君は男爵岡野節の叔父にして明治九年六月を以て生れ後分家して一家を創立す同三十二年東京帝國大學工學科大學土木工學科を卒業し日本鐵道會社技師となり水戸保線事務所長たりしが同三十九年鐵道作業局に轉じ爾來帝國鐵道監理技師鐵道院技師兼内務技師鐵道技師兼内務技師鐵道院工務局長鐵道省工務局長鐵道技師官等に歴任し現時西武鐵道會社社長たり曩に鐵道事業研究の爲歐米各國に留學し大正八年工學博士の學位を受く家族は尙二男(明四二、六生)三男(明四三、一〇生)四男(同四三、一一生)五男(同四六、二生)六男(同四九、三生)あり(東京市外王子町上十條一五二〇電小石川四七四二)



岡部服太郎

静岡縣多額納稅者、靜岡織布、不...

岡部文四郎

福島縣多額納稅者、農業...

岡部正樹

大正石炭、唐津探炭各(株)取締役...

岡部政太郎

長崎縣多額納稅者、岡政、吳服商...

岡松茂三郎

京都府多額納稅者、鹿ノ子及吳服...

岡村一靖

明治商工、南興州鐵道各(株)社長...

岡村於菟彦

海軍中尉、養産家...

の多額納稅者たり庶子ツネ(明二七、一生、生母、谷...

岡部役五郎

大飯附在籍...

岡部尤一

横濱正金銀行(株)副支店支配人...

岡部利兵衛

地家主、兵庫縣在籍...

岡村勝正

長崎紡績(株)監査役...

岡村喜内

熊本縣多額納稅者、農業...

岡村謹一

熊本縣多額納稅者、農業...

君は兵庫縣人先代利兵衛の長男にして明治十年十月を...

岡部龍玄

從五位勳六等、九州帝國大學助教...

岡部龍太郎

薩摩銀行株當務取締役...

岡松忠利

愛國貯蓄銀行、早川電氣各(株)取締役...

岡村金太郎

從四位勳三等、理學博士、水産講...

岡村喜内

熊本縣多額納稅者、農業...

岡村謹一

熊本縣多額納稅者、農業...

岡村玄治 從五位勳五等、判事、大審院判事

岡村左右松 東邦炭礦、東京鉛板、雨龍炭礦各(株)取締役、日本ヒュムコング(株)監査役、長崎縣在籍

岡村丈太郎 高知縣多額納稅者、農業

岡村甚太郎 吳服商

岡村多内 滋賀縣多額納稅者、酒造業

岡村龍彦 醫學博士、岡村病院院長、醫師、保健衛生調査會委員、東京府在籍

岡村竹四郎 長野縣在籍

岡村功 正四位勳二等功四級、豫備陸軍中將、千葉縣士族

岡本郁男 正五位勳三等功五級、海軍少將、第一水雷戰隊司令官、長野縣在籍

岡村長兵衛 帶地商

岡村秀太郎 京都市會議員、三五、醬油商

岡村六三郎 長野縣多額納稅者、海産物商

岡村勇造 眞野信託(株)取締役、金融業

岡村三郎 長野縣在籍

岡本功 正四位勳二等功四級、豫備陸軍中將、千葉縣士族

岡本功 正四位勳二等功四級、豫備陸軍中將、千葉縣士族

岡本功 正四位勳二等功四級、豫備陸軍中將、千葉縣士族

岡本功 正四位勳二等功四級、豫備陸軍中將、千葉縣士族

岡村長兵衛 帶地商

岡村六三郎 長野縣多額納稅者、海産物商

岡本功 正四位勳二等功四級、豫備陸軍中將、千葉縣士族

**岡本 勇** 從四位勳四等、第四高等學校教授  
 母 三重縣士族 安政元、五生、三重、士、伊東松  
 妻 安政元、五生、三重、士、伊東松  
 妻 安政元、五生、三重、士、伊東松  
 妻 安政元、五生、三重、士、伊東松

**岡本 一郎** 正五位勳四等、和歌山高等商業學  
 母 山口縣人岡本治郎右衛門の長男にして明治十三年  
 妻 山口縣人岡本治郎右衛門の長男にして明治十三年

**岡本市郎平** 靜岡縣多額納稅者、沼津倉庫(株)  
 母 萬延元、六生、千葉、士、佐野喜  
 妻 萬延元、六生、千葉、士、佐野喜

**岡本英太郎** 從三位勳二等、產業組合中央金庫  
 母 千壽子 明四〇、〇生、東京女學館出身  
 妻 博子 明四一、〇生、法學士、渡部信雄

**岡本 榮吉** 愛媛縣多額納稅者、關西探採(株)  
 母 達一 明三一、四生、愛媛、池田逸治郎妹

**岡本 儀兵衛** 設ケ浦砂利(株)社長、茨城貯蓄銀  
 母 英一郎 明三三、四生、二男英一郎妻、千葉、  
 妻 英一郎 明三三、四生、二男英一郎妻、千葉、

**岡本 勝雄** 藤永田造船所(株)常務取締役  
 母 恒一郎 明二二、〇生、高知、關田新兵  
 妻 恒一郎 明二二、〇生、高知、關田新兵

**岡本 貫一** 資産家  
 母 武一郎 明元、八生、靜岡、士、關已吉長女

**岡本 幹輔** 衆議院議員(北海道選出)、村木商  
 母 豐野 天保一、四、七、生、山形、宮澤庄兵衛長女

**岡本 勸** 旭石油(株)常務取締役、濃電電氣  
 母 菊夫 明三八、〇生、東京府在籍  
 妻 菊夫 明三八、〇生、東京府在籍

**岡本 貴一** 愛知縣多額納稅者、家主  
 母 安政二、八生、愛知、加藤善兵衛

**岡本 吉次郎** 富山縣多額納稅者、石動電氣、岡  
 母 外次郎 明一一、五生、先代吉次郎三男、富  
 妻 外次郎 明一一、五生、先代吉次郎三男、富

**岡本 清逸** 從五位勳六等、第五高等學校教授  
 母 市 安政元、〇生、現戶主  
 妻 市 安政元、〇生、現戶主

**岡本 桂次郎** 從三位勳三等、錦織問蔵候  
 母 圭三 明二五、一、生、石川、田中興三  
 妻 圭三 明二五、一、生、石川、田中興三



續す同二十七年帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し...

岡本 憲吾

妻 小馬 明四、二生、岡山、士、青木成章...

岡本 幸助

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 源之助

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 正三郎

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 實雄

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 實太郎

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 末藏

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 善二

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 仙三郎

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 新吉

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 新吉

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 新吉

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 新吉

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

妻 千代 明二五、二生、和歌山、田中大次...

岡本 佐右衛門

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 櫻

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 正三郎

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 實雄

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 實太郎

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 末藏

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 善二

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 仙三郎

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 新吉

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 新吉

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 新吉

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 新吉

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 新吉

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

外弟忠郎(明一九、一〇生)あり妹多(同二五、九生)は...

岡本 至徳

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 善二

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 仙三郎

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 新吉

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 新吉

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 新吉

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 新吉

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 新吉

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 新吉

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 新吉

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 新吉

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 新吉

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

岡本 新吉

妻 幸子 明三、九生、養子徹夫、岡山、山...

**岡本善助** 染料商  
大阪府在籍  
妻 マキ 明八、三生、徳島、久次米道雄妹  
男 正一 明三六、二生  
婦 俊子 秋山與次郎二女

君は大阪府人岡本善助の長男にして慶應三年十月を以て生れ明治三十一年家督を相続し前名徳松を改む染料商を營む家族は尙孫妙子(六一五、三生、三男正一長女)あり長女トク(明二五、一〇生)は大阪府人宮崎友次郎長男純一郎に嫁し弟市太郎(同一〇、一)は同妻タマ(同一七、八生、大阪、大西藤五郎五女)及其一子と共に分家せり(大阪、東、南久寶寺町一ノ七二電船場七三四)

参照 濱口龜太郎の項

**岡本善之丞** 南千住製作所(株)取締役、日本綿織(株)監査役、大島製鋼所(株)理事  
東京府在籍  
妻 子 明一九、二生、宮本吉蔵四女  
女 ハナ 明四〇、五生、三輪田高等女學校出身

君は東京府人岡本與助の長男にして明治十年十一月を以て生れ同四十二年新に一家を創立す現時前記各會社の重役たり(東京府外南千住町南一ノ二六七電淺草七五一)

**岡本惣七** 寺島屠場(株)社長、日本畜市場、千住製氷各(株)取締役、牛肉商  
東京府在籍  
妻 子 明二〇、八生、東京、片桐貞盛五女  
男 八郎 明四〇、八生  
女 千代 明四三、二生

君は廣島縣人岡本長七の三男にして岡本善之丞の兄なり明治十五年七月を以て生れ同三十五年分家して一家を創立す牛肉商を營み前記各會社の重役たり家族は尙三男十郎(明四五、四生)三女八重子(大五、六生)四男謙次郎(同八、三)五男武次郎(同一〇、二)生四女静子(同二三、二生)あり(東京府外千住町三ノ輪三五五電淺草四五三)

参照 岡本貞吉の項

**岡本忠三郎** 岡本銀行(株)事務取締役、左右田企業(株)監査役、東京府在籍  
妻 善三郎 明二二、九生、東京、岡本善三姉  
男 光 明四四、八生  
女 貞 大二、九生

君は千葉縣人大多和忠右衛門の三男にして明治十一年八月を以て生れ同四十二年先代きみの入夫となり家督を相続す同四十一年京都帝國大學法科大學法科を卒業し現時前記銀行會社の重役たり家族は尙三女玉子(大七、四生)二男忠男(同一二、二)生あり(東京、本郷、駒込林町四六電小石川七九九)

参照 岡本善二の項

**岡本太右衛門** 岐阜縣多額納税者、十六銀行、岐阜貯蓄銀行、東邦電氣、岐阜信託、三重法政各(株)取締役、岐阜瓦斯、美濃電氣軌道各(株)相談役  
岐阜縣在籍  
母 とも 安政四、二生、岐阜、遠藤松齋四女  
妻 かつ 明三三、一〇生、岐阜、坂倉又吉姉  
養子 壽太郎 明三五、一〇生、長女とら夫、岐阜  
女 とう 明三四、一〇生、養子壽太郎妻、岐阜縣立高等女學校出身  
女 喜美子 明四四、一〇生

君は岐阜縣人岡本太右衛門の長男にして明治九年六月を以て生れ同四十年家督を相続し前名茂を改め巖名す現に岐阜縣多額納税者にして前記各銀行會社の重役たり家族は尙六女晴子(大四、一)孫篤子(同長男)あり二女みね(明三六、一)生は愛知縣人精谷藤右衛門二男巖に三女ひさ(同三八、六)生、岐阜縣立高等女學校出身(同三)は同縣人鈴木徳一郎に嫁き(同一五、四生)は三重縣土佐藤信之助に同(同一九、一)生は同縣人坂倉又吉に同(同一二、二)生は愛知縣人水野俊治長男銀聖に嫁せり(岐阜市金屋町一ノ二六)

参照 遠藤平左衛門、精谷藤右衛門、佐藤信之助、坂倉又吉、鈴木徳一郎宗加藤久次郎宗助川文平の項

**岡本武三** 正五位勳四等、大使館參事官、伊都府在籍  
妻 芳子 明二五、九生、男爵林權助長女  
男 武隆 大三、八生

君は京都府人岡本武左衛門の二男にして明治十六年十二月を以て生れ同四十二年家督を相続す同年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し文官高等試験外交官及領事官試験に合格す同四十三年領事官補となり上海に在勤し爾來領事事務官同書記官大使館二等書記官同領事官に任ぜられ支那英國伊國等に在勤す昭和二年大領事官に任ぜられ現時伊國に在勤す義にゼノア經濟財政會議に參列の全權委員職員海牙會議に於ける帝國政府專門委員國際聯盟會議に於ける帝國代表者隨員として各會議に參列す家族は尙二男英男(大五、二)

**岡本忠之丞** 正五位勳五等、第一高等學校教授  
宮城縣在籍  
妻 久 明四三、八生  
女 久 明四三、八生  
女 久 明四三、八生

君は宮城縣人岡本忠吉の長男にして明治四年二月を以て生れ同二十八年家督を相続す同二十九年京都同志社神學部を卒業し現時第一高等學校教授たり家族は尙五女悦(大九、六)生六女セツ(同六、六)生あり叔父莊兵衛(慶應三、一)生は宮城縣人齋たけよの入夫となれり(東京市外代々木町代々木一五)

**岡本倂三** 注射療院、醫師  
大阪府在籍  
妻 安野 明四三、七生  
男 昭雄 明三九、九生  
女 昭子 明四一、三生

君は京都府人岡本倂三の弟にして明治五年一月を以て生れ同三十八年分家して一家を創立す同二十四年慈惠會醫學專門學校を卒業し注射療院と稱し醫を業とす

**岡本武尙** 辯護士  
千葉縣在籍  
妻 貫一 安政五、一〇生、現戸主  
男 武夫 明三九、一〇生、養父貫一長女  
女 初枝 明四三、一〇生

君は熊本縣人上村虎吉の弟にして明治六年八月を以て生れ同三十八年當主貫一の養子となる同三十六年東京帝國大學法科大學を卒業し辯護士を業とす家族は尙二男忠夫(明四二、一)生二女芳枝(大三、一〇)生三男英夫(同六、一)生三女實子(同七、六)生四男康夫(同一〇、二)生五男季彦(同一二、一〇)生六男和人(明二、四)生あり(東京、赤坂、青山南町六ノ一四七電青山一五〇四)

参照 岡本貫一宗久敬の項

**岡本忠吉** 岡本仙助商店(株)代表社員、吳服販賣物業、京都府在籍  
妻 八重 明二〇、一〇生、京都、澤野卯之助妹  
男 忠雄 大〇、三〇生  
女 貞子 明四三、二生

君は京都府人岡本仙助の長男にして明治十五年九月を以て生れ大正十一年家督を相続す吳服販賣物業を營み合名會社岡本仙助商店代表社員たり家族は尙三女銚子(大三、六)生四女英子(同五、二)生五女聰子(同七、一)生弟専藏(明三九、三)生あり(京都、下京、烏丸通五條上ル電下七二〇)

**岡本德兵衛** 大阪製粉(株)監査役、製菓原料商  
大阪府在籍  
妻 カジ 明二二、五生、奈良、柳本平藏二女  
男 徳次郎 明三四、二生  
女 ミサヲ 明四〇、八生

君は大阪府人先代徳兵衛の長男にして明治十五年八月を以て生れ大正八年家督を相続す現時前記會社の重役にして製菓原料商を營む家族は尙四男徳藏(明四三、四)生あり妹コウ(同二三、一)生は大阪府人松下常五郎に嫁せり(大阪、南、大寶寺町東之丁三二電南九六二)

参照 松下常五郎の項

**岡本壽英** 驍河屋、菓子商  
大阪府在籍  
妻 せい 明三、四生、大阪、岡本善三郎二女  
男 英三 明二九、七生、大阪高等商業學校出身、山口銀行九條支店店長代理、杉浦國松孫  
男 隆夫 明三五、六生、京都帝國大學在學

岡本家は代々京都伏見町に在住し驍河屋と稱して羊羹商を營みしが距今三百年前偶々時の紀州藩主徳川侯の嗜好に適せしを以て召されて和歌山下に移り苗字帯刀を許さる當家は其の支流なり君實は愛知縣人後藤正足の弟にして明治元年十月を以て生れ同二十八年先代せいの入夫となり家督を相続す現時菓子商を營み驍河屋を以て知らる二女美那(明三六、一)生、相模高等女學校出身(大阪府人高尾定七長男櫻太郎に嫁せり(大阪、南、安堂寺橋通二ノ一九電船場二〇七四)

**岡本虎一** 糸崎倉庫土地(株)監査役、ジャリデン・マゼン・商會、兵庫縣在籍  
妻 幾久榮 明二九、一〇生、大阪、十龜良太郎二女  
男 一久 大三、七生

君は京都府人岡本庄之助の弟にして明治五年一月を以て生れ同三十八年分家して一家を創立す同二十四年慈惠會醫學專門學校を卒業し注射療院と稱し醫を業とす

君は兵庫縣岡本久吉の長男にして明治二十三年二月を以て生れ同十年家督を相続す...

岡本直治郎 岡本自轉車自動車製作所(株)取締

岡本登 徳島縣在籍 材木商 妻 ヌタカ 明二八、九生、徳島、多田兼太郎...

岡本八平 富山縣多額納税者、中越銀行(株) 取締役、農業者、富山縣在籍...

岡本秀三 紙(株)常務取締役、日本製紙(株)常任監査役、田田商會(製)

君は富山縣人先代八平の六男にして明治二十年六月を以て生れ大正十年家督を相続し...

君は大阪府人増田格之孫にして明治二十三年十月を以て生れ後同岡本市正兵衛の養子となり...

君は福井縣人岡本勘右衛門の長男にして明治八年二月を以て生れ大正五年家督を相続す...

岡本松造 岡本自轉車自動車製作所(株)社長 大隈鐵工所(株)監査役

岡本萬三 活字鑄造業 大阪府在籍 妻 小まつ 門四女...

君は愛知縣人岡本半四郎の長男にして明治九年三月を以て生れ同四十年家督を相続す...

君は奈良縣人岡本傳松の弟にして明治八年四月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す...

岡本彌市郎 森村商店(株)取締役 東京府在籍

君は東京府人岡本榮治の弟にして明治二十年三月を以て生れ大正九年分家して一家を創立す...

岡本彌兵衛 岡本商店(株)社長 東京府在籍

君は元禄十五年の創業に係り代々屋敷を紙屋と稱し當代實に明治九年六月を以て生れ大正八年家督を相続し...

君は大阪府人先代信之助の長男にして明治七年三月を以て生れ同二十五年家督を相続す...

岡本康太郎 函館製網船具、ウロコ商會各(株)

君は大阪府人岡本末吉の長男にして明治七年十月を以て生れ先代松之助の養子となり...

岡本正夫 從四位勳三等、朝鮮總督府判事、高等法院部長、福井縣在籍

君は兵庫縣土着下村彦徳の三男にして文久三年五月を以て生れ先代文吉の養子となり明治三十二年家督を相続す...

助手となり法醫學を研究し次で同大學助教に任じ同三十二年獨逸兩國に留學し歸朝後京都帝國大學醫科大學教授に任ぜらるる現時官を辭して同大學名譽教授たり

君は大阪府人岡本徳兵衛の長男にして明治六年十二月を以て生れ同二十七年家督を相続す

君は大阪府人岡本嘉平の長男にして萬延元年二月を以て生れ明治三十三年家督を相続す

君は英城縣人岡本嘉平の長男にして萬延元年二月を以て生れ明治三十三年家督を相続す

君は廣島縣人岡本長七の四男同惣七の弟にして明治十九年十一月を以て生る生肉商を營む

君は和歌山縣人岡本連之進の長男にして明治十一年一月を以て生れ大正七年家督を相続す

君は和歌山縣人岡本連之進の長男にして明治十一年一月を以て生れ大正七年家督を相続す

君は和歌山縣人岡本連之進の長男にして明治十一年一月を以て生れ大正七年家督を相続す

君は和歌山縣人岡本連之進の長男にして明治十一年一月を以て生れ大正七年家督を相続す

君は和歌山縣人岡本連之進の長男にして明治十一年一月を以て生れ大正七年家督を相続す

君は和歌山縣人岡本連之進の長男にして明治十一年一月を以て生れ大正七年家督を相続す

君は和歌山縣人岡本連之進の長男にして明治十一年一月を以て生れ大正七年家督を相続す

君は大阪府人岡本徳兵衛の長男にして明治六年十二月を以て生れ同二十七年家督を相続す

君は英城縣人岡本嘉平の長男にして萬延元年二月を以て生れ明治三十三年家督を相続す

君は廣島縣人岡本長七の四男同惣七の弟にして明治十九年十一月を以て生る生肉商を營む

君は和歌山縣人岡本連之進の長男にして明治十一年一月を以て生れ大正七年家督を相続す

君は和歌山縣人岡本連之進の長男にして明治十一年一月を以て生れ大正七年家督を相続す

君は和歌山縣人岡本連之進の長男にして明治十一年一月を以て生れ大正七年家督を相続す

君は和歌山縣人岡本連之進の長男にして明治十一年一月を以て生れ大正七年家督を相続す

君は和歌山縣人岡本連之進の長男にして明治十一年一月を以て生れ大正七年家督を相続す

君は和歌山縣人岡本連之進の長男にして明治十一年一月を以て生れ大正七年家督を相続す

君は和歌山縣人岡本連之進の長男にして明治十一年一月を以て生れ大正七年家督を相続す

君は和歌山縣人岡本連之進の長男にして明治十一年一月を以て生れ大正七年家督を相続す

君は和歌山縣人岡本連之進の長男にして明治十一年一月を以て生れ大正七年家督を相続す

隊附同第二十三聯隊大隊長陸軍歩兵學校教導大隊長陸軍大學校附同兵學教官參謀本部參謀本部課長英國大使館附武官步兵第九旅團長等に歴補し現時參謀本部總務部長たり

君は愛知縣人岡谷惣助の弟にして明治二十六年十一月を以て生れ大正九年入りて叔父幸藏の死跡を相続す

君は愛知縣人岡谷惣助の弟にして明治二十六年十一月を以て生れ大正九年入りて叔父幸藏の死跡を相続す

君は愛知縣人岡谷惣助の弟にして明治二十六年十一月を以て生れ大正九年入りて叔父幸藏の死跡を相続す

君は愛知縣人岡谷惣助の弟にして明治二十六年十一月を以て生れ大正九年入りて叔父幸藏の死跡を相続す

君は愛知縣人岡谷惣助の弟にして明治二十六年十一月を以て生れ大正九年入りて叔父幸藏の死跡を相続す

君は愛知縣人岡谷惣助の弟にして明治二十六年十一月を以て生れ大正九年入りて叔父幸藏の死跡を相続す

君は愛知縣人岡谷惣助の弟にして明治二十六年十一月を以て生れ大正九年入りて叔父幸藏の死跡を相続す

君は愛知縣人岡谷惣助の弟にして明治二十六年十一月を以て生れ大正九年入りて叔父幸藏の死跡を相続す

君は愛知縣人岡谷惣助の弟にして明治二十六年十一月を以て生れ大正九年入りて叔父幸藏の死跡を相続す

君は愛知縣人岡谷惣助の弟にして明治二十六年十一月を以て生れ大正九年入りて叔父幸藏の死跡を相続す

君は愛知縣人岡谷惣助の弟にして明治二十六年十一月を以て生れ大正九年入りて叔父幸藏の死跡を相続す

郎を改む父惣助夙に實業界に入り貴族院議員に當選し勲四等に敘せられ又特旨を以て從五位に敘せらるる君遺業を繼ぎ徳徳と稱し鋼鐵商を營み傍ら前記各銀行會社の重役にして又擧げられて名古屋商工會議所議員たり

君は熊本縣人岡山喜久太郎の弟にして明治十一年三月を以て生れ大正十二年家督を相続す

君は熊本縣人岡山喜久太郎の弟にして明治十一年三月を以て生れ大正十二年家督を相続す

君は熊本縣人岡山喜久太郎の弟にして明治十一年三月を以て生れ大正十二年家督を相続す

君は熊本縣人岡山喜久太郎の弟にして明治十一年三月を以て生れ大正十二年家督を相続す

君は熊本縣人岡山喜久太郎の弟にして明治十一年三月を以て生れ大正十二年家督を相続す

君は熊本縣人岡山喜久太郎の弟にして明治十一年三月を以て生れ大正十二年家督を相続す

君は熊本縣人岡山喜久太郎の弟にして明治十一年三月を以て生れ大正十二年家督を相続す

君は三重縣人岡山喜久太郎の弟にして明治十一年三月を以て生れ大正十二年家督を相続す

君は三重縣人岡山喜久太郎の弟にして明治十一年三月を以て生れ大正十二年家督を相続す

君は三重縣人岡山喜久太郎の弟にして明治十一年三月を以て生れ大正十二年家督を相続す

君は三重縣人岡山喜久太郎の弟にして明治十一年三月を以て生れ大正十二年家督を相続す

君は三重縣人岡山喜久太郎の弟にして明治十一年三月を以て生れ大正十二年家督を相続す

君は三重縣人岡山喜久太郎の弟にして明治十一年三月を以て生れ大正十二年家督を相続す

君は三重縣人岡山喜久太郎の弟にして明治十一年三月を以て生れ大正十二年家督を相続す

君は三重縣人岡山喜久太郎の弟にして明治十一年三月を以て生れ大正十二年家督を相続す

當家は先代守固より顯る守固は齊島取藩士にして維新の際國事に奔走し明治二年鳥取藩權大參事となり後岩倉大いに隨伴して歐米を歴遊し在英八年にして歸朝す

君は福岡縣人岡谷惣助の弟にして明治二十六年十一月を以て生れ大正九年入りて叔父幸藏の死跡を相続す

君は福岡縣人岡谷惣助の弟にして明治二十六年十一月を以て生れ大正九年入りて叔父幸藏の死跡を相続す

君は福岡縣人岡谷惣助の弟にして明治二十六年十一月を以て生れ大正九年入りて叔父幸藏の死跡を相続す

君は福岡縣人岡谷惣助の弟にして明治二十六年十一月を以て生れ大正九年入りて叔父幸藏の死跡を相続す

君は福岡縣人岡谷惣助の弟にして明治二十六年十一月を以て生れ大正九年入りて叔父幸藏の死跡を相続す

君は福岡縣人岡谷惣助の弟にして明治二十六年十一月を以て生れ大正九年入りて叔父幸藏の死跡を相続す

君は福岡縣人岡谷惣助の弟にして明治二十六年十一月を以て生れ大正九年入りて叔父幸藏の死跡を相続す



**敬一郎** 明三〇、五生、東京農業大學出身  
**鶴江** 明三八、二生、長男敬一郎妻、兵  
**節三郎** 明三九、九生  
**祐三郎** 明四一、八生  
 君は兵庫縣人先代善五郎の三男にして明治五年五月を以て生れ同三十七年家督を相続し前名龍三郎を改め名を時成松銀行頭取たり兼に成松町長帝國農會議員たりし事あり家族は尙四男復四郎(明四五、五生)五男久五郎(大三、二生)六男政夫(同四、八生)七男龍司(同八、七生)孫彰一(同四、一〇生、長男敬一郎長男)の外弟竹四郎(明二〇、四生、工學士)同妻すみ(同二七、五生、靜岡、高田豊洲三女)及其二子あり長女芳子(同三三、七生、京都府立第一高等女學校出身)は大阪府人岸上宗親に二女恒子(同三五、一〇生、出身校同上)は兵庫縣人江本晋に三女すが子(同三七、一〇生、大阪府藤高女學校出身)は同縣人梶原太三郎に嫁せり(兵庫、水上、成松町)  
 參照 荻野田貞次郎有田邦敬漢口達兵衛の項

**荻野伸三郎** 從四位勳五等、大正大學教授、內務省各職、文部省各職、三重縣在籍  
**ア** 明一三、二生、山口、富田祐二  
**イ** 明一三、二生、山口、富田祐二  
**ウ** 明一三、二生、山口、富田祐二  
**エ** 明一三、二生、山口、富田祐二  
**オ** 明一三、二生、山口、富田祐二  
**カ** 明一三、二生、山口、富田祐二  
**キ** 明一三、二生、山口、富田祐二  
**ク** 明一三、二生、山口、富田祐二  
**ケ** 明一三、二生、山口、富田祐二  
**コ** 明一三、二生、山口、富田祐二  
**ク** 明一三、二生、山口、富田祐二  
**ケ** 明一三、二生、山口、富田祐二  
**コ** 明一三、二生、山口、富田祐二  
**ク** 明一三、二生、山口、富田祐二  
**ケ** 明一三、二生、山口、富田祐二  
**コ** 明一三、二生、山口、富田祐二

**荻野萬太郎** 足利銀行(株)頭取、栃木縣農工銀行、下毛貯蓄銀行、兩毛製織、足利紡績各(株)取締役、山保毛織、下野新聞、兩野工業各(株)監査役  
**ハ** 明一三、九生、栃木、金子又三郎  
**ニ** 明二六、八生  
**ハ** 明一三、九生、栃木、金子又三郎  
**ニ** 明二六、八生  
**ハ** 明一三、九生、栃木、金子又三郎  
**ニ** 明二六、八生

**荻野芳藏** 東京府在籍、矢野鍊業各(株)取締役  
**キ** 明七、七生、大阪、近藤修三母  
**タ** 明四一、四生  
**チ** 明三九、七生  
**ツ** 明四三、九生  
 君は東京府人荻野立助の長男にして慶應二年九月を以て生れ後家督を相続す現時前記會社の重役たり家族は尙五男六郎(大八、八生)あり長女シゲ(明三一、三生)は東京府人林福太郎長男九太に嫁せり(東京、麻布、筈町一五)

**荻野八左衛門** 德川銀行、小濱運送倉庫各(株)取締役、福井縣在籍  
**カ** 明二〇、一〇生、福井、勢馬清兵衛  
**キ** 明二〇、一〇生、福井、勢馬清兵衛  
**ク** 明二〇、一〇生、福井、勢馬清兵衛  
**ケ** 明二〇、一〇生、福井、勢馬清兵衛  
**コ** 明二〇、一〇生、福井、勢馬清兵衛  
**ク** 明二〇、一〇生、福井、勢馬清兵衛  
**ケ** 明二〇、一〇生、福井、勢馬清兵衛  
**コ** 明二〇、一〇生、福井、勢馬清兵衛

**荻野元太郎** 古河電氣工業(株)専務取締役、日清汽船(株)取締役、岡山縣土族  
**佳** 明四〇、一〇生  
**子** 明四二、八生、雙葉高等女學校出身  
**光** 明四三、九生  
 君は岡山縣土族石川光輝の長男にして明治七年二月を以て生れ先代晴光の養子となり同三十八年家督を相続す同三十六年早稲田大學を卒業し兼に古河合名會社大阪上海各支店本店營業部副長營業課長となり又英國に出張せり現時古河電氣工業會社専務取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙三男三女(大九、一〇生)あり三女和子(同二、二生)は東京府土族鹽田淡の養子

**荻原憲太郎** 鳥取縣多額納稅者、農業  
**母** 文久二、二生、鳥取、小島喜一郎  
**妻** 明二一、二生、鳥取、西垣寛治姉  
**久** 明二一、二生、鳥取、西垣寛治姉  
**康** 明二一、二生、鳥取、西垣寛治姉

**荻原百々平** 宮崎縣多額納稅者  
**妻** 明一八、六生、鹿兒島、相良藤次郎  
**男** 明二四、一〇生、五男彰妻、宮崎、明二九、一〇生、同母人妹  
**女** 明三六、三〇生  
 君は宮崎縣人荻原想平の弟にして安政三年九月を以て生れ大正五年分家して一家を創立す家商にして宮崎縣多額納稅者たり家族は尙四女弘子(大八、一〇生)九男弘明(同二〇、五生)五女正子(同二二、二生)六女文子(同二四、六生)庶子正明(同二二、二生、生母、鹿兒島、相良鶴)孫道子(同二二、九生、五男彰長女)同母人妹、同四、七生、同二女同太郎(昭二、一〇生、同長男)あり四男秀康(明二二、三〇生)は分家し六男秀(同二二、一〇生)亦其妻ミヅ(同二五、一〇生、宮崎、井上ツル私生)も及其一子を伴ひ分家し二女清香(同二八、六生)は滋賀縣人川添良再(同三〇、六生)は宮崎縣人植村京一に嫁し七男紀(同三四、二生)は實兄荻原秀康の死跡を相続せり(宮崎市)

**荻原要吉** 長野縣多額納稅者、吳服商  
**父** 安政二、一〇生  
**母** 嘉永四、九生、長野、山口庄兵衛  
**妻** 明一八、三〇生、長野、山浦孫左衛門  
**男** 明三三、一〇生  
**女** 明四一、二〇生  
 君は長野縣人荻原要人の長男にして明治十一年三月を以て生れ大正九年家督を相続し前名要太郎を改め吳服商を營み長野縣多額納稅者たり家族は尙四女あり(大九、七生)五女ひさ(同二五、一〇生)及妹あり(明二一、三〇生)同夫忠吉(同二二、五生、長野、前島榮助弟)あり(長野市南長野西後町)

**奥三十郎** 泉陽銀行(株)社長、田尻織物(株)監査役、大阪府在籍  
**妻** 明五、一〇生、京都、野路井盛俊  
**男** 明二九、三〇生  
**女** 明三六、一〇生、長男廣太郎妻、大阪、奥義通長女

孫 政子 大ニ、五生、離縁養子徳次郎長女
君は大阪府人奥友七の四男にして元治元年三月を以て
生れ明治三十四年家督を相続す中島屋と稱し傘商を營
みしが現時之を廢し養産家として知らる二女イト(明
二八、一〇生)は分家せり(大阪、天王寺、東平野町六
ノ二一六電南一三四五)

養子 くに私 明二二、七生、父善平二女
孫 保子 大ニ、九生、養子くに私長女
君は三重縣人奥井善平の長男にして文久二年十一月を
以て生れ明治三十二年家督を相続す現時勢南銀行頭取
にして三重縣農工銀行取締役たり弟芳太郎(明元、一〇
生)は分家し妹む(同二八、五生)は三重縣人中山後平
長男後市に嫁し弟吉太郎(同五、四生)は池田姓となれ
り(三重、多氣、齋宮村)

一〇生)四女路子(同六、二生)あり(東京、麹町、内幸
町日本勸業銀行内)
参照 田邊壯吉の項
奥田榮之進
額納稅者、貴族院議員、鹿兒島縣多
額納稅者、中木野梨米(株)代表取
締役、南薩鐵道、鹿兒島火山灰産
業、鹿兒島縣士族
鹿兒島縣士族
明二五、七生、鹿兒島、小倉か
ね
妻 のふ
男 又一郎 明三九、八生
女 國 明三九、二生

孫 政子 大ニ、五生、離縁養子徳次郎長女
君は大阪府人奥友七の四男にして元治元年三月を以て
生れ明治三十四年家督を相続す中島屋と稱し傘商を營
みしが現時之を廢し養産家として知らる二女イト(明
二八、一〇生)は分家せり(大阪、天王寺、東平野町六
ノ二一六電南一三四五)

養子 くに私 明二二、七生、父善平二女
孫 保子 大ニ、九生、養子くに私長女
君は三重縣人奥井善平の長男にして文久二年十一月を
以て生れ明治三十二年家督を相続す現時勢南銀行頭取
にして三重縣農工銀行取締役たり弟芳太郎(明元、一〇
生)は分家し妹む(同二八、五生)は三重縣人中山後平
長男後市に嫁し弟吉太郎(同五、四生)は池田姓となれ
り(三重、多氣、齋宮村)

一〇生)四女路子(同六、二生)あり(東京、麹町、内幸
町日本勸業銀行内)
参照 田邊壯吉の項
奥田榮之進
額納稅者、貴族院議員、鹿兒島縣多
額納稅者、中木野梨米(株)代表取
締役、南薩鐵道、鹿兒島火山灰産
業、鹿兒島縣士族
鹿兒島縣士族
明二五、七生、鹿兒島、小倉か
ね
妻 のふ
男 又一郎 明三九、八生
女 國 明三九、二生

妻 あい 明二五、一〇生、京都、井上利助二
女、京都府立第一高等女學校出身
男 周一郎 大六、八生
君は京都府人先代久兵衛の長男にして同助七郎の男な
り明治二十三年一月を以て生れ同四十年家督を相続と共
に前名周吉を改め襲名す山久と稱し酒造業を營む一家族
は尚長女ヒロ子(大ニ、四生)二女セツ子(同四、一〇生)
二男健次郎(同八、一〇生)三男哲夫(同二七、四生)は京
都府人永水新太郎長男三に同たま(明三〇、七生)は京
都府人日下部大助長男一に同ひさ(同二八、七生)は
滋賀縣人宇野保太郎長男之介に同ひさ(同二八、七生)
五、五生)同英三(同三五、一〇生)叔父七之助(同二
七)は各分家し弟三郎(同三三、一〇生)は京都府人中西彌
七の養嗣子となれり(京都、修學院村川原九電上
八〇)
参照 井上利助、奥田七之助、久保田庄左衛門の項

母 米 安政元、六生、石川、大矢敬親二女
妻 孝一 明一七、一〇生、東京、關大之三女
女 須美子 明二二、五生
君は石川縣人奥田久の長男にして明治六年八月を
以て生れ大正八年家督を相続す明治三十一年東京帝國
大學工科大学土木工學科を卒業し内務省土木監督署技
師内務省技師帝國鐵道技師大阪府土木技師東洋製鐵
會社運輸課長倉庫課長小倉製糖調査事務所長等を經て
白山水力會社に入り大正十年轉じて京城工業專門學校
教授となり現に前記肩書の官職に在り家族は尚二男二
郎(明四三、一〇生)あり(京城、高等工業學校内)

を經て昭和二年現職官廳刑務所長に轉補せらる長女靜
(明三五、一〇生)は福島縣人蘆澤長次郎四男清志に嫁
し三女濱(同四四、八生)は茨城縣人清原やすの養子と
なれり(仙臺市外古城宮城刑務所)
奥田象三
從六位勳六等、三共、泰昌製菓各
(株)監査役、東京府在籍
男 永吉 明三三、一〇生、商學士
君は大阪府人奥田福平の二男にして安政四年五月を以
て生れ後分れて一家を創立す男に上京して大島圭介に
仕へその信任を博し女ひなに配る爾來岳父大島男の
肝入りにて工部省内務省等に奉職し傍ら英人コンダ
に就きて建築學を修む明治三十四年更に通信技師に任
ぜられしも同四十四年之を離し三共製菓會社監査役に
就任し今日に至る尙同社の係事を兼り(明一〇、一〇生)
役を兼ね長女千代(明一九、一〇生)、東洋英和女學校
出身(は東京府人實業家鹽原文策に二女八重(同二二、
九生)は同府士族小島誠に三女美枝(同二四、一〇生)、東
洋英和女學校出身(は兵庫縣華族田篤に四女和歌(同二
六、六生)は實業家西川忠亮弟忠雄に嫁せり(東京市外
駒澤町上馬九八)
参照 小島誠、鹽原文策、田篤の項

奥田清兵衛

奥田商會代表取締役、奥田殖産愛知縣在籍

妻 フミ 衛長女、一、二生、岐阜、矢島甲兵衛長女

奥田武二郎

正五位勳五等、鐵道監督局長、仙臺鐵道監督局長

母 マサ 徳衛長女

奥田剛郎

正五位勳五等、鐵道監督局長、仙臺鐵道監督局長

母 ヤス 明元、八生、兵庫、武井正平二女

奥田貞三

大阪府在籍

妻 ウタ 生子

奥田直元

正四位、子爵

妻 カウ 明二、五、七生、新潟、小出喜七郎

奥田直元

正四位、子爵

妻 カウ 明二、五、七生、新潟、小出喜七郎

奥田直元

正四位、子爵

妻 カウ 明二、五、七生、新潟、小出喜七郎

奥田直元

正四位、子爵

妻 カウ 明二、五、七生、新潟、小出喜七郎

奥田直元

正四位、子爵

妻 カウ 明二、五、七生、新潟、小出喜七郎

奥田常右衛門

廣島縣多額納稅者、福山銀行(株)監査役、肥料商、廣島縣在籍

妻 壽賀子 明二、九生、岡山、福武豊造妹

奥田常右衛門

廣島縣多額納稅者、福山銀行(株)監査役、肥料商、廣島縣在籍

妻 壽賀子 明二、九生、岡山、福武豊造妹

奥田常右衛門

廣島縣多額納稅者、福山銀行(株)監査役、肥料商、廣島縣在籍

妻 壽賀子 明二、九生、岡山、福武豊造妹

奥田常右衛門

廣島縣多額納稅者、福山銀行(株)監査役、肥料商、廣島縣在籍

妻 壽賀子 明二、九生、岡山、福武豊造妹

奥田常右衛門

廣島縣多額納稅者、福山銀行(株)監査役、肥料商、廣島縣在籍

妻 壽賀子 明二、九生、岡山、福武豊造妹

奥田常右衛門

廣島縣多額納稅者、福山銀行(株)監査役、肥料商、廣島縣在籍

妻 壽賀子 明二、九生、岡山、福武豊造妹

奥田常右衛門

廣島縣多額納稅者、福山銀行(株)監査役、肥料商、廣島縣在籍

妻 壽賀子 明二、九生、岡山、福武豊造妹

奥田常右衛門

廣島縣多額納稅者、福山銀行(株)監査役、肥料商、廣島縣在籍

妻 壽賀子 明二、九生、岡山、福武豊造妹

奥田常右衛門

廣島縣多額納稅者、福山銀行(株)監査役、肥料商、廣島縣在籍

妻 壽賀子 明二、九生、岡山、福武豊造妹

奥田藤兵衛

大阪府在籍

妻 ヒデ 嘉永四、二生、先々代藤兵衛長女

奥田寅楠

關西染工場、染色業

妻 トシ 明四、七生、養父幹一郎長女

奥田寅楠

關西染工場、染色業

妻 トシ 明四、七生、養父幹一郎長女

奥田寅楠

關西染工場、染色業

妻 トシ 明四、七生、養父幹一郎長女

奥田寅楠

關西染工場、染色業

妻 トシ 明四、七生、養父幹一郎長女

奥田寅楠

關西染工場、染色業

妻 トシ 明四、七生、養父幹一郎長女

奥田寅楠

關西染工場、染色業

妻 トシ 明四、七生、養父幹一郎長女

奥田寅楠

關西染工場、染色業

妻 トシ 明四、七生、養父幹一郎長女

奥田寅楠

關西染工場、染色業

妻 トシ 明四、七生、養父幹一郎長女



**奥田 穂** 大東海上火災保險(株)取締役、奥田商會(名)代表社員、廣島縣在籍  
 明二七、一〇生、二女テツ夫、靜岡、大田藤一郎弟、小樽高等商業學校出身

妻 喜一郎 小樽高等女學校出身

女 テツ 明三三、一〇生、養子喜一郎妻、君は廣島縣人奥田穂三郎の長男にして明治三十年十月を以て生れ大正五年家督を相続す現時前記各會社の重役たり家族は尚孫佳苗子(大一二、五生、養子喜一郎長女)同美葉子(同三三、五生、同二女)同長雄(同二五、四生、同長男)同久雄(生年月同上)同二男あり弟(明一五、七生)は分家し明三三(同三三、五生)は京都市府人鹿野景吉の養子となれり(西宮、泉五七八九電一五〇)

**奥田 讓** 正五位勳四等、農學博士、九州帝國大學教授、農學部勤務  
 國大學在籍

妻 シゲコ 明二五、八生、廣島、養豊四女

男 實 大六、九生

君は東京府人奥田格の二男にして小島敏之の兄なり明治十六年九月を以て生れ大正三年分家して一家を創立す明治四十二年東京帝國大學農學部農化學科を卒業し大學院に入り大正元年東京帝國大學農學部農化學科に任じ同三年ヤルト島に出張を命ぜらる同七年農學博士の學位を受け生物化學研究の爲英米瑞西瑞典に留學同十年九州帝國大學助教授に任じ同十一年同大學教授に進み現時其職にあり家族は尙二女千恵子(大三、六生)あり(福岡市西新町一〇六)

參照 小島敏之、小島正信の項

**奥田 柳藏** 勳四等、鳥取縣多額納稅者、鳥取貯蓄銀行、大正鳥取銀行各(株)頭取、日東格魯鐵業(株)取締役、農業、鳥取縣在籍

妻 はる 明二二、一〇生、鳥取、石谷吉平二女

男 善四郎 明二二、五生

女 和子 明二四、四生、長男善四郎妻、鳥取、河本敏藏妹

君は鳥取縣人奥田長十郎の長男にして明治元年十一月を以て生れ同十七年家督を相続す農業を營み傍ら鳥取貯蓄銀行大正鳥取銀行各頭取にして縣下の多額納稅者たり會て鳥取縣會議員因伯米輸出同業組合議員等に擧げられ又同縣郡部より推されて衆議院議員に當選するに四回に及ぶ大正三四年事件の功に依り勳四等に敘せらる家族は尙孫吉右衛門(明四四、一〇生、長男善四郎長男)同傳三郎(同二二、一〇生、同三男)あり妹ひさ(明七、七生)は同夫兵吉同元、七生、鳥取、近藤精男叔父)と共に弟清藤(同二〇、六生)は同妻節(同二九、一〇生、鳥取、同島正澄長女)及其一男と共に各分家し長女繁子(同二九、六生)は鳥取縣人奥田義人に妹のぶ(同二一、八生)は同縣人同井邦次郎に嫁し甥偶太郎(同三三、九生、養兒兵吉長男)は同縣人奥田卓二の家籍に入れり(鳥取、氣高、大和村)

參照 河本敏藏、桑田安常の項

**奥田 勇次郎** 梅村屋、割烹業  
 京都府在籍

妻 カヲ 明三三、一〇生、京都、加藤吉藏長女

男 大 明三三、一〇生、京都、加藤吉藏三郎妹

君は京都府人奥田勇吉の長男にして明治三十年七月を以て生れ大正六年祖母カヲの跡を襲ひ家督を相続す割

**奥田 理一** カネエパツキング製造、瓦斯管販賣各(株)取締役、鋼鐵商  
 大阪府在籍

妻 美子 明三二、一〇生、兵庫、山本農治郎長女

男 俊 明四四、五生

君は大阪府人奥田理平の長男にして明治二十年三月を以て生れ大正五年家督を相続す銅鐵商を營み現に前記各會社の重役たり家族は尙二男篤(大四、六生)三男程(昭二、二生)甥秀一(大六、五生、亡弟秀三長男)姪つる(同九、七生、同二女)あり(大阪、西、西道頓堀四ノ一〇電欄川一〇二九)

**奥平 俊藏** 正四位勳二等功五級、豫備陸軍中將  
 京都府在籍

妻 イチ 明一八、一〇生、東京、赤川雄三養子、東京女學館出身

男 俊 明四〇、三〇生

君は東京府人奥平定盛の四男にして明治八年十二月を以て生れ大正四年甥石之助より分れて一家を創立す明治二十九年陸軍士官學校を卒業し翌三十年陸軍歩兵少尉に任じ爾來果進して大正十三年陸軍中將に陞る其

**奥平 昌國** 日本教育生命保險、新津温泉土地各(株)取締役、東京府在籍

君は伯爵奥平昌恭の弟にして子爵稻垣長昌の甥なり明治十三年一月を以て生れ同四十二年分家して一家を創立す同三十五年學藝院中等科を卒業し現時日本教育生命保險新津温泉土地各會社取締役たり(東京、芝、高輪南町五三電高輪三三〇)

參照 伯爵奥平昌恭、子爵稻垣長昌の項

**奥平 稔** 吳日々新聞社長  
 廣島縣在籍

妻 俊子 明三七、三〇生、廣島、大野木友次郎長女

男 陽 大 一四、六生

君は廣島縣人奥平吉之助の長男にして明治三十年六月を以て生れ大正十二年家督を相続す同年早稻田大學政治經濟學部を卒業し現時吳日々新聞社長たり家族は尙二男雅彦(昭二、八生)弟英雄(明三八、一〇生)妹房子(同四二、二生)弟弘和(同四三、一〇生)あり(吳、堺川通三ノ一)

**奥寺 物之助** 北海道多額納稅者、漁業  
 北海道在籍

妻 德太郎 慶應元、七生、現戶主

男 喜 明二二、一〇生

女 喜美 明四四、二〇生

君は北海道人川合惣右衛門の養孫にして奥寺由藏の養甥なり明治十九年五月を以て生れ同四十年奥寺德太郎の養子となる漁業を營み北海道多額納稅者たり家族は尙二男德郎(大三、一〇生)三男德之助(同五、一二生)三女美津(同九、二生)四女富貴(同二〇、一〇生)五女富美(同二三、一〇生)六女美恵(同二四、一〇生)あり(北海道、余市、余市町)

參照 奥寺德太郎、奥寺由藏の項

**奥平 昌恭** 正三位勳三等、伯爵、貴族院議員、朝鮮銀行(株)監事、樺太鐵道(株)會長、愛國生命保險(株)事務取締役、三井生命保險(株)取締役、舊豊前中津藩

妻 利子 明三六、六生、從五位

男 信 明三八、五生、長男昌信妻、東京、當家は其平親王の末裔奥平美濃守貞能の長男美作守信昌の後なり累代徳川氏に仕ふ信昌三州長篠城を守り勇名を馳せ關ヶ原役後濃州加納六萬石に封ぜらる後世宇都宮古河山形等に轉々し享保中豊前中津十二萬石に移る信昌より十四世を経て先代昌通に至り明治十七年伯爵を授けらる君は其長男にして幼名を九八郎といふ明治十年六月を以て生れ同十八年襲爵仰付けらる學藝院を経て京都帝國大學法科大學に學び同四十二年歐米を漫遊し歸朝後實業界に入り現時前記銀行會社の重役にして又貴族院議員たり銃鏡を好み射術に長じ又庭球の能手として知らる家族は尙養子秋子(大四、一〇生、東京、梶藤吉二女)叔父定之助(明二九、二〇生)あり弟昌國(同三一、一〇生)叔父忠善(同五一、一〇生)同昌繁(同八一、三〇生)同昌友(同二〇、九生)は各分家し同昌吉(同八、一二生)は子爵稻垣長敬の養子となり襲爵して長

**奥谷 繁** 大連中央土地(株)秘書兼株式課長  
 東京府在籍

妻 京 明二五、一二生、千葉、宮島德三郎妹

君は大連府人先代伊介の長男にして慶應三年七月を以て生れ明治三十八年家督を相続す同二十三年早稻田大學法政學部を卒業し現時現に前記會社の重役たり長女かね(明三四、一〇生)は大阪府人有澤潤弟に嫁せり(大阪、東、今橋五ノ一三電本局四二二)

**奥寺 由藏** 北海道多額納稅者、漁業  
 北海道在籍

妻 たけ 明一〇、七生、北海道、徳光久吉三女

男 正 明三三、一〇生

女 正子 明三六、一二生

君は北海道人奥寺德太郎の弟にして同惣之助の養叔父なり明治七年三月を以て生れ同二十二年分れて一家を

創立才漁業を管み北海道多額納税者たり家族は向二男喜之助(明四二、三三)四男完蔵(大二、四生)五男宏太郎(同五、五生)孫多美子(同八、七生)奥寺政蔵長女(あり)北海道、余市、余市町)

奥戸 大藏 神奈川縣建築技師 大阪府在籍 母 ナミエ 明九、八生、香川、土、大塚一格 妻 家壽子 明三六、六生、岡山、岡本佐市二女 男 忠夫 大一五、一生

君は大府人奥戸善之助の長男にして明治三十四年七月を以て生る先代善之助は夙に明治法律學校を卒業し文官高等試験に合格司法官候補に任じ初め高松地方裁判所在勤を命ぜられ後檢察及び判事に任じ四國中國の各地に勤務し大阪地方裁判所部長に進む同三十九年官を辭し辯護士を開業し大江ビルディング會社社長赤線検閲會社監査役として知る君其後を享け昭和三年四月家を相續す大正十四年東京帝國大學工學部建築科を卒業し現時神奈川縣警察部建築工場監督技師たり家族は向長女孝子(大一三、一生)弟三九造(明三九、一〇生)同新三(同四一、二生)同武(同四四、四生)妹ワカ(大三、六生)あり姉フジ(明二九、九生)は大府人辯護士藤村東に妹フク(同三六、一生)夕陽丘高等女學校出身)は大倉商會社大阪支店員原田保男に嫁せり(横濱、磯子、磯子町一六七〇)

奥藤 研造 兵庫縣多額納税者、三十八銀行、奥藤銀行、山陽中央水電氣(株)取締役、農業、兵庫縣在籍 妻 わせ 安政五、四生、兵庫、奥藤利清四女 男 謹治 明九、五生 女 文子 明二二、九生、長男謹治妻、岡山、井上昌平三女 養子 治 明一八、八生、二女きみ夫、廣島、深井裏一弟 男 弘 明二一、八生、養子治妻 女 きみ 明一八、八生、養子治妻 男 明三二、二生、三男弘妻、兵庫、田淵新作二女

奥中保次郎 惠美須織物(株)専務取締役 大阪府在籍 妻 キミ 明二〇、四生、大阪、西尾久吉長女 男 道三郎 明四三、二生 君は大府人奥中清次郎の二男にして明治十四年十一月を以て生れ同三十七年分家して一家を創立す現時惠美須織物會社専務取締役たり家族は向二男敏三(明四四、八生)四女静子(大一四、一生)あり(堺、市之町東二ノ一)

奥西 安藏 京都府多額納税者、丸二商店(株)監査役、京都府在籍 妻 マスエ 明三〇、七生、奈良、福岡金治郎 男 右一郎 大七、二生 君は奈良縣人奥西治郎の二男にして明治二十一年六月を以て生れ大正十年分家して一家を創立す現に京都

男 章 明二五、八生 婦 コマ 鳥居幸雄養子 明三三、四生、四男章妻、廣島、鳥居幸雄養子 明一九、六生、亡二男明造妻、兵 孫 なみ江 明四三、二生、亡長女すね長女 孫 澄子 明四三、二生、亡二男明造長女 孫 多美 明四三、二生、亡二男明造長女 孫 澄子 明四三、二生、亡二男明造長女 孫 澄子 明四三、二生、亡二男明造長女

君は兵庫縣人三木新吾の三男にして安政四年七月を以て生れ後先代三郎の養子となり明治四年家を相續す農業を管み傍ら前記銀行會社の重役にして縣下の多額納税者たり嘗て能野製油赤穂電燈各會社の重役に擧げられしことあり家族は向孫教(明四二、七生)長男謹治(同三三、四生)同又男(同四四、一生)同二男(同修)大三、一生、同三男(同嶺)同五、三生、同長女(同直子)同一、四生、同二女(同朝子)同一三、二生、同三女(同朝子)同一四、二生、同五男(同禮)二(大五、二生)養子治長(同朝子)同一七、一生、同長女(同朝子)同一〇、一生、同二男(同朝子)同一二、〇生、同二女(同喜久子)同一四、九生、三男(同長女)同育子(昭二、七生)同二女(同朝子)大一五、一生、四男章(二女)あり(兵庫、赤穂、假越村)

奥貫五平次 埼玉縣多額納税者、農業 埼玉縣在籍 妻 まつ 文久二、九生、埼玉、戸田八五女 男 正元 明二〇、八生 君は埼玉縣人奥貫忠吉の二男にして明治九年十二月を以て生れ大正十年家を相續す足袋商を管み傍ら行田紡績會社取締役にして同縣多額納税者たり家族は向二女智子(大五、一〇生)あり妹は(明二八、三三)は埼玉縣人小林精一弟兵衛に嫁せり(埼玉、北埼玉、忍町)

奥野幾次郎 旭廣告(株)社長、廣告代理業 大阪府在籍 妻 美花 明一六、五生、大阪、村田祐治長女 男 清子 明四一、一〇生 君は大府人奥野彌三松の弟にして明治十一年一月を以て生れ大正二年分家して一家を創立す廣告代理業を管み現時旭廣告會社社長たり家族は向三女富久子(大

奥野英太郎 正四位勳三等功五級、豫備陸軍中將、滋賀縣在籍 妻 サク 明一六、八生、山口、土、栗飯原 男 英良 明四三、二生 君は滋賀縣人奥野時之長男にして明治四年十二月を以て生れ同三十年家を相續す同二十八年陸軍士官學校を卒業し陸軍歩兵少尉に任じ大正十三年陸軍中將に果進す其間陸軍大學校を卒業し爾來參謀本部員第十二師團第七師團由良憲朝軍各參謀本部員第四十八聯隊長第九師團參謀長歩兵第二十四旅團長第十八師團司令部附等に歴補し日露戰役の功により功五級金鷲勳章を賜ふ家族は向三女豊子(大三、一生)四女節子(同五、七生)の外弟武夫(明一七、一生)あり同光雄(同三三、一〇生)同直夫(同二四、六生)は各分家し妹(同八、二生)は京都府土族松室重太郎に嫁せり(大津、神出町)

奥野小四郎 十勝無盡(株)社長、北海道殖産(株)取締役、十勝畜産組合長、農業、兵庫縣在籍 妻 せつ 明一三、三三、養父小四郎長女 君は兵庫縣人武田泰三の三男にして明治十三年四月を以て生れ先代小四郎の養子となり大正四年家を相續し前名雄次を改め養子第三高等學校に學び夙に北海道に至り農牧の業に従事し曩に北海道會議員十勝農政協會理事長に擧げられ大正十三年衆議院議員に當選す現時前掲諸會社の重役にして十勝畜産組合長十勝六郡農會長北海道畜産牛馬畜産組合聯合會評議員たり(北海道、河西、帶廣町)

奥野孝三郎 滋賀縣多額納税者、砂糖商 滋賀縣在籍 妻 ふき 明一三、二生、先々代孝三郎長女 君は滋賀縣人尾賀儀兵衛の四男にして明治十三年十一月を以て生れ同三十四年先代ふきの入夫となり家を相續し養子砂糖商を管み滋賀縣多額納税者たり家族は向養子啓子(大九、一生)、滋賀、西村和平孫)あり(滋賀、蒲生、八幡町)

奥野正太郎 勳七等、森永製菓(株)監査役、全國菓子同業組合聯合會理事、社會教育委員、奥野長正堂、落穂千貝製造元、製菓業、大阪府在籍 妻 タメ 明六、六生、大阪、宮崎治三郎長女 男 健藏 明三三、三三、二女正子夫、滋賀、建部清六弟 女 正子 明三五、五生、養子健藏妻、大谷高等女學校出身 君は大府人奥野八平の長男にして慶應二年十一月を以て生れ明治二十五年家を相續す夙に製菓業を管み現時落穂製造元として奥野長正堂の名著く知らる傍ら前記各會社の重役を兼ね推されて全國菓子同業組合聯合會理事たり曩に日清日露の兩役に從軍し功に依り勳七等青色桐葉章を授けらる會て全國菓子給大品評會々長に推されて近く國勢調査委員に任命されたり(大阪、北新町一ノ一電報二四五)

奥野藤吉 大府府在籍 妻 チウ 明四〇、一一生 君は大府人木下源兵衛の二男にして明治五年七月を以て生れ同三十年先代チウの入夫となり家を相續す藥種商を管む長女(明三六、二生)は其夫清六(同三一、七生、廣島、寺内慶治郎長男)及一男と共に分家せり(大阪、東、道修町三ノ三電報局一八八〇) 參照 岡本佐右衛門の項

奥野政次郎 從七位勳五等、米子銀行(株)取締役、能登郡農會長、島根縣在籍 妻 としこ 明一八、一一生、鳥取、野坂茂三郎長女 君は島根縣人奥野周義の二男にして明治九年三月を以て生れ同二十一年亡養兄仁兵衛の跡を承けて家を相續す現に前記銀行の重役たり家族は向三男晴三(明四

奥野増藏 神奈川縣多額納税者、材木商 神奈川縣在籍 妻 テイ 明一四、一〇生、神奈川、菅沼善 男 利一 明三八、七生 女 松子 明四二、一〇生 女 梅子 明四五、四生 君は神奈川縣人先代増藏の長男にして明治九年九月を以て生れ同三十七年家を相續す材木商を管み神奈川縣多額納税者たり家族は向七女(大三、八生)三男隆三(同五、一生)四男泰助(同八、一生)九女博子(同一一、六生)五男眞吾(同三三、八生)あり妹チヨ(明二一、三三)は山口縣人内藤輔信に嫁久(同三三、九生)は静岡縣人内田市郎左衛門二男勇次に嫁し姉クマ(同二、二生)は外戚川崎甚三郎の死跡を相續せり(神奈川、中、大磯町大磯)

奥野松治郎 東區會議員、地主 大阪府在籍 養子 又次 明三七、七生、養子靜江夫、奈良、安村吉藏二男、米澤高等工業學校出身、京阪電氣鐵道會社員

養子 静江 明三九、一一生、養子又次妻、兄...

奥野祐次郎 西村貿易店(株)取締役...

奥野要吉郎 臺灣地所建(株)取締役...

奥原富八 群馬縣多額納税者上毛郡...

奥村嘉藏 德島縣多額納税者、阿波製紙(株)...

奥村銳作 正四位勳三等功四級、豫備陸軍中...

奥村嘉七郎 加古川銀行(株)常務取締役...

奥村幸二郎 從七位勳六等、陸軍中尉、...

奥村嘉藏 德島縣多額納税者、阿波製紙(株)...

奥村龜太郎 大日本電球、電業製鍊各(株)取締...

奥村吉五郎 五福、醬油醸造業...

奥村正右衛門 山梨縣多額納税者、あさや呉服店...

奥村敬太郎 香川縣土族(株)取締役...

奥村小次郎 京都府多額納税者、京都製米(株)...

奥村重雄 大阪株式取引所短期取引員...

奥村嘉七郎 加古川銀行(株)常務取締役...

奥村幸二郎 從七位勳六等、陸軍中尉、...

奥村重雄 大阪株式取引所短期取引員...

奥村正右衛門 山梨縣多額納税者、あさや呉服店...

奥村正三 滋賀縣在籍...

奥村重雄 大阪株式取引所短期取引員...

奥村 正三

時計商 福岡縣在籍

男 一 郎 明四四、一生

女 トシ 明四五、一生

奥村 省三

從四位勳三等、熊本高等工業學校教授、九州帝國大學教授

男 準 三 大三、七生

女 喜久子 明四一、一生

妻 環 明一九、八生、熊本、士、中村才馬六女

奥村 錠四郎

天草石炭(株)取締役、根岸商事(株)監査役、東京府在籍

男 健 三 明三九、六生

女 君は長野縣人奥村平衛の弟にして明治元年八月を以て生れ大正四年分家して一家を創立す現時天草石炭會社取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙ほ二女勝子(大三、六生)あり長女福子(明三六、一生)は東京府人水野三之助に嫁せり(東京、淺草、田島町一〇八)

奥村 信太郎 大阪毎日新聞社(株)常務取締役 兵庫縣在籍

妻 イト 量二女 量二一、一生、大阪、士、相賀信君は東京府人先代成岳の長男にして明治八年十一月を以て生れ同十八年家督を相続す現時大阪毎日新聞社常務取締役たり家族は尙四男大六(大六、一生)あり(熊本、山鹿町二二〇)

務取締役たり家族は尙養子彌生大九、一生、大阪、吉村廣長女(外弟養次郎(明一一、三生)及び其一子あり(兵庫、武庫、本山村北畑三二六番地一〇六二)

奥村 千吉 日本鑄鋼所(株)社長、奥村(名)代 表社員、福岡縣在籍

男 福 次 明三五、六生

女 孝子 明四五、三生

妻 節子 明四五、三生

奥村 千藏 勳六等、衆議院議員(岐阜縣選出) 大垣市會議員、西濃飲料水(株)社長、酒類商、岐阜縣在籍

妻 嘉木、現〇生

女 節子 明四五、三生

奥村 善助 大丸呉服店、呉服商 東京府在籍

繼母 フク 慶應元、四生、東京、岡本徳三長女 妻 とみ 明二六、三生、東京、高木春吉四女

奥村 竹三 奥村商店、江戸堀土地建物各(株) 取締役、須磨土地建物(株)監査役 兵庫縣在籍

妻 カジ 明七、九生、大阪、藤井定吉妹

奥村 猛 奥村電機商會(株)社長、安部奥村 商事(株)取締役、内外商事(株)監 査役、京都府在籍

妻 まさ 明二、四生、京都、赤尾幸七三女

奥村 忠吉 明治實業(株)専務取締役 兵庫縣在籍

妻 きやう 明二八、二生、足立吉左衛門長女

奥村 則英 正四位、男爵 舊金澤藩國老

妻 富 儀長女

奥村 久郎 東神倉庫、大正運輸各(株)取締役 岐阜縣在籍

妻 照 明一〇、一生、鹿兒島、有馬亮吉妹

奥村 榮次郎

從四位、男爵 舊金澤藩國老

オ(ヲ)之部 奥村

君は舊藩所藩士刀鍛冶奥村小三郎の二男にして同小 次郎の弟同猛の兄に當る慶應三年七月を以て生れ叔父 伊之助の養子となり明治四十五年家督を相続す現に機 械類の製造に志し兄小次郎弟猛と協力し電氣機械の製 作をなし煙草機械も其考案に成る後大正七年資本金一 千萬圓を以て株式會社奥村電機商會を起し現に其取締 役に任ぜられ前記會社の重役を兼ね家族は尙六男純 男(明四五、三男)孫壽子(大一一、四生、長男武雄二 女)同春雄(昭二、一生、同長男)あり三女文(明二六、 一生)は工學博士堀尾太郎弟進造に四女千代(同三〇、 八生)は奈良縣人阪本敬に嫁し母タニ(天保二、三生、黒 川平兵衛二女)四男英雄(明三九、一生)は各分家せり (京都、上京、岡崎入江町三六番上七四七五)東京出張

(索引は姻族關係)

所 九比ル六階電燈丸ノ内六七、一六六二) 堀尾太郎の項 堀尾太郎の項

奥村 則英

奥村 久郎 東神倉庫、大正運輸各(株)取締役 岐阜縣在籍

妻 照 明一〇、一生、鹿兒島、有馬亮吉妹

奥村 則英 正四位、男爵 舊金澤藩國老

妻 富 儀長女

奥村 忠吉 明治實業(株)専務取締役 兵庫縣在籍

妻 きやう 明二八、二生、足立吉左衛門長女

奥村 猛 奥村電機商會(株)社長、安部奥村 商事(株)取締役、内外商事(株)監 査役、京都府在籍

妻 まさ 明二、四生、京都、赤尾幸七三女

奥村 竹三 奥村商店、江戸堀土地建物各(株) 取締役、須磨土地建物(株)監査役 兵庫縣在籍

妻 カジ 明七、九生、大阪、藤井定吉妹

繼母 フク 慶應元、四生、東京、岡本徳三長女 妻 とみ 明二六、三生、東京、高木春吉四女

奥村 正三 時計商 福岡縣在籍

男 一 郎 明四四、一生

女 トシ 明四五、一生

奥村 省三 從四位勳三等、熊本高等工業學校教授、九州帝國大學教授

男 準 三 大三、七生

女 喜久子 明四一、一生

妻 環 明一九、八生、熊本、士、中村才馬六女

奥村 錠四郎

天草石炭(株)取締役、根岸商事(株)監査役、東京府在籍

奥村 信太郎

大阪毎日新聞社(株)常務取締役 兵庫縣在籍

奥村 善助

大丸呉服店、呉服商 東京府在籍

奥村 千吉

日本鑄鋼所(株)社長、奥村(名)代 表社員、福岡縣在籍

奥村 千藏

勳六等、衆議院議員(岐阜縣選出) 大垣市會議員、西濃飲料水(株)社 長、酒類商、岐阜縣在籍

奥村 政雄

妻 静子 廉吉四女
女 純子 大五、九生
君は熊本縣人奥村紀雄の弟にして明治十二年十一月を以て生れ大正十一年分家して一家を創立す先是明治三十八年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し現時三菱合資會社理事にして前記各會社の重役を兼ねぬ家族は尙二男敏生(大六、一〇生)三男宣彦(同八、一〇生)二女誠子(同二、八生)あり(東京、赤坂、青山南町二ノ二三電番山二一六〇)

奥村 又十郎

君は福井縣人奥村常治の四男にして同常太郎の弟なり明治十六年五月を以て生れ同四十二年奥村又十郎の養子となり大正十年分家して一家を創立し前名平吉を改む漁業を營み現に前記銀行の重役にして福井縣多額納稅者たり家族は尙二男忠藏(明四五、七生)長女シズ(大三、五生)二女ノブ(同五、五生)三男三郎(同七、七生)四男四郎(同二〇、三三)四女芳子(昭二、八生)あり(福井、三方、北西郷村)

奥村 万治郎

君は京都府人奥村長四郎の二男にして明治元年九月を以て生れ同二十三年分家して一家を創立す織物機械及機料品卸商を營み京都織物機械業の組合京都會を設立し其會長の職にあり家族は尙孫誠一(大八、一〇生)長男勝次郎(同孝子)同二一、六生、同長女(同茂昭二、三三)同二男(同孝子)あり(京都、寺ノ内通堀川西入電番四七六二)

奥村 三樹之助

君は愛知縣人奥村松齋の長男にして明治八年一月を以て生れ前名祖道を改む同二十九年中央大學を卒業し石炭商を營み傍らジャパン冷蔵製氷會社社長にして横濱市會議員たり家族は尙三男安(大六、六生)の外妹たま(明一八、三三)あり長女春江(同三六、六生)は鹿兒島縣人谷山巖に庶子(同三三、二二)生、生母、東京、福島たねは三重縣人伊藤助太郎に嫁せり(横濱、中、久保町六三三電番町二七〇)

奥村 安一

君は兵庫縣人奥村春藏の二男にして明治六年五月を以て生れ同三十八年家督を相続す現時淡路實業銀行常務取締役にして兼に平瀬製油會社取締役たり三男孫千春(同二、一〇生)長男秀一(長女)あり二男敏一(明三三、八生)養子(同二一、一〇生)兵庫、清水秀次郎庶子(各分家)兄忠吉(慶應二、二生)も分家し弟昌平(明一四、五生)は同妻よし(同二五、一〇生)兵庫、太田源藏(長女)及び其子女を伴ひ亦分家し長女ちよ(同三七、一〇生)は兵庫縣人白川五平長男久雄に嫁し(同二九、一〇生)は同縣人東松惠門弟庄米に同(同二一、一〇生)は同縣人南要吉長男英一に嫁せり(兵庫、津名、洲本町)

奥村 安太郎

君は京都府多額納稅者、御國土地(株)社長、京都火災保險(株)常務取締役、朝鮮無煙炭(株)取締役、西宮土地、相互運輸倉庫各(株)監査役、京都府在籍

奥村 靖

君は京都府人奥村長四郎の二男にして明治元年九月を以て生れ同二十三年分家して一家を創立す織物機械及機料品卸商を營み京都織物機械業の組合京都會を設立し其會長の職にあり家族は尙孫誠一(大八、一〇生)長男勝次郎(同孝子)同二一、六生、同長女(同茂昭二、三三)同二男(同孝子)あり(京都、寺ノ内通堀川西入電番四七六二)

奥村 義一

君は新潟縣人奥村宮城各縣土木課長を歴任し大正十二年官を罷め實業界に入り現に前記會社の重役に於て昭和三年來議院議員に當選す家族は尙亡兄重右衛門妻神代(明七、一〇生)山形、加藤副治郎(同長男)重右衛門(明二八、九生)現戸主及其妻と弟あり(新潟市白山浦一、三三九)

奥村 米太郎

君は京都府人奥村市兵衛の二男にして明治十三年四月を以て生れ後家督を相続す九居商店と稱し西陣織物卸商を營む家族は尙三女トシ(大六、四生)あり妹スカ(明一七、二生)は分家し同(同二五、七生)は京都府人大島普次郎に嫁し弟武三(同三〇、三三)は分家妹スカの養子となれり(京都、上京、問之町御池下ル綿屋町五二七電番七〇三六)

奥村 利助

君は福井縣人先代利助の二男にして明治二十八年五月を以て生れ大正八年家督を相続し前名利一郎を改む雜貨雜類商を營み福井縣多額納稅者たり家族は尙長女裕子(大二三、四生)妹順(明三〇、九生)亡伯祖父利右衛門妻タニ(弘化元、三三)福岡、伊藤千右衛門長女あり(福岡市鉄屋町三)

奥本 傳吉

君は兵庫縣人奥本武八郎の長男にして明治三年十二月を以て生れ同十年家督を相続す現時岩見銀行取締役たり家族は尙弟亮一(明一九、二二)同妻アイ(同二八、三三)兵庫、三村岩五郎(長女)及其二男二女同武夫(同二一、八生)同妻桂(同三〇、八生)兵庫、井口徳太郎(長女)及其一男二女あり姉たつ(同元、一〇生)は兵庫縣人飯塚重雄に嫁し(同九、一〇生)は同縣人平井喜太郎長男忠太郎に同(同二一、一〇生)は同縣人廣瀬麟一に嫁し弟淳三(同二一、一〇生)は同縣人丸山みちの家督を相続せり(兵庫、掛保、網干町)

奥山 角三

君は北海道人奥山勘三郎の長男にして元治元年八月を以て生れ明治二十五年家督を相続す金業を營み義に札幌商業會議所常議員たりしが現時會頭に擧げらる會て札幌水力電氣會社重役たりし事あり家族は尙六男俊三(大二、九生)七男晃三(同三、一〇生)八男侃三(同五、四生)孫フミ(同二、二生)長男準三(長女)あり長女ツタ(明三五、六生)は北海道人岡村龜吉に嫁し四男三三(同三三、一〇生)は分家せり(札幌、南四條西四丁目)

奥山 龜藏

君は山形縣人奥山重右衛門の三男にして明治九年九月を以て生れる同四十年東京帝國大學工科大学土木科を卒業し新五位勳六等、衆議院議員(山形縣選出、山形縣在籍)常務取締役、山形縣在籍

奥山 義一

君は山形縣人奥山義章の長男にして明治十一年十月を以て生れ同四十五年家督を相続す現時山形汽船會社取締役たり家族は尙長女典子(大五、一〇生)三男義英(同二、六生)四男義人(同三、一〇生)二女利子(同二、三三)あり二男義次(同八、八生)は外祖父兵頭新八の養子となり弟章(明一七、七生)は其の妻カメ(同二、二生)愛媛、久留島辰太郎(三女)及び二子を伴ひ分家せり(愛媛、北宇和、吉田町)

奥山 啓

君は山形縣人奥山藤七の長男にして明治十一年一月を以て生れ同四十五年家督を相続す現時北海道種苗農具會社事務取締役たり家族は尙二男正明(大元、九生)三女典子(同四、一〇生)四男正夫(同二〇、一〇生)外弟庄治郎(明一七、五生)同妻うん(同二二、一〇生)山形、須藤善八(妹)との間に子女あり同庄藏(同二〇、八生)は山形縣人早坂常治の婿養子となれり(札幌、北六條西六、一)

奥山 源藏

君は山形縣人奥山重右衛門の三男にして明治九年九月を以て生れる同四十年東京帝國大學工科大学土木科を卒業し新五位勳六等、衆議院議員(山形縣選出、山形縣在籍)常務取締役、山形縣在籍

奥山 繁一 肩掛洋傘商 兵庫縣在籍
妻 八重 慶應二、六生、兵庫、仲村ちい妹
母 八重 慶應二、六生、兵庫、仲村ちい妹

奥山 富作 北海道多額納稅者、小樽市會議員
妻 ミツ 明三六、一〇生
母 フサ 明四〇、七生

奥山 彌三郎 酒造業 大阪府在籍
妻 トミ子 明八、五生、大阪、龍本大開姪
母 トミ子 明四〇、一〇生

奥山 忠左衛門 福島縣多額納稅者、福島電燈(株)
取締役、地主、福島縣在籍
妻 ツキ 嘉永三、九生、福島、菅野野助養母

奥山 春枝 兵庫縣多額納稅者、山一證券(株)
監査役、奥山ビブルローカー主
妻 まさ 明一四、九生、海軍中將清水得一妹

奥山 和作 静岡縣製鐵、株事務取締役
静岡縣在籍
妻 その 明三三、一〇生、静岡、中澤爲次郎

奥山 忠左衛門 福島縣多額納稅者、福島電燈(株)
取締役、地主、福島縣在籍
妻 ツキ 嘉永三、九生、福島、菅野野助養母

奥山 春枝 兵庫縣多額納稅者、山一證券(株)
監査役、奥山ビブルローカー主
妻 まさ 明一四、九生、海軍中將清水得一妹

奥山 和作 静岡縣製鐵、株事務取締役
静岡縣在籍
妻 その 明三三、一〇生、静岡、中澤爲次郎

長川 豊樹 從五位勳五等、逓信書記官、管船
局監理課長、東京府在籍
妻 ハス子 明三三、一〇生、廣島、林盛吉長女

長田 吉太郎 米子銀行、中國貯蓄銀行、中國興
業銀行各株監査役、鳥取縣在籍
妻 三子 明二〇、四生、亡長男政一男

長田 甚次郎 中央木材(株)社長、神戸有馬電氣
鐵道(株)取締役、日本工業(株)相
談役、長田工業所長、土木建築請
負業、石川縣在籍

長田 一郎 正五位勳五等、岡山縣多額納稅者
陸軍歩兵少尉、地方技師兼地方農
林技師、岡山縣在籍

長田 清彦 資産家、兵庫縣在籍
妻 龍子 明三三、一〇生、兵庫、古白川六
女 龍子 明三三、一〇生、兵庫、古白川六

長田 桃藏 奈良電氣鐵道(株)事務取締役、六
甲土地(株)監査役、國有財産調査
會委員、京都府農林部理事、京
都府農會、京都府畜産組合聯合
會々長、帝國農會評議員

長田 瑛 山梨縣多額納稅者、農業
妻 ふじみ 安政五、一〇生、山梨、深澤忠成妹

長田 清彦 資産家、兵庫縣在籍
妻 龍子 明三三、一〇生、兵庫、古白川六
女 龍子 明三三、一〇生、兵庫、古白川六

長部 慎三 從七位、陸軍少兵中尉、兵庫大同
信託、神戸有馬電氣鐵道各株取
締役、千治商店(株)監査役

妻 文子 明三〇、八生、京都、西村治兵衛  
 男 謙 香 大、一〇生

君は兵庫縣人長部文治郎の弟にして明治二十四年十二月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す資産家にして清酒大園の醸造を擔當する傍ら前記諸會社の重役たり義に一年志願兵として入營し陸軍歩兵中尉に進み又阪神國道電車創設の發起人となり之を完成せり家族は尙長女幸子(六一、二、七生)あり(兵庫、武庫、今津町浦風二電西宮七七)

參照 長部文治郎、西村治兵衛、大塚和三郎、西村齊次郎の項

長部虎三郎 資産家  
 妻 ナカ 大、二、八生、新潟、田中清助妹  
 男 一 郎 明三、三、生、大阪高等商業學校

君は新潟縣人長部榮吉の二男にして明治二十一年七月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す資産家にして横山久太郎商店員たり家族は尙二男健二郎(六七、一〇生)あり(東京、小石川、高田老松町三二)

參照 長部榮吉の項

長部文治郎 洛東再鑿、阪神國道電車(株)取締役、清酒大園醸造元、酒造業  
 父 文 一 嘉永四、三、生  
 母 文 一 三、七、生、兵庫、柴田新左衛門

君は兵庫縣人先代文治郎の長男にして明治六年十一月を以て生れ同三十八年家督を相続し襲名して前名恒三郎を改む同二十六年大阪高等商業學校を卒業し酒造業を營み清酒大園醸造元にして傍ら洛東再鑿阪神國道電車軌各會社取締役たり家族は尙四男俊三(大八、三、生)孫恒雄(同一五、一〇生)、長男昇一(長男)弟英三(明三二、一〇生)

長部松三郎 新潟縣多額納稅者、長岡商工會議所議員、六十九銀行(株)頭取、長岡貯蓄銀行、鮮滿開拓、長岡拓殖、天然瓦斯、新潟信託、長岡拓殖各(株)取締役、新潟瓦斯(株)監査役、醬油醸造業、新潟縣在籍

君は新潟縣人長部松四郎の長男にして明治三年四月を以て生れ同三十二年家督を相続す同二十五年東京高等商業學校を卒業し醬油醸造業を營み現時六十九銀行頭取前記各會社の重役にして新潟縣多額納稅者たり家族は尙叔母キシ(弘化四、七、生)あり(新潟、田中清助三女)及其二男二女を伴ひ分家し妹ハナ(同一七、三、生)は新潟縣人三井田四郎吉長男桂太郎に嫁せり(長岡、千手町二ノ六六五)

參照 長部松四郎の項

押小路公知 舊公卿家  
 母 方 明二〇、四、生、海軍中將鈴木  
 父 明二〇、四、生、海軍中將鈴木

當家は侍從三條西公勝の二男權大納言公普の後なり公普別一家をなし押小路と稱す夫より六代を経て先々代公亮に至り明治十七年子爵を授けらる三男實英其後を襲ぎ陸軍砲兵中佐に陞任し日露戰役の功に依り功五級を賜ふ君は先代實英の長男にして大正十年一月を以て生れ昭和二年九月家督を相続し現時子爵たり家族は尙弟公孝(六一、五、八、生)あり從姉菊子(明二八、八、生、亡伯父實敬庶子)は佐賀縣人喜多耕三に嫁せり

落合熊次郎 山梨縣多額納稅者  
 妻 新 作 明一七、九、生、養子まさ夫、静岡、山梨、加藤要七二女  
 養子 新 作 明一七、九、生、養子まさ夫、静岡、山梨、加藤要七二女

君は静岡縣人落合忠次郎の弟にして文久三年十月を以て生れ明治二十四年家督を再興す家商にして現に山梨縣多額納稅者たり家族は尙孫正三(大八、三、九、生)、養子新作二男(同七、一〇生、同四男)同孫男(同一二、二、生、同六男)同ひさ子(同一五、八、生、同三女)あり(山梨、北都留、大原村)

押小路昌信 正五位、男爵  
 養母 ぶち 明二、二、生、東京、齋藤辨之助妹  
 當家は健速日命の後胤にして代々宮中に仕へ大外記たり六十一世師親に至り明治十二年華族に列し其子師成同十七年男爵を授けらる其子師行師保兄弟相嗣ぎ君其後を承く君實は正四位勳三等錫島精次郎の三男にして男爵錫島英昌の明なり明治三十三年十二月を以て生れ先代師保の養子となり大正五年家督を相続し襲名して先代師保の養子を経て昭和二年東京帝國大學法學部政治科を卒業す大叔母ヨリ子(慶應三、二、生)は男爵錫島綱磨先代英昌の室にして養妹婉子(明三八、九、生)は東京府人齋藤徳之助に嫁せり(東京、牛込、矢來町三山里三二)

參照 男爵錫島綱磨、齋藤徳之助、齋藤福之助、高橋門兵衛、中山正一、市村林、津島、津島渡邊の項

押本 重平 明治火災保險(株)取締役、兼京都支店長、大阪支店長、京都府在籍  
 妻 朝代 明一六、一、生、岡山、片山祐七

君は鳥取縣人押本藤吉の弟にして明治八年二月を以て生れ大正二年分家して一家を創立す明治三十一年東京高等商業學校を卒業し現時明治火災保險會社取締役兼京都支店長大阪支店長たり家族は尙二男正二(大八、二、八、生)三男恭三(同六、二、生)三女三重子(同九、二、生)あり長女止子(明三六、一、生)は東京府人花和銀吉に二女敏(同三九、一、生)は兵庫縣人市瀬恭次郎長男元吉に嫁せり(京都、上京、小山大野町七五電西陣一七六四)

參照 市瀬恭次郎の項

落合周平 山梨縣多額納稅者、日本勸業銀行(株)山梨縣顧問、農業、山梨縣在籍  
 妻 かつら 嘉永六、一〇生、山梨、新津準人姉  
 男 重 徳 明二六、一、生  
 男 新 六 明三三、一、生  
 男 龍 七 明三八、一、生  
 男 泰 八 明四〇、七、生

君は山梨縣人長谷川源之丞の弟にして慶應二年六月を以て生れ先代徳の養子となり前名要次郎を改め明治四十二年家督を相続す同三十六年東京帝國大學英文科を卒業し現時山梨縣多額納稅者にして山梨銀行頭取たり二男謙次(明二八、一、生)は山梨縣人雨宮きたの養子静子の婿養子となり三男貞三(同二九、一、生)は分家せり(山梨、西山梨、山城村)

參照 新津準人、津川敏、小八右衛門の項

愛宕 通經 舊公卿家、安田銀行員  
 妻 茂登子 明三三、一、生、公爵毛利元昭二女  
 男 通 基 大、二、一、生

當家は權大納言中院通純の男權大納言通福の後なり通福別一家をなし家號を愛宕といふ夫より七代を経て先代通則に至り明治十七年子爵を授けられ侍從にして現に君は通則の男にして明治二十四年四月を以て生れ同四十四年家督を相続し襲名して現時子爵たり家族は尙二男通伸(六一、五、二、生)弟通英(明三三、八、生、工學士)あり姉利子(同二〇、一、生、華族女學校出身)は東京府人山中勇に嫁せり(東京市外在原町戸越一二一七)

參照 公爵毛利元昭、山中勇、侯爵醍醐忠重、小早川四郎、小早川四郎、小早川四郎、小早川四郎の項

落合牛太郎 日本權屬(株)取締役  
 妻 猛 明三三、一、生、兵庫、士、井上彌  
 男 猛 明三三、一、生、兵庫、士、井上彌  
 女 森文太郎四女

當家は權大納言中院通純の男權大納言通福の後なり通福別一家をなし家號を愛宕といふ夫より七代を経て先代通則に至り明治十七年子爵を授けられ侍從にして現に君は通則の男にして明治二十四年四月を以て生れ同四十四年家督を相続し襲名して現時子爵たり家族は尙二男通伸(六一、五、二、生)弟通英(明三三、八、生、工學士)あり姉利子(同二〇、一、生、華族女學校出身)は東京府人山中勇に嫁せり(東京市外在原町戸越一二一七)

參照 公爵毛利元昭、山中勇、侯爵醍醐忠重、小早川四郎、小早川四郎、小早川四郎、小早川四郎の項

落合慶四郎 從五位勳六等、愛知縣書記官、内務省  
 妻 信子 明二八、二、生、鳥取、木下義之長女  
 男 安 通 大、六、一、二、生

君は鳥取縣人落合傳四郎の弟にして明治十九年四月を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す同四十四年日本大學法科を卒業し文官高等試験に合格す同四十五年徳島縣屬となり更に同縣理事官鳥取縣東伯郡長山梨縣理事官大分三重長野各縣警察部長群馬石川秋田各縣書記官内務部長を経て昭和三年一月愛知縣書記官内務部長に轉じ今日に至る家族は尙二男康邦(大九、一、一、生)三男正道(同一二、九、生)あり(秋田市縣内務部長官舎)

落合貞三郎 正五位勳四等、學習院教授  
 妻 ユキ 嘉永二、二、生、祖父八郎兵衛長女  
 男 謙 三 明一九、一、二、生、新潟、士、渡邊

君は鳥取縣人落合和太郎の弟にして明治八年十二月を以て生れ同三十六年東京帝國大學文科大學英文科を卒業し更に米國に渡り同三十九年米國エール大學を卒業し又英國に遊ぶ第六高等學校教授を経て現時學習院教授たり家族は尙兄和太郎(明五、四、生、現戶主)同妻テイ(同一九、七、生、鳥根、藤原伊太郎長女)及其三子亡弟清妻テヨ(同二〇、一〇、生、鳥根、安部信松妹)及其五子あり(東京、北多摩、武藏野村吉祥寺二五四六)

落合豊三郎 從三位勳二等功二級、後備陸軍中將、東京府士族  
 妻 雅子 明三〇、二、生、長男慎彦妻、陸軍  
 男 謙 三 明三〇、二、生、長男慎彦妻、陸軍  
 女 幸 幸 明四一、六、生

君は鳥取縣人落合謙藏の三男にして文久元年二月を以て生れ明治十四年家督を相続す同十二年陸軍士官學校を卒業し陸軍少尉に任じ同十九年陸軍士官學校を卒業し同四十三年陸軍中將に昇進す其の間獨逸伊太利

各公使館附武官第一師團司令部附交通兵團團長長宮御用掛工兵監等に歴補す日清戦役の功に依り功四級に日露戦役には第二軍參謀長として功二級に敘せらるる家族は尚孫暢子大六、四生、長男銀彦長女(同九、六、生、同二女)同秀正(同二、六、生、同長男)あり長女節子(同二五、七、生)は伯備國基久大尉父周次に二女愛子(同二九、五、生)は香川縣人高橋眞人に四女淑子(同三六、二、生)は島根縣人岡崎清三郎に養子節枝(同三四、一、生、東京、田口捨夫)は青森縣人菊池敏之に嫁せり(東京市外大久保町西大久保二八三電四谷二九二)

參照 伯備國基久、高柳保太郎の項

**乙骨 三郎** 正五位勳四等、東京音楽學校教授  
東京府土族  
妻 千代 明二、三、生、東京、瓢地金次郎  
長女 明二、三、生、東京、瓢地金次郎

**乙竹 三郎** 正五位勳四等、東京高等師範學校教授  
東京府土族  
妻 千代 明二、三、生、東京、瓢地金次郎  
長女 明二、三、生、東京、瓢地金次郎

君は舊幕臣乙竹太三郎の三男にして明治十四年五月を以て生れ同三十七年東京帝國大學文學部哲学科を卒業し更に大學院に入り同四十四年東京音楽學校教授に任ぜられ現に其職にあり家族は尚二男俊二(大五、二、生)三男昭三(同七、四、生)四男進夫(同二〇、八、生)五男明夫(同二四、二、生)兄弟半二(明九、六、生、山形、安東城)現戸主同妻しゆん(同二七、八、生、山形、安東城)及其六子第五郎(同二二、六、生)同妻美津子(同三四、五、生、岡山、原榮長女)及其二子七郎父兼三妻たよ(萬延元、二、生、新潟、土、小島勇)あり(東京、小石川、大塚辻町一電大塚一〇〇三)

**乙竹 岩造** 從四位勳三等、東京高等師範學校教授  
東京府土族  
妻 千代 明二、三、生、東京、瓢地金次郎  
長女 明二、三、生、東京、瓢地金次郎

獨英米に留學し東京高等師範學校教諭文部省視學官等に歴任し現に東京高等師範學校教授たり家族は尚三女章子(大四、四、生)三男安岡(九、六、生)あり長女淑子(同四、一、二、生、御茶の水高等女學校出身)は滋賀縣土族津岡雄之助長男津岡清三郎に嫁し弟仲太(同二、三、生)同妻(同二、三、生)あり(同二、三、生)は各其妻子を伴ひ分家し同清五郎(同二、三、生)姉りゆ(同二、三、生)も亦各分家し第四郎(同二、一、六、生)は東京府人池永雅之助の養子となり妹貞(同三、一、五、生)は同府人利田新太郎に嫁せり(東京、小石川、大塚辻町一電小石川一四七〇)

參照 津岡雄之助、乙竹茂郎、御本幸吉、池田田嘉吉、加藤卯三郎、西川武吉、武藤源太郎の項

**乙竹 茂郎** 横濱正金銀行(株)大阪支店支配人  
三重縣土族  
妻 千代 明二、三、生、東京、荒川已次  
長女 明二、三、生、東京、荒川已次

**乙竹 利清** 大七、九、生  
君は三重縣土族乙竹岩造の弟にして明治十四年十月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す明治三十六年東京高等商業學校を卒業し直に横濱正金銀行に入り大正十年天津支店支配人同十二年大連支店支配人を經て現に前記の職に在り家族は尚二女茂子(大四、一、生)二女千代子(同二、一、七、生)三女信子(同二、一、四、五、生)あり(大阪、東、浪速町横濱正金銀行大阪支店內)

參照 乙竹岩造、津岡雄之助の項

**乙部 孝吉** 正五位勳五等、東京女子高等師範學校教授、岩手縣土族  
妻 千代 明二、三、生、東京、荒川已次  
長女 明二、三、生、東京、荒川已次

君は岩手縣土族乙部克孝の長男にして明治十六年二月を以て生れ大正六年家督を相続す明治四十四年東京帝國大學理科大學物理科を卒業し同四十四年東京女子高等師範學校教授に任じ現時に至る家族は尚二男俊爾(大四、一、生)三男翠爾(同六、四、生)四男雄爾(同八、九、生)五男英爾(同二、二、生)あり(東京市外杉並町高四寺四九一)

參照 片岡号八の項

**乙部 融** 三菱銀行(株)常務取締役兼監査部長事務取扱、兵庫縣土族  
妻 千代 明二、三、生、東京、荒川已次  
長女 明二、三、生、東京、荒川已次

君は兵庫縣土族乙部孝の兄にして明治七年十月を以て生れ同十四年分れて一家を創立す同三十二年東京帝國大學法科大學を卒業し三菱合資會社に入り漸次重用せられ同社銀行部部長を経て神戸支店支店長に進み次いで大阪支店支店長として船場支店支店長に當り現に常務取締役に推され現に監査部長事務取扱たり家族は尚二男勇(明四、二、一、生)三男勝(大四、六、生)あり長女愛(明四、〇、七、生)は東京府人淨法寺五郎長男に嫁さか(同五、六、生)は海軍中將川島令次郎に嫁せり(東京市外八幡町新井宿三三〇電大塚七〇〇)

參照 川島令次郎、淨法寺五郎、今村幸男の項

**乙部 德太郎** 池田屋、材木商  
東京府土族  
妻 千代 明二、三、生、東京、荒川已次  
長女 明二、三、生、東京、荒川已次

君は東京府人乙部喜兵衛の長男にして明治二十一年十一月を以て生れ池田屋と稱し材木商を營む家族は尚二男忠次郎(大八、三、生)三男泰男(同二〇、一、〇、生)弟弟清治(明三、一、八、生)同妻とき(同二、一、八、九、生、東京、田中孫之助)及其一子あり伯母かつ(文久三、一、生)は東京府人河合正晋の養母たり(東京市外南千住町千住南一六電通町三三)

參照 河合正晋の項

**乙部 正次郎** 正五位勳四等、判事、高山區裁判所判事、東京府土族  
妻 千代 明二、三、生、東京、荒川已次  
長女 明二、三、生、東京、荒川已次

**乙宗 源次郎** 乙宗商店(株)取締役  
大阪府土族  
妻 千代 明二、三、生、東京、荒川已次  
長女 明二、三、生、東京、荒川已次

君は三重縣土族中村寛夫の二男にして入谷春彦の兄中村清彦の弟なり明治元年正月を以て生れ後先代八二郎の養子となり大正四年家督を相続す明治三十二年東京帝國大學法科大學を卒業し同三十四年判事に任じ爾來關西區和歌山縣地方本部長野地方各裁判所判事長崎控訴院判事鹿児島區地方同區判事各古屋區一宮區岐阜區同地方富山區同地方金澤區同地方各裁判所判事に歴補し昭和二年前職に補せられたる家族は尚孫安子(大九、六、生、長男八十彦長女)同秀太郎(同二、一、二、生、同長男)の外妹ゆき(明三、八、六、生)叔父齊之丞(安政四、三、生)あり長女信は三重縣人大西竹藏に二女春明(三五、二、生)は愛知縣人外務省書記官田村夫に嫁なを(同三、七、七、生)は大府人御厨政治郎に嫁せり(岐阜、大野、高山區裁判所官舎)

參照 入谷春彦、中村清彦の項

**乙宗 保三** 乙宗商店(株)取締役  
大阪府土族  
妻 千代 明二、三、生、東京、荒川已次  
長女 明二、三、生、東京、荒川已次

君は大阪府人乙宗とくの子にして明治十九年五月を以て生れ同二十三年家督を相続すセルロイドラバール輸入業を營み現時乙宗商店社長にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尚二女佐智子(大三、五、生)三男達治(同三、三、生)三女高子(同五、七、生)あり養母母(明三、〇、一、〇、生、大阪、廣瀬高治二女)は分家し大阪府人三宅保三を迎へり(大阪、南、順慶町三三〇一電四谷二四)

參照 乙宗保三、廣瀬高治の項

**音 申吉** 日本毛織(株)東京支店長  
石川縣土族  
妻 千代 明二、三、生、東京、荒川已次  
長女 明二、三、生、東京、荒川已次

君は石川縣人音與四郎の弟にして明治二十三年七月を以て生れ同四十五年神戶高等商業學校を卒業し同年日本毛織會社に入り漸次果進して現に同社東京支店長たり家族は尚二男雄二郎(大八、一、生)三男龍三郎(同二、一、一、生)兄弟(同二、四、八、生)現戸主同妻玉喜(同三、〇、五、生、石川、寺中吉五郎長女)及其三女あり(東京市外世田谷町三三八五)

參照 乙宗源次郎、廣瀬高治の項

**鬼 武儀市** 鬼武儀、土木建築請負業  
山口縣土族  
妻 千代 明二、三、生、東京、荒川已次  
長女 明二、三、生、東京、荒川已次

君は大阪府人鬼武儀三郎の四男にして明治十七年十二月を以て生れ鬼武儀と稱し土木建築請負業を營む家族は尚兄弟三郎(明二、九、生、現戸主)同妻キタ(同元、七、生、山口、石光兵衛三女)及其子女あり兄弟助(同二、〇、一、二、生)は山口縣人内山文之進に甥芳延(同三、九、五、生、兄弟三郎三男)は同縣人町田金助に各養子となり姉イワ(同八、三、生)は同縣人沖原多兵衛に嫁せり(大阪、北、中之島四ノ三電土佐堀二一八七)

參照 鬼武儀三郎、兄弟三郎の項

**帶谷 吉次郎** 泉州、寺田銀行(株)取締役  
大阪府土族  
妻 千代 明二、三、生、東京、荒川已次  
長女 明二、三、生、東京、荒川已次

君は大阪府人帶谷治助の二男にして明治十三年八月を以て生れ同三十一年現戸主幸助の養子となる現に泉州煉瓦帶谷商店水閣鐵道會社社長たる外前記銀行會社の重役たり(大阪、泉南、貝塚町)

參照 帶谷治助、帶谷幸助の項

**帶谷 幸助** 帶谷商店(株)取締役  
大阪府土族  
妻 千代 明二、三、生、東京、荒川已次  
長女 明二、三、生、東京、荒川已次

君は大阪府人帶谷治助の二男にして安政二年三月を以て生れ明治十五年先代たけの養子となり家督を相続す現に帶谷商店取締役たり(大阪、泉南、貝塚町)

參照 帶谷治助の項



所取引員にして傍ら前掲諸會社の重役として知られ大阪府多額納税者に列す家族は尙孫てい(大一五、四生、養子道三長女)あり(大阪、東、北濱二)二〇電本局五五〇

帶谷廣之助 帶谷商店(株)取締役 大阪府在籍 祖母 けい 嘉永六、四生、大阪、竹谷彌造長女 父 廣太郎 明八、一〇生、現戸主、帶谷商店 (株)監査役 母 みね 明九、二生、大阪、帶谷治助二女 妻 てい 明三三、四生、和歌山、竹原惣次郎長女

面谷友太郎 鳥取縣多額納税者、第二山陰製絲(株)監査役、鳥取縣在籍 養母 きの 嘉永二、一〇生、鳥取、楊彦與長女 妻 ふみの 明一五、一〇生、鳥取、稻賀榮三 男 誠 明三七、一〇生 女 禎子 明四一、一〇生、二男誠妻、鳥取、山崎元一孫 養子 亮 明三〇、一〇生、長女しげ夫、鳥取、幡原文次郎二男 女 しげ 明三四、六生、養子亮妻 男 勝 明三九、六生 女 てる 大元、八生

折原巳一郎 從三位勳二等、前衆議院議員 群馬縣在籍 妻 かく 明七、一〇生、東京、落合卯兵衛 男 泉 明三一、七生、法學士 女 菊代 明三七、一〇生、長男泉妻、衆議院議員、群馬縣在籍、東京女學館出身 折原家は群馬縣下に於ける舊家にして世々庄屋役を勤め苗字帯刀を許されたる家柄なり先代徳太郎は種々の公共事業に盡瘁し晩年に至る迄永く村長の職に在り又縣會議員に擧げらる君は其の長男にして明治二十九年八月を以て生れ大正二年家督を相続す先是明治二十九年帝國大學法科大學を卒業し文官高等試験に合格す爾來愛媛縣同和歌山縣參事官大阪澁野福岡各府縣事務官兵庫縣内務部長奈良長根千葉兵庫各縣等に歴任す大正十三年神戸市より推されて衆議院議員に當選せり家族は尙孫美喜(大一五、六生、長男泉長女)同順(昭二、五生、同二女)あり(千葉市千葉七三三三七) 參照 磯部尙孫林忠雄の項

澤 久富 從七位、三重縣會議長 養母 はま 嘉永四、一〇生、養祖父伊織長女 妻 よね 明二、二生、養父久信長女 男 久孝 明二三、七生、文學士、京都帝國大學助教 女 静子 明三〇、三三、長男久孝妻、鹿兒島、竹内喜三郎長女 男 久敬 明三三、八生 女 久澄 明四〇、九生

折下 吉延 正五位勳四等、復興局技師、建築部公園課長、山形縣士族 母 せき 嘉永二、四生、山形、杉山健助二女 妻 たつ子 明二五、一〇生、理學博士白井光太郎長女 男 吉弘 明四四、八生 女 松子 明四四、八生

折原巳一郎 從三位勳二等、前衆議院議員 群馬縣在籍 妻 かく 明七、一〇生、東京、落合卯兵衛 男 泉 明三一、七生、法學士 女 菊代 明三七、一〇生、長男泉妻、衆議院議員、群馬縣在籍、東京女學館出身 折原家は群馬縣下に於ける舊家にして世々庄屋役を勤め苗字帯刀を許されたる家柄なり先代徳太郎は種々の公共事業に盡瘁し晩年に至る迄永く村長の職に在り又縣會議員に擧げらる君は其の長男にして明治二十九年八月を以て生れ大正二年家督を相続す先是明治二十九年帝國大學法科大學を卒業し文官高等試験に合格す爾來愛媛縣同和歌山縣參事官大阪澁野福岡各府縣事務官兵庫縣内務部長奈良長根千葉兵庫各縣等に歴任す大正十三年神戸市より推されて衆議院議員に當選せり家族は尙孫美喜(大一五、六生、長男泉長女)同順(昭二、五生、同二女)あり(千葉市千葉七三三三七) 參照 磯部尙孫林忠雄の項

折井政之丞 長野縣多額納税者、松本商會議所副會頭、松本食器市場(株)代表取締役、信濃鐵道(株)副社長、安曇電氣、大阪石膏、池田鐵道各(株)取締役、中央製紙(株)監査役、長野縣在籍 妻 信 明一七、八生、養姉、しう二女 男 伸三郎 明三三、一〇生、長男伸三郎妻、京師、長瀬半次郎五女 女 貞巳 明三六、八生 男 勳 明三九、二生

折竹 錫 從五位勳五等、第三高等學校教授 京都府士族 妻 美津 明二五、五生、茨城、駒城吉光二女 男 信 大五、一〇生 女 善 明二六、一〇生、養父善八長女 妻 善治 明二六、一〇生 女 マン 明三二、一〇生、長男善治妻、新潟縣人栗山虎吉の弟にして明治三十一年一月を以て生れ

恩田喜作 貸付銀行(株)常務取締役 静岡縣在籍 妻 正勝 大二、九生 男 英子 明二一、一〇生、和歌山、中野穰 女 藤子 明二一、一〇生、和歌山、中野穰 恩田喜作は和歌山縣人恩田國太郎の弟にして明治十七年十二月を以て生れ同十四年分家して一家を創立す同四十二年東京高等商業學校を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙二男正雄(大七、七生)三男勉(同三、九生)長女幸子(同四、二生)五女節子(同九、八生)六女定子(同二、九生)あり(東京、本郷、西片町一〇電小石川一八三〇) 參照 中野穰、南方常備道本爲吉の項

恩田久兵衛 地主 東京府在籍 妻 とめ 明一三、二生、埼玉、森田又次郎妹 男 久治 明三三、六生 女 美 明三八、七生、長男久治妻、東京、同本半七六女、三輪田高等女學校出身 男 善吉 明三五、一〇生 君は東京府人恩田久右衛門の長男にして明治七年三月を以て生れ同十六年家督を相続す地主たり家族は尙孫久親子(大一一、一〇生、長男久治長女)あり(東京、本郷、湯島三組町二九電下谷六一二〇) 參照 同本半七の項

恩田三五郎 土木建築請負業 東京府在籍 妻 きん 明二二、九生、東京、野本七五郎 男 七郎 明三三、九生 女 かね 野本銀太郎長女 君は東京府人恩田忠左衛門の三男にして明治六年一月を以て生れ同二十九年分家して一家を創立す土木建築請負業を營む家族は尙孫銳次(大一一、〇四生、長男七郎長男)同錦三(同二、一〇生、同二男)あり長女す(明二九、一〇生)は其夫源吉(同二二、三三、埼玉、木林兼吉二男)と共に一男二女を伴ひ分家せり(東京市外小松川町逆井七〇六電墨田五二〇九)

恩田金次郎 相模屋、酒類商 東京府在籍 妻 かね 明三、九生、東京、瀧澤慎八郎妹 男 禮二 明二四、六生 女 榮 明三一、九生、長男禮二妻、東京、林小兵衛妹

恩田重信 明治藥學專門學校長 長野縣士族 妻 イエ 明三、二生、新潟、矢野了平二女 養子 經介 明二七、五生、養子經介妻、長野、三輪徳太郎長女 君は長野縣士族恩田時篤の長男にして文久元年六月を以て生れ明治十八年家督を相続す現時明治藥學專門學

恩田重信 明治藥學專門學校長 長野縣士族 妻 イエ 明三、二生、新潟、矢野了平二女 養子 經介 明二七、五生、養子經介妻、長野、三輪徳太郎長女 君は長野縣士族恩田時篤の長男にして文久元年六月を以て生れ明治十八年家督を相続す現時明治藥學專門學

校長たり家族は尙孫逸夫(大五、三生、養子紹介長男)同秋夫(同一三、二生、同二男)あり妹とよ(明六、八生)は分家せり(東京、麹町、山元町三ノ五電九段八一)

恩田 銅吉 朝鮮郵船(株)取締役  
大分縣士族

男 重 姪 明四二、六生

君は大分縣士族小幡孫米の二男にして明治六年九月を以て生れ同十一年恩田重義の養子となり後家督を相續す同二十七年第一高等學校工科を卒業し夙に日本郵船會社に入り順次果進し營業部副參事上海支店長となる現時朝鮮郵船會社取締役たり長女もと(明四〇、一〇生)は福岡縣人田中瑞穂に嫁せり(嘉永四、八生)は大分縣人加來金升に嫁せり(京城、旭町二ノ七二)參照 加來金升の項

恩田 峯次郎 養家  
東京府在籍

男 權次郎 明二四、二生

君は東京府人恩田權十郎の二男にして文久二年三月を以て生れ明治十五年家督を相續す養家として知らる家族は尙長女ふみ子(大四、二生)二女静江(同七、一一生)二男武(同一〇、四生)三女道江(同一四、二生)孫建明(同一〇、一一生、長男權次郎養子、分家弟忠治三男)及妹はま(明二七、四生)あり同よし(同一三、三生)は東京府人杉村松之助長男桂藏に同い(同一五、二生)は同府人河野助次郎に嫁はつ(同六、六生、亡兄鐵次郎長女)は同府人森川泰次郎に嫁し弟嘉右衛門(同一七、三生)は同府人恩田鐵五郎に同小十郎(同一九、九生)は同府人關口卯之助に各養子となり同忠治(同二二、一一生)は同妻はる(同二七、四生、東京、中山刀太郎長女)と共に其子女を伴ひ分家せり(東京市外西巢鴨町池袋九三五)

恩地 長次郎 大坂木材相互市場(株)取締役、羽田貴金屬店(株)監査役  
大阪府在籍

妻 キミ 明二四、一一生、大阪、長野徳治  
男 好一 明四三、九生

君は大坂府人恩地長兵衛の長男にして明治十九年五月を以て生れ大正九年家督を相續す現時大坂木材相互市場羽田貴金屬店各會社重役たり家族は尙二女光子(大四、一〇生)三女静子(同九、八生)四女富子(同一、七生)あり(大阪、東、横堀六ノ二五電船場二三四七)

### 運送大合同ノ先驅

内國通運・國際運送・明治運送・中外  
運送・大同運送・朝日海陸・京三  
運輸・中央計算・日本遞送・八坂九商



# 國際通運株式會社

社長 中野金次郎  
總務部長 吉村佐平  
營業部長 小幡鐵介  
監理部長 田島庄太郎  
計算部長 山下熊太郎

東京市麴町區永樂一丁目一番地

電話丸之內(23) 自(表代) 二二三三  
自(表代) 七三三三  
〇二三八  
一至 三三三  
至 三三八  
七七八





**加島十兵衛** 加島總本店、酒類商  
 妻 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 長女 明三、七生、東京、茂田井喜兵衛  
 男 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 女 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身

**加島安治郎**  
 妻 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 長女 明三、七生、東京、茂田井喜兵衛  
 男 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 女 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身

**加瀨忠次郎**  
 妻 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 長女 明三、七生、東京、茂田井喜兵衛  
 男 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 女 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身

**加瀨和二郎**  
 妻 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 長女 明三、七生、東京、茂田井喜兵衛  
 男 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 女 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身

**加瀨喜十**  
 妻 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 長女 明三、七生、東京、茂田井喜兵衛  
 男 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 女 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身

**加瀨正太郎**  
 妻 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 長女 明三、七生、東京、茂田井喜兵衛  
 男 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 女 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身

**加瀨庄治郎**  
 妻 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 長女 明三、七生、東京、茂田井喜兵衛  
 男 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 女 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身

**加地吉彦**  
 妻 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 長女 明三、七生、東京、茂田井喜兵衛  
 男 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 女 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身

**加地利夫**  
 妻 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 長女 明三、七生、東京、茂田井喜兵衛  
 男 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 女 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身

**加瀨忠次郎**  
 妻 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 長女 明三、七生、東京、茂田井喜兵衛  
 男 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 女 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身

**加瀨和二郎**  
 妻 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 長女 明三、七生、東京、茂田井喜兵衛  
 男 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 女 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身

**加瀨正太郎**  
 妻 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 長女 明三、七生、東京、茂田井喜兵衛  
 男 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身  
 女 眞太郎 明三、七生、早稲田大學商科出身

カ之部 加(島、勢、瀨)

(※印は姻族關係)

カ五

**加藤 伊三郎** 金融業、地主  
 妻 トヨ 明四、一、二生、神奈川、森田松次  
 男 健 壽 明三、二、八生、慶應義塾商工科出  
 女 峯 明三、六、四生、神奈川高等女學校  
 女 ヒロ 明三、九、一〇生、神奈川高等女學  
 君は神奈川縣人坂戸七藏の三男にして慶應元年四月を以て生れ加藤磯吉の養子となり明治十六年家督を相続す地主として知られ傍ら金融業を営むに米穀問屋たり家族は尙二男喜作(明四三、五生)あり二女イソ(同二五、二生)は分家せり(東京市外蒲田町御園二六〇「店舗」横濱、中、若竹町四〇)

**加藤 郁二** (株)代表取締役、千島漁業株式會社  
 妻 正子 明一五、一、二生、養父清樹長女  
 男 眞 樹 明三、七、一、生

**加藤 功** 從七位勳六等、陸軍二等主計、資  
 妻 ヒコ 明一〇、三、三、東京、細野茂樹長  
 女 横濱共立女學校出身  
 君は海軍大將加藤寛治の弟同孝の兄にして明治七年十二月を以て生れ大正元年分家して一家を創立す明治三十二年慶應義塾を卒業し義に横濱正金銀行日本勸業銀行等に勤務し大正九年藤本ビルプロカー銀行に入り取締役に擧げられ支那人兼東京支店長たりし事あり現時内地に在り又一年志願兵として日露戦役に従軍し陸軍二等主計に任じ從七位勳六等に叙せらる(東京、四谷、南伊賀町四四四三五四八)

**加藤 卯之助** 三重縣多額納稅者  
 妻 正 明八、一、二、生、養父倉之助長女  
 男 正 明二、二、二、生  
 君は三重縣人御木本吉吉の三男にして同幸吉の弟なり慶應三年十二月を以て生れ同縣土族加藤倉之助の養子となり大正二年分家して一家を創立す豪商にして現に三重縣多額納稅者たり家族は尙六女清子(大五、九生)七女信子(同七、四生)あり二女きん(明二八、九生)は青森縣人境岩三郎に三女いそ(同三〇、一、二生)は三重縣人福島浪造に四女みき(同三二、一、二生)は同縣人松田爲治郎に五女はな子(同三九、三、三)は滋賀縣人九鬼秀治長男に嫁せり(三重、志摩、鳥羽町)

**加藤 梅吉** 東京硝子、岩間電氣工業各(株)社長  
 妻 キヨ 明一三、六、八、生、今込寅吉長女  
 男 嘉 雄 明四、八、八、生  
 女 辰 子 明三、九、四、生  
 女 福 子 明四、二、九、生  
 女 雪 子 大元、一、一、生

**加藤 英一** 第一信託、東神土地各(株)専務取締役、加藤貿易、有坂製袋、石城炭礦、鶴八醤油各(株)取締役  
 妻 グエンドリ ヤイルス、ホイラー、ウキツサム  
 男 英 倫 明四、一、一、生  
 女 鞠 子 明四、三、一、一、生  
 君は神奈川縣人加藤八郎右衛門の弟にして明治十九年五月を以て生れ同四一年分れて一家を創立す現時第一信託會社専務取締役たる外前記會社の重役たり家族は尙二男大元、九生(三男讓治(同三、九生)あり(東京、麻布、并町八電書山三三七))

**加藤 悦藏** 廣島縣多額納稅者、木材商  
 妻 シケ 明三、一〇、生、廣島、大村鶴太郎妹  
 男 精 一郎 明二、八、一、生  
 女 スエ 明二、九、八、生、長男精一郎妻、廣島、木村克巳妹  
 女 マサコ 明四、〇、二、生

**加藤 梅太郎** 名古屋商工會議所議員、取代商店、名古屋硝子製造所各(株)取締役、大西商店(株)監査役、陶磁器輸出  
 妻 たつ 明三、〇、五、生  
 男 茂 明三、四、九、生、長男茂妻、愛知、婦 美 五明良平長女

**加藤 榮一郎** 正五位勳四等、大藏書記官兼銀行  
 妻 林 明三、八、八、生、東京、土、三好重  
 道三、學習院女學部出身  
 君は元衆議院議員加藤嘉右衛門の長男同義夫の兄にして明治十六年一月を以て生れ大正十二年家督を相続す明治四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し

**加藤 乙三郎** 中部電力(株)代表取締役、木曾電  
 妻 かね 明一三、九、九、生、愛知、梅村善三郎  
 長女  
 君は岐阜縣人先代乙三郎の長男にして明治三十七年七月を以て生れ大正十五年家督を相続し共に襲名して前名輝三郎を改む現時中部電力木曾電氣會社重役たり家

**加藤 丑之助** 日本天然ゼメント(株)社長  
 妻 眞 樹 明三、七、一、生

**加藤 榮一郎** 正五位勳四等、大藏書記官兼銀行  
 妻 林 明三、八、八、生、東京、土、三好重  
 道三、學習院女學部出身  
 君は元衆議院議員加藤嘉右衛門の長男同義夫の兄にして明治十六年一月を以て生れ大正十二年家督を相続す明治四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し

**加藤 乙三郎** 中部電力(株)代表取締役、木曾電  
 妻 かね 明一三、九、九、生、愛知、梅村善三郎  
 長女  
 君は岐阜縣人先代乙三郎の長男にして明治三十七年七月を以て生れ大正十五年家督を相続し共に襲名して前名輝三郎を改む現時中部電力木曾電氣會社重役たり家

族は尙弟重規(明四二、一生)妹正子(同四四、一〇生)同光子(大三、一〇生)弟平(同六、三生)妹定子(同九、一生)あり(岐阜、土岐、多治見町)

加藤 主計 共立汽船(株)常務取締役、北海道炭礦汽船(株)理事、滋賀縣在籍

君は滋賀縣人加藤泰輔の長男にして明治七年七月を以て生れ大正三年家督を相続す明治二十八年第一高等學校を卒業し現に共立汽船會社常務取締役たる外北海道炭礦汽船會社理事たり家族は尙長女俊子(大六、二生)あり(東京、下谷、上野櫻木町三六電下谷六二六)

加藤 克明 從三位、子爵 舊江州水口藩

當家は藤原鎌足の後胤越前守高房の裔加藤次景廉の次男右衛門尉景長の末葉左馬頭嘉明の後なり嘉明豐臣氏に仕へ職功を積み後徳川氏に屬し家康の敬重を受け會津四十萬石に封ぜらるる男式部少輔明成故ありて領土を奉還せし其子内藏介明友更めて江州水口二萬五千石に移封す三代を経て明實に至り明治十七年子爵を授けらるる君は先代明實の二男にして明治十一年七月を以て生れ同三十九年家督を相続し學府付けらる(東京、牛込、二十崎町一三電牛込二四七) 參照 男爵藤堂高成の項

加藤 勝太郎 愛知縣多額納稅者、名古屋商會常務理事、加藤商店(株)社長、野上機械工業、東郷住宅、尾島地産(株)監査役、日本放送協會東海支部理事、愛知縣在籍

君は愛知縣人加藤周三郎の長男にして明治十八年八月を以て生れ大正十二年家督を相続す名古屋商業學校卒業後歐米諸國を歴遊し現に加藤商店社長を始め前記諸會社の重役にして愛知縣多額納稅者に列し推されて名古屋商會常務理事たり姉(明一六、八生)は愛

知縣人佐治榮太郎に嫁せり(名古屋、中、南榮名町五ノ四電本局四三九〇) 參照 佐治榮太郎中根與七の項

加藤 勝康 福井縣多額納稅者、南越鐵道(株)監査役、製紙業、福井縣在籍

君は福井縣人田中七右衛門の二男にして明治二十年二月を以て生れ先代榮太郎の養子となり大正十二年家督を相続し前名昇二を改む製紙業を營み現に福井縣多額納稅者にして前記會社の重役たり義に推されて福井縣會議員同參事會員たりし事あり家族は尙弟俊助(明三六、七生)同長介(同三七、一生)同寛助(同三九、七生)同尚助(同四四、九生)あり同莊(同三三、五生)は同妻ハツエ(同三三、一〇生)福井、加藤伊之助長女)及其一子を伴ひ福井縣人宇野傳四郎の死跡を相続せり(福井、南條、武生町)

加藤 兼次郎 愛知縣多額納稅者、魚養、割烹業

君は愛知縣人加藤銀次郎の長男にして明治十六年九月を以て生れ大正七年家督を相続す魚養と稱し割烹業を營み縣下の多額納稅者たり家族は尙二男三郎(大六、一〇生)二男四郎(同四四、三生)の外妹は女(明二八、四生)同はつ子(同四三、三生)弟清政(大六、一生)あり同傳吉(明二二、五生)は分家した妹たま(同三三、一生)は岐阜縣人領領種太郎に嫁せり(名古屋、南、熱田東町御田一八電南八三七)

加藤 幹一 名水電(株)常務取締役 埼玉縣在籍

君は愛知縣人先代久兵衛の長男にして大正三年五月を以て生れ同十一年家督を相続す共に前名貞三を改む八木久商店と稱し洋反物商を營む家族は尙姉幸子(明四二、一生)あり(名古屋、中、鐵砲町二ノ四電本局二〇一)

君は埼玉縣人加藤實三郎の長男にして明治十九年五月を以て生れ昭和元年家督を相続す現時名水電會社常務取締役たり家族は尙弟主計(明二九、一〇生)同妻シカ(同三四、五生)神奈川、宮崎豐太郎妹)及び其一子あり妹つや(同三一、六生)は同縣人平岡兼吉長男貞作に同みち代(同三一、七生)は同縣人小室潜庵二男順平に同みち代(同三一、七生)は同縣人久下榮治郎長男豊修に養婦みつ(同八、六生)埼玉、槽谷久太郎孫)は同縣人粕谷義三に嫁し妹千代(同二五、五生)は同縣人山口三三長男順三の未亡人にして養婦モト(同八、七生)東京、渡邊照(長女)は同縣人山崎眞雄の家籍に入り(埼玉、入間、名栗村) 參照 粕谷義三、山口三三の項

加藤 喜三郎 海產物商 京都府在籍

君は京都府人加藤喜助の二男にして安政六年一月を以て生れ明治八年分家して一家を創立す海產物商を營む家族は尙四男徳太郎(明四三、四生)五女花枝(大八、四生)あり長女マス(明二五、四生)三男和乎(同三八、一〇生)は各分家し三女ミツ(同三三、五生)は京都府人湯瀬九一郎長男半三郎に嫁せり(京都、下京、新町通綾小路下ル鹽屋町一七〇電下二一九一)

加藤 喜七 北海道多額納稅者、金融業 北海道在籍

君は愛知縣人先代久兵衛の長男にして大正三年五月を以て生れ同十一年家督を相続す共に前名貞三を改む八木久商店と稱し洋反物商を營む家族は尙姉幸子(明四二、一生)あり(名古屋、中、鐵砲町二ノ四電本局二〇一)

加藤 恭平 三菱商事(株)常務取締役、清佳製材所、東洋織布、三菱電機、日本代田石油(株)監査役、東京府在籍

君は愛知縣人先代久兵衛の長男にして大正三年五月を以て生れ同十一年家督を相続す共に前名貞三を改む八木久商店と稱し洋反物商を營む家族は尙姉幸子(明四二、一生)あり(名古屋、中、鐵砲町二ノ四電本局二〇一)

孫 義久 明三九、九生、長男喜久治二男

君は北海道人加藤磯吉の長男にして喜永六久治四女を以て生れ明治二十七年家督を相続す金融業を營み現に北海道多額納稅者たり家族は尙孫キヨウ(大九、八生)長男喜久治六女曾孫キミ(同八、一生)孫夫武揚長女同喜康(同二〇、二生)同長男(同四一、四生)同長女(同三三、四生)同二女(同四二、二生)同岩夫(昭二、三男)同長男(叔父三之助(天保九、五生)あり(函館、鶴岡町七二))

加藤 儀一 熊本縣多額納稅者、醸造業 熊本縣在籍

君は熊本縣人加藤儀一(四男)にして明治十三年十月を以て生れ大正十五年先代兄儀一の跡を承け家督を相続し製名して前名勝平を改む醸造業を營み熊本縣多額納稅者たり家族は尙二男大郎(大六、二生)三男八郎(同八、一〇生)三女美代(同九、二生)四男昇(同四一、四生)亡兄儀一妻佐登(同九、五生)熊本、水上龜十郎二女あり(熊本市黒髪町)

加藤 儀三郎 西陣屋、西陣織物業 京都府在籍

君は京都府人加藤儀助の長男にして明治十四年十二月を以て生れ大正十年家督を相続す西陣屋と稱し西陣織物業を營む家族は尙養子花(大六、八生)京都、林龜次郎孫(孫平二郎(同二、四生)養子三郎長男)同友三郎(同二、五生)同二男(同二、五生)あり(京都、上京、小川通今出町上ル電西陣二五九八)

加藤 菊次郎 菊香水室、米商 京都府在籍

君は京都府人先代菊次郎の孫にして明治十四年五月を以て生れ大正十三年家督を相続し製名して前名繁一を改む菊香水室と稱し米商を營む母たか(明二四、七生)愛知、木下春太郎(同三三、三生)祖父菊次郎養子、愛知、土、中村清太郎(四女)は各分家せり(京都、下京、河原町通四條下ル電中七二五)

加藤 吉平 新庄製紙(株)代表取締役 福井縣在籍

君は福井縣人先代吉平の男にして明治四年十一月を以て生れ同三十年家督を相続し前名要次郎を改む現時新庄製紙會社代表取締役たり家族は尙三男勝馬(大六、三三)三男四男(同六、一生)五男喜多士(同九、一一生)孫弘之(同二、三生)長男活(同二、三生)同友三郎(同二、七生)同三男(同香香(同二、五生)同長女)あり二男吉之助(明三、九生)は東京府人藤井憲の養子となり長女三七子(同三七、八生)は福井縣人塚田良藏に嫁せり(福井、丹生、立待村)

加藤 久次郎 山久、陶磁器商 愛知縣在籍

君は岐阜縣人加藤久次郎の長男にして喜永元年七月を以て生れ後家督を相続す山久と號し陶磁器商を營む家族は尙孫廣一(明四二、八生)長男久太郎(同五男)同友三郎(同四男)同正雄(大六、三三)同三男(同四男)あり(名古屋、同八郎(同二、二生)同八男)あり(名古屋、東、主税町三ノ一〇電東一三五六) 參照 坂倉又吉岡本太右衛門の項

加藤 久兵衛 八木久商店、洋反物商 愛知縣在籍

君は富山縣人加藤重右衛門の孫にして明治十七年五月を以て生れ後前名重吉を改め大正五年家督を相続す

請負業を営み縣下の多額納税者にして傍ら前記銀行會社の重役たり家族は尙五男誠明(大九、一〇生)あり長女一枝(明三七、一〇生)は富山縣人永田鐵三に嫁せり(富山、中新川、滑川町)

加藤金之助 加藤金之助商店(株)取締役、酒類妻 勝代 明三八、一五、東京、和田正男長女

加藤銀藏 平塚銀行(株)頭取、都府府署銀行(株)取締役、神奈川縣在籍妻 義規 明三三、九生

加藤象四郎 正五位、内務參與官、衆議院議員(三重縣選出)東京府在籍君は三重縣人加藤伊三郎の弟にして明治十七年十月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す同四十年日本大學を卒業し多年同大學幹事として經營に従事し後内務大臣秘書官並に明治宮造營局參事に任ぜられ、この三度衆議院議員に當選すること三回政黨會に屬し現に内務參與官たり(東京、芝、白金猿町三三三電高輪四八二五)

加藤賢治郎 岡崎製絲(株)監査役妻 かの 慶應三、六生、愛知、土、岡田藤

加藤謙吉 香川縣多額納税者、香川物産、松田製糖(株)監査役、香川縣在籍妻 謙二 明二八、八生、養父又太郎長女

加藤謙二 東陽倉庫(株)支配人妻 謙二 明九、六生、愛知、櫻井佐兵衛二女

君は愛知縣人加藤源一の弟にして明治四年七月を以て生れ加藤又太郎の養子となり同二十三年家督を相續す現時前記各會社の重役にして香川縣多額納税者たり家族は尙六男誠剛(明四四、一〇生)孫信久(大一一、四、二生)、二男増夫(明四三、一〇生)孫信久(大一一、四、二生)、川縣人木村多壽三男得多に二女婿(同三七、五生)は同縣人加藤助學長男喜一に三女婿(同四〇、二生)は高知縣人徳田泰造養子正芳に嫁せり(香川、由佐村)

加藤惠義 從五位勲五等、逓信局書記官、東京逓信局監督課長、栃木縣在籍妻 シズエ 明二九、六生、福岡、高橋勝彦長女

加藤敬 新愛知新聞社(資)業務擔當社員(愛知縣在籍)妻 さう 明二二、二生、愛知、長江初太郎妹

加藤敬一 實業銀行(株)常務取締役、駄知鐵道(株)取締役、岐阜縣在籍妻 敬一 明一〇、九生、愛知、毛利徳兵衛

加藤玄智 正五位勲五等、文學博士、陸軍士官學校教官、東京府在籍妻 セツ 明一〇、五生、鳥根門脇義雄長女

加藤源一 一宮商會所副會頭、金物商妻 喜美 明一九、三三、愛知、原田清六養子

加藤源次 石川縣代表社員、絹織物商妻 つね 安政五、一〇生、石川、能崎與吉

君は愛知縣人加藤源一の二男にして明治十六年十月を以て生れ同二十八年家督を相續す金物商を營み現時一宮商會所副會頭たり家族は尙孫雅子(大一一、五、二生)、養子英次(長女征露夫、愛知、村瀬甚三郎弟、明三七、八生、養子英次妻 征露 明四二、一〇生)及子孫(明四二、一〇生)は愛知縣人村瀬實三郎の養子となり妹たま(同一九、四生)は同族縁之助(同二二、一〇生、長野、平澤喜七郎二男)及其子女と共に分家せり(宮、中町)

加藤敬三郎 從四位勲四等、朝鮮銀行(株)總裁妻 さだ 明一二、三三、養父厚寛長女

加藤健一 從五位勲五等、判事、大阪控訴院判事、愛知縣土族妻 きく 清長三、一二生、愛知、土、岩井

加藤健一 從五位勲五等、判事、大阪控訴院判事、愛知縣土族妻 きく 清長三、一二生、愛知、土、岩井

加藤小太郎 關西信託(株)事務取締役、東京リノリエム(株)専ら土地各(株)取締役、新潟縣土族妻 サト 嘉永六、六生、新潟、土、齋藤榮

加藤小兵衛 神奈川縣多額納税者、神奈川縣會副議長、米酒類商、神奈川縣在籍妻 イタ 明二二、一〇生、東京、石河駒之助

加藤五兵衛 輪布卸商妻 津 慶應二、二生、東京、島村幸太郎妹

君は神奈川縣人先代小兵衛の四男にして明治十二年十一月を以て生れ大正三年家督を相續し共に襲名して前名忠七を改む米酒類商を營み神奈川縣多額納税者にして數次神奈川縣會議員に當選し現に同副議長に擧げられる家族は尙二男千二(大一一、二生)長女マス(同八、四生)四男四郎(同一一、一〇生)五男忠男(昭二、一〇生)あり弟要助(明一四、九生)は同妻い(同二五、一〇生)は神奈川、石井榮太郎二女を伴ひ分家せり(神奈川、三浦、浦賀町宮下)



小山磯太郎三男、同妻みつ(同三九、七生、埼玉、福村勝藏妹)及其一子あり妹富士(同三五、一生)は其夫甲次郎(同二七、五生、東京、佐竹寅次郎庶子)と共に分家せり(東京、神田、柳町三電漢花五八二)

君は愛知縣人清水太左衛門の三男にして明治十三年一月を以て生れ後先代富士三郎の養子となり同四十四年家督を相続す同三十九年日本法律學校を卒業し判事任用試験に及第す同年司法官試補となり次で判事に任じ白河若松上野豊岡岡崎各區裁判所判事福井地方裁判所兼同區裁判所判事に歴補し大正十五年輪島區裁判所判事となり現時に至る家族は尙三男賢男(明四三、一生)三女幸子(大四、二生)四男伊三(同六、八生)四女豊子(同七、八生)五男改造(同八、一生)六男稔(同九、二生)五女明子(同二、四生)あり(石川、鳳至、輪島町區裁判所官舎)

加藤伍兵衛 京都府在籍 祖父 遺 榮 嘉永元、三生 母 明二、六生、京都、原田武一郎 叔母 明二、六生、京都、原田武一郎

加藤孝 横濱商工會議所書記長 妻 光江 明三、一〇生、清水定右衛門二男 男 孝一 明四、七生

加藤厚太郎 (株)取締役、東京府華族 正五位、伯爵、東明火災海上保險 母 春路 元治元、二生、男爵岩崎久彌姉 妻 富美 明三、四、三生、大膳頭上野三郎 男 昇一郎 大正一〇、七生

加藤公太郎 酒類商 東京府在籍 母 慶應二、一〇生、先々代八郎右衛門 妻 ます 明二、四、一生、東京、西山安久 作二女

加藤幸三郎 鈴幸商店、米穀商 東京府在籍 母 とう 安政二、一生、東京、松本市兵衛二女 妻 幸子 明九、一〇生、養父幸三郎二女 男 孝次 明三、六、八生、東京、加藤健蔵長男 女 君子 明三、六、八生、養父幸三郎二女

加藤左武郎 陸軍歩兵大尉、日本化学(株)社長、共同(株)専務取締役、日本自動車(株)取締役、栃木縣在籍 妻 茂登 明二、九、一生、埼玉、渡邊與吉 長女

加藤公平 從五位勳五等、判事、輪島區裁判所判事、愛知縣在籍 妻 よし 明六一、九生、愛知、土、及部政人長女 男 經夫 明三五、九生 女 園子 明三七、八生

加藤定吉 勳四等、東海製糖(株)代表取締役、奉天製糖、東亞製糖、掛川銀行、滿洲製糖各(株)取締役、東京建物(株)監査役、静岡縣在籍 妻 安 明七、三生、東京、秋山一裕養子 男 吉 明六、九生、父勤重二男 女 美佐保 明二〇、九生、養父安吉妻静岡、山田與四郎二女

加藤三郎 岡山縣多額納稅者、倉敷大橋銀行(株)取締役、農業者、岡山縣士族 妻 正 明一、三、二生、養父次郎助長女 男 正 明四、二、七生

加藤榮 住友製鋼所(株)常務取締役 大阪府士族 妻 佑 明二、一、一生、福岡、萩尾傳妹 女 幸 明四、三、二生

加藤定七 河定商店、青物商 東京府在籍 妻 や 慶應三、一生、東京、土、露崎島左衛門長女 母 ひと 明三、二、一生、東京、中村久太郎 姉

加藤茂苞 正四位勳三等、農學博士、朝鮮總督府勳業勳章、農林省農林局長、勳業勳章、水原高等農林學校校長、勳業勳章、山形縣士族 妻 倫 馬六女 男 茂 明二六、三生、鳥根、三瓶徳美妹 明二九、六生

加藤作次郎 岐阜縣多額納稅者、秋知運輸(株)代表取締役、實業銀行、秋知鐵道各(株)取締役、岐阜縣在籍 妻 し 長五、一生、岐阜、阿部徳右衛門 女 美恵子 明二、二、八生、養子圓治長女 孫 美恵子 明四、五、一生、養子圓治長女

加藤定七 河定商店、青物商 東京府在籍 妻 や 慶應三、一生、東京、土、露崎島左衛門長女 母 ひと 明三、二、一生、東京、中村久太郎 姉

加藤茂苞 正四位勳三等、農學博士、朝鮮總督府勳業勳章、農林省農林局長、勳業勳章、水原高等農林學校校長、勳業勳章、山形縣士族 妻 倫 馬六女 男 茂 明二六、三生、鳥根、三瓶徳美妹 明二九、六生

加藤作太郎 福岡縣多額納稅者、自轉車商 福岡縣在籍 妻 正 明一三、三生、福岡、川原重雄叔母 男 明三八、七生

加藤定七 河定商店、青物商 東京府在籍 妻 や 慶應三、一生、東京、土、露崎島左衛門長女 母 ひと 明三、二、一生、東京、中村久太郎 姉

加藤茂苞 正四位勳三等、農學博士、朝鮮總督府勳業勳章、農林省農林局長、勳業勳章、水原高等農林學校校長、勳業勳章、山形縣士族 妻 倫 馬六女 男 茂 明二六、三生、鳥根、三瓶徳美妹 明二九、六生

**加藤重利** 神奈川縣多額納稅者、横濱市會議員、神奈川製氷、ジャパン冷製菓業各(株)取締役、金モル商、神奈川縣在籍

君は神奈川縣人加藤平兵衛の長男にして明治八年二月を以て生れ同三十七年家督を相續す金モル商を營み縣下の多額納稅者にして又前記各會社の重役を兼ね横濱市會議員に擧げられたる家族は尙三男(明三、大三)は分家せり(横濱、中、根岸町二四九電本局三四四一)

**加藤周太郎** 愛知縣多額納稅者、加周商店(名)代表社員、材木商、愛知縣在籍

君は愛知縣人先代周太郎の三男にして明治二十五年六月を以て生れ大正十一年家督を相續し前名政俊を改め號す材木商を營み加周商店代表社員にして現に愛知

**加藤重治** 日東製氷、鹽釜港製氷、日誌製氷冷蔵、羽後製氷、茨城製氷各(株)取締役、東京冷蔵製氷(株)監査役、東京府在籍

君は東京府人加藤重次郎の長男にして明治十四年九月を以て生れ同十六年家督を相續す同十六年東京高等工業學校機械科を卒業し米國に航して工業界を視察の上歸朝す現時日東製氷會社取締役を始め前掲各會社の重役たり家族は尙二男(大四、八生)二女(美佐、同七、一〇生)三男(和男、同四、一〇生)あり(東京、牛込、市谷加賀町二ノ三三電牛込三七八一)

参照 中川信の項

**加藤正吉** 資産家、東京府士族

君は東京府人早藤助の二男にして明治五年六月を以て生れ同二十六年先代のの養子となり家督を相續す資産家たり三女(明四、一〇生)は實家早藤助の死時相續人となり(東京、牛込、市谷谷町一電四谷二一八七)

**加藤正次郎** 京都府多額納稅者、京洛土地(株)取締役、織物業、京都府在籍

君は京都府人早藤助の二男にして明治五年六月を以て生れ同二十六年先代のの養子となり家督を相續す資産家たり三女(明四、一〇生)は實家早藤助の死時相續人となり(東京、牛込、市谷谷町一電四谷二一八七)

**加藤重吉** 下毛貯蓄銀行三共社印刷所各(株)監査役、下野中央銀行(株)支配人、心算、栃木縣士族

君は栃木縣人宮澤源太の四男にして明治十一年二月を以て生れ先代七歳の養子となり明治二十二年家督を相續す宇都宮銀行創立の際同行員に聘せられたる次で支配人に擧げられたる後之を辭し現時前記銀行會社の重役たり家

**加藤十藏** 横濱中央食品市場(株)専務取締役、神奈川縣在籍

君は神奈川縣人加藤八郎右衛門の長男にして明治三年九月を以て生れ同三十一年分れて一家を創立す現時前記會社の重役にして義に宮川英大製鐵機橋倉庫各會社重役たりしことあり長女イセ(明三、八生)は静岡縣人原崎秋太に二女マサ(同五、一〇生)は同縣人花鳥兵右衛門三男孝一に四女シズ(同三、四生)は神奈川縣人小澤孝一に嫁し五女千代(大五、一〇生)は前記花鳥孝一の養子となり(横濱、神奈川、青木町一八五三)

参照 加藤八郎右衛門、花鳥兵右衛門、金子常太郎、萩原半藏の項

**加藤重吉** 下毛貯蓄銀行三共社印刷所各(株)監査役、下野中央銀行(株)支配人、心算、栃木縣士族

君は栃木縣人宮澤源太の四男にして明治十一年二月を以て生れ先代七歳の養子となり明治二十二年家督を相續す宇都宮銀行創立の際同行員に聘せられたる次で支配人に擧げられたる後之を辭し現時前記銀行會社の重役たり家

**加藤庄治郎** 鳳來寺鐵道(株)取締役、愛知縣在籍

君は京都府人杉田兵次郎の弟にして慶應元年九月を以て生れ後先代安兵衛の養子となり明治二十七年家督を相續し前名由次郎を改む織物業を營み京都府多額納稅者にして現に前記會社の重役たり家族は尙孫正夫(大者)にして現に前記會社の重役たり家族は尙孫正夫(大者)三、三生、長男正三郎長男、同俊子(同四、一〇生、同長女)同昭(同五、三生、亡二男正太郎長男)同保(昭二、四生、同二男)同十三子(大一一、三、二生、養子憲治長女あり養父安兵衛(弘化四、五生、京都、坂本庄五郎二男)は長女エン(明二六、七生)を伴ひ分家せり(京都、上京、一條通千本西入鳥丸町二一電西陣一三〇〇)

参照 吉田宗兵衛、池田英太郎の項

**加藤庄六** 岐阜縣多額納稅者、陶器石炭商、岐阜縣在籍

君は岐阜縣人水野稻美の弟にして安政四年五月を以て生れ先代助兵衛の養子となり明治二十八年家督を相續す昭和二年退隱す陶器並に石炭商を營み岐阜縣多額納稅者たり義に多治見銀行取締役に擧げられたる家族は尙二

**加藤新三郎** 從六位、名古屋新市街、日本バラン(株)社長、矢作開墾(株)取締役、織物商、愛知縣士族

君は愛知縣人加藤直太郎の弟にして明治三十七年十月を以て生れ大正九年家督を相續す大谷屋と稱し吳服商を營む家族は尙妹いと(明四三、七生)弟鏡信(大二、六生)同直壽(同六、三生)あり(名古屋、中、門前町七ノ一六電南六四九)

**加藤甚彌** 大阪府在籍

君は大阪府人加藤甚平の長男にして明治四十三年七月

**加藤新** 静岡縣多額納稅者、吳服商、静岡縣在籍

君は静岡縣人加藤嘉重の弟にして明治十八年一月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す吳服商を營み静岡縣多額納稅者たり家族は尙三男三郎(大五、七生)四男四郎(同七、六生)五男五郎(同九、八生)六男六郎(同一一、八生)七男七郎(同一一、一〇生)長女八重子(同一一、一〇生)あり(静岡、田方、三島町)

**加藤新三郎** 從六位、名古屋新市街、日本バラン(株)社長、矢作開墾(株)取締役、織物商、愛知縣士族

君は愛知縣人加藤直太郎の弟にして明治三十七年十月を以て生れ大正九年家督を相續す大谷屋と稱し吳服商を營む家族は尙妹いと(明四三、七生)弟鏡信(大二、六生)同直壽(同六、三生)あり(名古屋、中、門前町七ノ一六電南六四九)

**加藤信三郎** 柏信、吳服商、愛知縣在籍

君は愛知縣人近藤勘助の弟にして文久三年六月を以て生れ明治二十一年先代コフの養子となり家督を相續す柏信と稱し吳服商を營む(名古屋、東、東魚町一ノ四電東二五三三)

**加藤真七** 大谷屋、吳服商、愛知縣在籍

君は愛知縣人加藤直太郎の弟にして明治三十七年十月を以て生れ大正九年家督を相續す大谷屋と稱し吳服商を營む家族は尙妹いと(明四三、七生)弟鏡信(大二、六生)同直壽(同六、三生)あり(名古屋、中、門前町七ノ一六電南六四九)

**加藤新** 静岡縣多額納稅者、吳服商、静岡縣在籍

君は静岡縣人加藤嘉重の弟にして明治十八年一月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す吳服商を營み静岡縣多額納稅者たり家族は尙三男三郎(大五、七生)四男四郎(同七、六生)五男五郎(同九、八生)六男六郎(同一一、八生)七男七郎(同一一、一〇生)長女八重子(同一一、一〇生)あり(静岡、田方、三島町)

を以て生れ大正十二年祖父其助の後を承け家督を相續す乾物商を營む祖母イク(慶應三、一二生、大阪、本田勝二郎長女)は分家せり(大阪、北、樋ノ上町三ノ一、電北三三九九)

加藤 末雄 日本棉花(株)取締役兼上海支店長 大阪府在籍 妻 明三〇、三三、大阪、井上嘉市妹 男 孝一 大七、二生

加藤 末吉 加藤鐵金舖、鐵金業 大阪府在籍 妻 明七、一〇生、大阪、木口彌次郎 男 盛一 明三三、四生 男 完一 明三七、一五、大阪藥學專門學校出身

加藤 成一 從五位勳四等、逓信局技師、廣島逓信局海部部長、東京府土族 妻 明二二、三三、三三、東京、渡瀬雅太郎妹 男 正二 明一三、三三 女 多喜子 大二、八生

加藤 惣松 宮城縣多額納稅者、吳服商 宮城縣在籍 妻 明二四、一〇生、宮城、大庭彦一 男 惣兵衛 明三九、一五 女 是つね 明四一、三三

加藤 外松 從五位勳五等、總領事、天津駐在 富山縣在籍 妻 明一〇、六生、養祖父彌三三二二女 妻 弓子 明三八、三三、東京、水野幸雄妹

加藤 大 愛知縣多額納稅者、醬油醸造業 愛知縣在籍 妻 明二六、五生、長女あき夫、岐阜、各務孫左衛門三男 妻 孝敏 明一五、九生、愛知、近藤萬五郎

加藤 大三郎 棉花商 大阪府在籍 妻 明一六、一五、愛知、高間鐵治郎 男 義昌 明三三、八生 男 利忠 明三五、六生

カ之部 加(藤)

(捺印は姻族關係)

に在り同十五年ジエノープに於ける第八回國際労働總會政府代表委員顧問として出席す家族は尙ほ三女澄子(大四、三三)四女順子(同五、八生)五女知恵子(同九、一四生)六女睦子(同二〇、七生)東、宇田川牛兵衛(同二七、三三)も亦各分家し妹八重(同二一、八生)は東京府土族鈴木重永長男重一に嫁せり(東京市外大井町三三四)

加藤 清一 從五位勳五等、鐵道局技師、門司鐵道局船務課長、山口縣在籍 妻 明二〇、一五、山口、兒島莊藏 男 清士 明四五、七生

加藤 千之助 靜岡縣多額納稅者、加藤商會(資) 代表社員にして靜岡縣多額納稅者たり家族は尙ほ孫まき(大一〇、八生、三男輝久長女)同逸雄(同二二、一〇生、同長男)あり養子祐治(明一四、五生、靜岡、植田彌吉弟)は分家せり(濱松、板屋町) 參照 加藤祐治の項

加藤 專藏 京都府多額納稅者、京都取引所取 引員、京都府在籍 妻 明二八、一五 男 輝久 明二八、一五 女 睦子 明三〇、六生、愛知、鈴木秀雄妹

加藤 大 愛知縣多額納稅者、醬油醸造業 愛知縣在籍 妻 明二六、五生、長女あき夫、岐阜、各務孫左衛門三男 妻 孝敏 明一五、九生、愛知、近藤萬五郎

加藤 隆義 正五位勳三等、子爵、海軍少將、海軍司令部參謀、東京府華族 妻 明七、一五、廣島、土、木原松 妻 喜美 明二五、六生、先代友三郎長女

加藤 高男 廣島縣多額納稅者、農業 安政三、九生、廣島、二宮林三郎 妻 正次郎 明四〇、一五 女 正次郎 明四二、七生、府立第二高等女學 校出身

加藤 隆義 正五位勳三等、子爵、海軍少將、海軍司令部參謀、東京府華族 妻 明七、一五、廣島、土、木原松 妻 喜美 明二五、六生、先代友三郎長女

カ之部 加(藤)

(捺印は姻族關係)

君は愛知縣人加藤三郎の弟にして明治十四年七月を以て生れ大正五年分家して一家を創立す棉花商たり家族は尙ほ三男信武(明四三、六生)孫伊佐雄(大一四、六生、長男利忠長男)あり(大阪、北、堂島上二ノ五三電)

加藤 善衛 岩倉商會、雜貨輸入商 愛知縣在籍 妻 明二五、二生 男 明三〇、八生、長男支一妻、愛知、伊藤鐵五郎四女 女 清三、一〇生 女 明三三、一〇生 女 明三六、一〇生 女 明三九、八生

加藤 惣兵衛 越前商店(名)代表社員 東京府在籍 妻 明九、一五、東京、島田澤吉三女 男 國一郎 明三七、五生 男 正次郎 明四〇、一五 女 正次郎 明四二、七生、府立第二高等女學 校出身

加藤 高男 廣島縣多額納稅者、農業 安政三、九生、廣島、二宮林三郎 妻 正次郎 明四〇、一五 女 正次郎 明四二、七生、府立第二高等女學 校出身

加藤 隆義 正五位勳三等、子爵、海軍少將、海軍司令部參謀、東京府華族 妻 明七、一五、廣島、土、木原松 妻 喜美 明二五、六生、先代友三郎長女

加藤 隆義 正五位勳三等、子爵、海軍少將、海軍司令部參謀、東京府華族 妻 明七、一五、廣島、土、木原松 妻 喜美 明二五、六生、先代友三郎長女

加藤 隆義 正五位勳三等、子爵、海軍少將、海軍司令部參謀、東京府華族 妻 明七、一五、廣島、土、木原松 妻 喜美 明二五、六生、先代友三郎長女

加藤 隆義 正五位勳三等、子爵、海軍少將、海軍司令部參謀、東京府華族 妻 明七、一五、廣島、土、木原松 妻 喜美 明二五、六生、先代友三郎長女

京、赤坂、青山南町六ノ六一電(青山五〇六)  
 参照：男爵船越光之丞、竹谷辰郎、山崎有光、石井敬宗山中男の項

**加藤竹次郎** 静岡縣多額納税者、旅館業  
 妻 この 明九、二生、静岡、加藤瀧藏二女  
 男 吉太郎 明二九、四生

君は静岡縣人山田清吉の長男にして明治八年十一月を以て生れ同三十二年先代この入夫となり家督を相続す旅館業を營み静岡縣多額納税者たり長女たけ(大六、一生)は静岡縣人大石よしの養子となり(静岡市紺屋町)

**加藤竹松** 神奈川電氣(株)取締役兼大阪支店長、愛媛縣在籍  
 妻 うた 明一〇、三生、三重、土、松田福太郎妹  
 男 一陽 明四一、八生、京都帝國大學工學部在學  
 女 利子 明三八、九生

君は愛媛縣人村尾徳右衛門の四男にして明治十一年十月を以て生れ後ち先代要助の養子となり同四十二年家督を相続す現時神奈川電氣會社取締役兼大阪支店長たり家族は尙二男正明(大二、一生)あり(京都、上京、吉田下大路町四九)

**加藤武男** 三菱銀行(株)常務取締役、日本電氣(株)取締役、三菱倉庫、三菱信託(株)監査役、栃木縣在籍  
 妻 なみ 明一七、五生、山形、土、池田成彬妹  
 男 武彦 明四一、九生  
 女 英子 明四〇、五生

君は栃木縣人加藤昇一郎の長男にして明治十年六月を以て生れ大正九年家督を相続す明治三十四年慶應義塾理財科を卒業し直に三菱合資會社に入る爾來同社神戸大阪各支店副長京都大阪各支店長等に歴任し外遊する事二年現時三菱銀行常務取締役に前記各會社の重役を兼ね家族は尙五男次郎(明四三、八生)三女章子(大五、一生)あり(京都、上京、吉田下大路町四九)

三、一生)あり弟農夫(明一三、一生)は同妻イサオ(同二六、九生、廣島、田邊清長女)と共に同左武郎(同二一、三生)は其妻と共に各分家し妹登志は栃木縣人佐藤清喜に同シ(同二一、三生)は青森縣士族乳井龍雄に同千代は長野縣人醫學博士浦野多門治に嫁せり(東京、牛込、市谷河田町九電牛込二八六一)  
 参照：池田成彬、加藤左武郎、乳井龍雄、佐藤清喜、久彌池田田省三、三木周利、津渡邊與吉の項

**加藤辰之助** 仁明社、銃砲商  
 妻 タネ 安政二、二生、大阪、中川治助  
 男 タツ 明一四、二生、大阪、小橋千太郎養子

君は大阪府人加藤繁蔵の孫にして明治三十四年四月を以て生れ大正十五年家督を相続す祖父繁蔵は幼にして其の養父と共に大阪に出で當時廢物視され居たる支那米包裝用麻袋を買取互利を博し加藤家今日の基を築けり君其の後を繼承して現時銃砲商を營み仁明社と號す園藝及盆裁に趣味を有す家族は尙妹光子(大二、八生)あり(大阪、南、安堂寺橋通一ノ四〇)

**加藤爲二郎** 加藤商事(株)社長、鳳城炭礦(株)専務取締役、大瀧鐵山、大正石炭朝鮮採炭各(株)取締役、石炭商  
 妻 タキエ 明元、一生、徳島、土、藤本邦宗妹  
 男 秀男 明三三、二生、京都帝國大學出身  
 女 桂 明四三、五生

君は徳島縣人加藤爲世の弟にして安政五年六月を以て生れ明治三十年分家して一家を創立す石炭商を營み傍ら加藤商事社長々長外前記諸會社の重役たり家族は尙三男貞男(明四二、一生)あり長女ハナ子(同二九、二生)は熊本縣人加藤直彦弟美知雄に三女採(同三二、八生)は東京府人大森宅二に嫁せり(東京市外中野町谷戸二三八九電四谷二四〇六)

妻 てい 明二〇、一〇生、青森、土、吉田元嶺長女  
 男 忠彦 明四三、四生

**加藤忠兵衛** 靴砲商  
 妻 廉吉 明一、二生、長女ツヤ夫、大阪、安場福次郎弟  
 女 ツヤ 明一七、二生、養子廉吉妻  
 養子 清一 明一八、五生、二女ヒロ夫、大阪、平井卯兵衛長男  
 孫 賢太郎 明三〇、一〇生、養子清一妻  
 君は大阪府人先代忠兵衛の二男にして嘉永六年九月を以て生れ明治十七年家督を相続す靴砲商を營む家族は尙孫明子(大四、八生、養子廉吉長女)同徳太郎(同七、九生、養子清一長男)あり(大阪、東、安土町四ノ一二五電本町九二五)

**加藤長三郎** 農業、酒造業  
 妻 華江 慶應元、二生、山形、加藤嘉八郎長女  
 男 寬二 大女、三生

君は山形縣人本間光貞の四男にして明治十五年五月を以て生れ先代長三郎の養子となり大正十五年家督を相続し前名千代鶴を改め名千代農業並に酒造業を營み知らるる家族は尙長女千代子(大四、一生)二女泰子(同七、一生)叔従父岩吉(明五、八生)同妻(同一〇、五生)、山形、土、秋野信右衛門三女あり(山形、西田川、大町)

妻 久磨 嘉永三、一生、現戸主  
 養母 しの 安政元、一〇生、兵庫、橋秀五郎長女  
 妻 つね 明一四、二生、兵庫、土、深津理明四〇、九生

**加藤豊次郎** 安田銀行(株)名古屋支店長  
 妻 久磨 嘉永三、一生、現戸主  
 養母 しの 安政元、一〇生、兵庫、橋秀五郎長女  
 妻 つね 明一四、二生、兵庫、土、深津理明四〇、九生

**加藤常美** 三越呉服店(株)京橋出張所長、京城放送局理事、茨城縣在籍  
 父 源三郎 文久三、五生、茨城、長岡寛十郎次、現戸主

君は茨城縣人加藤源三郎の二男にして明治十九年八月を以て生れ同三十二年三越呉服店に入り同三十四年中央商業學校を卒業し後大阪支店に轉せしが大正十三年京城出張所長となり今日に至る書畫骨董を愛好し謠曲を好む家族は尙長女嘉美子(大一〇、八生)二男康男(同一二、一生)二女嘉美子(同一五、二生)の外兄補(明一七、六生)同妻(同二九、一生、茨城、大橋久平妹)及其一男一弟(同二九、一生、茨城、同三六、三生)あり同み(同二七、四生)は茨城縣人立花敏長男(同二七、四生)は東京府士族芹澤幹方(同三二、五生)は神奈川縣人安田秀雄に各養子となり(京城、大和町二ノ一〇四電本局一六三六)

**加藤傳右衛門** 白傳商店、木材及經木商  
 妻 さと 明二六、一生、愛知、中川儀助三女  
 君は愛知縣人加藤傳右衛門の長男にして大正四年八月を以て生れ同十三年家督を相続し製名して前名清一を改む家業を繼ぎ木材及經木商を營み白傳商店と稱す家族は尙姉敏子(大二、八生)弟亮二(同六、三生)同妻(同七、二生)妹康子(同九、一生)あり(名古屋、東、久屋町四電東一七〇)

**加藤傳之助** 如電氣鐵道(株)取締役、八東銀行(株)監査役、鳥根縣在籍  
 妻 住吉 明二六、一生、長女ヨリ夫、鳥根、今岡常次郎六男  
 養子 ヨリ 明二三、七生、養子住吉妻  
 孫 千代子 大二、九生、養子住吉長女  
 君は鳥根縣人加藤豐十郎の長男にして明治元年七月を以て生れ大正六年家督を繼ぎ八東銀行取締役に就任し現時前記銀行會社の重役に擧げらるる家族は尙孫信夫(大四、七生、養子住吉長男)同美恵子(同七、二生、同二女)同睦夫(同九、一生、同二男)同和夫(昭二、五生、同三男)の外弟眞二郎(明一七、八生)同妻キリ(同二四、四生、鳥根、岩佐由三郎妹)及其五男一女あり同芳(同二五、一生)は鳥根縣人堀江啓三郎の養子となり(鳥根、八東、秋鹿村)

**加藤時也** 平民病院院長、醫師  
 妻 ハル 明二〇、四生、大阪、北中常次郎  
 君は大阪府人加藤時次郎の長男にして明治十七年九月を以て生れ大正九年家督を相続す明治三十八年愛知醫學專門學校を卒業し現時平民病院院長たり家族は尙長女マサ(大三、一生)あり父時次郎(安政五、一生、福岡、加治元簡長男)は其妻を伴ひ分家し後加治家を繼げり(大阪、此花、上福島南二ノ一〇六電土佐堀四七三四)

**加藤徳次郎** 寶塚鐵礦(株)社長、寶塚ルナバ(株)取締役、乾物商  
 妻 よね 明一〇、四生、愛知、土、鈴木鏡太郎長女  
 養子 義夫 明二七、一生、二女麗子夫、大阪、稻本平兵衛二男  
 女 麗子 明三〇、九生、養子義夫妻  
 君は愛知縣人森川彌八の二男同彌吉の養兄にして明治三年六月を以て生れ先代系つの養子となり同十九年家督を相続す乾物商を營み傍ら前記會社の重役たり家族は尙孫與一郎(大六、六生、養子義夫長男)同誠三(同八、三生、同二男)同益男(同二〇、一生、同三男)同圭四郎(同三三、七生、同四男)あり(大阪、北、天神橋一ノ九電北三三七一)

**加藤友吉** 静岡縣多額納税者、島田銀行(株)取締役、加藤商事(株)社員、農業  
 妻 まつ 文久二、六生、静岡、鈴木傳内三女  
 男 利八 明一三、九生  
 男 弘造 明二八、一〇生  
 男 明三 明三七、一生、五男弘造妻、静岡、鈴木榮吉孫  
 君は静岡縣人加藤源藏の長男にして安政四年七月を以て生れ明治二十一年家督を相続す農業を營み傍ら前記各會社の重役に就任して現に静岡縣多額納税者たり長女り(明一七、一生)は静岡縣人谷津左次郎長男正正に女ち(同二一、八生)は同縣人瀧美鈞一郎長男正正に三女れち(同三一、四生)は同縣人鈴木信一長男正正に二男益藏(同一九、一生)は同妻を伴ひ四女ます(同三五、二生)は同夫斗吉(同二九、一生、静岡、加藤光太郎)と共に妹(同三三、三生)同(同二七、一七、光太郎)と共に妹(同三三、三生)同(同二七、一七、六生)は同夫虎吉(同一二、一生、静岡、新野市左衛門三男)及子女を伴ひ弟末次郎(同二三、二生)同源次郎(同二六、八生)は各分家し(同男春吉(同二六、三生)は静岡縣人加藤利七の養子となり(静岡、志太、島田町)

**加藤知正** 衆議院議員(新潟縣選出)、帝國鐵道(株)監査役、東京高等農林學校校長、養蠶組合理事、農林省農務委員、南光社社長、出版業、新潟縣在籍  
 妻 リセ 明一六、一生、新潟、齋藤岩太郎妹  
 養子 治三 明四一、二生、兄渡邊龍聖三男  
 君は新潟縣人加藤周淨の二男にして文學博士渡邊龍聖の弟なり明治六年十一月を以て生れ大正七年家督を相続す先是明治三十三年東京高等農林學校を卒業し南光社を主宰して出版業を營み又大日本蠶絲會主事として我邦蠶業界に盡瘁する所あり蠶業大辭書及び蠶業經濟論は其著す所なり郷黨より推されて衆議院議員に當選する事二回に及び現に東京高等農林學校講師を囑託せらる(東京、牛込、早稲田南町二〇電牛込二五四五)

**加藤利八** 鈴木信一の項

君は新潟縣人加藤周淨の二男にして文學博士渡邊龍聖の弟なり明治六年十一月を以て生れ大正七年家督を相続す先是明治三十三年東京高等農林學校を卒業し南光社を主宰して出版業を營み又大日本蠶絲會主事として我邦蠶業界に盡瘁する所あり蠶業大辭書及び蠶業經濟論は其著す所なり郷黨より推されて衆議院議員に當選する事二回に及び現に東京高等農林學校講師を囑託せらる(東京、牛込、早稲田南町二〇電牛込二五四五)

君は兵庫縣土族加藤一雄の二男にして明治八年十一月を以て生れ同十四年加藤久磨の養子となる...

加藤豊次郎

君は愛知縣人宮崎嘉助の長男にして明治五年十一月を以て生れ後先代やの養子となり大正十一年家督を相...

加藤豊治郎

君は三重縣人藤田宗八の三男にして明治十五年七月を以て生れ先代有章の養子となり大正十四年家督を相...

加藤直法

君は北海道入加藤市太郎の長男にして明治六年七月を以て生れ大正七年家督を相續す...

加藤治之丞

君は岐阜縣土族加藤慶輔の二男にして明治六年六月を以て生れ同二十五年家督を相續す...

加藤春次郎

君は岐阜縣人加藤竹三郎の長男にして明治十九年一月を以て生れ大正十一年家督を相續す...

加藤春三

君は岐阜縣人加藤大正の長男にして明治十七年八月を以て生れ大正七年家督を相續す...

加藤晴比古

君は男爵加藤成之の叔父にして馬渡俊雄の兄なり明治三年十月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す...

加藤彦三郎

君は岐阜縣人先代彦三郎の長男にして明治二十七年十月を以て生れ大正七年家督を相續す...

加藤彦左衛門

君は愛知縣人先代彦左衛門の二男にして明治五年十月を以て生れ同二十八年家督を相續す...

加藤彦三郎

君は岐阜縣人先代彦三郎の長男にして明治二十七年十月を以て生れ大正七年家督を相續す...

君は埼玉縣人加藤清助の長男にして同政之助は其叔父に當る明治七年九月を以て生れ同三十六年家督を相續す...

加藤仲二

君は東京府土族加藤尚志の二男にして明治二十年二月を以て生れ同四十二年東京帝國大學工學部機械工學科を卒業す...

加藤昇

君は神奈川縣人先代八郎右衛門の四男同十歳の弟にして明治十三年七月を以て生れ同三十八年家督を相續す...

加藤初太郎

君は神奈川縣人先代八郎右衛門の四男同十歳の弟にして明治十三年七月を以て生れ同三十八年家督を相續す...

加藤初太郎

君は神奈川縣人先代八郎右衛門の四男同十歳の弟にして明治十三年七月を以て生れ同三十八年家督を相續す...

加藤彦左衛門

君は愛知縣人先代彦左衛門の二男にして明治五年十月を以て生れ同二十八年家督を相續す...

加藤彦三郎

君は岐阜縣人先代彦三郎の長男にして明治二十七年十月を以て生れ大正七年家督を相續す...

加藤彦三郎

君は岐阜縣人先代彦三郎の長男にして明治二十七年十月を以て生れ大正七年家督を相續す...

加藤彦三郎

君は岐阜縣人先代彦三郎の長男にして明治二十七年十月を以て生れ大正七年家督を相續す...

加藤彦三郎

君は岐阜縣人先代彦三郎の長男にして明治二十七年十月を以て生れ大正七年家督を相續す...



**加藤 正策** 大六、一一生  
君は島根縣土加藤正眞の二男にして明治二十一年三月を以て生れ大正二年家督を相続す同四年東京帝國大學法科大學を卒業し現時小池銀行理事にして同行調査課長外小池合資會社理事たり家族は尙二男壽次(大六〇、七生)長女節子(同一二、〇生)二女修子(同一五、一二生)あり妹ヒデ(明二七、一一生)は島根縣人伊藤仁平治長男重市に嫁せり(東京、麻布、井町一七五電青山七七九三)  
參照 淺川秀次小池厚之助の項

**加藤 正人** 浪速紡績、金澤紡績各株取締役  
東京府土族  
父 松太郎 元治元、四生、現戸主  
母 とら 慶應二、一一生、群馬、士、大澤師  
妻 ヨネ 明三〇、九生、栃木、上岡兼吉二女

君は東京府土加藤松太郎の二男にして明治十九年八月を以て生れ現に實業界に入り現時前記會社の重役たり家族は尙長女悦子(大五、九生)の外兄廣一(明一六、七生)同妻かの(同二四、三生、東京、狹井辰廣二女)及其一男三女あり(兵庫、武庫、精道村電番三三四六)

**加藤 正信**

栃木縣多額納稅者、下野中央銀行  
佐久山銀行、宇都宮ビルプロカ  
各株取締役、小川銀行、下野  
貯蓄銀行各株監査役、農業  
栃木縣在籍  
妻 明一、九生、栃木、齋藤西之助  
女 恭平 明四二、一一生  
男 平 明四四、八生  
女 ノブ 明四四、八生  
女 マサ 大元、九生

**加藤 正徳** 著述業  
鳥取縣在籍  
父 正治 明四、三生、現戸主  
君は鳥取縣人加藤正治の長男にして明治三十七年一月を以て生れ現に曉星中學に學び現時佛國電話集を刊行し佛蘭西文學研究中なり(東京、麹町、元園町一ノ一電九段九三〇)神奈川、中、大磯町八五一)  
參照 加藤正治の項

**加藤 正治**

從三位勳二等、法學博士、帝國學  
士院會員、東京帝國大學教授、法  
學部勤務、鳥取縣在籍  
妻 正徳 明三三、一一生、養父正義長女  
男 正通 明四四、一一生  
女 淑子 明四四、七生、雙葉高等女學校在學  
女 泰子 大二、四生、雙葉高等女學校在學  
當家は先代正義に依つて家名を揚ぐ正義は鳥取縣の人  
明治十八年農商務省書記官となる此年政府三委共同  
汽船會社を合併し日本郵船會社を創立するに際し委員  
長森岡昌純を輔け同十二年同社理事となり同二十六年  
年取締役に選任同二十八年副社長に擧げられ日清事件の  
功により勳四等に叙し同三十四年南洋汽船會社の創立  
に盡し取締役會長に選任せらるる翌年北清事件の功に  
依り勳三等に叙し尋で東京商會會議所特別議員に擧げ  
られ日清事件の功に依り勳二等に陞叙し大正四年特旨  
を以て五位の位記を賜ふ其間歐米印度を漫遊し同四  
十年歸朝す東京市會議員扶桑海上火災保險會社理事日本  
郵船會社相談役帝國海軍協會日本海員救濟會各理事等  
に推戴せられ實業界の重鎮たりき君は長野縣人平林行  
雄の弟にして明治四年三月を以て生れ先代正義の養子  
となり大正十二年家督を相続す明治三十年東京帝國大  
學法科大學を卒業し同三十二年破産法研究の爲獨佛に  
留學し同三十六年歸朝東京帝國大學法科大學教授とな  
り帝國學士院會員たり家族は尙三男正隆(大五、一〇  
生)四男正泰(同七、一二生)三女明子(同九、四生)五  
男正明(同一、一一生)あり(東京、麹町、元園町一ノ  
一電九段九三〇)  
參照 加藤正徳の項

**加藤 正道**

從五位、特許局事務官、憲匠商標  
部監課長、山形縣在籍  
妻 榮 明二六、一一生、山形、鈴木彌兵衛  
男 庸夫 大六、一一生  
君は山形縣人加藤正信同正美の弟にして明治十七年十  
二月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す同二年東  
京帝國大學法科大學英法科を卒業し文官高等試験に合  
格し農商務省囑託保險事務官補通信事務官補戰時保險  
官戰時保險局事務官兼保險事務官農商務事務官等に歴  
任し大正十二年特許局事務官に任じ現に憲匠商標部意  
匠課長たり家族は尙長女道子(大四、一一生)二女俊子  
(同一〇、二生)あり(東京市外在原町小山五〇〇電高  
輪三〇七)  
參照 加藤正美の項

**加藤 正美**

從四位勳四等、產業組合中央金庫  
理事、山形縣在籍  
妻 しげ 明一八、一〇生、山形、菊池六郎師  
女 節子 明四五、二生  
君は山形縣人加藤正信の弟同正道の兄にして明治十二  
年五月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す同三十  
九年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し文官高等試  
験に合格し爾來山林事務官統監府鐵道管理局事務官鐵  
道院參事南滿洲鐵道會社官廳管理局經理課長秋田大林  
區署長山林局地方課長製鐵所理事同經理部長等に歴任  
し兼に歐米各國に出張を命ぜられ又伯林に開催せる國  
際旅客交通會議に委員として列席す大正十二年官を辭  
し產業組合中央金庫の設立に當り理事に擧げられ今日  
に至る(東京市外在原町小山五〇〇電高輪八一五)  
參照 加藤正道の項

**加藤 政吉**

加藤松榮堂、中外醫藥各株取締  
役、三重縣在籍  
妻 久 明四三、一一生  
君は三重縣人先代政吉の長男にして明治十六年七月  
を以て生れ大正二年家督を相続し前名明を改め襲名す  
先是明治三十八年千葉醫學專門學校藥學科を卒業し兼

に藥局を開設し現時前記會社の重役として知らる會  
て四日市印刷三重縣產產伊勢木材各會社の重役に就任  
し又三重縣藥劑師會々長に擧げらるる家族は尙長女貞子  
(大三、四生)二男憲(同六、九生)三男明(同一〇、一  
生)あり弟豊(明三、三生、東京音樂學校出身)は分  
家せり(三重、三重、常磐村)  
參照 米平野恒三の項

**加藤 政太郎**

カネシメ、名古屋米穀取引所取引  
員、愛知縣在籍  
妻 てつ 明一四、一一生、愛知、笹谷鉢造師  
男 實 明四三、一〇生  
君は愛知縣人先代政四郎の長男にして明治九年一月を  
以て生れ大正二年家督を相続すカネシメと號し名古屋  
米穀取引所取引員たり家族は尙養子憲子(大五、一  
生、京都、平松憲作長女)及姉くら(明七、二生)及其  
一男あり(名古屋、中、米濱町電番三七〇五)

**加藤 政之助**

正五位勳三等、貴族院議員  
埼玉縣在籍  
妻 やす 元治元、六生、大阪、山口孝七二女  
男 憲 明二二、二生、慶應義塾大學理財  
科出身  
男 治 明三六、二生、二男憲妻、岡山、  
服部武夫妹  
男 英 明三二、七生、大同電力會社社員  
男 經 明三六、一一生、東京帝國大學文學  
部在學  
男 事代 明四〇、一一生、六男經妻、埼  
玉、仙臺平八長女  
男 忠 明三七、五生、慶應義塾大學在學  
女 秀子 明四二、八生、東京女學館出身  
君は埼玉縣人加藤唯右衛門の長男にして同直法の叔父  
なり安政元年七月を以て生れ後家督を繼ぐ風に慶應義  
塾に學び報知新聞記者大阪新報主幹北海道新聞主幹とな  
り又出羽石油馬車鐵道東京市市場各會社社長及其  
他諸會社の重役に擧げらるる兼に歐米各國を巡遊し埼玉  
縣會議員同議長に選ばれ明治二十五年以來衆議院議員  
に當選する事十二回曾て大藏省參政官に任ぜられ昭和  
二年貴族院議員に勅選せらるる家族は尙孫洋一(昭二、三  
生、六男經妻長男)あり二女愛子(明二〇、八生、三輪

**加藤 松藏**

魚か津、魚類商  
東京府在籍  
妻 ユキ 明一七、八生、栃木、士、宇塚  
男 勝一郎 明四五、三生  
女 はつ 明四一、七生、京華高等女學校出身  
女 はな 明四三、一一生、京華高等女學校出身  
君は東京府人加藤芳次郎の二男にして明治十七年九月  
を以て生れ同四十年分家して一家を創立す魚か津と稱  
し魚類商を營む家族は尙二男豊松(大四、二生)三女き  
(同八、一〇生)あり(東京、小石川、大塚仲町二四  
電大塚一八七)

**加藤 茂三**

愛知縣多額納稅者、藤茂、蚊帳商  
愛知縣在籍  
妻 こう 明三八、三生  
君は愛知縣人加藤庄次郎の弟にして慶應元年正月を以  
て生れ明治二十四年分れて一家を創立す藤茂と稱し蚊  
帳商を營み現に愛知縣多額納稅者たり長女清(明三二、  
七生)は分家せり(名古屋、東、東萬町三五電東四七六  
二)

**加藤 左衛門**

愛知縣多額納稅者、瀬戸電氣鐵道、  
城土地、瀬戸薪炭運轉各株、  
長、愛知縣農工銀行、明治銀行、  
大日本鹽業各株、取締役、尾三銀  
行(株)監査役、愛知縣在籍

**加藤 守一**

從五位勳五等、北海道拓殖銀行  
(株)取締役、東京府在籍  
妻 とみ 嘉永五、一一生、現戸主  
男 一 郎 大一一、九生  
君は和歌山縣人加藤純次郎の長男にして明治十三年四  
月を以て生れ昭和二年家督を相続す明治十八年東京  
帝國大學法科大學獨法科を卒業し文官高等試験に合格  
す爾來農務局事務官兼農務局長專賣局主事同參事神  
戶專賣支局長專賣局製造部調査課長同事業部監課長  
廣島稅務監督局長等に歴任し後官を罷免現時北海道拓  
殖銀行取締役たり兼に札幌商業會議所特別議員に擧げ  
らるる家族は尙弟正(明一九、九生)同妻ヨシ(同二八、一  
生、東京、士、福地文一郎二女)及其子女あり妹ひさ  
(同二九、七生)は茨城縣人根本善治に嫁せり(東京市  
外濠谷町山一六電青山四〇八)  
參照 蓮見義隆米池田圓男の項

**加藤 守二**

萬延元、五生、養父李兵衛長女  
妻 李兵衛 明一〇、七生、愛知、加藤久三郎  
男 ちよじ 明一七、一一生、養子李兵衛妻、  
愛知、奥村千代吉庶子  
孫 義晴 明三三、三生、養子李兵衛長男  
孫 靜子 明三三、三女、孫義晴妻、愛知、  
日野らく女  
孫 己年二 明三八、七生、養子李兵衛二男  
君は愛知縣人加藤久三郎の弟にして安政四年一月を以  
て生れ後先代李兵衛の養子となり明治十八年家督を相  
續す現時瀬戸電氣鐵道會社々長を始め前記銀行會社の  
重役に於て愛知縣多額納稅者たり家族は尙庶子清(大  
四、九生、生母、愛知、加納むら)同ふし(同九、八生、  
生母同上)同六郎(同六、九生、生母同上)曾孫品子  
(同九、三生、孫義晴長女)同道子(同一二、四生、同  
二女)同守久(同一五、九生、同長男)あり養妹そら(明  
二、八生)は同夫竹三郎(元治元、一一生、愛知、加藤  
與八郎)と共に同ます(慶應元、七生)は夫繁太郎と共に  
各分家し庶子眞(大二、七生、生母、愛知、加納む  
ら)は愛知縣人日比野やゑの養子となれり(愛知、東春  
日井、瀬戸町)





加藤 森男

攝津電氣鐵道(株)代表取締役、阪神電氣鐵道(株)取締役兼技師長、岐阜縣士族

妻 文子 衛門妹、明二六、四生、岐阜、長谷川金左衛門二六、一一生

加藤 盛三

益子銀行(株)取締役、栃木縣在籍

妻 栄 明二九、三三、英城、中村純二二女、明二九、三三、養父正長女

加藤 盛壽

機械商、東京府在籍

妻 柳 明二五、四生、東京、加藤鶴吉六女、明四二、七生

加藤 紋右衛門

瀬戸電氣鐵道(株)取締役、愛知縣在籍

妻 おきん 明二〇、七生、愛知、加藤半七二女、明二〇、七生

以て生れ後先々代紋右衛門の養子となり大正元年家督を相續す現に瀬戸電氣鐵道會社取締役たり(愛知東春日井、瀬戸町)

加藤 安四郎

京安保全(資)代表社員、鋼鐵商、東京府在籍

妻 チヨ 明二五、七生、栃木、小林庄一郎、明二五、七生

加藤 保次郎

廣島縣多額納稅者、履物商、廣島縣在籍

妻 ツル 嘉永五、六生、廣島、安原信平二女、明一、七生、廣島、桑田太四郎

加藤 泰邦

從五位男爵、東京府華族

妻 リヨウ 明三七、一〇生、新潟、土、長尾、明三七、一〇生、聖心女子學院出身

君は廣島縣人加藤助二郎の長男にして明治七年三月を以て生れ大正十三年家督を相續す履物商を營み現に廣島縣多額納稅者たり家族は尙二男(大五、一一生)孫美佐子(同三、五生、長男良太郎二女同佐美子(同五、一一生、同三女)あり(廣島、沼隈、松永町)

鳥石見各艦長海軍少將參謀長海軍少將佐世保鎮守府各海軍工廠長第二艦隊司令官長官軍務府司令官長官軍事參議官等に歴補し日獨戰役には第二艦隊を率ひて青島を攻圍し大正五年功を以て華族に列し男爵を授けられ功二級に叙す後貴族院議員に擧げらる君は其長男にして明治三十三年五月を以て生れ昭和二年十月襲爵仰付けらる(東京、芝、車町五四電報一五八〇)

加藤 泰成

正四位、子爵、舊豫州新谷藩

妻 榮 明一三、五生、子爵津輕益男兼叔母、明四三、一一生

當家は豫州大洲藩主左近大夫加藤貞泰の次男總正直奉の後なり直奉元和元年別家して一萬石に封せられ世々同國新谷藩主として六代を経て先代奉令に至り明治十七年子爵を授けらる君は其三男にして明治八年十一月を以て生れ大正二年襲爵す夙に學問院を卒業して東京農學大學及東京帝國大學農學科大學に學び園藝に趣味を有す家族は尙二男(大四、九生)あり長女(同三、六、四生)は東京府人西園寺龜次郎三男(三三、三三)に嫁し叔母(慶應二、八生)は同府士族矢部桂輪の母たり(東京市外代々木初臺五一七〇一電四谷一九)

加藤 泰通

從四位勳四等、子爵、皇宮官事務官兼侍從式部官、皇宮官職事務課長、舊豫州大洲藩

妻 敬子 嘉永四、九生、公爵德大寺公弘叔母、明二二、二生、侯爵松平康莊妹、明四二、九生

當家は左大臣藤原魚名の裔加藤七左衛門尉景義の末裔遠江守光泰の後なり光泰豐臣氏に仕へて龍任を得甲州一圓二十四萬石を賜ふ光泰朝鮮陣中に没するに隨み嗣子幼弱にして大封を獲するは不可なりとなし封を辭す故を以て其子左近大夫貞泰に至り豫州黒野四萬石に移封せらる貞泰關ヶ原の役徳川氏に屬して功あり後伯州米子に移り又轉じて豫州大洲六萬石の城主となる夫より十世を経て泰幹に至る先代泰幹は其四男にして兄泰

社の後を繼ぎ明治十七年子爵を授けらる夙に宮中祇儀明宮祇儀被仰付後貴族院議員に擧げらる君は其二男にして明治十二年四月を以て生れ大正十五年襲爵被仰付夙に學問院に學び後英國に留學す現時皇宮官事務官兼侍從兼式部官にして皇宮官事務課長たり家族は尙長女惠子(大一、〇、四生、弟泰俊(明一四、二生、正六位勳四等、陸軍騎兵少佐、陸軍自動車學校附兼陸軍騎兵學校教官)同妻新歌子(同二、一、一、一)あり姉直子(同五、一、一)は子爵吉川元光先代親に同妻賀子(同七、一、一)は男爵吉川重國先代重吉に妹悦子(同六、三、三)は鹿兒島縣士族窪田文三に同秋子(同三、八、一)は子爵大久保忠言弟準に妹愛子(同三、八、一)は子爵西尾忠篤の養子となり襲爵して忠方と改名し兄泰治(同四、九生)は分家し弟廉之(同三、二、一)は其養子となり(東京、赤坂、青山南町六ノ一六電青山四二〇)

加藤 康吉

山形縣多額納稅者、農業、山形縣在籍

妻 岩 惠 明三、三三、山形、今田元達長女、明一七、一〇生、山形、日野宣雄姉、明四〇、五生

加藤 雄吉

從五位勳五等、地方技師、京都府警務部衛生課長、愛知縣在籍

妻 成 雄 明三九、三三、明四一、八生

加藤 與五郎

從四位勳三等、理學博士、東京高等工業學校教授、愛知縣在籍

妻 トヲ 明一、三三、福島、土、菊地善三郎二女

加藤 由造

扇製製造業、愛知縣在籍

妻 かね 明三二、一一生、愛知、中野幸四郎、明四五、一一生

加藤 由太郎

米穀商、東京府在籍

妻 カナ 明一、一〇生、神奈川、原文三郎長女、明二二、三、四生、愛知、須田芳右衛門三男、明三〇、六生、養子鐵藏妻、神奈川、中川岡之助養子、明三五、四生、長女花子夫、東京、河村義雄兄、明三六、五生、養子仁一妻、明三六、五生

當家は累代名古屋土着の家柄にして去今約五十年前より扇製製造業を營む君は先代由太郎の長男にして明治十四年三月を以て生れ大正九年家督を相續す夙に祖業を繼ぎ以て今日の大を成す家族は尙四女(大五、三)二男(同七、七生)五女比佐子(同九、一〇生)三男修三(同二、一、五生)あり弟由作(明二七、三三)は分家せり(名古屋、中、小林町三〇電本局一四七一)

力之部 加藤

(※印は姻族関係)

カ二七

同由之助(同八、一一生、同長男同鐵治(同一〇、九生、同二男)同文子(同一二、八生、同三女)同與三郎(同一四、八生、同三男)同福四郎(昭二、二生、同四男)あり弟三郎(明四、一〇生)は愛知縣人宮部きぬの養子となり(東京、深川、佐賀町二ノ五七電本所一五六六)

妻 三保 明三、九生、埼玉、黒澤幸庵長女  
男 博 明二、四、一一生、長男博治妻、埼玉、齋藤丈吉長女  
母 のぶ 明二、五、一一生、長男博治妻、埼玉、齋藤丈吉長女  
妻 明二、五、一一生、長男博治妻、埼玉、齋藤丈吉長女

君は愛知縣人加藤新六の三男にして明治三十二年九月を以て生れ同三十二年家督を相続す現時小倉銀行頭取たり家族は尙五男逸郎(明四五、一一生)孫保子(大一一〇、六生、長男博治長女)あり二女都(明二九、九生)は埼玉縣人貫井清三郎長男清憲に妹も(同元、二生)は東京府人植田を養子小太郎に嫁せり(埼玉、秩父、下小鹿野町)

加藤 成之 正五位、男爵、東京美術学校講師  
祖母 弘化三、七生、大阪、市川兼泰養子  
母 津 彌 明二、五生、東京、土、岩橋静彦長女

加藤 芳太郎 大府組(株)監査役  
妻 明二、三、五生、京都、五十橋虎吉妹  
男 芳 明四、一〇生  
女 初子 明四、三、九生

君は愛知縣人加藤甚吉の二男にして明治十七年五月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す現時大林組監査役たり家族は尙三女す子(大一一〇、九生)あり(大阪、東、京橋三ノ七五大林組内)

加藤 義夫 愛知銀行(株)堀川支店長  
妻 明三、五、八生、愛知、安藤小次郎長女

加藤 利三郎 上沖之山炭礦(株)監査役、綿絲商  
妻 明二、一、八生、滋賀、加藤幸三郎長女

君は福井縣人加藤恒の長男にして明治十年九月を以て生れ同四十二年家督を相続す同三十五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し愛知銀行に入り現時同行堀川支店長たり家族は尙長女幸子(大一一〇、四生)二女雅子(同一五、四生)あり(名古屋、中、南伊勢町二ノ一三電本局三四四〇)

加藤 芳三郎 小倉野銀行(株)頭取  
妻 明二、一、一一生

加藤 亮一 從四位勳二等功五級、海軍主計中  
妻 明一、六、八生、東京、土、丸木こ

君は福井縣人加藤恒の長男にして明治十年九月を以て生れ同四十二年家督を相続す同三十五年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同間海軍中計主任に任じ昭和二年海軍主計中計主任に累進す同間海軍工廠會計部計課長横須賀海軍經理部衣糧課長海軍省經理局第一課長海軍教育本部々員海軍大學校教官海軍省經理局第一課長海

軍經理學校長横須賀吳海軍經理部長兼鎮守府主計長等に歴補し現時前記の官職にあり(東京市外大久保町西大久保四九七電四谷一三〇八)

君は愛知縣人先代六歳の長男にして明治二十四年十二月を以て生れ同四十二年家督を相続し前名正雄を改め現名才農業を営み現に前記諸會社の重役に任じ又資政院教育會副會長愛知農事協理理事たり愛知縣議員議員衆議院議員に當選す家族は尙長女典子(大一一〇、一〇生)の外弟義正(明三一、二生)同信彦(同三二、一〇生)同禮吉(同三三、四生)同忠雄(同三五、八生)同孝吉(同三八、三三)あり妹女子同三九、一一生)は愛知縣人大林惟一に嫁せり(愛知、寶飯、前芝村)

君は愛知縣人加藤三郎の長男にして明治十五年十二月を以て生れ大正五年家督を相続す現時中七木綿會社代表取締役たり家族は尙三男新一(大四、七生)五男勇次(同八、一〇生)二女芳子(同一、一一生)三女竹子(同一、一一生)あり(愛知、知多、岡田町)

加藤 鏡五郎 衆議院議員(愛知縣選出)、名古屋  
妻 明二、六、一〇生、兵庫、黒田榮次郎孫  
女 明四、三、二生

加藤 六之助 名古屋製綿(株)常務取締役、共榮  
妻 明二、一、二生、愛知、片野東次郎妹  
男 覺 次 明三〇、一一生

君は福島縣舊三春藩士加藤木直親の二男同保次の叔父にして安政四年三月を以て生れ明治二十二年分れて一家を創立す同四年慶應義塾に學び後工學寮及工部大學校に於て電氣學を修む同十一年工部省及逓信省電信電話技術官として勤務同二十二年米國に遊學す歸朝後電氣之友を發行し今日に至る同四十二年再び歐米各國を漫遊す會て東京商業會議所議員東京電氣組合頭取電氣學會及日本電氣協會評議員等に擧げられ著書多く殊に本邦電話界に貢獻する處尠からず二女きよ(明二四、八生)は東京府人岩村隆馬に三女みつ(同二九、一〇生)は神奈川縣土族平野永次郎長男工學士利貞に四女はる(同三四、三三)は東京府土族理學士小山彰に五女フミ(同三五、八生)は石川縣土族法學士丹羽篤に嫁せり(東京、京橋、南金六町六電銀座八五七)

加藤 林三郎 愛知縣多額納稅者、名古屋商工會  
妻 明一、六、六生、三重、中島忠平長女  
妻 明三、一、二生、愛知、小澤利右衛門二男  
明三、七、一一生、養子俊治郎妻、岐阜、早川六三郎二女

加藤 六郎 資産家  
妻 明二、一、一〇生、愛知、高坂信明  
母 のぶ 慶應三、一〇生、愛知、高坂信明

君は愛知縣人加藤新六の三男にして明治三十二年九月を以て生れ同三十二年家督を相続す資産家たり家族は尙弟鏡平(明三三、二生)あり姉す(同一四、五生)同つや子(同三〇、六生)は各分家せり(名古屋、中、松重町七電南三二二九)

加藤 六藏 愛知縣産業(株)取締役、尾濃電陶  
妻 明二、一、一〇生、愛知、高坂信明

加藤 六郎右衛門 中七木綿(株)代表取締役  
妻 明二、一、一〇生、愛知、高坂信明

君は福島縣人加藤木周太郎の二男同重教の甥にして明治十九年二月を以て生れ同三十五年分家して一家を創

立十四十三年東北帝國大學農科大學を卒業し北海道農技師に任じ大正十一年朝鮮總督府勸業模範場技師に轉じ爾來慶尚南道内務部産業課長を経て現同道内務部農務課長兼大邱專賣局支局技師たり家族は尙長女道子(大五、八生)二男秀行(同八、三生)あり(朝鮮、釜山府) 参照 加藤木重教の項

加野宗三郎

福岡縣多額納稅者、酒造業 福岡縣在籍

祖母 トミエ 嘉永五、二生、福岡、遠藤甚次長女 明二七、四生、福岡、相部太夫平三女

妻 トミエ 明二七、四生、福岡、相部太夫平三女

女 千賀 大ニ、九生

君は福岡縣人加野熊次郎の長男にして明治二十二年七月を以て生れ同三十年家督を相続す同十四年大阪高等工業學校醸造科を出で酒造業を営み現に福岡縣多額納稅者たり家族は尙二女眞砂子(大五、四生)三女春生(同八、三生)妹コト(明二四、二生)弟宗平(同二六、二生)同妻ウタ(同三四、九生)福岡、太田賢太郎(叔母)及其三男一女あり父熊次郎(慶應元、一生)は母カメ(明七、六生、祖父惣次郎長女)を伴ひ分家し弟宗一郎(同二九、一生)は福岡縣人中村町石衛門の養子となれり(福岡市中興堂町)

加納五郎

不製米(株)専務取締役 福岡縣在籍

妻 テウ 明三、八生、福岡、小島藤平長女 女 コウウ 明三一、七生

君は福岡縣人加納作平の四男にして慶應三年十月を以て生れる現時不製米會社専務取締役たり家族は尙妻惠太郎(明八、二生、先代由太郎長男、現戶主)及其妻女あり二男作平(同六一、〇生)は福岡縣人佐藤コトの入夫となり二女キク(同三〇、三生)は東京府内藤兵三郎に妹カク(同六一、〇生)は福岡縣人高木勝太郎に同シケ(同二五、五生)は同縣人新妻伊之助に從姪登喜(同三一、九生、甥惠太郎長女)は岩手縣土佐石川正に同登茂(同三五、二生、同二女)は静岡縣人森田鏡吉に嫁せり(福岡、石城、磐崎村)

加納幸吉

大阪堂島米穀取引所取引員 大阪府在籍

父 源之助 明八、一〇生、現戶主 妻 ミネ 明一七、一生、大阪、荒牧萬次郎姉 継母 ナミ 明三六、八生、埼玉、鈴木哲五郎姉 君は大阪府人加納源之助の長男にして明治三十五年十月を以て生れる現時大阪堂島米穀取引所取引員たり家族は尙妹美津枝(明四三、三生)同妻代子(大一一、七生)あり同キミ(明三八、四生)は分家し弟源治郎(同四〇、一生)は大阪府人島熊吉の養子となれり(大阪、北、堂島濱通一ノ四五電北三〇二)

加納三之助

天神橋筋五郵便局長 大阪府在籍

妻 うた 明二六、一生、大阪、伊丹榮一郎妹 男 正太郎 大七、一生

君は大阪府人加納榮三郎の長男にして明治十一年六月を以て生れ大正九年家督を相続す資産家にして天神橋筋五郵便局長たり家族は尙二女榮子(大一一、〇生)三女三女孝子(同二三、九生)四女俊子(同二五、六生)あり(大阪、北、太融寺町七〇一電北三〇三〇八) 参照 伊丹榮一郎宗伊丹榮助の項

加納清三

從四位勳四等、第二高等學校教授 東京府在籍

妻 みき 定弘二女 女 美佐 明四五、一生

君は東京府人加納太郎の二男にして明治九年八月を以て生れる同三十六年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し同三十九年第二高等學校教授に任ぜられ現に其職に在り家族は尙二女節(大四、三生)三女節(同八、六生)四女咲(同一一、三生)兄英次郎(明三、一生)現戶主)弟柳吉(同二四、四生)あり同盛吉(同二二、二生)は其妻ヒサ(同二二、二生、新潟、竹山龍保長女)と共に三子を伴ひ分家せり(仙臺、米ヶ袋廣町八) 参照 米ヶ袋口勉一郎の項

加納宗三郎

三井物産(株)社員 東京府在籍

妻 ゆき 明五、九生、東京、小川きん姉

男 幸雄 明二九、一生 女 ミヨ子 明三三、二生、長男幸雄妻、神奈川、岡田豊彦子 男 仁三郎 明三三、二生 男 勇四郎 明三五、一生 男 富雄 明四一、二生 女 八重子 明四二、二生 女 歳子 大元、二生 君は兵庫縣人加納宗一郎の弟にして明治六年一月を以て生れ同十一年先代久右衛門の養子となり家督を相続す現時三井物産會社社員にして資産家たり家族は尙七男國雄(明四三、一生)孫香哉(大九、九生、長男幸雄)長男同捷男(同二三、九生、同二男)同妙子(同二五、一生、同長女)あり(東京、牛込、横寺町六四電牛込三四三五)

加納友之介

從六位、第一銀行(東部電力各)株 取締役、昭和銀行、大阪北港住友倉庫各(株)監査役 茨城縣在籍

妻 とみ 嘉永元、六生、栃木、早野新衛門二女 男 百里 明三一、三生 女 松子 明四〇、七生、長男百里妻、東京、青木菊雄二女

君は茨城縣人加納友之介の弟にして明治五年五月を以て生れ同二十六年先代其三郎の養子となり同四十一年家督を相続す先是同二十九年帝國大學法科大學を卒業し官途に奉職して衆議院書記官に任ぜられ農商務省參事官を兼任し後辭して住友銀行に入り同行東京支店支配人同取締役兼本店支店支配人同業務取締役を経て現時配諸會社の重役たり諸曲を趣味とす家族は尙孫公一郎(昭二、四生、長男百里妻)の外從弟直彦(明一八、九生)其妻ちよ(同二五、三生、茨城、立川雄太郎妹)との間に二男四女あり長女こと(同三四、二生、府立第二高等女學校出身)は愛知縣人久野慶二長男正一に從妹つる(同二七、七生、七叔父政二)女は茨城縣人立川次郎介に嫁せり(東京、麻布、六本木町六七電青山七八〇六) 参照 青木菊雄宗阿部長兵衛の項

加納久朗

從四位、子爵、横濱正金銀行(株) 大阪支店副支配人、舊上總一宮藩 女 多恵子 大ニ、八生

常家は藤原鎌足の苗裔遠江守加納久通の後なり久通徳川氏に仕へ一萬石を食む後二代遠江守久周に至り一萬三千石に増せられ世々上總一宮に居城し先代久宜に至り明治十七年子爵を授けらる久宜氏に大學南校に學び盛岡師範學校校長新潟學校校長東京體操院理事大審院理事慶應義塾理事等に歴任し又日本體育會長日本赤十字社理事十五銀行取締役一宮町長等に擧げられ貴族院議員に當選すること二回公共事業に盡すところ尙からず君は久宜の二男にして明治十九年八月を以て生れ大正八年襲爵す明治四十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し横濱正金銀行に入り横濱本店大連支店倫敦北京上海各支店に在勤し現に同行大阪支店副支配人たり家族は尙二男久次(明四五、五生)三男育夫(大七、五生)二女英子(同二〇、七生)弟久恵(明二二、一生、農學士)同妻アイ(同三一、一生、東京、士、永井好信長女、香蘭女學校出身)あり姉神子(同二七、一生、學習院女學校出身)は陸軍中將工學博士武田三郎に妹國子(同二三、三生)は出身校同上)は法學士子爵阿野季忠に同八重(同二四、八生)は出身校同上)は和歌山縣人理學士野田勢次郎に同治(同二五、八生)は出身校同上)は臺灣總督府總務長官後藤文夫に同夏(同二六、九生)は出身校同上)は福岡縣人麻生太吉三男太郎に養姉理子(同二三、七生)は伯爵立花寛治(二女)は子爵立花種忠に嫁せり(東京市外入新井町新井宿一四九五電大森五六) 参照 伯爵立花寛治、子爵阿野季忠、子爵立花種忠、麻生太吉、伊藤常夫、後藤文夫、武田三郎、永井好信、野田勢次郎、宗男爵安東貞美、宗男爵木越安綱、大石和三郎、宗長崎省吾、宗山山信の項

加納久朗

從四位、子爵、横濱正金銀行(株) 大阪支店副支配人、舊上總一宮藩 女 多恵子 大ニ、八生

常家は藤原鎌足の苗裔遠江守加納久通の後なり久通徳川氏に仕へ一萬石を食む後二代遠江守久周に至り一萬三千石に増せられ世々上總一宮に居城し先代久宜に至り明治十七年子爵を授けらる久宜氏に大學南校に學び盛岡師範學校校長新潟學校校長東京體操院理事大審院理事慶應義塾理事等に歴任し又日本體育會長日本赤十字社理事十五銀行取締役一宮町長等に擧げられ貴族院議員に當選すること二回公共事業に盡すところ尙からず君は久宜の二男にして明治十九年八月を以て生れ大正八年襲爵す明治四十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し横濱正金銀行に入り横濱本店大連支店倫敦北京上海各支店に在勤し現に同行大阪支店副支配人たり家族は尙二男久次(明四五、五生)三男育夫(大七、五生)二女英子(同二〇、七生)弟久恵(明二二、一生、農學士)同妻アイ(同三一、一生、東京、士、永井好信長女、香蘭女學校出身)あり姉神子(同二七、一生、學習院女學校出身)は陸軍中將工學博士武田三郎に妹國子(同二三、三生)は出身校同上)は法學士子爵阿野季忠に同八重(同二四、八生)は出身校同上)は和歌山縣人理學士野田勢次郎に同治(同二五、八生)は出身校同上)は臺灣總督府總務長官後藤文夫に同夏(同二六、九生)は出身校同上)は福岡縣人麻生太吉三男太郎に養姉理子(同二三、七生)は伯爵立花寛治(二女)は子爵立花種忠に嫁せり(東京市外入新井町新井宿一四九五電大森五六) 参照 伯爵立花寛治、子爵阿野季忠、子爵立花種忠、麻生太吉、伊藤常夫、後藤文夫、武田三郎、永井好信、野田勢次郎、宗男爵安東貞美、宗男爵木越安綱、大石和三郎、宗長崎省吾、宗山山信の項

加納與四郎

日本無線電信電話(株)専務取締役 大阪府在籍

妻 フク 明八、一〇生、東京、米田喜十郎 男 莊介 明三六、八生 男 陽平 明三九、八生 男 隆吉 明四一、九生

君は兵庫縣多額納稅者加納辰三の長男にして明治二十六年三月を以て生れ昭和三年家督を相続す遺業を繼承し信友組と稱し貿易商を営む家族は尙長女廣子(大一一、〇生)二男敬(昭二、九生)弟丑郎(明三四、八生)妹りよう子(同三七、七生)同須磨子(同四一、五生)あり祖母よう(天保九、五生、兵庫、赤松幹齋二女)は分家し伯父又吉(文久二、一生)も亦同妻せん(同元、三生)東京、鈴木みち(妹)と共に分家し姉節(同二三、六生)は兵庫縣人中川すゞの家に嫁せり(神戸、西須磨中稻荷町一三三電三二二五四)

加納由兵衛

妙見鋼索鐵道、千早川水力電氣、大和中央土地各(株)取締役、阪堺電鐵(株)監査役、質商 大阪府在籍

妻 カツ 明六、一生、大阪、紀伊源助妹 男 靜雄 明三九、一〇生 女 ひて 明四四、一生 女 壽恵子 明四四、四生 女 弘子 大元、二生

君は大阪府人先代由兵衛の二男にして明治二年五月を

加納芳三郎

大阪府多額納稅者、富士屋、時計 寶石商、大阪府在籍

妻 つる 明八、二生、兵庫、植田猶吉妹 女 謙 直三三、一〇生、愛媛、土、宮内 直三三、一〇生、養子謙妻、京都、大平源之助三女

君は大阪府人中島政七の三男にして明治元年七月を以て生れ先代萬助の養子となり同二十年家督を相続す富士屋と稱し時計寶石商を営み大阪府多額納稅者として知らる家族は尙孫節子(大五、一〇生)養子謙長女)あり(大阪、南、順慶町三ノ五一電船場九八五)

加福均三

從五位、理學博士、臺灣總督府中 央研究所技師兼臺灣總督府專賣局 技師、工業部長、兵庫縣在籍

妻 マツ 明二四、一〇生、秋田、御代技四女 男 竹一郎 大五、一生

君は兵庫縣人加福力太郎の弟にして明治十八年十月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す先是明治四十二年東京帝國大學理科大學化學科を卒へ更に研究科に入る同四十四年臺灣總督府に入り礦泉事務囑託專賣局技師兼研究所技師を経て大正六年大日本造肥料會社技師に轉じ技師長支配人となり尋いで臺灣肥料會社技師に轉じ同十一年理學博士の學位を授けられ再び臺灣總督府に出仕し同年中央研究所技師兼專賣局技師に任じ現に工業部長にして專賣局製造課兼鹽課課長職務たり家族は尙長女珍子(大四、一生)二女千加子(同九、一〇生)あり(臺北、旭町一) 参照 宗小貫慶治の項

加太邦憲

正四位勳二等、貴族院議員、臨時 法政審議會委員、維新史料編纂會 委員、東京府士族

君は大阪府人先代由兵衛の二男にして明治二年五月を



香川 茂正 從五位勳五等、判事、長崎地方裁判所部長、香川縣在籍

香川 正三 明四三、二生、香川、香川實五郎

香川 琢磨 大阪株式取引所取引員、大阪府在籍

香椎源太郎 釜山商工會議所會頭、朝鮮瓦斯電氣株式會社社長、朝鮮水産輸出、日本硬貨、釜山共同倉庫、釜山米穀證券、釜山證券、朝鮮火災海上保險各株式會社取締役、福岡縣在籍

香取利兵衛 岡本石村(株)取締役、金時商店、元治元、四生、千葉、金子忠藏長

狩野伊兵衛 山田洋紙店(株)監査役、吳服商、大阪府在籍

狩野藏次郎 大日本鹽業(株)社長、東京府在籍

君は大阪府人狩野伊平の長男にして明治十四年一月を以て生れ大正十五年家督相続と共に前名峯之助を改む

妻 テル 明一八、九生、山口、神田勇太郎

香椎浩平 正五位勳三等功四級、陸軍少將、歩兵第十旅團長、福岡縣土族

香椎秀一 正四位勳二等功三級、豫備陸軍中將、福岡縣土族

君は福岡縣人香椎浩平の弟にして明治十四年一月を以て生れ香椎源太郎の養子となる

君は東京府人狩野七郎の孫同次郎の長男にして明治十六年十月を以て生れ同二十四年家督を相続す

君は宮城縣人櫻井伊兵衛の三男にして明治十五年七月を以て生れ先代源助の養子となり大正七年家督を相続す

君は東京府人狩野宗三の長男にして大正五年七月を以て生れ先代源助の養子となり大正七年家督を相続す

君は福岡縣土族香椎昌の長男同浩平の兄にして明治七年二月を以て生れ同十四年家督を相続す

君は東京府人香取新十郎の二男にして明治十五年十一月を以て生れ同三十一年家督を相続す

君は元茨城縣會議長香取類作の弟海軍大佐林季樹の兄なり明治十年七月を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す

君は熊本縣土族狩野源一の二男にして明治元年二月を以て生れ大正六年分れて一家を創立す

君は茨城縣人狩野助胤の二男にして明治十二年十一月を以て生れ先代平左衛門の養子となり大正十年家督を相続す

君は茨城縣人狩野助胤の二男にして明治十二年十一月を以て生れ先代平左衛門の養子となり大正十年家督を相続す





賀田 以武 萩製絲(株)代表取締役、東洋硫黄、...

賀茂 嚴雄

賀茂 嚴雄 正四位勳二等功四級、海軍中將、...

賀屋 隆吉 從五位、醫學博士、賀屋治療所長、...

賀屋 隆吉 從五位、醫學博士、賀屋治療所長、...

賀屋 隆吉 從五位、醫學博士、賀屋治療所長、...

嘉納治五郎 正三位勳一等、貴族院議員、東京高等師範學校校長、...

嘉納治五郎

嘉納治五郎 正三位勳一等、貴族院議員、東京高等師範學校校長、...

嘉納治兵衛 兵庫縣多額納稅者、澁商業銀行、...

嘉納治兵衛

嘉納治兵衛 兵庫縣多額納稅者、澁商業銀行、...

嘉納治郎右衛門 兵庫縣多額納稅者、澁商業銀行、...

嘉納治郎右衛門

嘉納治郎右衛門 兵庫縣多額納稅者、澁商業銀行、...

嘉納治朝 本嘉納商店(株)取締役、兵庫縣在籍、...

嘉納治朝

嘉納治朝 本嘉納商店(株)取締役、兵庫縣在籍、...

嘉納純 嘉納(株)代表社員、兵庫縣在籍、...

嘉納純

嘉納純 嘉納(株)代表社員、兵庫縣在籍、...

嘉納彌兵衛 從七位、退役陸軍中尉、本嘉納商店(株)取締役、...

嘉納彌兵衛

嘉納彌兵衛 從七位、退役陸軍中尉、本嘉納商店(株)取締役、...



嘉納姓を冒す君は兵庫縣人正井八郎の弟にして慶應元年十二月を以て生れ後先代彌兵衛の養子となり明治三十四年家督を相續し襲名して前名與吉を改む先是陸軍教導團に志願し日清日露兩役に従軍し果して砲兵中尉に任ぜらる後本嘉納家に仕へ大阪支店支配人を經て現時本嘉納商店取締役たり長女一子(明二四、一〇生)は大坂府人吉田康太郎に嫁し二男敏雄(同二八、一〇生)は兵庫縣人奥村忠吉の養子となれり(兵庫、武庫、御影町電四二)

參照 奥村忠吉、吉田康太郎の項

**嘉門 長藏** 大阪府多額納稅者、莫大小商  
妻 コマ 安政五、二生、大阪、村中太兵衛  
養子 信二郎 明三、三生、京都、小泉松之助

嘉門家は先代熊吉弘化年間石川縣より大阪に出で雜貨商を營みて一家を創立したる始まる君は其長男にして嘉永五年八月を以て生れ明治十二年家督を相續す夙に祖業を廢して莫大小の製造に従ひ現に大阪府多額納稅者に列す兼に嘉門洋行日本物産會社に重役たり養子勝太郎(明一八、一生、大阪、西藤太郎)及其妻チカ(同二三、三生、大阪、齋藤次郎)及び子女を伴ひ分家し同タツ(同二二、一生、大阪、脇田常次郎)も亦分家して大阪府人森文藏を入夫に迎ふ(大阪、東、北久寶寺町四ノ一二電船場二五〇)

**嘉山 幹一** 正四位勳二等、判事、大審院部長  
妻 梅子 明一八、二生、埼玉、齋藤誠之  
男 家隆 明三九、三生  
君は靜岡縣土族嘉山長男にして明治五年五月を以て生れ同三十七年家督を相續す同二十八年帝國大學法科大學法律科を卒業し司法試験となり次第に任じ前橋東京各地方裁判所判事東京控訴院判事京都地方裁判所長等に歴補し現時大審院部長たり大正十一年白耳義國比律悉に於ける萬國海法會議委員として參列す(東京市外千駄ヶ谷町原宿一二二電音山四七二五)

君は大坂府人高吉傳吉の弟にして明治十七年八月を以て生れ先代竹藏の養子となり同三十五年家督を相續すボールドナット製造業を營む家族は二女秀子(大五、九生)三女トモ(同七、一〇生)あり長女ヨシ子(同三、一生)は大坂府人高吉要助に弟時次郎(明二八、一生)は香川縣人渡井サトに各養子となれり(大阪、港、九條中道二ノ六三電西九二)

**貝島 榮一** 貝島(名)社員  
母 ハナ 明一、一生、福岡、小川小七五女  
妻 タマ 長女 明三八、一生、佐賀、向大治郎

當家は先代太助より家名を揚ぐ太助風を父に扶けて石炭採掘業に従ひ稍々長じて福門に入りしも時勢に鑑み明治元年始めて探炭業を營む年餘僅に二十一經營意の如くならず刻若二十年余漸くにして探炭に關する智識を得故侯爵井上馨の知遇を得て事業漸く其緒に就く時偶々日清戰役起り炭價騰貴せる結果互利を博し爾來順境に向ひ炭礦王を以て稱せらる君は其孫にして明治二十九年七月を以て生れ大正五年家督を相續す現に貝島會社社員たり貝島榮四郎貝島健次貝島太市は君の叔父なり家族は尙二男信人(大五、八生)あり(福岡、鞍手、直方町電二)

**貝島 榮四郎** 福岡縣多額納稅者、貝島(名)社員  
父 六太郎 嘉永五、二生  
母 トモ 萬延元、六生、養父三三郎長女  
妻 イソノ 明一五、二生、福岡、貝島太助長女  
養子 義之 明二八、四生、長女ヨシコ夫、福岡、田中俊夫長男  
女 ヨシコ 明三、七生、養子義之妻

參照 貝島榮一、貝島健次、貝島太市の項

**貝島 龜吉** 貝島石炭工業、株、監査役  
妻 エツ 明六、三生、先代文兵衛長女  
男 文男 明四、一生  
女 雪子 明三九、二生  
小夜子 明四五、七生

君は福岡縣人村主サツクの四男にして慶應二年五月を以て生れ明治三十年先代エツの八夫となり家督を相續す現時貝島石炭工業會社監査役たり家族は尙二男(明四三、一生)八女妙子(大五、一〇生)あり二女ハヅエ(同三〇、二生)は新潟縣人稻川大助に五女ハヅエ(同三七、一生)は熊本縣人松尾茂に嫁し弟百吉(同五、五生)は其妻子を伴ひ分家せり(福岡市警固法院 參照 貝島百吉の項)

**貝島 健次** 中央火災傷害保險、貝島(名)社員  
父 嘉藏 安政五、二生  
母 タケケ 明一八、一〇生、福岡、三浦顯藏妹  
妻 孝 明三九、二生  
君は福岡縣人貝島嘉藏の長男にして同榮一の叔父なり明治十三年十月を以て生れ大正四年家督を相續す明治三十八年東京高等工業學校機械科を卒業し同四十年及大正十二年炭坑業見學の爲歐米を漫遊し兼に福岡縣管奉田坑業所長にして現時前記會社の重役たり(福岡、鞍手、頓野村) 參照 貝島榮一、貝島榮四郎、貝島太市の項

貝島 太市

貝島商業(株)社長、中央火災傷害保險、若松築港(株)取締役、大辻岩炭礦、貝島乾留(株)監査役、貝島(名)代表社員、貝島育英會々々長、福岡縣在籍  
妻 フシ 明一八、一生、山口、鮎川義介  
男 慶太郎 明四〇、三生  
女 百合子 明四三、二生  
多美子 大元、八生

君は福岡縣人貝島太助の三男にして同榮一の叔父なり明治十三年十一月を以て生れ後分家して一家を創立す東京高等商業學校に學び三井物産會社に入り實務の修習をなし三ヶ年間歐米を視察す現に貝島商業會社々々長前記諸會社の重役にして兼に推されて下關商業會議所特別議員たりし事あり又貝島育英會を興し其會長たり(山口、豊浦、長府町電長府五五、下關八八一)

貝島 百吉

貝島木材防衛(株)取締役社長、貝島林業(株)監査役、福岡縣在籍  
妻 マス 明三三、一〇生、養父文兵衛二女  
男 太郎 明三三、一〇生、横濱高等工業學校出身、戸畑物産(株)社員  
君は福岡縣人勝木又三郎の六男にして貝島龜吉の養弟なり明治五年五月を以て生れ貝島文兵衛の養子となり同四十二年分家して一家を創立す現時貝島木材防衛會社の取締役社長たる外前記會社の重役を兼む長女菊野(明二八、七生)は山口縣人貝島合名會社理事玉井勝輔に二女フミ子(同三〇、二生)は福岡縣人松永八百藏に三女末子(同三二、八生)は熊本縣人三輪光明に四女静子(同三六、七生)は福岡縣人長濱泰行に嫁せり(小倉、砂津電六七二)

參照 貝島龜吉、玉井勝輔の項

**貝瀬 謹吾** 正七位勳六等、東洋炭礦、南滿洲瓦斯各(株)取締役、東京府在籍  
妻 フク 明二五、一生、東京、伊藤恒藏三女  
男 康哉 大五、六生  
君は東京府土族島野盛吾の三男にして明治十一年三月

を以て生れ後先代よねの養子となり同二十三年家督を相續す同三十四年京都帝國大學工科大学機械工學科を卒業し現時東洋炭礦南滿洲瓦斯各會社取締役にして兼に南滿洲鐵道會社運輸部運輸課長大連汽船會社取締役たり家族は尙二女富貴(大五、九生)三女徳子(同六、一生)三男幸男(同二、一生)あり養母よね(弘化四、一生、養祖父佐衛門長女)は東京府土族島野盛吾に嫁せり(大連、兒玉町八、七)

貝塚 榮之助

三重縣多額納稅者、内外編物、山中清賞堂各(株)取締役  
妻 しう 明二二、一生、滋賀、石居四郎  
男 嗣朗 大七、九生  
女 美代 大七、九生

君は三重縣人貝塚卯兵衛の三男にして明治十五年八月を以て生れ大正四年家督を相續す明治三十八年東京高等工業學校電氣化學科を卒業し現に内外編物會社山中清賞堂各取締役にして三重縣多額納稅者たり二男悟朗(同二、八生)あり弟光三(明一七、一生)は其妻を(同二七、八生、滋賀、石居四郎平妹)を伴ひ同七郎(同二四、一〇生)も亦其妻を(同二七、七生、東京、吉住金太郎四女)を伴ひ妹離子(同二二、三生)は其一男一女を伴ひ各分家し同冬子(同三〇、一生)も亦分家せり(三重、桑名、桑名町)

參照 石居四郎平の項

**貝塚 捨次郎** 材木商  
妻 とき 明七、七生、東京、宮原たか姉  
男 英一郎 明二八、四生、大倉商業學校出身  
女 はつ 明三四、九生、長男英一郎妻、東京、飯塚庄次郎五女  
男 敏二郎 明三三、三生  
貝塚家は先代八郎兵衛當陸國より江戸に來り一家を創立したるに創まる其子謙之助を經て君に至る君は先代謙之助の長男にして明治元年一月を以て生れ同十四

年家督を相續す夙に上平と稱する材木商店に勤務し同二十三年獨立して同業を始む爾來經營大いに努めよく今日の大を爲すに選ばれて芝區會議員たりしことあり家族は尙孫俊一郎(大一一、一生、長男英一郎長男)同子枝子(同二二、七生、同長女)同敬次郎(同二四、五生、同二男)同藤三郎(同二五、一〇生、同三男)あり長女八重(明二五、九生、東京高等女學校出身)弟勇三郎(同二四、二生)同辰三郎(同二九、一〇生)は各分家し妹ゆき(同二七、一〇生)は東京府人清水但受到に嫁せり(東京、芝、櫻田備前町七電銀座二七四五)

改正源右衛門

大阪府會議員、大名堂、紙商  
妻 つね 明四、一〇生、大阪、田登久兵衛  
男 政次 明三二、二生  
女 エンコ 明三七、九生、長男政次妻、大阪、酒井安太郎妹、相愛高等女學校出身

君は大坂府人先代源右衛門の長男にして慶應三年九月を以て生れ明治三十年家督を相續し前名吉松を改め襲名す大名堂と稱し紙商を營み現に大阪府會議員たり家族は尙二男義男(大五、九生)孫孫嘉子(同二五、一〇生)長男政次長女あり二女静子(明三六、二生)は大坂府人森下榮助長男邦三に妹フジ(同四、五生)は同府人竹立由松に同キヌ(同六、一生)は同府人荻野藤吉に嫁せり(大阪、浪速、元町三ノ一五三電二〇〇四)

參照 酒井安太郎、森下榮助、酒井新治郎の項

**改田 武馬** 麒麟酒(株)取締役兼神戸工場長  
妻 よし 明八、九生、東京、笹岡雅房四女  
男 八郎 大二、三生  
女 望 明三三、八、二生、京華高等女學校出身  
女 萬龜 明三八、二生、京華高等女學校出身  
女 阿具利 明四〇、七生、夕陽ヶ丘高等女學校出身  
女 筆子 明四三、二生、神戸高等女學校出身  
女 鶴子 明四五、五生、神戸高等女學校在學

**改發 賞三** 大阪府在籍  
君は大阪府人改發彌兵衛の弟にして明治十九年十一月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す吳服商を營む家族は長女きよ(大三、五生)あり(大阪、東、南久太郎町二ノ一電船場四六七)

改發彌兵衛 丹波屋、吳服商  
大阪府在籍  
妻 アサノ 二女、三女、廣島、池田毎太郎  
男 信彌 明四五、五生  
女 綾乃 明四三、二生

君は大阪府人先代彌兵衛の長男にして明治十六年十月を以て生れ同二十五年家督を相続し前名久米三郎を改め名を丹波屋と稱し吳服商を營む家族は尚ほ三男彌彌(大三、一〇生)二女弘子(同六、五生)四男達彌(同二、一五生)三女悦子(同三、二生)あり弟賞三(明一九、一一生)同賞三(同二五、四生)は各分家せり(大阪、東、南本町三ノ八九)

**戒能 義重** 教員、豫科部長、愛媛縣在籍  
君は愛媛縣土族池田義知の二男にして明治四年十一月を以て生れ戒能家の養子となり同三十年家督を相続す同二十七年第五高等中學校第一部を卒業し愛媛縣屬愛

海江田金次郎 鹿兒島縣多額納稅者、鹿兒島商弘銀行、鹿兒島貯蓄銀行各(株)頭取、第百四十七號銀行取締役、海江田銀行(株)監査役、米穀砂糖商、鹿兒島縣在籍  
男 平一郎 明三一、三三、海江田銀行(株)取締役  
妻 勝代 明三七、四生、二男平一郎妻、熊本、大野謙次郎二女

君は鹿兒島縣人海江田平右衛門の二男にして安政五年三月を以て生れ後先代治右衛門の養子となり明治十年家督を相続す米穀砂糖商を營み現に前記諸銀行の重役にして鹿兒島縣多額納稅者に列し鹿兒島商業會議所特別議員に擧げらる又鹿兒島紡績會社監査役に就任せしことあり家族は尙孫子(六一、一〇生、二男平一郎長女)同陸子(同二五、六生、同二女)あり長女フチ(明二二、七生)は鹿兒島縣人海江田準一郎に二女久(同三八、七生)は同縣人野寄正義に嫁せり(鹿兒島市沙見町)

**改發 彌兵衛** 丹波屋、吳服商  
大阪府在籍  
妻 アサノ 二女、三女、廣島、池田毎太郎  
男 信彌 明四五、五生  
女 綾乃 明四三、二生

海江田幸吉 從四位勳四等、子爵、侍從兼式部官宮内事務官皇太后宮事務官東京府華族  
妻 美 明四三、一五、東京、土、小山彦次郎長女  
男 一 明四四、六生  
女 惠 明四三、一五、女子學習院出身

君は鹿兒島縣人先代平治の長男にして明治十四年十月を以て生れ大正二年家督を相続し前名平八郎を改むてを結婚し米穀商を營み先代平治は一代にして巨富を積み九州方面の米穀貿易に従事し公共事業に協力し曾て貴族院議員に選ばれたる事あり現に明治三十九年慶應義塾大學法科を卒業し専ら祖業に従事し現時海江田銀行頭取の外前記會社の重役にして縣下の多額納稅者たり義に選ばれて貴族院議員及衆議院議員たりしに叔母ユイ(慶應元、二生)は同縣人若松吉二に同スマ(明四、二生)は同縣人江口新之助に嫁し叔父金次郎(安政五、三生)は同縣人海江田治右衛門の養子となり同平助(同六、一〇生)同丑之助(文久元、六生)は各分

**海賀 信彦** 靜岡民友新聞社(株)取締役  
君は靜岡縣土族先代金藏の二男にして明治二十六年十月を以て生れ大正八年家督を相続す同四年西大學を卒業し現時靜岡民友新聞社取締役たり家族は尙二男清(大五、一一生)弟敏(明三〇、一一生)同妻ヒサヲ(同三五、一一生)福岡、白石久三郎妹及其一子あり妹十九(同三三、五生)は熊本縣人龜井金十に嫁せり(靜岡市七番町)

海江田準一郎 從四位勳四等、子爵、侍從兼式部官宮内事務官皇太后宮事務官東京府華族  
妻 美 明四三、一五、東京、土、小山彦次郎長女  
男 一 明四四、六生  
女 惠 明四三、一五、女子學習院出身

君は廣島縣人先代新八の長男にして明治五年九月を以て生れ大正三年家督を相続し前名三郎を改め名を以て現時廣島商業銀行頭取及廣島電氣會社社長外前記諸銀行會社の重役にして同縣多額納稅者たり義に推されて廣島商業會議所特別議員となり廣島市實業界に重きをなす家族は尙孫一郎(大〇、二生)長男三郎(同二、四生)同治郎(同二、一一生)同正一郎(同二、一一生)同長女(二生)同新二郎(同二、一一生)同公二(同二、一一生)同長女(一一生)同新三郎(同二、一一生)は分家し孫三郎(大五、一一生)長男三郎(同三、一一生)は廣島縣人本田權平の養子となり(廣島市本町一)

**海瀨 定一** 和歌山縣多額納稅者、山林業  
君は和歌山縣人海瀨龜太郎の長男にして明治八年十一月を以て生れ同三十八年家督を相続す現に慶應義塾及東京專門學校に學び山林業を營み現に和歌山縣多額納稅者たり家族は尙二男新次(大三、四生)二女なか(同五、三生)三男仙三郎(同七、四生)四男龜四郎(同八、一一生)四女節子(同二、九生)伯母まさ(安政元、七生)あり姉ひで(明五、一一生)は和歌山縣人保田幸太郎に嫁し妹ふぢ(同二、二生)は同夫正治(同二、一七、一一生)和歌山、堀江(安政六、一〇生)は共に其家籍に入れり(和歌山、有田、八幡村)

海塚新八 廣島縣多額納稅者、廣島商業銀行(株)頭取、廣島電氣(株)社長、廣島合同貯蓄銀行、廣島電氣製作所、日本麻紡績、廣島電氣、中外商事、廣島鐵道各(株)取締役、可部銀行(株)監査役、廣島縣在籍  
妻 新二郎 明三三、一五、長男三郎妻、廣島、本田權平養子  
男 新二郎 明三三、一五、長男三郎妻、廣島、本田權平養子  
女 トミ子 明三五、一五、二男新二郎妻、山口、梶山三郎二女

九州鐵道(株)取締役兼支配人、太宰府鐵道(株)取締役、東邦電力(株)取締役、東邦電機工作所(株)監査役、福岡縣在籍  
妻 致道 明二七、四生、茨城、中山貞三從妹

**海田 善太郎** 宮崎縣多額納稅者、農業  
君は宮崎縣土族海田善太郎の長男にして明治七年六月を以て生れ同四十五年慶應義塾法科を卒業し後實業界に入り現時九州鐵道會社の取締役兼支配人たる外前記諸會社の重役たり家族は尙二男次郎(大七、九生)長女秀子(同二〇、九生)の外兄市右衛門(明八、九生)現戸主及其子女と孫及弟豊治(同二二、八生)あり兄喜一(同二二、二生)は茨城縣人色川惠一母ますに甥重(同

海東 要造 九州鐵道(株)取締役兼支配人、太宰府鐵道(株)取締役、東邦電力(株)取締役、東邦電機工作所(株)監査役、福岡縣在籍  
妻 致道 明二七、四生、茨城、中山貞三從妹

君は宮崎縣土族海田善太郎の長男にして明治七年六月を以て生れ同四十五年慶應義塾法科を卒業し後實業界に入り現時九州鐵道會社の取締役兼支配人たる外前記諸會社の重役たり家族は尙二男次郎(大七、九生)長女秀子(同二〇、九生)の外兄市右衛門(明八、九生)現戸主及其子女と孫及弟豊治(同二二、八生)あり兄喜一(同二二、二生)は茨城縣人色川惠一母ますに甥重(同

三二、七生)は東京府人島田順四郎に各養子となり姉せ...

海道 由松

秋田縣多額納稅者、農業  
秋田縣在籍  
安政元、三三、海道春松長女

君は秋田縣人先代由松の長男にして明治二十二年六月...

海保善一郎

茨城縣多額納稅者、農業  
茨城縣在籍  
明一九、三三、父善右衛門二男

海寶龜太郎

東京府在籍  
明二四、一〇生、佐賀、鹿江佐六

妻 きき 明八、五生、千葉大川徳太郎長女  
男 柳太郎 明三一、八生

開發喜十郎

從五位勳五等、山口高等學校教授  
石川縣在籍  
文久二、七生、石川、木村清詮四女

君は石川縣人先代庄太郎の長男にして醫學士開發仁十郎...

開發仁十郎

能登産業銀行(株)取締役、醫師  
石川縣在籍  
明二四、一〇生、佐賀、鹿江佐六

甲斐吉五郎 福島縣多額納稅者、醸造業  
福島縣在籍  
明一三、四生、福島、甲斐小吉長女

甲斐憲一

大分縣多額納稅者  
大分縣在籍  
明二二、一〇生、養父治平二女

君は大分縣人加藤泰造の四男にして明治十四年七月を...

甲斐謙一

大分縣多額納稅者  
大分縣在籍  
明一五、五生、大分、加島重慶姪

甲斐爲之助

東京府在籍  
明一、一〇生、茨城、高橋雲侍

甲斐 綠

船井縣多額納稅者  
船井縣在籍  
明一八、三三、三重、水谷又吉姪

甲斐 米治

宮崎縣多額納稅者  
宮崎縣在籍  
嘉永四、三三、宮崎、甲斐健治長女

甲斐 楠香

高砂香科(株)社長  
京都府在籍  
明二四、九生、神奈川、齋藤正兵衛長女

甲斐 正興

大正三、一〇生  
君は京都府土族甲斐正秀の長男にして明治十三年五月...

甲斐 大器

大信銀行、大信貯蓄銀行、信託大  
信社各株、監査役、高知縣土族  
文久元、一〇生、東京、土、安原吉

甲斐 通

信託大信社(株)常務取締役、大信  
銀行、大信貯蓄銀行各株、取締役  
高知縣土族  
嘉永六、五生、現戸主

鏡 保之助

從三位勳三等、盛岡高等農林學校  
長、岩手縣土族  
明一六、一〇生、靜岡、須山燮次郎五女









孫久子長男)同美智子(同一四、六生、同長女)あり長女みね(同一〇、五生)は岐阜縣人籠橋數兵衛長男桂治郎に嫁せり(岐阜、土岐、駄知町)

籠橋休兵衛

實業銀行、駄知陶料、九八運送、東濃煉炭、駄知鐵道各(株)取締役、陶磁器製造販賣業、岐阜縣在籍

父 久翁 明二、一〇生、祖父休兵衛長女 母 きみ 明二、一〇生、祖父休兵衛長女 妻 延江 明三、一〇生、岐阜、市川欽次郎長女

君は岐阜縣人先代休兵衛の長男にして明治二十七年二月を以て生れ大正十五年家督を相続し前名久次郎を改め製名内外陶磁器製造販賣業を営み傍ら前記銀行諸會社の重役たり家族は尙三女長子(同一三、八生)四女利江(同一四、一〇生)あり弟仁兵衛(明三三、七生)は岐阜縣人加藤辰藏の養子となり姉ッノ(同一二、一〇生)は同縣人加藤藏の妹か(同一三、六、三生)は愛知縣人山中毅に嫁し姉むね(同一〇、五生)は同夫留次郎(同一八、一〇生)と共に分家し弟彦右衛門(同一八、八生)も亦分家せり(岐阜、土岐、駄知町)

參照 籠橋留次郎の項

籠橋留次郎

駄知鐵道(株)社長、各務原グラソ(株)取締役、實業銀行(株)監査役、岐阜縣在籍

妻 むね 明一、〇五生、養弟休兵衛姉 姉 雪 明三、四、九生、亡養子文右衛門妻 妹 水野 小一、二〇生、亡養子文右衛門妻

君は岐阜縣人村瀬彦右衛門の弟にして明治八年一月を以て生れ同縣人籠橋休兵衛の養子となり同三十八年分れて一家を創立す現時前記銀行會社の重役たり家族は尙孫多加子(同一〇、一〇生)、亡養子文右衛門長女(同一二、九生、同二女)あり(岐阜、土岐、駄知町)

參照 籠橋休兵衛の項

籠本清吉

旅館業、大阪府在籍

妻 カジ 明一、三、九生、大阪、住谷鶴太良長女 養子 安清 大二、二生、大阪、柏木福介男 君は大阪府人籠本千太郎の二男にして明治五年二月を

以て生れ同二十五年分れて一家を創立す旅館業を営む家族は尙四女つや子(大九、一〇生)五女良子(同一三、三生)あり(大阪、西成、東田町一〇一二電報二四五〇)

笠井愛次郎

勤五等、工學博士、特殊合金(株)社長、掛妻川電氣、西濃電氣、川電力各(株)取締役、内外化學製品、日本産産各(株)監査役、東京府在籍

妻 勝 明一、九、九生、徳島、妹尾岡次郎姉 男 勝 明一、九、九生、長男勝男妻、愛知 女 保 明三、四、八生、岸三郎長女

君は東京府人笠井大五郎の二男にして安政四年六月を以て生れ明治二十四年家督を相続す同十五年工部大學校土木學科を卒業し徳島縣廳に出仕し南海四縣國道貫通の工事を擔當し功を奏す又海軍鐵守府を佐世九州鐵道會社に聘せられて創立百餘の事を處理し俄々日本土木會社に入り大阪支店長となる同二十五年朝鮮を経て西比利亞を視察して歸朝の後一種の染色法を發明し小石川に染工場を經營す同三十年鐵道學校を設立し鐵道從業者の育成に勉む同三十三年京釜鐵道會社技術長となり朝鮮に於ける京城釜山間の鐵道敷設を完成し大正四年工學博士の學位を受く現時前記各會社の重役たり家族は尙孫和(大四、八生、長男勝男妻)同久(同一五、一〇生、同二女)同誠(同七、六生、同長男)同達(同九、九生、同三女)同民(同一一、六生、同四女)同安(同一五、一〇生、同二男)同保長女あり養子ハナ(明一六、一〇生)は商學博士小石川文吾に二女養子(同一三、一〇生)は東京府人立川勇次郎長男に三女養子(同一七、一〇生)は東京府人立川良純長男に四女ハル(同一三、一〇生)は東京府人立川長三長男に一子嫁せり(東京、小石川、若荷谷町八一電報小石川一九〇)

參照 小石川文吾、齋藤恒一、田原良純、立川龍の項

笠井卯八

新谷酒類製油(株)代表取締役、新潟縣在籍

妻 セツ 明一、二、二生、新潟、小林清吉長女 男 坤 明三、六、九生

君は新潟縣人笠井繁太郎の長男にして明治七年十月を以て生れ同十四年家督を相続す現時新谷酒類製油會社代表取締役たり家族は尙二男耕治(明四三、一〇生)六女カヨノ(大四、二生)七女キキ(同九、一〇生)あり長女カヨノ(明三〇、一二生)は新潟縣人高橋イシ二男權太郎に二女クミ(同三二、九生)は同縣人岸三郎長男に四女キキ(同四一、三三)は同縣人小森卯之七長男卯八郎に妹キキ(同二〇、二生)は同縣人權澤玉吉長男賢桂に嫁せり(新潟、三島、來邊寺村)

參照 笠井眞三、小林守三郎の項

笠井健太郎

正五位勳四等、朝鮮總督府檢事、高等法院檢事、香川縣在籍

妻 健 明一、七、九生、岡山、出石敏彦四女 男 清 明三、九、五生

兼同事務官京城地方法院覆審法院を経て現時高等法院檢事たり家族は尙四男章(明四二、一〇生)長女美代子(大五、三生)あり(京城、高等法院官會)

笠井準司

勤七等功七級、陸軍歩兵曹長、笠井商會(株)代表取締役、貿易商、兵庫縣在籍

妻 きみ 明二、二、一〇生、岐阜、村井半七女 男 英 俊 明四、三、五生

君は岐阜縣人笠井眞澄の弟にして明治十三年十二月を以て生れ大正八年分家して一家を創立す歐文正學館早稲田大學等に學ぶ明治三十七年日露戰役に従軍し步兵曹長に任ぜられ功七級金功勳章を賜はる同三十九年シメンス・シュケルト會社に入り後同社重役ウィクトル・ヘルマントと共に合資會社笠井商會を創設し之が代表社員として經營に任じ現時同商會代表取締役たり明治四十三年以前後二回歐米に渡航す家族は尙二男利通(明四四、一二生)二女仲子(大一一、三、三生)あり(兵庫、武庫、住吉村電報六一〇)

笠井信一

從三位勳二等、貴族院議員、静岡縣在籍

妻 芳子 明二、〇生、東京、榎本道章二女 男 律 威 明二、八、八生、法學士、三井物産會社員 女 淑 子 明三、六、九生、長男律威妻、工學博士小島甚太郎長女 男 正 根 明三、三、二生、慶應義塾大學法學部出身 女 照 子 明三、七、一〇生、二男正根妻、静岡、河村勝次郎五女 男 正 之 明三、五、三生、法學士、三井銀行員

君は静岡縣人笠井勘三郎の三男にして元治元年六月を以て生れ明治二十六年分れて一家を創立す同二十五年帝國大學法科大學英法科を卒業し山形縣參事官岩手縣警務部長高知縣書記官臺灣總督府事務官岐阜縣書記官新潟縣書記官同事務官本縣事務官岩手縣同山各縣知事北海道廳長官に歴任し大正九年官を辭し勳選を以て貴族院議員に列せられ現在に至る家族は尙四男正成(明四二、一〇生)孫俊彌(大一一、四、一〇生、長男律威長男)同通彌(昭二、一〇生、同二男)同正昭(同二、一二生、二男正根長男)あり長女操(明二七、二生)は静岡

明四〇、三生、長男坤一妻、新潟女 大元、九生、長男 野本軍司妹

笠井建次郎

妻 完 明二、五、四生、長女ハナ夫、山口 養子 完 明三、三、四生、養子完妻 女 ハナ 明三、三、四生、養子完妻

君は山口縣人笠井順八の長男にして工學博士笠井眞三の兄なり明治四年十一月を以て生れ大正七年家督を相続す現時時崎炭礦會社代表取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尙孫順一(大九、七生、養子完妻)同佑(同一一、一〇生、同二男)同友(同一四、九生、同三男)あり姉梅子は山口縣人藤内藤太郎に同貞子は同縣人藤井上土置介に妹菊子は同縣人藤井文士横山達三に同厚子は海軍大佐原田正作に嫁せり(山口、厚狭、小野田町)

參照 笠井眞三、小林守三郎の項

笠井健太郎

正五位勳四等、朝鮮總督府檢事、高等法院檢事、香川縣在籍

妻 健 明一、七、九生、岡山、出石敏彦四女 男 清 明三、九、五生

君は香川縣人笠井武三郎の二男にして明治十年二月を以て生れ同二十六年先代春の養子となり家督を相続す同三十七年京都帝國大學法科大學法科を卒業し司法官試補となり次で判事に任じ福島縣東京各裁判所判事に歴補し大正二年檢事に轉じ更に朝鮮總督府檢事

縣人齋藤藤藏海軍機關學校教授兼技師工學士定藏に二女光子(同三九、八生、京華高等女學校出身)は安田野藩銀行池袋支店法學士小林仁に嫁せり(東京、小石川、指ヶ谷町七六電報小石川二五〇九)

笠井眞三

工學博士、小野田セメント製造(株)社長、小野田鐵道(株)取締役、山口縣在籍

妻 シヅ 明一、三、九生、山口、土、原保太郎長女 男 康 一 明三、五、一二生

君は山口縣人笠井眞八の二男にして同建次郎の弟なり明治六年十月を以て生れ先代勘右衛門の養子となり同十七年家督を相続す現時前記各會社の重役たり工學博士の學位を受く長女壽子(明三三、三生)は京都府人西原利夫に三女安子(同三九、一〇生)は山口縣人井上親雄長男親之に嫁せり(山口、厚狭、小野田町)參照 井上親雄、笠井建次郎、原保太郎、齋藤藤藏、半六、長友比佐吉の項

笠岡幸助

皮革商、大阪府在籍

妻 好 明三、二、二生、大阪、笠岡彌平二女 男 友 一郎 大一一、九生

君は東京府人菅田佐太郎の六男にして明治二十三年七月を以て生れ大正六年先代好の入夫となり家督を相続す皮革商を営む妻妹ナミ(明三四、八生)は大阪府人伏見政重に嫁せり(大阪、浪速、鷗町三ノ一四一六電報一五五九)參照 菅田井卯之助の項

笠木吉兵衛

日本商科商社(株)社長、東京府在籍

妻 タツ 天保一、一〇生、曾祖父吉兵衛 母 キミ 元治元、一〇生、祖父吉兵衛長女 妻 栄 大一一、八生、東京、石井小兵衛妹 男 榮 大一一、一〇生

君は東京府人笠木吉兵衛の二男にして明治二十年八月を以て生れ大正十三年家督を相続し後襲名して前名光

笠原吉藏

家主、大阪府在籍

妻 きみ 明六、一〇生、大阪、岡田庄之助妹 男 猛 彦 明三、五、一〇生 女 小末 明三、七、五生、長男猛彦妻、大阪、下津秀勝妹 男 喜美子 明四、二、一〇生

君は徳島縣人笠原留吉の弟にして明治二年十一月を以て生れ同二十八年分家して一家を創立す家主たり家族





以て生れ同二十一年笠間家に入り家督を相続す同四十二年東京帝國大學法政科を卒業文官高等試験に合格し鐵道院參事に任ぜられ米國に駐在す大正七年外務省參事官兼外務事務官に同十二年大使館一等書記官に任ぜられ伊國在勤を命ぜられ土耳古に出張す同十三年在羅馬尼亞公使館一等書記官となり同十五年大使館參事官に任ぜられ佛國在勤を命ぜられ且爾來の勞働總會に於ける帝國政府代表を命ぜられ且爾來の勞働總會に於ける帝國政府代表たり(在佛國日本大使館及ジュネーブ帝國事務所内)

風早 公武

當家は權大納言姉小路公景の子實種の後なり實種新に一家を立て風早と稱す夫より七代を経て公紀に至り明治十七年子爵を授けられ宮中祓候米川神社日枝神社石上神社權原神社各宮司等に補せられ君實は伯爵三條西實義の四男にして明治三十九年九月を以て生れ大正四年先代叔父實義の養子となり同八年實種御付けられたる族は伯爵いと(慶應元、一〇生)あり實種實義(慶應二、一一生)は先代實義の兄にして出で、伯爵三條西實家(慶應二、一〇生)は先代實義の兄にして出で、伯爵三條西實家を繼げり(東京市外高田町高田三三〇三條西伯爵邸)  
參照 伯爵三條西實義の項

風間市太郎

引員、京都府在籍、京都取引所取  
父 利三郎 慶應三、一、生、現戸主  
母 トメ 明一、二、生、京都、井上源三郎  
妻 弘太郎 大、一、三、生、現戸主  
君は京都府人風間利三郎の長男にして明治二十六年十一月を以て生れ京都取引所引員にして京都府多額納税者たり家族は尙長女ハツ子(大九、三)二男民造(同二、九生)二女登美子(同五、一)生)四女駒吉(同五、五生)及亡兄安之助の子あり姉妹(明二、五、二生)は京都府土族松井藤馬に嫁し弟次郎(同二、九、六生)は分家せり(京都、下京、錦小路通高倉西入電中二六〇六)

風間幸右衛門

山形縣多額納税者、風間銀行、莊  
内貯蓄銀行各株、頭取、羽前織物  
社長、六十七銀行、山形縣土族  
電氣各株、取締役、山形縣土族

風間善九郎

君は山形縣土族風間弘吉の長男にして明治五年十一月を以て生れ同二十七年家督を相続す現に風間銀行庄内貯蓄銀行各頭取たる外前記銀行會社の重役にして山形縣多額納税者たり家族は尙孫幸子(大、一、四、五生)二男嘉一郎(長女あり)養子(明四、五生)山形、風間富次郎(養子)は分家せり(鶴岡市)  
參照 宗筆古孫 郎 山田玄太郎の項

風間八左衛門

君は福島縣人先代善九郎の長男にして嘉永二年四月を以て生れ明治二十二年家督を相続し尙名善吉を改め襲名す金融業を營み福島縣多額納税者たり家族は尙孫善之助(明四、二生)離縁養子善藏(同九、三)養子春夫(長男)同タイ(同、一〇生)同長女同モト(同、一三、二生)同二女あり養子豊松(明一、四、三)生、福島、篠崎喜一郎(叔父)同妻ムツ(同、一、一、一)生、福島、遠藤善次郎(三女)は共に其子女を伴ひ明善藏(同、一〇、四生)は其妻ミネ(同、一、一、一)生、福島、齊藤佐吉(三女)を伴ひ各分家せり(福島、耶麻、喜多坊町) 貴族院議員、京都府多額納税者、桑名銀行、嵯峨銀行、日本活動寫眞、バグナル各株、取締役、京都府在籍

風見謙次郎

從四位勳四等、東北帝國大學助教  
授、法文學部勤務、京都府在籍  
妻 登喜 明二、三、八、生、鳥根、森本昇妹  
男 哲夫 昭二、八、生

傍谷與右衛門

金澤商工會議所常議員、金剛商會  
(株)取締役、石川縣在籍  
妻 きん 明六、九、生、石川、松任喜兵衛長女  
男 清 明三、六、一、生

樫田忠美

從五位勳六等、檢事、廣島地方裁  
判所檢事、東京府土族  
父 三郎 元治元、五、生、現戸主  
母 シナ 明一九、九、生、東京、竹中兼次郎妹  
妻 しげ 從二、四、六、生、山梨、小宮山清三  
男 忠 敬 明四、五、四、生  
女 たけ 大、二、一、二、生

樫田 豊

神戸取引所取引員  
兵庫縣土族

女 照子 明三八、七、生、京都府立第一高等  
女學校出身  
女 文子 明四二、八、生、京都府立第一高等  
女學校出身  
庶子 幸子 大、二、一、生、生母、京都、小原キ  
シ、京都府立第一高等女學校在學

風間 要吉

新瀧縣多額納税者、足袋商  
妻 ソメ 明九、一、生、新瀧、久保正七二女  
男 要次郎 明三七、二、生  
妻 キミ 明四二、二、生、長男要次郎妻、新  
瀧、鹽谷健次郎長女  
女 トク 明四二、三、生

風間 眞作

北海道多額納税者、大正物産(株)  
取締役、鎌倉商、北海道在籍  
妻 ナカ 嘉永六、三、生、北海道、八木末松  
妻 しよを 明二五、一、生、岐阜、清水敏太  
郎二女  
男 哲夫 大、一、一、生

樫原 貞八

村木商  
妻 サヨ 明九、八、生、徳島、土、三宅竹藏妹  
養子 八郎 明三七、一、生、東京、神山賢三  
郎弟

樫原 眞作

君は北海道人樫原平六の弟にして明治二十六年四月を以て生れ大正三年分家して一家を創立す鎌倉商を營み北海道多額納税者にして現時大正物産會社取締役たり家族は尙長女光子(大七、一)生)二女澄子(同八、一〇生)あり弟男平(明二八、四生)は其妻たま(同三四、一)生)愛知、田島龜治郎(三女)及子女を伴ひ分家せり(北海道、河西、帶廣町)

樫原 眞作

君は東京府土族樫原貞七の孫にして文久二年四月を以て生れ後家督を相続す村木商を營む姉妹(文久元、一)生)は徳島縣人平野卯吉に嫁せり(東京、深川、木場町八電本所二八八六)

樫原 眞作

君は富山縣人尾崎市郎兵衛の三男にして明治十年三月を以て生れ同三十六年先代サキの入夫となり家督を相続す漁業を營み富山縣多額納税者たり家族は尙二女タマ子(大、四、七生)あり(富山、上新川、東岩瀬町)

樫原 眞作

君は富山縣人尾崎市郎兵衛の三男にして明治十年三月を以て生れ同三十六年先代サキの入夫となり家督を相続す漁業を營み富山縣多額納税者たり家族は尙二女タマ子(大、四、七生)あり(富山、上新川、東岩瀬町)

樫原 眞作

君は富山縣人尾崎市郎兵衛の三男にして明治十年三月を以て生れ同三十六年先代サキの入夫となり家督を相続す漁業を營み富山縣多額納税者たり家族は尙二女タマ子(大、四、七生)あり(富山、上新川、東岩瀬町)

樫原 眞作

君は富山縣人尾崎市郎兵衛の三男にして明治十年三月を以て生れ同三十六年先代サキの入夫となり家督を相続す漁業を營み富山縣多額納税者たり家族は尙二女タマ子(大、四、七生)あり(富山、上新川、東岩瀬町)

樫原 眞作

君は富山縣人尾崎市郎兵衛の三男にして明治十年三月を以て生れ同三十六年先代サキの入夫となり家督を相続す漁業を營み富山縣多額納税者たり家族は尙二女タマ子(大、四、七生)あり(富山、上新川、東岩瀬町)







江刺、岩谷(町) (阿三、七生)は岩手縣人平澤五郎に嫁せり(岩手、江刺、岩谷町)

柏木 正文 正四位勳二等、豫備海軍主計中將 鹿兒島縣士族

君は鹿兒島縣士族山口平右衛門の四男にして明治四年五月を以て生れ先代正文の養子となり家督を相続す同

三十二年東京帝國大學法政科を卒業し海軍中將に任ぜらる其間舞鶴各海軍工廠會計部長兼守府

主計長兼海軍經理部長等に補せられ英國に出張す現時豫備役たり家族は尚二男正信(大五、七生)四女愛

子(同八、四生)五女廣子(同二、六生)あり長女美代子(同三、八、三生)は神奈川縣人農林事務官山中鎮治に嫁せり(吳、西愛宕町二五七三ノ乙)

參照 山中鎮治(今西與七郎)の項

柏木好三郎 正四位勳三等、第八高等學校教授 東京府在籍

君は東京府人久保治兵衛の二男にして明治七年十二月を以て生れ同十六年先代羅久の養子となり後家督を相続す同三十二年東京帝國大學理科大學物理科を卒業し

大學院に入る翌年陸軍教授となり京都帝國大學理工大學助教授を経て同四十二年第八高等學校教授に任ぜられ現に其職に在り長女八重子(同三、八、五生)は工學士日戸博に嫁せり(名古屋、中、御器所町神田六〇)

柏熊福太郎 臺灣郵船(株)事務取締役、日本芳 隆(株)取締役、高砂麥酒(株)監査 役、大阪府在籍

君は大阪府人柏熊福藏の長男にして明治十年六月を以

て生れ同三十四年家督を相続す現に前記諸會社の重役たり家族は尚二男莊平(大二、九生)三女和子(同五、二生)四女知子(同七、三生)三男恭平(同八、二生)あり(臺北、大正町二ノ四一)

參照 後藤鐵二郎の項

柏倉九左衛門 (株)頭取、農業者、羽前長崎銀行 父 信 道 嘉永六、一一生

君は山形縣人柏倉信道の二男にして明治十一年十月を以て生れ大正四年家督を相続し前名竹次郎を改む農を業とし縣下の多額納税者にして前記銀行の重役たり又

縣農會議員外幾多の名譽職に擧げらる家族は尚七男正五郎(大五、一〇生)三女ヤエ(同八、一一生)八男八郎(生年月同上)四女しげよ(同二、三、五生)九男繁次郎(同二、二、二生)あり長女イチ(同三、五、五生)は山形縣人鈴木清助長男亮一郎に嫁し三男俊夫(同三、七、三生)は同縣人柏倉たかの養子となり(山形、東村山、豊田村)

參照 高橋熊次郎の項

柏倉 文藏 羽前長崎銀行(株)事務取締役、最 父 耕 雲 嘉永六、一一生

君は山形縣人柏倉耕雲の長男にして明治七年七月を以て生れ大正七年家督を相続し前名光五郎を改む現時前

掲銀行の重役たり家族は尚孫達司(大一、〇、〇生)長男昌夫(長男)同孝次(同二、一、生、同二男)同貞男(同

一五、九生、同四男)あり二女光江(明三、三生)は山形縣人豊田憲吉に嫁せり(山形、東村山、長崎町)

參照 若井由太郎の項

柏崎 長平 千葉縣多額納税者、農業者 母 ヤ ナ 元治元、四生、柏崎新右衛門長女

君は千葉縣人柏崎留次郎の長男にして明治十三年五月を以て生れ大正十三年家督を相続す農業者を営み千葉縣多額納税者たり家族は尚三女かつ(大四、一〇生)あり(千葉、香取、佐原町)

柏瀬善十郎 栃木縣多額納税者、酒造業 妻 シ ゲ 明七、一一生、滋賀、谷長右衛門長女

君は栃木縣人柏瀬善三郎の長男にして明治二年十二月を以て生れ同十六年家督を相続す酒造業を営み栃木縣多額納税者たり弟善吉(明三、九生)同妻タケ(同二、七生、滋賀、内林仁左衛門二女)は其一子を伴ひ分家し同軍三郎(同二、七、七生)は慶家石井家を再興し同忠次郎(同八、三、三、生)は滋賀縣人松本平次郎に嫁し(同二、七、一、生)は同縣人松田晋松二男秀次郎に嫁せり(栃木、下都賀、豊田村)

柏戸 留吉 正四位勳三等功五級、醫學博士、退 妻 良 澤 嘉永四、一一生、茨城、土、茂呂居次

君は栃木縣人武井祐藏の弟にして明治十一年一月を以て生れ同二十六年先代良澤の養子となり昭和二年家督を相続す明治三十二年第一高等學校醫學部を卒業し同

君は熊本縣人柏原利太郎の長男にして明治二十一年十月を以て生れる熊本縣多額納税者たり(熊本、下益城、小川町)

參照 柏原利太郎、佐藤立次郎、白石嘉之、宮島安太の項

柏原文太郎 勳四等、日自中學校主 妻 安喜 顯夫二女

君は千葉縣人柏原七兵衛の長男にして明治二年一月を以て生れ同十六年家督を相続す夙に同人社に學び同二十六年東京專門學校英語政治科を卒業し東亞同文書院設立に參し其副長となり後日自中學校を創設し現に其校主たり衆議院議員に當選する事三回に及ぶ(東京、小石川、表町一〇九電小石川一三五〇)

參照 飯尾三郎の項

柏原孫左衛門 西成製紙、柏原洋紙店、黒江屋漆 器店各(株)社長、百五銀行(株)取 締役、柏原(資)代表社員

君は徳川初期より京都に定住し子孫相傳へて今日に至れる素封家なり君は先代孫左衛門の孫にして明治三十年三月を以て生れ大正五年祖父の後を承けて家督を相続し前名彌一郎を改め襲名す同十年慶應義塾大學理財學部を卒業し現に前掲銀行會社の重役たりスボー

ツ特にゴルフに興ず(東京、麹町、土手三番町二五電九段六七九)

參照 男爵三井八郎右衛門、侯爵中御門經泰、男爵三井信濃、男爵三井高利、男爵三井善三郎、男爵三井宗久、男爵三井高利、男爵三井元之助、男爵三井守之助の項

柏原光太郎 醫學博士、柏原胃腸病院長、醫師 妻 ヒ デ 明三、八、五生、養父長英二女

君は香川縣人黒木内海の二男にして明治十年八月を以て生れ柏原長英の養子となり大正三年分家して一家を創立す明治四十一年京都帝國大學醫學部を卒業

三十五年陸軍三等軍醫に任じ同三十七年二等軍醫に進む同四十二年内科學研究の爲獨逸に留學を命ぜられ同四十四年一等軍醫に任ぜらる大正元年退役して千葉醫學專門學校教授となり同九年醫學博士の學位を授けらる同十二年千葉醫學大學教授に任じ再び内科學研究の爲獨逸に出張留學を命ぜらる家族は尚二男庸(明四二、一、一、生)三男福夫(大三、一、生)三女タケ(同四、九、二、一、生)あり妹ト(明一、六、二、生)は茨城縣人小島倉吉に嫁せり(千葉市千葉寺一三三八電二五九)

參照 小島倉吉の項

柏原 榮 柏原商店(資)代表社員、生田屋、 父 留 吉 慶應元、一一生

君は東京府人柏原留吉の長男にして明治二十三年八月を以て生れ同二十四年家督を相続す生田屋と稱し米穀商を営み傍ら柏原商店を創立して是を主宰す(東京、神田、佐久間町二ノ七電下谷一五五八)

柏原 貞助 廣島縣多額納税者、肥料商 男 勝太郎 明二、五、六生、早稻田大學出身

君は廣島縣人先代貞助の二男にして慶應三年三月を以て生れ明治二十九年家督を相続し前名松五郎を改め襲名す肥料商を営み現に縣下の多額納税者たり長女サイ(明二、五、五生)は廣島縣人葛西平兵衛長男仙太郎に二女菊代(同三、〇、五生)は岡山縣人水河俊平二男卓彌に三女菊代(同三、〇、五生)は同縣人金田哲夫に嫁し弟吉三郎(同八、三、三、生)は同妻ヨシ(同二、一、一、生、廣島、伊藤藤植妹)と共に其二子を伴ひ分家せり(尾道、久保町七二七)

柏原 利夫 熊本縣多額納税者 父 利太郎 文久二、九生、現戸主

君は熊本縣人利夫の長男にして明治十一年一月を以て生れ同二十六年先代利夫の養子となり昭和二年家督を相続す明治三十二年第一高等學校醫學部を卒業し同

末次郎 千歳同族、豊田商店各(株)監査役、 妻 カ ヲ 慶應元、四生、大阪、豊田善右衛門大叔母

君は滋賀縣人弘世助三郎の五男同助太郎同正二郎川添孝藏の弟にして明治十七年十一月を以て生れ先代末次郎の養子となり同三十五年家督を相続と共に前名彌一郎を改め襲名す大阪高等商業學校に學び後家督を繼承す現に大阪市難波市場取締として斯界に知られ又前記會社の重役たり家族は尚二女和子(大四、二、生、清水谷高等女學校在學)三男耕造(同二、一、〇、生)四男棟造(昭二、三、生)あり(大阪、西、京町堀上通五ノ四七電土佐堀五四)

參照 川添孝藏、弘世助太郎、弘世正二郎、豊田善右衛門、吉田猪太郎、廣海幾太郎の項

柏淵 武一郎 染吳服商 妻 次郎三女

君は香川縣人黒木内海の二男にして明治十年八月を以て生れ柏原長英の養子となり大正三年分家して一家を創立す明治四十一年京都帝國大學醫學部を卒業

カ之部 柏(原)膳、柏(淵)

(※印は姻族關係)







業し横濱正金銀行に入り後米國に遊學す君は恒太郎の長男にして大正二年十一月を以て生れ同十二年家督を相續し製餅御付ける家族は尙妹茂(大五、四生)同明(同七、二生)同豊(同一、二生)叔父猛次郎(明二、三、三生、東京農業大學出身)同妻(同三、五、三、三、東京、土、池田邦助長女)叔父鶴四郎(同三、四、三、三、經濟學士)あり叔母御絲(同一、七、一、生)は東京府土族工學士精谷陽二に嫁せり(東京市外千駄ヶ谷町藤田一六四電番山一四〇)

參照 精谷陽二宗池田鐵藏の項

片岡 直方 大坂瓦斯(株)社長、大阪電氣軌道(株)監査役、兵庫縣士族

妻 文 明三、五生、高知、土、土屋可成女

男 一郎、大、一〇生

君は故貴族院議員片岡直輝の長男にして明治十五年九月を以て生れ昭和二年家督を相續す明治四十二年京都帝國大學法科大學を卒業し現時大坂瓦斯會社社長たる外前記會社の重役たり家族は尙二男健二(明一、九、一、生)三男幸三郎(同一、八、生)あり弟鐵藏(明一、九、一、生)は同妻タネ(同三〇、一、生、京都、越山吉良右衛門長女)と共に同茂樹(同二、一、九、生)は同妻輝(同二、九、六、生、鳥取、土、岡田志紀妹)と共に其子女を伴ひ各分家し叔父直温(安政六、九、生)も亦分家せり(兵庫、川邊、西谷村)

參照 片岡直温宗大脇順路の項

片岡 直温 正四位勳二等、衆議院議員(京都府選出)立憲民政黨總務

妻 慶應元、五生、高知、土、松原並枝姉

養子 安 明九、六生

君は故貴族院議員片岡直輝の弟同直方の叔父にして安政六年九月を以て生れ明治三十二年分家して一家を創立す夙に高知縣立學校を出で高知縣高等師範部書記内務省工部省各御用掛滋賀縣一等屬同警部長となり又日本生命保險會社社長共同銀行頭取京都ホテル會社社長其他諸會社の重役及び獨逸伯林萬國保險會社名譽副議長たりしことあり明治二十五年以來衆議院議員に當選す

片岡 直温 正四位勳二等、衆議院議員(京都府選出)立憲民政黨總務

妻 慶應元、五生、高知、土、松原並枝姉

養子 安 明九、六生

君は故貴族院議員片岡直輝の弟同直方の叔父にして安政六年九月を以て生れ明治三十二年分家して一家を創立す夙に高知縣立學校を出で高知縣高等師範部書記内務省工部省各御用掛滋賀縣一等屬同警部長となり又日本生命保險會社社長共同銀行頭取京都ホテル會社社長其他諸會社の重役及び獨逸伯林萬國保險會社名譽副議長たりしことあり明治二十五年以來衆議院議員に當選す

ること八回に及び政界に重きをなす大正十三年内務政務次官に任ぜられ同十四年商工大臣に同十五年大藏大臣に親任せらる現時立憲民政黨總務たり二女申代(明一、七、一、生)は福岡縣士族久世庸夫に嫁せり(東京、牛込、早稲田町四八電番込二九六八)

參照 片岡直方、片岡安、久世庸夫、松原並枝の項

片岡 彦次 宮城電氣鐵道(株)取締役

妻 愛 明五、一、生、大坂、岩津末私生子

養子 八千子 大、二、三、生、徳島、濱田テヲ孫

君は高村萬吉の長男にして明治八年八月を以て生れ後片岡家に入り同三十七年分れて一家を創立す現時宮城電氣鐵道會社取締役たり(大坂、西、江戸堀南通二ノ三四電番土佐堀二五七五)

片岡 秀治 中外セルロイド(株)取締役、セルロイド製造業、大坂府在籍

妻 文 代 明二、九、九、生、和歌山、平尾香補長女

男 正 三、大、四、一〇生

君は大坂府人片岡喜一郎の弟にして明治十年八月を以て生れ同二十七年分家して一家を創立すセルロイド製造業を營み中外セルロイド會社社長たり家族は尙三男博治(大六、三、生)長女彌恵子(同八、三、生)二女美代子(同九、一、二、生)四男嘉行(同二、四、生)あり(大坂、東成、中道町一四電番一五七四)

片岡 武吉 三井物産(株)三池支店長

妻 元 嘉永六、一、二、生、福岡、土、佐戸

養子 元 嘉永六、一、二、生、福岡、土、佐戸

君は福岡縣士族河野野の兄にして明治三年四月を以て生れ後先代ツタの養子となり同三十三年家督を相續す同二十三年三井鐵山會社三池炭礦總務部に勤務し後三井物産會社に入社し上海支店神戸支店口津支店等に勤務し次で唐津出張所長若松出張所長等を経て現に三井物産會社三池支店支店長たり家族は尙三女武子(大七、一、生)あり

片岡 孫助 大坂府在籍

妻 嘉永五、八、生、大坂、野口理平長女

男 謙 明二、九、五、生、大坂、井原雄吉姉

君は大坂府人片岡孫九郎の長男にして明治十八年四月を以て生れ同三十八年家督を相續す現時地主として知られ兼に南海土地建物會社取締役大阪北港會社監査役たり家族は尙二男高示(大三、二、生)三男茂(同一、五、七、生)あり長女秀子(明四〇、五、生)は大坂府人吉村良造長男(一)に姉シマ(同一、五、四、生)は同府人片岡孫七に嫁せり(大坂、港、市岡町七八電番四〇三六)

片岡 孫忠 片岡毛織(株)取締役

妻 登 茂 明三、一、二、生、岐阜、田中善兵衛長女

男 伸 三、大、九、一〇生

君は愛知縣人先代春吉の長男にして明治二十九年五月を以て生れ大正十三年家督を相續す現時片岡毛織會社取締役たり家族は尙二男昌夫(大一一、五、生)三男吉春(同一、三、三、生)弟昇(明三七、七、生)同豊(同四、一、三、生)妹あや子(同四二、三、生)弟勝男(同四三、五、生)妹富美子(大二、三、生)弟齊(同四、七、生)妹靜代(同八、一、生)あり弟孫次(明三三、一、生)は愛知縣人淺井逸太郎の養子となり(愛知、海部、津島町)

片岡 安 工學博士、日本エレベーター製造(株)社長、日本生命保險、都ホテ(株)日本土地、日本商會各(株)取締役、京都帝國大學工學部講師、關西工學專修學校校長、日本建築協會代表

妻 直 温 安政六、九、生、現戶主

養子 直 温 安政六、九、生、現戶主

君は愛知縣人先代春吉の長男にして明治二十九年五月を以て生れ大正十三年家督を相續す現時片岡毛織會社取締役たり家族は尙二男昌夫(大一一、五、生)三男吉春(同一、三、三、生)弟昇(明三七、七、生)同豊(同四、一、三、生)妹あや子(同四二、三、生)弟勝男(同四三、五、生)妹富美子(大二、三、生)弟齊(同四、七、生)妹靜代(同八、一、生)あり弟孫次(明三三、一、生)は愛知縣人淺井逸太郎の養子となり(愛知、海部、津島町)

片岡 折十次郎 富山縣多額納稅者、酒造業

妻 ち 明四、一、一、生、先代折十次郎長女

男 重 會 明三〇、二、生

君は富山縣人折十次郎の長男にして文久元年六月を以て生れ先代長女きくの後を相續し大正九年前名竹次郎を改む酒造業を營み富山縣多額納稅者たり家族は尙孫重夫(大一一、七、生、長男重會長男)同妻(同一、五、九、生、同長女)叔母(安政二、六、生)あり(高岡市)

片岡 謙 從四位勳三等、農林技術師兼農事試験場技術師、農務局勤務

妻 元 治 元、八、生、茨城、片岡吉衛門

男 謙 明二、四、九、生、宮城、土、加藤貞太郎長女

君は茨城縣士族片岡郷の長男にして明治十二年三月を以て生れ同三十三年家督を相續す同三十六年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し農務技術師兼農務講習所技術師農務技術師農事試験場技術師等を経て大正十四年農林技術師に任ぜられ現に農務局勤務たり日露の役滿洲利源調査委員として南滿洲に出張し後移民取調の爲伯利西爾に出張し又萬國農事協會第五回總會帝國政府委員としてローマに差遣せられ序を以て歐米各國を巡遊せり家族は尙第四郎(明三〇、四、生)あり長女豊子(同四〇、四、生)は醫學博士東北帝國大學助教授黒川利雄に妹いね(同一、九、一、生)は茨城縣士族片岡山吉彦に同あき(同一、二〇、四、生)は陸軍少佐吉川規一郎に同きん(同一、二、三、生)は同縣人橋政藏に嫁せり(東京市外澁谷町大向通一ノ二)

片岡 弓八 東京潜水工業(株)取締役

妻 慶應二、五、生、東京、土、平戸霧

養子 明三三、一、生、川口浩哉四女

君は香川縣人細谷鈴吉の三男にして明治十七年五月を以て生れ先代たかの入夫となり大正二年家督を相續す

片岡 若太郎 富山縣多額納稅者、金融業

妻 元 治 元、八、八、生、富山、楠喜三郎妹

養子 喜太郎 明一、八、八、生、富山、楠喜三郎弟

君は富山縣人片岡又二の二男にして文久二年四月を以て生れ明治十二年分家して一家を創立す金融業を營み現に富山縣多額納稅者たり家族は尙孫若三(大五、四、一、生)あり

片岡 良助 茨城縣多額納稅者

妻 元 治 元、八、八、生、富山、楠喜三郎妹

養子 喜太郎 明一、八、八、生、富山、楠喜三郎弟

君は茨城縣人片岡杜一郎の二男にして明治二十年六月を以て生れ同四十一年家督を相續す茨城縣多額納稅者たり家族は尙三子高昭(大八、一、生、生母、茨城、青木千代)同和(同一〇、六、生、生母同上)同秀文(同一二、八、生、生母同上)あり兄甚藏(明一四、二、生)は分家し姉なか(同一八、二、生)は茨城縣人岡田光夫の母たり(茨城、筑波、菅間村)

片岡 金松 白島製材(株)監査役、材木商

妻 明一七、一、一、生、愛知、田中倉次郎妹

養子 春 一 明三五、三、生、岐阜、岡田運吉二男

君は愛知縣人先代金太郎の長男にして明治十四年十二







同尙(同三四、六生)同妻(同一八、一生)同妻はつ(同  
一九、六生)長野、田村忍長女)及其間に三子同尙(同  
二〇、一生)同妻舒(同二四、四生)神奈川、河原山體  
武妹)との間に三子同尙(同二八、六生)同妻はな子同  
二八、一〇生、長野、日下部忍長女)との間に三子あ  
り同尙(同一五、六生)及同尙(同一二、七生)同妻京  
(同二八、四生)長野、小口米吉長女)は其一男一女  
を伴ひ小口家に入籍せり(東京市外井草町上井草一四  
一〇)

參照 井深堀之助(東京市外井草町上井草一四  
一〇) 井深堀之助(東京市外井草町上井草一四  
一〇) 井深堀之助(東京市外井草町上井草一四  
一〇)

片山 正夫

正四位勳二等、理學博士、東京帝  
國大學教授、理學部勤務  
岡山縣在籍

君は岡山縣人片山恒夫の弟にして明治十年九月を以て  
生れ同四十二年分家して一家を創立す同三十三年東京  
帝國大學理學科大學を卒業し大学院に學び東京高等工業  
學校教授に任じ後電氣化學研究の爲獨りに留學し同四  
十三年理學博士の學位を受く同四十四年東北帝國大學  
理學科大學教授兼東京高等工業學校教授に任じ次で兼官  
を免ぜらる大正八年東京帝國大學理學科大學教授に轉任  
し現時に至る家族は尙三女遺子(大四、九生)あり(東  
京、小石川、原町一六電小石川五三三)

參照 鈴木雄輔(岸本周造(岸本山田)の項)

片山 正雄

從四位勳四等、九州帝國大學教授  
法文學部勤務、山口縣士族

君は山口縣士族片山教助の二男にして明治十二年八月  
を以て生れ同三十年先代母タケの後を承けて家督を相  
續す同三十五年東京帝國大學法學科大學文科を卒業し  
獨逸に留學す歸國後第二高等學校教授第三高等學校教  
授に任じ現時九州帝國大學教授たり家族は尙長女フ  
ミ(大六、四生)二女ミヨ(同一五、一生)三女シヅ(同  
一六、三生)あり

八、一〇生)四女ユカ(同一二、三生)あり(福岡市外九  
州帝國大學内)

參照 大村信行の項

片山 増吉

片山商店、名古屋別荘各株取締  
役員、片山(名代表社員、愛知縣在籍)

君は岐阜縣人片山大左衛門の二男にして萬延元年十月  
を以て生れ同二十二年分れて一家を創立す現時前記諸  
會社の重役たり家族は尙孫庸一(大二三、一生)、二  
男幸之助(長男)同和夫(同一五、九生)同二男同敬三  
(昭二、二生)同三男あり長女シヅ(昭二、八生)は  
靜岡縣人山崎時也に嫁し三女は女(同三五、五生)は  
同夫正章(同二八、一生)愛知、杉藤庄平弟と共に  
一男二女を伴ひ分家せり(名古屋、西、俵町三ノ一電  
西一八三三)

片山 増五郎

大穀商  
大阪府在籍

君は福井縣人片山玉吉の弟にして明治六年三月を以て  
生れ同三十年分れて一家を創立す夙に大阪に出で米穀  
仲買商安達商店に勤務し在職十年よく主家の信用を得  
て遂に獨立同業を開始し今日に至る現時市一流の店  
舗たり家族は尙六女芳子(大五、二生)あり長女静子(明  
三九、六生)大阪市立女子學校出身)は分家し七女  
清子(大七、七生)は大阪府人東新之助の養子となれり  
(大阪、北、天神橋三ノ二九六電北四〇四五)

片山 峰太郎

帝國海軍協會技師長  
兵庫縣士族  
安政四、一一生、兵庫、士、豊岡  
長女

君は兵庫縣人木南保之助の弟にして明治五年十二月を  
以て生れ後先代直幹の養子となり大正七年家督を相續  
す先是明治三十年東京帝國大學工學科大學造船學科を出  
で直に船舶司檢所司檢官に任ぜられ後清國へ差遣せ  
らる同四十年海軍局技師に任じ尋で選信管理局技師と  
なり大正二年選信局技師に轉じ後官を辭して現に帝  
國海軍協會技師長たり長女元子(明三三、二生)は京都  
府人小林龍一兄重太郎に嫁せり(東京、四谷、荒木町  
二七電四谷三三五)

片山 茂久太

西江原銀行(株)頭取、吉備貯蓄銀  
行(井原)總務所、井原鐵道各株  
取締役、岡山縣在籍

君は岡山縣人藤井多賀總の二男にして萬延元年十月を  
以て生れ先代則之の養子となり明治二十三年家督を相  
續す興讓館及阪田軒の門に漢學を修め義に西江原村  
長に推される現時前記銀行會社の重役たり(岡山、後月、  
西江原村)

片山 興太郎

長春實業銀行(株)専務取締役  
熊本縣士族

君は熊本縣士族片山八束の長男にして明治六年七月を  
以て生れ大正四年家督を相續す現に前記銀行の重役た  
り家族は尙三男勲(大五、八生)五男實(同一〇、四生)  
の外叔父次郎彦(元治元、正生)同妻カヅメ(明一五、一  
生)熊本、士、齋藤才四郎(大五、八生)及其二子叔母サチ(萬  
延元、三生)あり(支那、長春、蓬萊町一ノ五)

片山 義勝

正五位勳四等、法學博士、朝鮮銀  
行(株)理事、大連整理部長  
京都府士族

君は京都府士族片山龜次郎の長男にして明治十年四月  
を以て生れ大正七年家督を相續す明治十七年東京帝  
國大學法學科大學法學科を卒業し文官高等試驗に合格し  
農商務大臣秘書官兼參事官同書記官戰時保險局長に歴  
任す其間二回歐米に差遣さる後官を辭し南滿洲鐵道會  
社に理事たりしも現時朝鮮銀行理事にして同行大連支  
店部長たり大正八年法學博士の學位を授けらる家族は  
尙三女夏子(大六、七生)あり長女文子(明三三、八生)  
生、女子學習院出身)は佐賀縣人深川重吉(明三八、七  
生)第三郎(同一二、六生)は分家せり(大連、西通二)  
參照 片山三郎、深川重吉の項

片山 量平

正六位勳六等、朝鮮無煙炭(株)取  
締役員、久原鐵業(株)調査課長兼炭  
礦課長、長崎縣士族

君は京都府士族片山龜次郎の長男にして明治十年四月  
を以て生れ大正七年家督を相續す明治十七年東京帝  
國大學法學科大學法學科を卒業し文官高等試驗に合格し  
農商務大臣秘書官兼參事官同書記官戰時保險局長に歴  
任す其間二回歐米に差遣さる後官を辭し南滿洲鐵道會  
社に理事たりしも現時朝鮮銀行理事にして同行大連支  
店部長たり大正八年法學博士の學位を授けらる家族は  
尙三女夏子(大六、七生)あり長女文子(明三三、八生)  
生、女子學習院出身)は佐賀縣人深川重吉(明三八、七  
生)第三郎(同一二、六生)は分家せり(大連、西通二)  
參照 片山三郎、深川重吉の項

片山 量三郎

治四男、現戶主

君は長崎縣士族片山善三郎の二男にして明治十三年五  
月を以て生れ同三十九年東京帝國大學理學科大學地質學  
科を卒業し後農商務省鐵道監督技師となり仙臺鐵  
道監督署に在勤して大正三年滿蒙調査及山東に出征大  
正六年久原鐵業會社に入社後直ちに支那及ペリヤ調  
査に従事し同七年ペリヤ出張軍に従ひてシベリヤ  
調査をなす現時久原鐵業會社調査課長兼炭礦課長に  
て傍ら前記會社の重役を兼ね家族は尙二男正雄(大三、  
三生)同三男(同一五、九生)同量雄(同一〇、六生)同本  
善(同一三、二生)弟弘行(同一二、一生)あり兄淳太郎  
(明九、一生)は長崎縣人森登之丞の養子となり姉ヨ  
シ(同七、二生)は同縣士族松居敬吉に嫁し(同一七、  
五生)は同縣人船川武正に同スガ(同一〇、八生)は同  
縣人綾香忠太郎に同タケ(同一四、一生)は同縣人兼純  
太郎に嫁せり(東京、小石川、大塚窪町二四電小石川  
四一六六)

交野 政邁

正五位、子爵、松坂屋(株)取締役  
舊公卿家

勝 榮助

中村屋、醫師  
東京府在籍

君は新潟縣人佐藤善平の長男にして明治十四年三月を  
以て生れ後先代清三郎の養子となり同四十四年家督を  
相續し前名武宗八を改む中村屋と稱し醫師を營む家  
族は尙六女登美(大六、二生)四男武雄(同七、七生)あ  
り二女ひで(明三九、一生)は其夫山三郎(同二七、一  
生)新潟、山田源吾弟)に従ひ分家せり(東京、芝、櫻  
田久保町一電銀座三三五)

勝 精

正四位、伯爵、オリエンタル寫眞  
工業(株)取締役、淺野セメント、  
石川島飛行機製作所各株監査役  
東京府華族

君は福岡縣士族勝平八郎の長男にして明治十二年五月  
を以て生れ大正九年家督を相續す明治三十八年東京帝  
國大學法學科大學法學科を卒業し大藏省に入り稅務監督  
官大藏書記官兼同參事官稅關長東京稅務監督局長海  
外駐在稅務官等に歴任し義に東京市助役に擧げらる昭  
和三年福岡縣より推されて衆議院議員に當選し政友會  
所屬たり家族は尙從兄信太郎(明六、一〇生)あり(東  
京、新富、片山貞次郎)

京市外大井町鹿島各三一五九電高橋一〇三六

参照 勝信太郎の項

正五位勳四等、判事、松山區裁判所判事、松山區裁判所監督

勝井 喜藏 奈良縣在籍 妻 喜藏 明三、三子、父宣長女、現戸主 男 喜藏 明三、三子、父宣長女、現戸主 女 喜藏 明三、三子、父宣長女、現戸主

勝井 善次郎 奈良縣多額納稅者、六十八銀行 妻 マサエ 明六、九子、大阪、兒山町直妹 養子 美晴 明三、二子、養子千恵夫、大 養子 千恵 明三、二子、養子千恵夫、大 妻 美晴 明三、二子、養子千恵夫、大 養子 千恵 明三、二子、養子千恵夫、大

勝井 太藏 奈良縣多額納稅者 妻 太藏 明二、二子、早稻田大學政治 養子 明二、二子、早稻田大學政治 妻 太藏 明二、二子、早稻田大學政治 養子 明二、二子、早稻田大學政治

勝田 永吉 奈良縣多額納稅者、臺灣風 妻 永吉 明二、二子、早稻田大學政治 養子 明二、二子、早稻田大學政治 妻 永吉 明二、二子、早稻田大學政治 養子 明二、二子、早稻田大學政治

勝浦 英三郎 從五位勳四等、海軍主計大佐、海 妻 英三郎 明二、二子、福岡、津田利夫 養子 明二、二子、福岡、津田利夫 妻 英三郎 明二、二子、福岡、津田利夫 養子 明二、二子、福岡、津田利夫

勝浦 庄次郎 大阪府在籍 妻 庄次郎 明二、二子、養父庄平長女 養子 明二、二子、養父庄平長女 妻 庄次郎 明二、二子、養父庄平長女 養子 明二、二子、養父庄平長女

勝川 鐘太郎 時計師 妻 鐘太郎 明二、二子、愛知、飯田直七長女 養子 明二、二子、愛知、飯田直七長女 妻 鐘太郎 明二、二子、愛知、飯田直七長女 養子 明二、二子、愛知、飯田直七長女

勝田 五右衛門 下田銀行、伊豆相互貯蓄銀行、城 妻 五右衛門 明二、二子、二男安次妻、靜岡、 養子 明二、二子、二男安次妻、靜岡、 妻 五右衛門 明二、二子、二男安次妻、靜岡、 養子 明二、二子、二男安次妻、靜岡、

勝田 孝典 從五位、山形高等學校教授 妻 孝典 明二、二子、現戸主 養子 明二、二子、現戸主 妻 孝典 明二、二子、現戸主 養子 明二、二子、現戸主

勝木 宗太郎 滿洲紡績、福島紡績各(株)取締役 妻 宗太郎 明二、二子、島根、石橋繁助妹 養子 明二、二子、島根、石橋繁助妹 妻 宗太郎 明二、二子、島根、石橋繁助妹 養子 明二、二子、島根、石橋繁助妹

勝倉 茂吉 栃木縣多額納稅者、織物業 妻 茂吉 明二、二子、栃木、小川重平 養子 明二、二子、栃木、小川重平 妻 茂吉 明二、二子、栃木、小川重平 養子 明二、二子、栃木、小川重平

勝島 仙之介 正三位勳二等、醫學博士、東京 妻 仙之介 明二、二子、廣島、山本幸七弟 養子 明二、二子、廣島、山本幸七弟 妻 仙之介 明二、二子、廣島、山本幸七弟 養子 明二、二子、廣島、山本幸七弟

勝田 徳松 小原商店(株)取締役、藥種商 妻 徳松 明二、二子、東京、松島清兵衛妹 養子 明二、二子、東京、松島清兵衛妹 妻 徳松 明二、二子、東京、松島清兵衛妹 養子 明二、二子、東京、松島清兵衛妹

勝田 信 日本銀行(株)支店調査役 妻 信 明二、二子、東京、土、中島 養子 明二、二子、東京、土、中島 妻 信 明二、二子、東京、土、中島 養子 明二、二子、東京、土、中島

京市外大井町鹿島各三一五九電高橋一〇三六

参照 勝信太郎の項

正五位勳四等、判事、松山區裁判所判事、松山區裁判所監督

勝井 喜藏 奈良縣在籍 妻 喜藏 明三、三子、父宣長女、現戸主 男 喜藏 明三、三子、父宣長女、現戸主 女 喜藏 明三、三子、父宣長女、現戸主

勝井 善次郎 奈良縣多額納稅者、六十八銀行 妻 マサエ 明六、九子、大阪、兒山町直妹 養子 美晴 明三、二子、養子千恵夫、大 養子 千恵 明三、二子、養子千恵夫、大 妻 美晴 明三、二子、養子千恵夫、大 養子 千恵 明三、二子、養子千恵夫、大

勝井 太藏 奈良縣多額納稅者 妻 太藏 明二、二子、早稻田大學政治 養子 明二、二子、早稻田大學政治 妻 太藏 明二、二子、早稻田大學政治 養子 明二、二子、早稻田大學政治

勝田 永吉 奈良縣多額納稅者、臺灣風 妻 永吉 明二、二子、早稻田大學政治 養子 明二、二子、早稻田大學政治 妻 永吉 明二、二子、早稻田大學政治 養子 明二、二子、早稻田大學政治

勝浦 英三郎 從五位勳四等、海軍主計大佐、海 妻 英三郎 明二、二子、福岡、津田利夫 養子 明二、二子、福岡、津田利夫 妻 英三郎 明二、二子、福岡、津田利夫 養子 明二、二子、福岡、津田利夫

勝浦 庄次郎 大阪府在籍 妻 庄次郎 明二、二子、養父庄平長女 養子 明二、二子、養父庄平長女 妻 庄次郎 明二、二子、養父庄平長女 養子 明二、二子、養父庄平長女

勝川 鐘太郎 時計師 妻 鐘太郎 明二、二子、愛知、飯田直七長女 養子 明二、二子、愛知、飯田直七長女 妻 鐘太郎 明二、二子、愛知、飯田直七長女 養子 明二、二子、愛知、飯田直七長女

勝田 五右衛門 下田銀行、伊豆相互貯蓄銀行、城 妻 五右衛門 明二、二子、二男安次妻、靜岡、 養子 明二、二子、二男安次妻、靜岡、 妻 五右衛門 明二、二子、二男安次妻、靜岡、 養子 明二、二子、二男安次妻、靜岡、

勝田 孝典 從五位、山形高等學校教授 妻 孝典 明二、二子、現戸主 養子 明二、二子、現戸主 妻 孝典 明二、二子、現戸主 養子 明二、二子、現戸主

勝木 宗太郎 滿洲紡績、福島紡績各(株)取締役 妻 宗太郎 明二、二子、島根、石橋繁助妹 養子 明二、二子、島根、石橋繁助妹 妻 宗太郎 明二、二子、島根、石橋繁助妹 養子 明二、二子、島根、石橋繁助妹

勝倉 茂吉 栃木縣多額納稅者、織物業 妻 茂吉 明二、二子、栃木、小川重平 養子 明二、二子、栃木、小川重平 妻 茂吉 明二、二子、栃木、小川重平 養子 明二、二子、栃木、小川重平

勝島 仙之介 正三位勳二等、醫學博士、東京 妻 仙之介 明二、二子、廣島、山本幸七弟 養子 明二、二子、廣島、山本幸七弟 妻 仙之介 明二、二子、廣島、山本幸七弟 養子 明二、二子、廣島、山本幸七弟

勝田 徳松 小原商店(株)取締役、藥種商 妻 徳松 明二、二子、東京、松島清兵衛妹 養子 明二、二子、東京、松島清兵衛妹 妻 徳松 明二、二子、東京、松島清兵衛妹 養子 明二、二子、東京、松島清兵衛妹

勝田 信 日本銀行(株)支店調査役 妻 信 明二、二子、東京、土、中島 養子 明二、二子、東京、土、中島 妻 信 明二、二子、東京、土、中島 養子 明二、二子、東京、土、中島



女 五 い 明四三、七生
君は埼玉縣人木村忠二の長男にして明治十年三月を以て生れ同三十七年先代たけの入夫となり家督を相続す...

勝吉作兵衛 宮崎縣多額納税者、農業
妻 かね 明五、六生、宮崎、宮永與兵衛三女

勝連 盛常 沖繩縣多額納税者、金融業
妻 朝隆姉 明二、一、二生、沖繩、與儀幸克

葛西耕芳 百十三銀行(株)監査役
妻 明二、一〇生、青森、土、工藤恭助

葛西萬司 工學博士、岩手銀行、盛岡貯蓄銀行
妻 明二、一〇生、長女フミ子、宮城、菱沼清吉二男

葛西政五郎 青森貯蓄銀行(株)取締役、三戸銀行
妻 明一五、二生、青森、市田利平三女

葛西春雄 汽車製造(株)取締役
妻 明八、六生、東京、水島尚妹

葛西久藏 北海道多額納税者、經商、漁業
妻 明七、一、生、北海道、土、江口升太郎妹

桂 善助 大い善、醬油商
妻 明一〇、三、生、大阪、高橋助養子

桂 善三郎 大い善、醬油商
妻 明一〇、三、生、大阪、高橋助養子

桂 善三郎 大い善、醬油商
妻 明一〇、三、生、大阪、高橋助養子

桂 善三郎 大い善、醬油商
妻 明一〇、三、生、大阪、高橋助養子

桂 孝齋 廣島縣多額納税者
妻 明一三、一〇生、廣島、世良靜一妹

桂 善三郎 大い善、醬油商
妻 明一〇、三、生、大阪、高橋助養子

桂 善三郎 大い善、醬油商
妻 明一〇、三、生、大阪、高橋助養子



女 百合子 明四四、五五
君は山口縣土族西治一の三男にして明治七年九月を以て生れ...

桂 正夫 桂商會(株)取締役
君は東京府人桂梅吉の長男にして明治二十二年五月を以て生れ...

桂 隆一 桂文商店、小間物商
君は香川縣人龜田大吉の孫にして明治三十三年六月を以て生れ...

桂田富士郎 正五位勳五等、醫學博士、理學博士
君は石川縣土族田豐哉の長男にして慶應三年五月を以て生れ...

角 彌太郎 日立製作所(株)取締役
君は東京府人角品藏の長男にして明治三年十一月を以て生れ...

角田久兵衛 毛糸商在籍
君は京都府人先代久兵衛の長男にして明治二十八年四月を以て生れ...

角田啓司 殖産勳五等、北海道廳技師、拓殖部勤務、北海道土族
君は北海道人角田平治の長男にして明治八年二月を以て生れ...

角谷榮治郎 從五位勳五等、檢事、大阪控訴院
君は大阪府人角谷利平治の長男にして明治八年二月を以て生れ...

角谷儀太郎 石川縣土地建物(株)専務取締役
君は石川縣人角谷平兵衛の長男にして明治六年十二月を以て生れ...

角谷元三郎 關西鐵道(株)社長
君は奈良縣人吉田吉松の弟にして明治十四年一月を以て生れ...

角和善助 神奈川縣多額納稅者、金融業
君は神奈川縣人伊藤タカの養子となれり(大阪、泉北、濱寺町電一七〇)

角田周造 新炭商
君は東京府人角田嘉七の三男にして明治十六年八月を以て生れ...

角田隆郎 日清汽船、南洋興業各(株)監査役
君は千葉縣人角田古八の長男にして明治四年三月を以て生れ...

角野源之介 質商在籍
君は神奈川縣人角和善兵衛の二男にして嘉永元年一月を以て生れ...

門井東一 埼玉縣多額納稅者、埼玉縣會議員
君は埼玉縣人福島貞次郎の長男にして明治十二年七月を以て生れ...

門井勝三郎 荷受問屋業
君は大阪府人黒川勝次郎の弟にして明治十年八月を以て生れ...

門井東一 埼玉縣多額納稅者、埼玉縣會議員
君は埼玉縣人福島貞次郎の長男にして明治十二年七月を以て生れ...

角野源平 大一一、三三
君は兵庫縣人角野勝藏の長男にして明治十五年十一月を以て生れ...

角野鎮一 南洋ゴム商會、ゴム製造販賣業
君は福井縣人中西太兵衛の長男にして明治十六年九月を以て生れ...

角野要平 岡山縣多額納稅者、酒造業
君は岡山縣人先代要平の二男にして明治十八年十月を以て生れ...





以て生れ明治十一年先代勇吉の養子となり家督を相續す...

金井 直造

信世堂、圖書出版、印刷業

妻 明一六、六生、長野、士、増澤門也五女

男 英一 會社臺北支店員

女 八重子 明四一、七生、第一高等女學校及實踐女學校専修科出身

金井家は代々神職を勤めたるが父開平の代に至り是れを辭し市井に起ちて印刷業を創めたり...

金内 孝吉 山形縣多額納稅者、醸造業

妻 明一三、一、山形、寒河江佐右衛門二女

男 正二 大二、九生

女 コウ 明四四、二生

君は山形縣土族金内孝三郎の二男にして明治十二年十一月を以て生れ同三十三年亡兄孝吉の後を承け家督を相續し前名吉次を改め襲名す山形縣多額納稅者にして

醸造業を營む家族は尙二男正三(大六、四生)三女ちよ(同八、一〇生)の外弟孝助(明二〇、九生)同妻たい(同二、五生、山形、寒河江佐右衛門五女)及其子女あり...

金岡 清彦

中越無盡(株)取締役

妻 明一七、七生、養父又左衛門長女

女 敏子 明三八、四生、養子好造妻

君は富山縣人稻垣梅太郎の三男にして明治十七年二月を以て生れ同三十六年金岡又左衛門の養子となる同三十九年金澤醫學專門學校藥科を卒業し現時中越無盡會社取締役たり家族は尙孫千鶴子(大五、四生、養子好造長女)あり(富山市袋町)

金岡又左衛門 富山縣多額納稅者、富山電氣(株)社長、各(株)取締役、北陸送電自動車製造各(株)取締役、庄川水力電氣各(株)監査役、富山縣在籍

妻 明一七、二生

女 清子 明一七、二生

君は富山縣人金岡又左衛門の長男にして元治元年一月を以て生れ後家督を相續す凡に漢學及醫學を修め養に同縣會議長に推され又衆議院議員に選ばれること三回に及ぶ藥種商を營み尙前掲各會社の重役たり養子良助(明元、一、二生、細川庄七郎)は分家し二女キヨ(同二〇、一、一〇生)も亦同夫孫三(同二一、一、一〇生、澤木又八二男)及其三子と共に分家せり(富山、上新川、新庄町)

金川 仲藏 廣島縣多額納稅者、醬油醸造業

妻 明元、一、廣島、佐々木只市姉

男 勝一 明二四、二生

金川 廣吉

從五位勳六等、朝鮮總督府判事、大邱地方法院部長、長野縣在籍

妻 明一八、一、二生、富山、麻生覺太

女 好子 明三三、一、二生、養子作郎妻

君は長野縣人金川房吉の弟にして明治二十一年九月を以て生れ大正二年分家して一家を創立す同年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し朝鮮總督府司法官試補となり後同總督府判事に任ぜられ光州京城釜山平壤各法院判事に歴補し現時大邱地方法院部長たり家族は尙二男(大、一、一〇生)三男(大、一、一〇生)弟(大、一、一〇生)あり同妻(明二五、二生)は長野縣人小根山龜吉の養子となれり(朝鮮、大邱地方法院官舎)

金木 喜作 富山縣多額納稅者、運送業

妻 明一八、一、二生、富山、麻生覺太

女 好子 明三三、一、二生、養子作郎妻

君は富山縣人金木喜三の長男にして明治十年三月を以て生れ同四十五年家督を相續し運送業を營み富山縣多額納稅者たり家族は尙二男(大、一、一〇生)二女(大、一、一〇生)

金久保 萬吉 從三位勳二等功三級、豫備陸軍中將、埼玉縣在籍

妻 明二、五生、埼玉、士、平野政噴妹

女 芳 明四一、五生

女 トミ 明四二、七生

君は沖繩縣土族金城嘉榮の二男にして明治十六年一月を以て生れ大正九年分家して一家を創立す縣下の豪商にして現に同縣多額納稅者たり家族は尙三女サダ(大八、七生)二男嘉成(同二一、六生)五女澄子(同二一、一〇生)あり(那覇、旭町)

金城 清一 沖繩縣多額納稅者

妻 明四、八生、沖繩、上原松姉

女 芳 明四一、五生

女 トミ 明四二、七生

君は沖繩縣人金城牛の三男にして明治二年二月を以て生れ大正五年分家して一家を創立す幼名を牛と稱す現に沖繩縣多額納稅者たり家族は尙三男清次郎(明四五、四生)あり長女ウシ(同三〇、三、八生)は沖繩縣人島留間知徳二男知範に嫁せり(沖繩、宮古、平良町)

金鞍 一茶 日本郵船(株)營業部貨物課長

妻 明三、二、現戸主

女 淑 明三、二、九生、岡山、水川復太長

君は京都府人金鞍碩治郎の長男にして明治十八年五月を以て生れ同四十五年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し大正元年日本郵船會社に入り累進して同十四年同社營業部貨物課長となり今日に至る家族は尙長女徳子(大九、一、一〇生)二女富士子(同二一、九生)三女澄子(同二一、四、一〇生)あり(東京市外千駄ヶ谷町五六二電青山二六六四)

金子 有道 正四位、舊爵、貴族院議員、御歌

妻 明一〇、八生、大分、阿南尙四女

女 吉三郎 明二八、四生、廣島、福永鐵之助

子 傳高辻宜廣長女

金子 馬治 文學博士、早稻田大學教授、早稲田大學理事、東京府在籍

妻 明三、七、九生

女 芳 明三、七、九生

君は信州上田の人金子嘉伊作の長男なり明治三年一月を以て生れ同二十一年家督を相續す同二十七年東京專門學校文學部を卒業し坪内雄謀博士の信頼を受け母校に止り文學部講師となる後同校の早稲田大學に改稱せらるゝや選ばれて獨逸に留學しドクトル、デル、ワイロソフイの學位を受け歸朝す爾來同大學教授として我邦學界に盡す所甚だ大なり大正九年博士會の推薦により文學博士の學位を授けらるる美文學哲學に關する著書頗る多く斯界の一權威にして又早稲田大學理事に擧げらる(東京市外澁谷町中澁谷大向八三〇電青山三二〇八)

金子 角之助 關東興業銀行(株)取締役、神奈川縣農工銀行(株)監査役、藤澤町長

妻 明七、一、二生、養父小左衛門姪

女 小一郎 明二八、二生

君は東京市外西巢鴨町池袋二二七

君は神奈川縣人武藤左衛門の三男にして慶應二十年二月を以て生れ金子小左衛門の養子となり同四十一年家を督を相續す現に藤澤町長にして全町村長會長中央報徳會幹事たる外前掲各銀行の重役たり家族は尙六男陸雄(明四二、八生)七男弘(大四、七生)孫豊(同一〇、一〇生)長男小一郎長男(同一二、七生)同二男(同一二、七生)同三男(同一二、七生)同四男(同一二、七生)同五男(同一二、七生)同六男(同一二、七生)同七男(同一二、七生)同八男(同一二、七生)同九男(同一二、七生)同十男(同一二、七生)同十一男(同一二、七生)同十二男(同一二、七生)同十三男(同一二、七生)同十四男(同一二、七生)同十五男(同一二、七生)同十六男(同一二、七生)同十七男(同一二、七生)同十八男(同一二、七生)同十九男(同一二、七生)同二十男(同一二、七生)同二十一男(同一二、七生)同二十二男(同一二、七生)同二十三男(同一二、七生)同二十四男(同一二、七生)同二十五男(同一二、七生)同二十六男(同一二、七生)同二十七男(同一二、七生)同二十八男(同一二、七生)同二十九男(同一二、七生)同三十男(同一二、七生)同三十一男(同一二、七生)同三十二男(同一二、七生)同三十三男(同一二、七生)同三十四男(同一二、七生)同三十五男(同一二、七生)同三十六男(同一二、七生)同三十七男(同一二、七生)同三十八男(同一二、七生)同三十九男(同一二、七生)同四十男(同一二、七生)同四十一男(同一二、七生)同四十二男(同一二、七生)同四十三男(同一二、七生)同四十四男(同一二、七生)同四十五男(同一二、七生)同四十六男(同一二、七生)同四十七男(同一二、七生)同四十八男(同一二、七生)同四十九男(同一二、七生)同五十男(同一二、七生)同五十一男(同一二、七生)同五十二男(同一二、七生)同五十三男(同一二、七生)同五十四男(同一二、七生)同五十五男(同一二、七生)同五十六男(同一二、七生)同五十七男(同一二、七生)同五十八男(同一二、七生)同五十九男(同一二、七生)同六十男(同一二、七生)同六十一男(同一二、七生)同六十二男(同一二、七生)同六十三男(同一二、七生)同六十四男(同一二、七生)同六十五男(同一二、七生)同六十六男(同一二、七生)同六十七男(同一二、七生)同六十八男(同一二、七生)同六十九男(同一二、七生)同七十男(同一二、七生)同七十一男(同一二、七生)同七十二男(同一二、七生)同七十三男(同一二、七生)同七十四男(同一二、七生)同七十五男(同一二、七生)同七十六男(同一二、七生)同七十七男(同一二、七生)同七十八男(同一二、七生)同七十九男(同一二、七生)同八十男(同一二、七生)同八十一男(同一二、七生)同八十二男(同一二、七生)同八十三男(同一二、七生)同八十四男(同一二、七生)同八十五男(同一二、七生)同八十六男(同一二、七生)同八十七男(同一二、七生)同八十八男(同一二、七生)同八十九男(同一二、七生)同九十男(同一二、七生)同九十一男(同一二、七生)同九十二男(同一二、七生)同九十三男(同一二、七生)同九十四男(同一二、七生)同九十五男(同一二、七生)同九十六男(同一二、七生)同九十七男(同一二、七生)同九十八男(同一二、七生)同九十九男(同一二、七生)同百男(同一二、七生)

金子 克己 長崎縣在籍  
養父 周太郎 文久二、七生、現戸主  
養母 シモ 明四、九生、村田ミセ二女  
君は長崎縣土族福住平九郎の二男にして明治十五年九月を以て生れ同十四年現戸主周太郎の養子となる夙に早稲田專門學校に學び日露戰爭に従軍し特別任務に服し功に依り勳六等に叙せらる後支那に渡り第一次革命以來支那革命黨を後援し故孫文黃興等の同志たり支那の實狀を詳にし對支事業を日本に紹介す大正十三年長崎東洋日の出新聞社に入り同十五年社長となり現在に至る家族は尙養弟文廣(明四五、一〇生)あり(長崎、千馬町二ノ二電五〇五、一六三九)

金子 喜代太 大阪石綿工業(株)取締役會長、淺野セメント(株)専務取締役、日本ヒュムコング、旭コンクリート、神村、青梅鐵道、旭コンクリート、神奈川コークス、鶴見木工、内外石油、南武鐵道、五日市鐵道、富士製鋼、伏木板紙、淺野小倉製鐵所、日出汽船、淺野スレート、地下工業各(株)取締役、關東水力、淺野造船所、淺野物産、淺野石材工業各(株)監査役、淺野同族(株)理事  
高知縣在籍

金子 吉之助 廣島縣多額納稅者、臺灣製糖(株)取締役、酒造業、廣島縣在籍  
養父 マサノ 明四、四生、廣島、森岡爲三郎  
養母 スミ子 明三、五、四生  
君は廣島縣人先代吉之助の長男にして明治二年九月を以て生れ同十一年家を督を相續し同四年大學教師同十一年ハワード大學を卒業す結婚後東京大學教師同十一年書記官同大書記官内閣總理大臣秘書官樞密院議長秘書官貴族院書記官農商務次官同大書記官司法大臣等に歴任す同二十三年貴族院議員に勅選せられ同二十四年瑞西開設國際公法會議に參列同三十二年ハワード大學より法學博士の名譽學位を受く同三十三年勳功に依り華族に列し男爵を授けられ日露事件の功に依り子爵に陞せらる現時樞密顧問官議定官にして前記の諸職を兼ね家族は尙庶子文子(大八、三生)生母、東京、牧野梅(同直忠同一二、九生)生母同上あり妹ヨシ(元治元、六生)は實業家團琢磨に嫁し弟辰三郎(萬延元、三生)は分家せり(東京、麹町、一番町三〇電九段七〇〇)  
參照 金子武蔵、金子辰三郎、團琢磨の項

金子 健二 從五位勳五等、文部省督官  
妻 マツホ 明一、四、三生、新潟、高橋棧松妹  
女 タカネ 大二、一、生  
君は新潟縣人金子富一郎の二男にして明治十三年一月を以て生れ同十四年分家して一家を創立す同三十八年東京帝國大學文科大學英文科を卒業し同四十年米國加州州立大學英文科に入学後各地大學を視察し歸朝の後廣島高等師範學校教授となり大正三年支那に出張し同八年同校生徒監となり現時文部省督官の職にあり(東京、小石川、表町一〇九)

金子 源五右衛門 護謨工業  
妻 マス 明二、七生、千葉、三浦庄太郎  
男 源一郎 明三、四、六生  
女 キキ 明三、一、三生、長男源一郎妻、東京、竹村春吉長女  
君は長野縣人金子次郎の弟にして慶應二年十月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す護謨工業を營む家族は尙三男長三郎(明四三、一〇生)孫源太郎(大一一、〇生)、一〇生、長男源一郎長男(同一二、一〇生)、一〇生、同二男(同一五、八生、同長女)あり(東京、赤坂、青山南町六ノ四九電高輪二九五四)

金子 三四郎 金子鐵業(株)取締役  
妻 マツコ 明六、二生、神奈川、守屋道妹、山梨縣女子師範學校出身  
男 道正 大六、五生  
女 眞佐 明三〇、四生、女子美術學校出身  
女 龍子 明三七、一〇生、聖心女子學院出身  
女 光世子 明四五、二生、お茶の水高等女學校在籍  
女 明子 大二、四生  
君は新潟縣下の豪家金子猪之七の三男にして明治四年

金子 堅太郎 正二位勳一等、子爵、樞密顧問官、新定官、臨時帝室編輯局長、新史料編纂會總裁、東京府華族  
男 武磨 明三〇、一二生  
君は福岡縣人金子堪次郎の五男にして明治二十年三月を以て生れ先代勝太郎の養子となり大正十三年家を督を相續す夙に山口高等商業學校を出で三井銀行に入り現時同行若松支店長たり家族は尙長女道枝(大四、一〇生)四女千代(同一三、一〇生)二男秀(同一五、五生)及妹香代(明四〇、五生)養弟元(大元、一〇生、福岡、土斐崎乘通四男)あり(福岡縣若松市修多羅山ノ口通)

金子 儀助 清水屋、絲商  
妻 義之助 明三五、二生、長男義之助妻、東京、三浦文次郎妹  
男 伊之助 明三五、六生  
女 得之助 明四〇、一〇生  
女 光子 明四三、八生  
君は埼玉縣人金子和三郎の三男にして文久三年十一月を以て生れ明治二十九年兄從之助方より分家して一家を創立す清水屋と稱し絲商を營む家族は尙四女正(大三、七生)孫素子(同一五、二生)長男義之助長女あり(東京、淺草、須賀町一六電淺草三三三三)

金子 圭介 勳四等、大北炭礦、大日本電線紡績各(株)社長、山陽電氣軌道、朝鮮皮革、帝國化學製麻各(株)監査役、山口縣在籍  
男 恭一 明一八、一〇生、農學士  
君は福岡縣人金子金治の弟にして明治十年九月を以て生れ同三十二年分れて一家を創立す質商を營み現に縣下の多額納稅者たり家族は尙五男正司(大元、一二生)三女コウ(同六、二生)四女タカ(同八、三生)七男寬治(同一〇、八生)八男甲子(同一三、一〇生)九男六郎(同一四、六生)孫長六(同一五、二生)、二男長次長男あり長女タツ(明三七、三生)は福岡縣人金子與五郎の養子となり(福岡、伊達、保原町)

金子 治郎 正四位勳三等、醫學博士、金澤醫科大學名譽教授、石川縣土族  
妻 タカ 明九、二生、大阪、土、浦橋備二女  
女 信治 明三九、三生  
女 壽恵 明四一、三生  
君は石川縣土族金子意永の男にして安政五年六月を以て生れ明治十二年家を督を相續す夙に金澤醫學學校を卒業し醫學開業試験に合格し金澤醫學學校助教授第四高等學校教授を経て生理學研究の爲獨逸に留學す現に金澤醫科大學名譽教授たり家族は尙五男琢次(大四、一二生)あり長女とみ(明一七、九生)は福岡縣土族中屋重樹に養子茂(同二三、六生)、石川、土、佐藤慶吉(二女)は石川縣人松原季久郎に同マス(同九、一〇生)、石川、土、谷翁作長女)は同縣土族山田吉郎長男金一郎に嫁せり(金澤、山崎町六ノ二電一五三四)  
參照 中屋重樹の項

金子 周作 米穀商  
妻 かま 元治元、五生、東京、山口三郎妹  
男 はる 明二一、三生、東京、白井友吉妹  
女 文吾 大五、一〇生  
君は東京府人金子半太郎の長男にして明治十七年一月を以て生れ大正九年家を督を相續す米穀商を營む家族は尙三男信恒(大六、一〇生)四男三郎(同一〇、五生)弟政治(明一八、一〇生)同妻リン(同一〇、三生)、東京、平林半三郎妹)及其四子同妻(同四〇、六生)あり同與市(同二七、三生)同一郎(同二九、二生)は各分家し妹とせ(同三〇、九生)は東京府人野村梅吉に嫁せり(東京市外在原町上蛇窪五二二電高輪五八五八)

金子 昌太郎 正五位勳四等、臺灣總督府中央研究所技師兼臺灣總督府技師、農業部技師、群馬縣在籍  
男 正三 明三〇、一二生  
君は新潟縣下の豪家金子猪之七の三男にして明治四年

金子 治郎 正四位勳三等、醫學博士、金澤醫科大學名譽教授、石川縣土族  
妻 タカ 明九、二生、大阪、土、浦橋備二女  
女 信治 明三九、三生  
女 壽恵 明四一、三生  
君は石川縣土族金子意永の男にして安政五年六月を以て生れ明治十二年家を督を相續す夙に金澤醫學學校を卒業し醫學開業試験に合格し金澤醫學學校助教授第四高等學校教授を経て生理學研究の爲獨逸に留學す現に金澤醫科大學名譽教授たり家族は尙五男琢次(大四、一二生)あり長女とみ(明一七、九生)は福岡縣土族中屋重樹に養子茂(同二三、六生)、石川、土、佐藤慶吉(二女)は石川縣人松原季久郎に同マス(同九、一〇生)、石川、土、谷翁作長女)は同縣土族山田吉郎長男金一郎に嫁せり(金澤、山崎町六ノ二電一五三四)  
參照 中屋重樹の項

金子 周作 米穀商  
妻 かま 元治元、五生、東京、山口三郎妹  
男 はる 明二一、三生、東京、白井友吉妹  
女 文吾 大五、一〇生  
君は東京府人金子半太郎の長男にして明治十七年一月を以て生れ大正九年家を督を相續す米穀商を營む家族は尙三男信恒(大六、一〇生)四男三郎(同一〇、五生)弟政治(明一八、一〇生)同妻リン(同一〇、三生)、東京、平林半三郎妹)及其四子同妻(同四〇、六生)あり同與市(同二七、三生)同一郎(同二九、二生)は各分家し妹とせ(同三〇、九生)は東京府人野村梅吉に嫁せり(東京市外在原町上蛇窪五二二電高輪五八五八)





京、日本橋、築地町五〇電渡花一八三〇

金澤 國雄 大阪府在籍

母 くに 明九、五生、大阪、金澤仁兵衛姉
金澤家は先代種次郎徳島縣より出で大阪の資産家金澤
家に養子となり後ち分れて一家を創立したるに始まる
君は其長男にして明治三十四年二月を以て生れ大正十
四年家督を相続す夙に早稲田大學に學ぶ資産家を以て
知られ家主たり(大阪、天王寺、上本町五ノ一、電南
四三三)

參照 金澤仁兵衛の項

金澤 熊男

伊勢電氣鐵道(株)常務取締役、大
井川鐵道(株)取締役、大塚林業、四
日市商會各(株)取締役、四日市倉
庫、静岡電氣鐵道(株)鐵道、鐵道地建
物各(株)監査役、三重縣在籍
男 一、五生、静岡、影山市市長
妻 は ま 衛四女

參照 米津木與平の項

金澤 信一

日本棉花(株)船場支店次長兼綿絲
課長、大阪府在籍
父 仁 文久元、一一生、現戶主
妻 つ や 明二、九生、京都、今井良政二
女 一、四生、京都府立第一高等女學校出身
男 一、雄 明四、四生
君は大阪府人金澤仁作の長男にして明治十七年三月を
以て生れる同十四年京都帝國大學法科大學經濟科を卒
業し現に日本棉花會社船場支店次長兼綿絲課長たり家
族は尙二男良雄(明四三、八生)三男幸三(大八、一、二
生)あり(大阪、西、京町堀通四ノ二一、三)

參照 金澤仁作の項

金澤 末吉

九善(株)取締役
東京府在籍
妻 し な 明七、一一生、静岡、士、加藤正
男 庸 明三三、三生、東京美術學校出身
男 篤 明三四、一一生、東京帝國大學出身
男 海 明三六、一〇生、東京帝國大學在學
女 靜 明四〇、三生、府立第一高等女學
校出身
女 和 明四四、九生、東洋高等女學校在學
君は岐阜縣土佐金澤林平の四男にして慶應元年一月を
以て生れ先代廉吉の養子となり明治十六年家督を相続
す現に九善株式會社取締役たり(東京、本郷、駒込西
片町一〇、一三、電小石川一九〇三)

金澤 忠次郎

米忠、味噌醸造業
大阪府在籍
妻 カ メ 明元、八生、大阪、川口治兵衛三女
男 忠 明三四、一一生、大阪、辻忠三郎三女
女 信 明四四、二生
君は大阪府人先代忠次郎の長男にして明治二十八年八
月を以て生れ大正十五年家督を相続し前名忠忠を改む
米忠と稱し味噌醸造業を営む家族は尙長女八重子(大
一〇、一〇生)及妹マユ(明四一、七生)あり(大阪、西、
江戸堀上通一ノ一、電土佐堀一三六)

金澤 仁作

動四等、大日本紡績(株)取締役、朝
鮮無煙炭、日本製糖(株)神戶製糖
大阪府在籍
妻 信 一 明一七、三生
當家は大阪府人金澤仁兵衛の支流なり君は故大年寄役
大阪西區長金澤川右衛門の二男にして平野平兵衛の叔
父なり文久元年十一月を以て生れ明治十四年家督を相
續す夙に大藏省銀行簿記講習所に學び第四十二銀行に
入りしが同二十二年平野紡績會社社長となり現時前掲
各會社の重役にして曾て大阪商業會議所議員たり兼に
大阪市會議員同府會議員等に擧げられ又衆議院議員に
當選すること二回に及ぶ日獨事件の功により勳四等
に敘せらるる海軍衛に達し清元を能くす長女光子(明三
〇、五生、大阪府立梅田高等女學校出身)は大阪府人中
野太郎に嫁し弟次郎は分家し同六郎(同一〇、五生)は

金澤 冬三郎

大日本製糖、南洋商事、朝鮮農事
南進公司各(株)取締役、新高製糖
ナニハビルディング(株)東北製糖會
内外ビルディング各(株)監査役
東京府在籍
妻 愛 子 明二〇、八生、貴族院議員加藤政
之助二女
男 安 一郎 明四五、五生
女 美 子 明四三、三生
君は埼玉縣人金澤勘次郎の三男にして明治十一年十二
月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す同三十六
年慶應義塾政治科を卒業し時事新報社に入り同社通信
員として渡清す歸朝後大日本製糖會社に入り秘書役庶
務課長東京工場主事同總經理理事大阪工場長兼主事等
に歴任す現に同會社取締役たりと共に前記諸會社の重
役たり家族は尙二男壯二(大四、一一生)あり(東京市外
濠谷町青山北町七ノ二、電青山二四九五)

參照 加藤政之助の項

金澤 正雄

正五位勳四等、岐阜縣知事
大阪府在籍
妻 椿 市內長女
男 明二九、一一生、京都、士、奥平
女 春 市內長女
君は大阪府人金澤松の長男にして明治十七年五月を
以て生れ大正十三年家督を相続す明治四十四年東京帝
國大學法科大學獨法科を卒業し文官高等試験に合格榜
木縣警視廳本長崎各縣理事官愛媛群馬各縣警察部長沖
繩岐阜各縣内務部長長崎新潟各縣書記官等に歴
任し昭和三年岐阜縣知事に任ぜらるる弟男(明三〇、一
〇生)は分家し妹壽野(同二六、一一生)は大阪府人田中
平三郎長男一に嫁せり(岐阜市縣知事官舎)

參照 田中平三郎の項

金澤 安之助

衆議院議員(福島縣選出)、白棚鐵
道(株)取締役、農業、福島縣在籍
妻 キ ヨ 嘉永二、八生、茨城、比後五左衛
門三女
男 多 藏 明三七、六生
君は福島縣人金澤八百藏の長男にして明治八年五月を

力之部 金澤、杉、田

(※印は姻族関係)

カ105

兵庫縣人辰馬吉左衛門妹ひろの入夫となり(大阪、
西、京町堀通四電土佐堀三〇〇六)

參照 金澤信一、辰馬吉左衛門、平野平兵衛の項

兼三郎松尾政吉の項

金澤 仁兵衛

親商船(株)社長、不二興業、神國製
絲、不二鐵山各(株)取締役、米穀商
大阪府在籍
妻 繁 子 明一一、八生、子爵松平直徳姫
君は大阪府人金澤仁兵衛の長男にして明治十一年二月
を以て生れ同三十二年家督を相続し現に前名君太
郎を改む米穀商を営み傍ら親商船會社社長にして前記
諸會社の重役を兼ぬ家族は尙長女喜美子(大四、一、一
生)あり姉くに(明九、五生)は金澤國雄の母にして弟
丑之助(明二二、六生)は分家せり(大阪、西、親南通
一ノ一〇、電土佐堀五六)

參照 子爵松平直徳、金澤國雄の項

辰馬吉左衛門の項

金澤 彦作

百十三銀行(株)取締役、函館毎日
新聞社長、北海道在籍
妻 タ カ 明七、九生、北海道松代良吉長女
男 忠 明三三、八生
男 謙 明三七、一一生、三男忠藏妻、北海
道、増永岩吉二女
男 源太郎 明三五、一一生
男 嘉四郎 明三五、一一生
男 源太郎 明三八、七生
君は北海道人金澤彌惣兵衛の長男にして慶應三年九月
を以て生れ明治二十三年家督を相続す現時函館毎日新
聞社長にして前記銀行の重役たり兼に函館商會毎日新
聞市會議員同商會會議所顧問特別議員等に擧げら
れしことあり家族は尙六男六郎(明四三、一一生)七男啓
七(同四四、八生)八男八郎(大三、一一生)三女綾子(同
五、三生)四女久子(同八、三生)孫市作(昭二、五生)、
三男忠藏(長男)あり長女モト(明二五、一一生)は北海
道人小西誠一に嫁し養子ツル(同四、九生、北海道、金
澤榮吉長女)は同夫養子三郎(同元、八生、北海道、黒口
豊吉弟)と共に其の二女を伴ひ分家せり(函館、富岡町
五)

參照 小西誠一の項

金澤 利助

播磨冷港、信貴生駒電鐵、日本眞
珠各(株)監査役、大阪府在籍
妻 シ ョ 明一四、二生、大阪、竹島源藏四女
男 純 一 明三七、二生
女 秀 子 明三八、九生
女 富 貴 子 明四五、七生
君は大阪府人先代利助の二男にして明治九年九月を以
て生れ同三十三年家督を相続し前名常吉を改め現名す
現時前記諸會社の重役たり大正十一年紺綬褒章を賜ふ
家族は尙四男信三(明四三、一一生)あり妹しな(同一
五、三生)は大阪府人高川シマに二女まき子(同三六、
二生)は同府人佐藤卯之助に各養子となり長女いと子
(同三六、二生)は同府人玉置豊次郎に嫁し二男二郎(同
三九、一〇生)は同府人金澤ひさの死跡を相続せり(大
阪、南、阪町二九電南三八)

參照 竹島源藏の項

金澤 理三郎

埼玉縣多額納税者、栗橋銀行(株)
監査役、農業、埼玉縣在籍
妻 理 康 明三六、三生
男 茂 登 明三八、一一生、長男理康妻、埼玉、
三上健太郎姉
君は埼玉縣人金澤藤五郎の三男にして明治十二年四月
を以て生れ同三十九年家督を相続す同三十年明治法律
學校を卒業し租業農を繼ぐ傍ら栗橋銀行監査役を兼ね
現に縣下の多額納税者たり長女しづ(明三三、一一生)
は埼玉縣人小林賢太郎長男雄刀に嫁せり(埼玉、
北葛飾、吉田村)

參照 小林賢太郎の項

金杉 英五郎

醫學博士、貴族院議員、日本醫師
共済生命保險(株)取締役、東京慈
惠會醫科大學々長、東京市醫師會
長、金杉病院院長、醫師
妻 タ キ 明八、四生、福岡、大藏守治姉

金田 榮太郎

廣島縣觀音地先理立(株)代表取締
役、出雲電氣、西見川水力工業、備
前倉庫各(株)取締役、廣島縣在籍
妻 豊 子 明三〇、七生、鳥取、塚本清市四女
男 健 一郎 明三〇、七生
君は廣島縣人金田藤治の長男にして明治十七年六月を
以て生れ同十四年家督を相続す同三十九年東京高等
商業學校を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙
二男國衛(大七、四生)三男民夫(同八、五生)四男正士
(同一、七生)五男義人(同一三、八生)長女榮子(同一
五、九生)あり(廣島市上柳町三三ノ二)

金田 鬼一

正五位勳五等、學習院教授、教務
課長、東京府士族







家政専攻科出身... 河村謙三郎、瀬古保次、武田徳三郎の項

金森仙之助

和泉仙商店、酒造業... 明八、一生、愛知、横井清太郎妹

君は愛知縣人先代仙之助の長男にして明治九年七月を以て生れ同二十二年家督を相続す和泉仙商店と稱し酒造業を營む家族は尚二男正造(大四、七生)あり長女ふみ(明三〇、九生)は同夫國治(同二二、三三)愛知、田島松兵衛(三男)と共に分家し二女綾(同三八、一〇生)は愛知縣人三輪不二雄に嫁す(同二七、七生)は同縣人恒川平一に嫁せり(名古屋、中、旅籠町八二、南三三七)

金森徳次郎

正五位勳三等、法制局参事官兼行政裁判所評定官、法制局第一部長... 明二八、一〇生、東京、櫻井純一

君は愛知縣人金森新七の弟にして明治十九年三月を以て生れ大正九年分家して一家を創立す明治四十五年東京帝國大學法科大學英法科を卒業す成績優秀にして恩賜の時計を拜受し又在學中文官高等試験に合格せり大正三年法制局参事官兼内閣恩給局審査官に任ぜられ法制局書記官同第二部長心得高等試験第一部及第二部長任委員行政裁判所評定官法制局書記官等に歴任し現時法制局参事官兼行政裁判所評定官にして官内省御用掛たり又中央大學日本大學明治大學各講師を委嘱せり古今研究の好み繪畫寫真園藝等を趣味とす家族は前記の外長女(大一〇、一〇生)二男敏雄(同一五、四生)あり(東京、本郷、森川町一申通二六九電小石川六七四) 参照 宗市村郷の項

金森仁太郎

土木建築請負業... 大府在籍... 明七、一生、大阪、桑名文蔵妹

君は大府人金森乙吉の長男にして明治二年七月を以て生れ同二十九年家督を相続す土木建築請負業を營む家族は尚三女キミ子(大四、五生)庶子康民(同五、一〇生)生母、大阪、福本マツ(孫嘉子同九、一二生)長男嘉平次(庶子、生母、森ふさ)妹(明八、二生)あり長女キヨ子(同四四、一〇生)は大阪府人金森長次郎の養子となれり(大阪、港、石田町)

金森弘三

大和興業(株)取締役、東京株式取引所取引員、愛知縣在籍... 明一五、一〇生、岐阜、小林吉作

君は岐阜縣人金森兼一郎の長男にして明治十年一月を以て生れ大正五年家督を相続す東京株式取引所所長短期取引員にして大和興業會社取締役たり(東京、日本橋、南茅場町河原一號)

金森又一郎

大阪電氣軌道、參宮急行電鐵、大和鐵道(株)社長、境川運河(株)取締役、奈良電氣鐵道(株)監査役... 明八、五生、兵庫、山本直吉妹

君は大府人金森又兵衛の長男にして明治六年二月を以て生れ同二十年家督を相続す夙に實業界に投じ現に大阪電氣軌道會社社長たる外前掲諸會社の重役として知らるる家族は尚孫茂一郎(大一、八生)二男乾次(明三二、男同和子(同一三、四生)同長女)あり長女秋(明三二、女)

金森元之助

養父、萬太郎... 明一七、七生、養父萬太郎養子、安立房次郎

君は島根縣人金森福之助の二男にして明治十年五月を以て生れ同四十四年養父萬太郎の養子となる同三十八年明治大學を卒業し判檢事登用試験に合格し判事に任じ山口區裁判所判事兼同地方裁判所判事に補せられ爾來益田米子市三次各區裁判所判事に歴補し大正十二年廣島區裁判所監督となり翌十三年同地方裁判所判事を兼ね現在に至る家族は尚二男修(大四、九生)あり(廣島市區裁判所内)

金盛佐平治

阪上商店(株)代表社員... 明一五、一〇生、埼玉、矢澤權次

君は東京府人金盛多兵衛の二男にして明治九年六月を以て生れ同三十四年分家して一家を創立す現時前記會社の重役たり家族は尚四女た(大三、一〇生)二男良治(同八、三三)五女と子(同一五、三三)あり長女佐久(明三五、一〇生)は東京府人井出孝吉に嫁せり(東京、小石川、指ヶ谷町五三)

金谷

日生銀行(株)取締役... 明一四、一〇生、岡山、小西正二姪

君は岡山縣人金谷又市郎の長男にして明治六年一月を以て生れ大正十五年家督を相続す現時日生銀行取締役

金谷範三

從三位勳二等功四級、陸軍中將、朝鮮軍司令官、東京府在籍... 明九、一〇生、山口、田邊與壯妹

君は大分縣人金谷立基の二男にして明治六年四月を以て生れ同四十二年家督を相続す同二十七年陸軍歩兵少尉に任じ大正十一年陸軍中將に累進す其間陸軍大學校兵學教官兼陸軍各大使館附武官參謀本部參謀本部陸軍軍令部參謀支那駐屯軍司令官參謀本部第一部長陸軍海軍令部參謀支那駐屯軍司令官兼陸軍大學校長鐵道會議々幹事第十八師團長參謀次長兼陸軍大學校長鐵道會議々員等に歴補し現時朝鮮軍司令官たり家族は尚二男正雄(明四三、五生)三女靜(大五、七生)三男健夫(同七、一〇生)の外弟學(明一、三三)あり長女貞(同三六、一〇生)は陸軍歩兵少佐參謀本部員丸山政男に嫁せり(朝鮮、龍山朝鮮軍司令官々舎)

金谷與平

石川縣多額納稅者、松任倉庫運輸(株)取締役、酒造業、石川縣在籍... 明二〇、一〇生、石川、木村仁三

君は石川縣人金谷與平の長男にして明治十七年四月を以て生れ大正九年家督を相続し前名與三松を改め與平と酒造業を營み松任倉庫運輸會社取締役にして石川縣多額納稅者たり家族は尚養子不二男(大三、二生)石川、酒井忠三郎(長男)孫秀夫(同一、一〇生)亡養子勝三郎(二男)同文雄(昭二、四生)養子與行三男(姪千彌子(明四五、六生)あり(石川、石川、松任町))

金家壯平

山口縣多額納稅者、乾物商... 明一五、七生、山口、金家養妹

君は山口縣人金谷岩吉の弟にして明治十七年十一月を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す現時帝國水道工業會社長たる外前記會社の重役たり家族は尚二女房子(大八、五生)二男英夫(同一三、四生)三男恭三郎(同一五、六生)あり(大阪、住吉、住吉町一〇二五電住吉四一七)

金谷眞一

栃木縣多額納稅者、富士屋ホテル(株)取締役、日光電氣軌道(株)監査役、旅館業、栃木縣在籍... 明六、三三、栃木、神保多一郎長女

君は栃木縣人金谷善一郎の長男山口正造の兄にして明治十二年十二月を以て生れ大正六年家督を相続す旅館業を營み現に前記各會社の重役にして栃木縣多額納稅者たり家族は尚孫太郎(大一五、五生)養子正夫(長男)の外妹徳子(明三九、二生)同國子(同四三、九生)同節子(大四、三三)同照子(生年月同上)あり同登志(明三二、四生)は茨城縣人松島新十郎二男文衛に嫁し同喜久(同三四、一〇生)は栃木縣人金谷正生に弟昇(同三七、三三)は同縣人申橋センに各養子となれり(栃木、上都賀、日光町) 参照 山口正造の項

金谷藤兵衛

地金商在籍... 明七、八生、先代藤兵衛長女

君は奈良縣人藤兵衛大村源太郎の弟にして明治三年十月を以て生れ先代藤兵衛の養子となり同三十六年家督を相続し現に地金商を營む(大阪、北、老松町二ノ四五電北二二五七)

金谷豊吉

資産家... 長水二、三三、茨城、金谷喜平次

君は茨城縣人先代五平の長男にして慶應元年六月を以て生れ明治十年家督を相続す資産家たり家族は尚孫豊子(大九、一〇生)長男直次郎(長女)同守(同一、一〇生)同長男(同二、一〇生)同二女(同二、一〇生)あり長女みね(明一七、三三)は茨

金谷治兵衛

大阪府在籍... 明一九、二生、大阪、三村萬藏二女

君は大府人先代治兵衛の長男にして明治十七年三月を以て生れ同三十九年家督を相続し現に前記會社の重役たり家族は尚二女(明三三、一〇生)は分家し妹壽恵(同二九、九生)は大府人雲出米治郎二男藤次郎に嫁せり(大阪、南、瓦屋町一番丁七電南六七〇)

金谷信吉

帝國水道工業(株)取締役、山田工業(株)取締役、山田工業(株)取締役、山田工業(株)取締役... 明二七、二生、鳥取、土、山田頼

君は和歌山縣人金谷岩吉の弟にして明治十七年十一月を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す現時帝國水道工業會社長たる外前記會社の重役たり家族は尚二女房子(大八、五生)二男英夫(同一三、四生)三男恭三郎(同一五、六生)あり(大阪、住吉、住吉町一〇二五電住吉四一七)

兼子 佐祐 明三〇、一一生、長女ツル夫、山...

金山 季逸

君は富山縣人金山季逸の甥にして明治十一年九月を以...

金山 賢一

君は島根縣人小林瀧十郎の二男にして同利一郎の弟なり...

金山 從革

君は富山縣人金山半治の長男にして元治元年十一月を...

以て生れ明治三十四年家督を相続す現に立山鐵道會社...

金山 久松

君は富山縣人金山傳六の長男にして明治八年一月を以...

叶内 長兵衛

君は山形縣人叶内源之介の長男にして明治八年一月を...

兼子 靖議

君は德島縣人原田龜吉に姪マヌ(同二七、一一生)は...

兼子 梯次

君は福島縣人須田善吉の二男にして明治十五年四月を...

兼子 孫一郎

君は滋賀縣人須田善吉の兄にして慶應二年十二月を...

兼子 寅之助

君は滋賀縣人兼松松次郎の兄にして慶應二年十二月を...

兼子 正名

君は愛知縣人兼松右衛門の長男にして慶應元年正月を...

兼子 起子

君は佐賀縣人兼松助の長男にして萬延元年十二月を...

兼子 直太郎

君は佐賀縣人兼松助の長男にして萬延元年十二月を...

兼子 都子

君は佐賀縣人兼松助の長男にして萬延元年十二月を...

兼子 都子

君は佐賀縣人兼松助の長男にして萬延元年十二月を...



**釜屋 忠道** 正四位勳二等功四級、後備海軍中將、神奈川縣在籍  
 君は大阪府人釜屋兵衛の長男にして明治二十年三月を以て生れ大正六年家督を相続し前名友治郎を改め襲名す毛布眞田純商を營む家族は尙長女富美子(大一一、八生)あり(大阪、南、順慶町四ノ二六電報場一八)

**釜屋 忠道** 正四位勳二等功四級、後備海軍中將、神奈川縣在籍  
 君は舊米澤藩士釜屋敬助の三男にして同六郎の兄なり文久二年九月を以て生れ明治三十四年分家して一家を創立し前名源五郎を改む同十七年海軍兵學校を卒業し同十九年海軍少尉に任じ大正三年海軍中將に累進す其間龍田佐渡丸沖島日出雲肥前各艦長佐世保鎮守府海兵團長横須賀水雷團長旅順横須賀各鎮守府參謀長佐世保艦隊司令官馬公要港部司令官等に歴補し現に後備役たり(神奈川、三浦、逗子町八六五)

**釜屋 六郎** 正四位勳二等功四級、後備海軍中將、東京府在籍  
 君は山形縣士族釜屋忠道の弟にして明治元年正月を以て生れ同三十四年分れて一家を創立す同二十年海軍兵學校を卒業し同二十二年海軍少尉に任じ大正八年海軍中將に累進す其間京族府士官候補生守府參謀千蔵安藝島各艦長竹敷要港部參謀長水路部參謀長守府區政委員港灣調査委員朝鮮總督府附武官第二艦隊司令官等に歴補せり家族は尙三男正誠(大九、八生)あり長女壽子(明三四、七生)は茨城縣人栗原徳治長男信一に女綾子(同三五、一一生)は群馬縣士族野口寅次郎長男小吉郎に嫁せり(東京、麻布、富士見町一五電高輪七六一)

**釜屋 忠道**、野口寅次郎の項

**釜尾政之助** 新宮銀行(株)頭取、醫師  
 兵庫縣在籍  
 妻 慶應二、一一生、養父萬壽長女

**鎌倉 義喜** 正五位勳四等、後備海軍中佐、北海道帝國大學附屬水産專門部教授  
 君は長野縣人鎌倉太彌の弟にして明治九年十月を以て生れ同三十一年海軍兵學校を卒業し同三十三年海軍少尉に任じ累進して海軍中佐に陞進す其間天城航海長敷島各分隊長關東丸航海長電報長水路部測量科員等に歴補す現時北海道帝國大學附屬水産專門部教授たり家族は尙三女倫子(大三、七生)三男實(同七、二生)四男經雄(同二〇、三生)の外兄太彌治(明六、一〇生)現戶主同妻あり姉八枝菊(明二八、一一生)は長野縣人松本宏に嫁せり(札幌、南六條西三丁目)

**鎌倉 貞藏** 住友銀行(株)検査役  
 福岡縣在籍  
 妻 高 明三三、二生、岡山、山根芳藏五女  
 眞 男 明四三、四生

**鎌田 憲夫** 鎌田産業(株)取締役  
 香川縣在籍  
 妻 文久二、一一生、現戶主  
 眞 男 明二〇、一一生、香川、黒瀬與重  
 女 眞 二女

**鎌田 敬四郎** 朝日新聞社(株)出版部編輯長  
 福島縣士族  
 妻 フサノ 明二一、四生、大阪、佐々木實治妹  
 眞 男 正 勝 大一一、八生

**鎌田 喜太郎** 香川縣多額納税者、日本花菰(株)取締役、農業、香川縣在籍  
 妻 クニ 明一六、七生、香川、鎌田虎太郎妹  
 眞 男 復一 明三七、一一生  
 女 運子 明三五、七生  
 眞 男 久 明四一、二生

**鎌田 憲吉** 廣島縣多額納税者、廣島株式取引所取引員、廣島縣在籍  
 妻 ヒデ 明二五、五生、高瀬徳藏二女  
 眞 男 孝吉 明四五、一一生

**鎌田 三郎兵衛** 勳五等、兵庫縣多額納税者、大屋銀行(株)頭取、五十五銀行(株)取締役、農業、兵庫縣在籍  
 妻 敏 明二八、一一生、口大屋村長  
 眞 男 強三 明三四、八生、長男強三妻、兵庫  
 女 道 明四二、九生

**鎌田 繁治** 石川島飛行機製作所(株)常務取締役、泰生洋行(株)取締役  
 安政五、一一生、山形、鎌田三右衛門長女、現戶主  
 妻 たけ 明二二、一一生、山形、山本熊次郎長女  
 女 きみ子 明四三、八生  
 女 ふじ 明四一、一一生

**鎌田 重吉** 海産物商、味噌醸造業、青森縣在籍  
 妻 み 明一九、七生、青森、鎌田文助長女  
 眞 男 義雄 明三六、一一生  
 眞 男 吾市 明二九、二生、養子フサ夫、島根  
 養子 フサ 明二九、五生、養子吾市妻母リク

**鎌田 傳三郎** 島根縣多額納税者、九十倉庫(株)取締役、吳服太物商、島根縣在籍  
 妻 眞 子 明二九、五生、養子吾市妻母リク  
 眞 男 吾市 明二九、五生、養子吾市妻母リク  
 眞 女 邦子 明四五、二生

**鎌田 憲夫** 鎌田産業(株)取締役  
 香川縣在籍  
 妻 文久二、一一生、現戶主  
 眞 男 明二〇、一一生、香川、黒瀬與重  
 女 眞 二女

**鎌田 憲夫** 鎌田産業(株)取締役  
 香川縣在籍  
 妻 文久二、一一生、現戶主  
 眞 男 明二〇、一一生、香川、黒瀬與重  
 女 眞 二女

**鎌田 敬四郎** 朝日新聞社(株)出版部編輯長  
 福島縣士族  
 妻 フサノ 明二一、四生、大阪、佐々木實治妹  
 眞 男 正 勝 大一一、八生

**鎌田 喜太郎** 香川縣多額納税者、日本花菰(株)取締役、農業、香川縣在籍  
 妻 クニ 明一六、七生、香川、鎌田虎太郎妹  
 眞 男 復一 明三七、一一生  
 女 運子 明三五、七生  
 眞 男 久 明四一、二生

**鎌田 憲吉** 廣島縣多額納税者、廣島株式取引所取引員、廣島縣在籍  
 妻 ヒデ 明二五、五生、高瀬徳藏二女  
 眞 男 孝吉 明四五、一一生

**鎌田 三郎兵衛** 勳五等、兵庫縣多額納税者、大屋銀行(株)頭取、五十五銀行(株)取締役、農業、兵庫縣在籍  
 妻 敏 明二八、一一生、口大屋村長  
 眞 男 強三 明三四、八生、長男強三妻、兵庫  
 女 道 明四二、九生

**鎌田 繁治** 石川島飛行機製作所(株)常務取締役、泰生洋行(株)取締役  
 安政五、一一生、山形、鎌田三右衛門長女、現戶主  
 妻 たけ 明二二、一一生、山形、山本熊次郎長女  
 女 きみ子 明四三、八生  
 女 ふじ 明四一、一一生

**鎌田 重吉** 海産物商、味噌醸造業、青森縣在籍  
 妻 み 明一九、七生、青森、鎌田文助長女  
 眞 男 義雄 明三六、一一生  
 眞 男 吾市 明二九、二生、養子フサ夫、島根  
 養子 フサ 明二九、五生、養子吾市妻母リク

**鎌田 傳三郎** 島根縣多額納税者、九十倉庫(株)取締役、吳服太物商、島根縣在籍  
 妻 眞 子 明二九、五生、養子吾市妻母リク  
 眞 男 吾市 明二九、五生、養子吾市妻母リク  
 眞 女 邦子 明四五、二生

**鎌田 憲夫** 鎌田産業(株)取締役  
 香川縣在籍  
 妻 文久二、一一生、現戶主  
 眞 男 明二〇、一一生、香川、黒瀬與重  
 女 眞 二女

**鎌田 敬四郎** 朝日新聞社(株)出版部編輯長  
 福島縣士族  
 妻 フサノ 明二一、四生、大阪、佐々木實治妹  
 眞 男 正 勝 大一一、八生

**鎌田 喜太郎** 香川縣多額納税者、日本花菰(株)取締役、農業、香川縣在籍  
 妻 クニ 明一六、七生、香川、鎌田虎太郎妹  
 眞 男 復一 明三七、一一生  
 女 運子 明三五、七生  
 眞 男 久 明四一、二生

**鎌田 憲吉** 廣島縣多額納税者、廣島株式取引所取引員、廣島縣在籍  
 妻 ヒデ 明二五、五生、高瀬徳藏二女  
 眞 男 孝吉 明四五、一一生

**鎌田 三郎兵衛** 勳五等、兵庫縣多額納税者、大屋銀行(株)頭取、五十五銀行(株)取締役、農業、兵庫縣在籍  
 妻 敏 明二八、一一生、口大屋村長  
 眞 男 強三 明三四、八生、長男強三妻、兵庫  
 女 道 明四二、九生

**鎌田 繁治** 石川島飛行機製作所(株)常務取締役、泰生洋行(株)取締役  
 安政五、一一生、山形、鎌田三右衛門長女、現戶主  
 妻 たけ 明二二、一一生、山形、山本熊次郎長女  
 女 きみ子 明四三、八生  
 女 ふじ 明四一、一一生

**鎌田 重吉** 海産物商、味噌醸造業、青森縣在籍  
 妻 み 明一九、七生、青森、鎌田文助長女  
 眞 男 義雄 明三六、一一生  
 眞 男 吾市 明二九、二生、養子フサ夫、島根  
 養子 フサ 明二九、五生、養子吾市妻母リク

**鎌田 傳三郎** 島根縣多額納税者、九十倉庫(株)取締役、吳服太物商、島根縣在籍  
 妻 眞 子 明二九、五生、養子吾市妻母リク  
 眞 男 吾市 明二九、五生、養子吾市妻母リク  
 眞 女 邦子 明四五、二生

**鎌田 憲夫** 鎌田産業(株)取締役  
 香川縣在籍  
 妻 文久二、一一生、現戶主  
 眞 男 明二〇、一一生、香川、黒瀬與重  
 女 眞 二女

**鎌田 敬四郎** 朝日新聞社(株)出版部編輯長  
 福島縣士族  
 妻 フサノ 明二一、四生、大阪、佐々木實治妹  
 眞 男 正 勝 大一一、八生

**鎌田 喜太郎** 香川縣多額納税者、日本花菰(株)取締役、農業、香川縣在籍  
 妻 クニ 明一六、七生、香川、鎌田虎太郎妹  
 眞 男 復一 明三七、一一生  
 女 運子 明三五、七生  
 眞 男 久 明四一、二生

**鎌田 憲吉** 廣島縣多額納税者、廣島株式取引所取引員、廣島縣在籍  
 妻 ヒデ 明二五、五生、高瀬徳藏二女  
 眞 男 孝吉 明四五、一一生

**鎌田 三郎兵衛** 勳五等、兵庫縣多額納税者、大屋銀行(株)頭取、五十五銀行(株)取締役、農業、兵庫縣在籍  
 妻 敏 明二八、一一生、口大屋村長  
 眞 男 強三 明三四、八生、長男強三妻、兵庫  
 女 道 明四二、九生

**鎌田 繁治** 石川島飛行機製作所(株)常務取締役、泰生洋行(株)取締役  
 安政五、一一生、山形、鎌田三右衛門長女、現戶主  
 妻 たけ 明二二、一一生、山形、山本熊次郎長女  
 女 きみ子 明四三、八生  
 女 ふじ 明四一、一一生

**鎌田 重吉** 海産物商、味噌醸造業、青森縣在籍  
 妻 み 明一九、七生、青森、鎌田文助長女  
 眞 男 義雄 明三六、一一生  
 眞 男 吾市 明二九、二生、養子フサ夫、島根  
 養子 フサ 明二九、五生、養子吾市妻母リク

**鎌田 傳三郎** 島根縣多額納税者、九十倉庫(株)取締役、吳服太物商、島根縣在籍  
 妻 眞 子 明二九、五生、養子吾市妻母リク  
 眞 男 吾市 明二九、五生、養子吾市妻母リク  
 眞 女 邦子 明四五、二生

美枝子(同一五、五生、同四女)の外弟喜助(明二〇、一一生)同妻益子(同三一、二生、島根、牧野助三郎長女)及其二男二女あり(島根、能義、安來町)

鎌田 虎太郎

香川縣多額納稅者、大内銀行(株)頭取、日本花産、大川製米各(株)取締、香川縣在籍  
君は香川縣人鎌田長五郎の長男にして元治元年十一月を以て生れ明治十六年家督を相続す現に香川縣下の多額納稅者にして大内銀行頭取たる外前記銀行會社の重役として知らるる家族は妹ルイ(明一六、三三)あり弟修藏(同元、四生)は香川縣人竹内鹿太郎に同恒太郎(同七、一二)は同縣人栗生喜之助に各養子となり妹シゲ(同二、一二)は同縣人蓮井藤吉に同クニ(同一三、七生)は同縣人鎌田喜太郎に同イチ(同一八、三三)は同弟英太郎に嫁せり(香川、大川、白鳥村)  
參照 鎌田喜太郎の項

鎌田 藤彦

吉田銀行(株)常務取締役  
石川縣在籍  
妻 フナ 明三三、九生、鹿兒島、土、藤島良  
男 政 明三三、九生  
男 政 明三七、一一生、二男政教妻、京都  
男 政 明三七、一一生、二男政教妻、京都  
女 金子 明四〇、一一生

鎌田 文男

東京府在籍  
君は東京府人鎌田藤次郎の長男にして明治三十九年二月を以て生れ同四十二年家督を相続す地主たり家族は妹泰子(明四一、一一生)あり叔母美津(同一九、七生)は分家せり(東京市外神田町新町一五七)  
鎌田 正明 日本興業銀行(株)理事、計理課長兼外務課長、共立モスリン(株)監査役、東京府在籍

母 フイ 嘉永三、五生、香川、久保嘉次郎長女  
妻 嘉 明二三、一一生、香川、土、三野嘉吉郎長女

鎌田 彌壽治

正五位勳五等、東京高等工藝學校教授、徳島縣在籍  
君は香川縣人鎌田豊太郎の弟にして明治二十一年三月を以て生れ昭和二年分家して一家を創立す明治四十二年東洋協會專門學校を卒業し翌四十二年東洋拓殖會社に入りしが大正六年日本興業銀行に轉じ現に計理課長兼外務課長にして共立モスリン會社監査役を兼ねる家族は尙養子久仁子(大一一、九生、山口、山村榮一三女)あり(東京市外代々木町代々木一三二七)

喜代彦

三井銀行(株)本店營業部庶務係長  
分縣在籍  
君は徳島縣人鎌田虎太郎の五男にして明治十六年三月を以て生れ同四十二年京都帝國大學理工科大學應用化學科を卒業し東京美術學校教授に任じ光化學及寫眞製版學研究の爲め佛獨に留學す大正十一年東京高等工藝學校教授に轉じ現に其職にあり家族は尙二男健二(大六、五生)二女恵子(同一二、八生)三女福子(明二二、四生)の外兄儀三太(文久三、九生)甥家治(明二二、三三)兄儀三太(現戸主)及其妻弟妹兄貞太郎(同一二、五生)並に其子女あり(東京、本郷、駒込町二二三二電小石川三六六)

上 喜代彦

三井銀行(株)本店營業部庶務係長  
分縣在籍  
君は大分縣土族上席土族の長男にして明治十二年十月を以て生れ大正六年家督を相続す現に三井銀行本店營業部庶務係長たり家族は尙二女喜美子(大一一、一一生)あり弟登代彦(明二四、六生)は分家し妹タカは熊本縣人志水慎民に同トメは熊本縣人上村貞太に同アキは群馬縣人猿谷吉太郎に嫁せり(東京市外高田町目白上り屋敷三六一六電牛込五六六五)

上 雄之助 埼玉縣多額納稅者、農業  
父 桂 助 弘化元、二生  
母 利 武 明一三、五生、埼玉、白石太平三女  
妻 節 明三五、三三、長男利武妻、埼玉、福島貞次郎二女  
女 愛 子 明四四、一一生

上 泉 德彌

從四位勳三等功三級、後備海軍中將、國風會々長、山形縣土族  
君は山形縣土族上泉清次郎の長男にして應應元年九月を以て生れ明治二十二年海軍少尉に任じ同三十年海軍大學校を卒業し大正二年海軍中尉に累進す其間海軍々司令部附生駒薩摩各艦長横須賀海軍工廠職員大湊要港司令官佐佐保水雷隊司令官等に歷補し現時國風會々長たり家族は尙甥幸吉(文久元、五生)亡兄直藏長男(現戸主)同妻きよ(明七、五生、山本晴長女)及其子女同忠吉(慶應元、二生)亡兄直藏(明二)同妻トミ(明一六、二生)大分、合馬作米妹)同貞吉(同一二、一〇)生、同三男)同妻い(同一三、三三)陸軍少將岩井勘六妹)及其子女あり(神奈川、鎌倉、逗子町)

上 内恒三郎

正五位勳四等、臺灣總督府法院檢察官、高等法院檢察官  
大分縣在籍  
君は北海道入上勢儀左衛門の長男にして明治九年十月

上 元藏

從四位勳四等、判事、大分地方裁判所判事、長野縣在籍  
妻 てる 明八、六生、新潟、丸山豊治郎妹  
養子 軍 一 明三七、二生、三女キクノ夫、長野、長井直樹三男、北海道帝國大學工學部在學  
女 キクノ 明三八、一〇生、養子軍一妻、共立女子職業學校高等師範科卒業  
女 ウメノ 明四四、二生

上 勢 豊治

北海道多額納稅者、北海道商會(株)監査役、荒物商、北海道在籍  
妻 とり 安政二、一一生、北海道、神田太郎兵衛二女  
母 すへ 明一九、六生、北海道、河邊平二郎三女  
妻 英一郎 明三六、八生  
男 清次 明三八、三三  
女 清次 明四〇、三三

上 久保勝吉

勳八等、高知縣多額納稅者、農業  
高知縣土族  
妻 佐嘉恵 明一、四生、高知、山本道夫妹  
男 正 貴 明二五、一一生、香宗村長  
男 幸 子 明二八、一一生、長男正貴妻、高知、山口正徳六女

上 條 桂十郎

從五位勳五等、判事、長野地方裁判所部長、長野縣在籍  
君は高知縣土族上久保正治の長男にして明治三年十二月を以て生れ同三十七年家督を相続す農業に従事し現に高知縣多額納稅者たり兼に高知縣參事會員たりし事あり家族は尙孫房(大四、一〇)生、長男正貴長女)あり(高知、香美、香宗村)

上 條 辰藏

正五位勳四等、東京商科大学豫科教授兼附屬商學專門部教授  
長野縣在籍  
妻 しげる 明二一、三三、長野、穂苜吉語四女  
男 次 郎 明三九、一〇生

上 條 信

衆議院議員(長野縣選出)、東筑電氣、筑摩電氣、平水館、志野野新開社、布引電氣鐵道各(株)社長、長野縣工銀行、諏訪電氣鐵道、上州電氣鐵道各(株)取締役  
長野縣在籍  
妻 猪於惠 明二三、七生、長野、吉川芳太郎二女  
男 盛 典 大四、一一生  
君は長野縣人上條謹一郎の長男にして明治十七年十月

上 岡 作太郎

沖繩縣多額納稅者、金融業  
沖繩縣在籍  
妻 ハヤ 明九、三三、廣島、中下藤平長女  
男 一 雪 明三三、七生  
男 雪 明三七、三三、長男一雪妻、廣島、小早川若松四女  
女 ミサヲ 明三〇、一一生

上 久 保勝吉

勳八等、高知縣多額納稅者、農業  
高知縣土族  
妻 佐嘉恵 明一、四生、高知、山本道夫妹  
男 正 貴 明二五、一一生、香宗村長  
男 幸 子 明二八、一一生、長男正貴妻、高知、山口正徳六女

上 條 桂十郎

從五位勳五等、判事、長野地方裁判所部長、長野縣在籍  
君は高知縣土族上久保正治の長男にして明治三年十二月を以て生れ同三十七年家督を相続す農業に従事し現に高知縣多額納稅者たり兼に高知縣參事會員たりし事あり家族は尙孫房(大四、一〇)生、長男正貴長女)あり(高知、香美、香宗村)





鐵隊常備隊横須賀鎮守府司令官軍事參議官等に  
 應補し日露の役露國清國艦隊を蔚山沖に擊破して英名  
 を馳せ功を以て功一級に叙し華族に列し男爵を授け  
 らる君實は侯爵西郷從徳の弟伯爵小松從志西郷從二の  
 實兄にして明治十四年一月を以て先代彦之丞の養  
 子となり大正五年家督を相續し侯爵に付ける明治十  
 二年海軍兵學校を卒業して少尉候補生となり累進し  
 て海軍大佐に階る大正十四年貴族院議員に當選す家  
 族は尚二女濱子(大五、七生)あり(東京市外目黒町上  
 目黒一三三電青山六三二)

參照 侯爵西郷從徳、伯爵小松從志、伯爵山本權兵  
 衛、西郷從二、侯爵岩倉具實、侯爵子爵稻葉順通  
 ※男爵伊地知精宗、男爵古河虎之助、財部彪、松方  
 乙彦、山田、善山、山本、盛正の項

上村新之助

上村洋紙店、洋紙商  
 妻 新 明一、八生、千葉、水野茂八長女  
 男 新 明一、八生、千葉、水野茂八長女

君は新潟縣人上村新三郎の長男にして明治十五年三月  
 を以て生れ同四十二年六月家督を相續す夙に上京し同  
 四十年洋紙商を開業し漸次發展して今日の盛況を見る  
 に至り家族は尚二男新二郎(明四五、五生、東京府  
 立第三中學校在學)あり姉ユキ(同三二、二生)同夫新五  
 郎(元京橋區會議員)は分家し叔母トシ(安政四、一、二  
 生)も亦分家し明新平(明三四、七生)は其養子となれり  
 (東京、淺草、駒形町二七電淺草一六九三一一六九五  
 「別宅」東京、淺草、山ノ宿町五二電淺草六五七七)  
 參照 大橋長五郎の項

上村良助

鹿兒島縣多額納稅者、農業  
 妻 政子 明一、八生、長男琢磨妻、鹿兒  
 男 達也 明三、四生

君は鹿兒島縣土佐村平藏の二男にして萬延元年十二  
 月を以て生れ先代珍樹の養子となり慶應三年家督を相  
 續す農を業とし現に縣下の多額納稅者たり家族は尚孫  
 多惠子(大一一、七生、長男琢磨長女同恒久(同一三、

上柳喜右衛門

長野縣多額納稅者、蕪橋堂ホテル  
 妻 喜 那 明三、九生、養叔父縁二女  
 男 清 治 大一一、五生、養叔父縁二女

君は長野縣人先代喜右衛門の五男にして明治二十八年  
 二月を以て生れ大正十二年家督を相續し前名多賀治を  
 改め襲名す酒造業を營み傍ら蕪橋堂ホテル監査役に  
 長野縣多額納稅者たり家族は尚長女明子(大九、一、  
 二生)二女縁子(同一五、七生)あり姉八代(明二三、八  
 二生)は長野縣人木下八郎養弟辰雄に養叔母とし(同  
 二、一〇生)は同縣人藤澤源一郎長男富太郎に嫁し養  
 叔父縁(慶應元、一〇生)は其妻を伴ひ分家し同留平  
 (明一一、三三)は長野縣人林茂一の養子となり叔母常  
 代(元治元、一〇生)は長野縣人森本州平の養母たり  
 (長野、下伊那、飯田)の項  
 參照 上村、森本州平の項

上柳緑

伊那銀行(株)取締役、百十七銀行  
 妻 敏 子 明二、八生、長男敏雄妻、長野、  
 男 昇 平 明三、八生、長男敏雄妻、長野、

君は長野縣人上柳喜一の長男同喜右衛門の叔父にして  
 慶應元年十月を以て生れ明治三十三年分家して一家を  
 創立す現時各銀行の重役たり家族は尚孫喜彦(大  
 四、一〇生、長男敏雄妻)同喜子(同一三、五生、同  
 二女)同昭治(昭二、三三、同四男)あり二女喜那(明三  
 一、九生)は長野縣人上柳喜右衛門に嫁せり(長野、下  
 伊那、飯田)の項  
 參照 大平常代、上柳喜右衛門、太田實三、關島健  
 吾の項

一一生、同三男)同高朗(昭二、一、生、同四男)あり三  
 女ハル(明二四、五生)は鹿兒島縣人勝目實長男健に  
 四女フミ(同二六、一〇生)は同縣人長田景温五男景貞  
 に六女ナミ(同三七、一〇生)は同縣人川添二九に嫁せり  
 (鹿兒島、日置、東市來村)

長野縣多額納稅者、蕪橋堂ホテル  
 妻 喜 那 明三、九生、養叔父縁二女  
 男 清 治 大一一、五生、養叔父縁二女

君は長野縣人先代喜右衛門の五男にして明治二十八年  
 二月を以て生れ大正十二年家督を相續し前名多賀治を  
 改め襲名す酒造業を營み傍ら蕪橋堂ホテル監査役に  
 長野縣多額納稅者たり家族は尚長女明子(大九、一、  
 二生)二女縁子(同一五、七生)あり姉八代(明二三、八  
 二生)は長野縣人木下八郎養弟辰雄に養叔母とし(同  
 二、一〇生)は同縣人藤澤源一郎長男富太郎に嫁し養  
 叔父縁(慶應元、一〇生)は其妻を伴ひ分家し同留平  
 (明一一、三三)は長野縣人林茂一の養子となり叔母常  
 代(元治元、一〇生)は長野縣人森本州平の養母たり  
 (長野、下伊那、飯田)の項  
 參照 上村、森本州平の項

伊那銀行(株)取締役、百十七銀行  
 妻 敏 子 明二、八生、長男敏雄妻、長野、  
 男 昇 平 明三、八生、長男敏雄妻、長野、

君は長野縣人上柳喜一の長男同喜右衛門の叔父にして  
 慶應元年十月を以て生れ明治三十三年分家して一家を  
 創立す現時各銀行の重役たり家族は尚孫喜彦(大  
 四、一〇生、長男敏雄妻)同喜子(同一三、五生、同  
 二女)同昭治(昭二、三三、同四男)あり二女喜那(明三  
 一、九生)は長野縣人上柳喜右衛門に嫁せり(長野、下  
 伊那、飯田)の項  
 參照 大平常代、上柳喜右衛門、太田實三、關島健  
 吾の項

岩瀧電氣工業(株)取締役  
 妻 要 明四、一、二生

君は千葉縣人上山勘二郎の二男にして明治十六年十二  
 月を以て生れ大正六年分家して一家を創立す現に岩瀧  
 電氣工業會社取締役たり(東京市外西巢鴨町池袋一六  
 八四)の項  
 參照 下田嘉右衛門の項

上山武吉

岩瀧電氣工業(株)取締役  
 妻 要 明四、一、二生

君は千葉縣人上山勘二郎の二男にして明治十六年十二  
 月を以て生れ大正六年分家して一家を創立す現に岩瀧  
 電氣工業會社取締役たり(東京市外西巢鴨町池袋一六  
 八四)の項  
 參照 下田嘉右衛門の項

上山満之進

從三位勳一等、貴族院議員、臺灣  
 總督、山口縣在籍

君は山口縣人上山與左衛門の長男にして明治二年九月  
 を以て生れ同十四年家督を相續す同二十八年帝國大學  
 法科大學英法科を卒業し文官高等試験に合格す爾來大學  
 務屬青森山口各縣參事官法制局參事官行政裁判所評定  
 官農商務省山林局長熊本縣知事農商務次官等に歴任し  
 大正七年貴族院議員に勅選せられ尋いで錦旗閣候補  
 付らる同十五年七月臺灣總督となり現に其の任に在り  
 家族は尚姉トシ(安政四、五生)あり弟達三(明五、九  
 生)は其妻マサ(同一九、五生、賀田立三姉)及び一  
 子を伴ひ分家し妹ツヤ(同一七、一〇生)は山口縣人小倉  
 治郎に嫁せり(臺北、文武町總督官邸)の項

從三位勳一等、貴族院議員、臺灣  
 總督、山口縣在籍

君は山口縣人上山與左衛門の長男にして明治二年九月  
 を以て生れ同十四年家督を相續す同二十八年帝國大學  
 法科大學英法科を卒業し文官高等試験に合格す爾來大學  
 務屬青森山口各縣參事官法制局參事官行政裁判所評定  
 官農商務省山林局長熊本縣知事農商務次官等に歴任し  
 大正七年貴族院議員に勅選せられ尋いで錦旗閣候補  
 付らる同十五年七月臺灣總督となり現に其の任に在り  
 家族は尚姉トシ(安政四、五生)あり弟達三(明五、九  
 生)は其妻マサ(同一九、五生、賀田立三姉)及び一  
 子を伴ひ分家し妹ツヤ(同一七、一〇生)は山口縣人小倉  
 治郎に嫁せり(臺北、文武町總督官邸)の項

正六位、朝鮮總督府事務官、内務  
 局社會課長、廣島縣士族

君は廣島縣士族神尾省二の長男にして明治二十六年六  
 月を以て生る大正六年文官高等試験に合格し同七年東  
 京帝國大學法科大學獨法科を卒業し福岡縣内務屬山  
 口縣大津郡長山口東京各府縣理事官朝鮮全羅南道警  
 部長等を經て現時朝鮮總督府事務官にして内務局社會  
 課長たり妹靜(明二九、二生)は廣島縣人宮地儀三郎  
 に同秀(同三四、五生)は同縣人野村秀雄に嫁し弟三郎  
 (同四四、五生)は同縣人山中村多門の死跡を相續し叔  
 父松太郎(同七、一〇生)は同縣人清水友太郎の養子とな  
 れり(京城、永樂町二一官舎)の項

正五位、男爵  
 長野縣士族

當家は先代光臣より家名を揚ぐ光臣は舊信州高島藩士  
 にして夙に陸軍教導團に入り明治十二年陸軍少尉に任  
 じ累進して陸軍大將に陞任す其間清國公使館附近警  
 兵第四聯隊長第十各師團參謀長北清駐屯軍司令官  
 關東都府陸軍參謀長近衛步兵第一旅團長第九師團長  
 青島守備軍司令官東京衛戍總督等に歴補し日清戰役  
 は第二軍參謀として功四級を賜ひ日露戰役には歩兵第

正五位、男爵  
 長野縣士族

當家は先代光臣より家名を揚ぐ光臣は舊信州高島藩士  
 にして夙に陸軍教導團に入り明治十二年陸軍少尉に任  
 じ累進して陸軍大將に陞任す其間清國公使館附近警  
 兵第四聯隊長第十各師團參謀長北清駐屯軍司令官  
 關東都府陸軍參謀長近衛步兵第一旅團長第九師團長  
 青島守備軍司令官東京衛戍總督等に歴補し日清戰役  
 は第二軍參謀として功四級を賜ひ日露戰役には歩兵第

正五位、男爵  
 長野縣士族

當家は先代光臣より家名を揚ぐ光臣は舊信州高島藩士  
 にして夙に陸軍教導團に入り明治十二年陸軍少尉に任  
 じ累進して陸軍大將に陞任す其間清國公使館附近警  
 兵第四聯隊長第十各師團參謀長北清駐屯軍司令官  
 關東都府陸軍參謀長近衛步兵第一旅團長第九師團長  
 青島守備軍司令官東京衛戍總督等に歴補し日清戰役  
 は第二軍參謀として功四級を賜ひ日露戰役には歩兵第

和歌山縣多額納稅者、上山殖産、  
 南海水力電氣各(株)取締役、内外除  
 糞粉(株)監査役、農業  
 和歌山縣在籍  
 妻 ユキ 明二、八生、和歌山、石橋八九  
 男 春 樹 大一一、二生

上山家は古くより紀州保田村に土着せる地主にして  
 數代前より庄屋役を勤めたる家柄なり君は先代市郎兵  
 衛の長男にして同藩の兄なり明治二十三年十一月を以  
 て生れ大正十一年家督を相續し前名市三郎を改め襲名  
 す祖業を營む傍ら夙に上山殖産會社を創立し其社長  
 となりて今日に及ぶ現に縣下の多額納稅者にして前記  
 各會社の重役を兼ぬ姉トシ(明一八、二生)は同夫靜藏  
 (同一五、一〇生、和歌山、玉置傳三郎二男)と共に分  
 家し同シゲ(同二〇、二生)は和歌山縣人山口孫次郎二  
 男孫七に養叔母ゆき(文久三、一〇生)は同縣人上山英  
 一郎に嫁せり(和歌山、有田、保田村)の項  
 參照 石橋八九郎、上山英一郎、上山靜藏、山口孫七  
 ※宮本春吉の項

上山英一郎

大日本除糞粉(株)専務取締役、共  
 同信託(株)取締役、和歌山縣在籍  
 妻 ゆき 明二、八生、和歌山、石橋八九  
 男 英 三 明二、八生、和歌山、石橋八九  
 女 英 子 明三、一〇生、和歌山、石橋八九

君は和歌山縣人上山長八の四男にして文久二年八月を  
 以て生れ先代彌兵衛の養子となり明治十一年家督を相  
 續し前名秀之助を改む本邦に始めて除糞粉を移植し年  
 額一千萬圓の輸出國たらしめ監製業を下賜せらる現  
 時大日本除糞粉會社専務取締役に共同信託會社取締  
 役たり家族は尚孫紀志雄(大七、九生、二男英三長  
 男)同眞紀子(同一〇、八生、八生)同眞里子(同一  
 三、一〇生、同二女)あり長男英之助(明二二、九生)は  
 本家上山勘太郎の養子となり襲名し妹ゆき(慶應三、  
 五生)は和歌山縣人御前喜八郎に嫁せり(和歌山、有

上山勘太郎

大日本除糞粉(株)専務取締役、共  
 同信託(株)取締役、和歌山縣在籍  
 妻 ゆき 明二、八生、和歌山、石橋八九  
 男 英 三 明二、八生、和歌山、石橋八九  
 女 英 子 明三、一〇生、和歌山、石橋八九

君は和歌山縣人上山長八の四男にして文久二年八月を  
 以て生れ先代彌兵衛の養子となり明治十一年家督を相  
 續し前名秀之助を改む本邦に始めて除糞粉を移植し年  
 額一千萬圓の輸出國たらしめ監製業を下賜せらる現  
 時大日本除糞粉會社専務取締役に共同信託會社取締  
 役たり家族は尚孫紀志雄(大七、九生、二男英三長  
 男)同眞紀子(同一〇、八生、八生)同眞里子(同一  
 三、一〇生、同二女)あり長男英之助(明二二、九生)は  
 本家上山勘太郎の養子となり襲名し妹ゆき(慶應三、  
 五生)は和歌山縣人御前喜八郎に嫁せり(和歌山、有

大日本除糞粉(株)専務取締役、共  
 同信託(株)取締役、和歌山縣在籍  
 妻 ゆき 明二、八生、和歌山、石橋八九  
 男 英 三 明二、八生、和歌山、石橋八九  
 女 英 子 明三、一〇生、和歌山、石橋八九

君は和歌山縣人上山長八の四男にして文久二年八月を  
 以て生れ先代彌兵衛の養子となり明治十一年家督を相  
 續し前名秀之助を改む本邦に始めて除糞粉を移植し年  
 額一千萬圓の輸出國たらしめ監製業を下賜せらる現  
 時大日本除糞粉會社専務取締役に共同信託會社取締  
 役たり家族は尚孫紀志雄(大七、九生、二男英三長  
 男)同眞紀子(同一〇、八生、八生)同眞里子(同一  
 三、一〇生、同二女)あり長男英之助(明二二、九生)は  
 本家上山勘太郎の養子となり襲名し妹ゆき(慶應三、  
 五生)は和歌山縣人御前喜八郎に嫁せり(和歌山、有

大日本除糞粉(株)専務取締役、共  
 同信託(株)取締役、和歌山縣在籍  
 妻 ゆき 明二、八生、和歌山、石橋八九  
 男 英 三 明二、八生、和歌山、石橋八九  
 女 英 子 明三、一〇生、和歌山、石橋八九

正六位、朝鮮總督府事務官、内務  
 局社會課長、廣島縣士族

君は廣島縣士族神尾省二の長男にして明治二十六年六  
 月を以て生る大正六年文官高等試験に合格し同七年東  
 京帝國大學法科大學獨法科を卒業し福岡縣内務屬山  
 口縣大津郡長山口東京各府縣理事官朝鮮全羅南道警  
 部長等を經て現時朝鮮總督府事務官にして内務局社會  
 課長たり妹靜(明二九、二生)は廣島縣人宮地儀三郎  
 に同秀(同三四、五生)は同縣人野村秀雄に嫁し弟三郎  
 (同四四、五生)は同縣人山中村多門の死跡を相續し叔  
 父松太郎(同七、一〇生)は同縣人清水友太郎の養子とな  
 れり(京城、永樂町二一官舎)の項

正六位、朝鮮總督府事務官、内務  
 局社會課長、廣島縣士族

君は廣島縣士族神尾省二の長男にして明治二十六年六  
 月を以て生る大正六年文官高等試験に合格し同七年東  
 京帝國大學法科大學獨法科を卒業し福岡縣内務屬山  
 口縣大津郡長山口東京各府縣理事官朝鮮全羅南道警  
 部長等を經て現時朝鮮總督府事務官にして内務局社會  
 課長たり妹靜(明二九、二生)は廣島縣人宮地儀三郎  
 に同秀(同三四、五生)は同縣人野村秀雄に嫁し弟三郎  
 (同四四、五生)は同縣人山中村多門の死跡を相續し叔  
 父松太郎(同七、一〇生)は同縣人清水友太郎の養子とな  
 れり(京城、永樂町二一官舎)の項

正六位、朝鮮總督府事務官、内務  
 局社會課長、廣島縣士族

君は廣島縣士族神尾省二の長男にして明治二十六年六  
 月を以て生る大正六年文官高等試験に合格し同七年東  
 京帝國大學法科大學獨法科を卒業し福岡縣内務屬山  
 口縣大津郡長山口東京各府縣理事官朝鮮全羅南道警  
 部長等を經て現時朝鮮總督府事務官にして内務局社會  
 課長たり妹靜(明二九、二生)は廣島縣人宮地儀三郎  
 に同秀(同三四、五生)は同縣人野村秀雄に嫁し弟三郎  
 (同四四、五生)は同縣人山中村多門の死跡を相續し叔  
 父松太郎(同七、一〇生)は同縣人清水友太郎の養子とな  
 れり(京城、永樂町二一官舎)の項

正六位、朝鮮總督府事務官、内務  
 局社會課長、廣島縣士族

君は廣島縣士族神尾省二の長男にして明治二十六年六  
 月を以て生る大正六年文官高等試験に合格し同七年東  
 京帝國大學法科大學獨法科を卒業し福岡縣内務屬山  
 口縣大津郡長山口東京各府縣理事官朝鮮全羅南道警  
 部長等を經て現時朝鮮總督府事務官にして内務局社會  
 課長たり妹靜(明二九、二生)は廣島縣人宮地儀三郎  
 に同秀(同三四、五生)は同縣人野村秀雄に嫁し弟三郎  
 (同四四、五生)は同縣人山中村多門の死跡を相續し叔  
 父松太郎(同七、一〇生)は同縣人清水友太郎の養子とな  
 れり(京城、永樂町二一官舎)の項

正六位、朝鮮總督府事務官、内務  
 局社會課長、廣島縣士族

君は廣島縣士族神尾省二の長男にして明治二十六年六  
 月を以て生る大正六年文官高等試験に合格し同七年東  
 京帝國大學法科大學獨法科を卒業し福岡縣内務屬山  
 口縣大津郡長山口東京各府縣理事官朝鮮全羅南道警  
 部長等を經て現時朝鮮總督府事務官にして内務局社會  
 課長たり妹靜(明二九、二生)は廣島縣人宮地儀三郎  
 に同秀(同三四、五生)は同縣人野村秀雄に嫁し弟三郎  
 (同四四、五生)は同縣人山中村多門の死跡を相續し叔  
 父松太郎(同七、一〇生)は同縣人清水友太郎の養子とな  
 れり(京城、永樂町二一官舎)の項

正六位、朝鮮總督府事務官、内務  
 局社會課長、廣島縣士族

君は廣島縣士族神尾省二の長男にして明治二十六年六  
 月を以て生る大正六年文官高等試験に合格し同七年東  
 京帝國大學法科大學獨法科を卒業し福岡縣内務屬山  
 口縣大津郡長山口東京各府縣理事官朝鮮全羅南道警  
 部長等を經て現時朝鮮總督府事務官にして内務局社會  
 課長たり妹靜(明二九、二生)は廣島縣人宮地儀三郎  
 に同秀(同三四、五生)は同縣人野村秀雄に嫁し弟三郎  
 (同四四、五生)は同縣人山中村多門の死跡を相續し叔  
 父松太郎(同七、一〇生)は同縣人清水友太郎の養子とな  
 れり(京城、永樂町二一官舎)の項



九同二十八年分れて一家を創立す同二十六年慶應義塾法科を卒業し三井銀行に入り爾來果進して同行調査課長に進む現時三井信託會社社長に擧げらるる家族は尚孫賢一(大、一三、二生、長男、長男、長男)同節子(同一、四、一、一生、同長女)あり二男次郎(明三、四、二生)は分家せり(東京、芝、白金臺町二ノ九電高輪一四七六)參照(神崎、瀬下、清波、多野、永五郎の項)

神澤重治

神澤銀行(株)取締役  
富山縣在籍  
祖母 まつ 嘉永五、七生、先々代新右衛門三女  
母 みつゝ 明六、二生、先々代新右衛門三女  
妻 しのみ 明四〇、二生、富山、渡邊八三郎二女

君は富山縣人神澤新右衛門の二男にして明治三十三年十二月を以て生る大正十一年小樽高等商業學校を卒業し現時前記銀行の重役たり家族は尙兄新右衛門(明三二、七生、現戸主)同妻富三六、一、一生、富山、彼谷三四郎長女(妹愛子)同四二、五生、同秀子(同四四、一、一生)あり妹きよ(同三六、五生)は富山縣人彼谷茂三に嫁せり(富山、東磯波、出町電一〇六)參照(渡邊八三郎、宗卯尾田兵次郎の項)

神澤又市郎

別府市長  
大分縣在籍  
妻 キヲ 明六、一、一生、大分、坂東光定長女  
孫 千代 明四四、五生、亡養子周三長女  
君は大分縣人神澤儀作の長男にして元治元年十一月を以て生れ明治三十四年家督を相続す現時別府市長たり兼に別府銀行監査役たりし事あり(別府、大字別府二二四八)

神島瀧藏

第八十五銀行(株)常務取締役  
埼玉縣在籍  
妻 登久 明三、九生、養父瀧藏長女  
男 彦太郎 明三〇、八生、長男彦太郎妻、埼玉、神登三郎六女  
女 吉 玉、神登三郎六女  
君は埼玉縣人伊藤瀧藏の三男にして元治元年八月を以て生れ明治二十五年先代瀧藏の養子となり同三十三年家督を相続し前名喜太郎を改む現時第八十五銀行常務

取締役たり家族は尙孫濱太郎(明四五、七生、長男彦太郎長男)同美代子(大、一三、一、一生、同長女)同政次(同一、五、一〇、一生、同二男)あり長女とみ(明二七、二生)は埼玉縣人原田要吉長男彦三郎に二女たよ(同三〇、六、一生)は同縣人岩崎榮二に嫁せり(川越、川越八八六)參照(原田要吉の項)

神柳吉

倉敷紡績(株)取締役  
岡山縣在籍  
妻 花の江 明二四、九生、岡山、多賀茂長女  
男 一郎 大二、一生  
女 淑子 明四三、七生  
君は岡山縣人神柳與平の二男にして明治十四年一月を以て生れ同三十一年家督を相続す現時倉敷紡績會社取締役として知らるる家族は尙二女公子(大、四、一〇、一生)二男濱太郎(同九、五生)あり(倉敷市)

神頭勝彌

從三位勳二等功三級、豫備陸軍中將、長野縣在籍  
妻 けい 明九、七生、大塚頓定四女  
男 功 明四〇、一、一生  
女 美 洋 明三七、二生  
女 勝代 明四三、一、一生  
君は長野縣人神頭三太夫の二男にして慶應二年四月を以て生れ同四十二年分家して一家を創立す同二十五年陸軍歩兵少尉に任じ大正十年陸軍中將に累進す其間明治三十二年陸軍大學校を卒業し中支派遣隊司令官第十師團長等に補せられ日露戰役の功に依り功三級金鷲勳章を賜ひ大正十三年豫備役に編入す長女春明三〇、六、一生)は愛知縣人飯沼守に二女八重(同三〇、一、一生)は兵庫縣人井筒俊に嫁し三女静枝(同三四、八、一生)は長野縣人神頭長五郎の養子となれり(東京市外杉並町阿佐ヶ谷九八)

神田岩吉

百五銀行(株)名古屋支店長  
和歌山縣在籍  
妻 ひで 明一九、四生、和歌山、森章妹  
男 巖 明四五、三、一生  
君は和歌山縣人神田伊太郎の長男にして明治七年七月を以て生れ同十六年家督を相続す凡に百五銀行に入り現時同行名古屋支店長たり家族は尙妹秀野(明三〇、五、九)

神田吉松

周東産業銀行(株)頭取、華浦銀行(株)取締役、柳井町長、酢商  
山口縣在籍  
妻 ヤス 明三三、六生、山口、神田純一妹  
男 恒治 大八、一、一生  
君は山口縣人神田吉松の二男にして明治三十一年六月を以て生れ大正六年先代父の養子となり同十五年家督を相続す酢商を營み柳井町長にして前記銀行の重役たり家族は尙長女芳子(大、一、四、一生)二女光子(昭二、四、一、一生)あり妹勝子(明四〇、三、一生)は山口縣人土族村上季平に嫁せり(山口、玖珂、柳井町電五)參照(神田純一の項)

神田孝一

正五位勳四等、專賣局技師、東京地方專賣局製造課長、富山縣在籍  
父 豊吉 萬延元、一、一生、現戸主  
母 はつゝ 明元、一、一生、富山、田中恒次郎長女  
妻 よそい 明三四、三、一生、富山、長岡久藏長女  
男 豊 明四四、一〇、一生  
君は富山縣人神田豊吉の長男にして明治二十年一月を以て生れ同二十八年縣立宮城農學校を卒業し栃木縣農事試験場技師となり同三十八年專賣局技師に進み現時東京地方專賣局製造課長たり(埼玉、北足立、浦和町)

神田澤次

廣島縣多額納税者、醫師  
廣島縣在籍  
妻 良子 明三一、一、一生、廣島、青盛常太郎二女  
君は山口縣人神田柳助の長男にして明治十八年五月を以て生れ大正二年家督を相続す明治十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格し朝鮮總督府事務官同總務官長監理官航空局書記官兼陸軍省參事官關東廳事務官官長官秘書官等に歴任し昭和二年前記現職に轉ず兼に國際航空委員會代表委員並に平和條約實施委員として海外に派遣さるる家族は尙二男精一郎(大、六、一生)長女明子(同一、三、一生)二女慶

神田七次郎

富山縣多額納税者、中越製布(株)社長、富山縣在籍  
妻 はる 明二〇、一、一生、富山、石原重次二女  
男 嘉一 明四四、三、一生  
君は富山縣人先代七次郎の長男にして明治十三年二月を以て生れ同三十八年家督を繼承す前名嘉一を改め製布す麻布商を營み尙ら前記銀行會社の重役にして同縣多額納税者たり家族は尙二男達三(大、元、一、一生)四男祐吉(同六、七、一生)四女あむ(同八、六、一生)五女あひ(同一、五、一生)あり長女あむ(明三七、一、一生)は富山縣人久世理作二男嘉與に三女よ(同四一、一、一生)は富山縣人宇野次郎三男憲太郎に嫁しよ(同二〇、七、一生)は同縣人宇野藤和郎三男賢徳に嫁し弟順三(同一、八、四、一生)は同妻かず(同二二、一、一生、富山、青井勝太郎)を伴ひ分家し同孝吉(同三一、三、一生)も亦分家せり(富山、東磯波、出町)參照(宇野次郎、久世理作の項)

神田純一

正五位勳六等、關東廳内務局長  
山口縣在籍  
妻 ミチ 明二四、一、一生、山口、古林新治妹  
男 眞一郎 大、四、一〇、一生  
君は山口縣人神田柳助の長男にして明治十八年五月を以て生れ大正二年家督を相続す明治十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格し朝鮮總督府事務官同總務官長監理官航空局書記官兼陸軍省參事官關東廳事務官官長官秘書官等に歴任し昭和二年前記現職に轉ず兼に國際航空委員會代表委員並に平和條約實施委員として海外に派遣さるる家族は尙二男精一郎(大、六、一生)長女明子(同一、三、一生)二女慶

生)あり同はつ(同一、五、一、一生)は和歌山縣人神田安松に同はつ(同一、二、一、一生)は同縣人神田虎之助に嫁し弟辰之助(同一、三、五、一生)は同縣人神田富藏の養子となり同富藏(同一、〇、七、一生)同林太郎(同一、〇、九、一生)養姉ヨネ(文、元、八、一生、和歌山、土、高井五百右衛門長女)は各分家せり(名古屋、東、田代町御妻四一電東三二四)

神田赫郎

日本絹紡績(株)取締役  
三重縣在籍  
妻 タマ 嘉永六、九生、三重、土、瀧野貞良妹  
男 誠一 明一七、一、一生、東京、山内友七長女  
女 誠子 明四二、一、一生  
養子 重 明三四、七、一生、二女喜代子、三女喜代子 明三九、七、一生、養子遺妻  
君は三重縣人神田捨郎の長男にして明治十年十一月を以て生れ同三十九年家督を相続す同三十五年東京高等工業學校機械科を卒業し後實業界に入り現時日本絹紡績會社取締役たり家族は尙三男修次(大、四、一、一生)孫明(同一、一、一生、養子遺妻)同澤子(同一、三、四、一生、同長女)同壽夫(昭二、二、一生、同二男)亡弟通郎妻ひろ(明一八、一〇、一生、三、一生、安岡久平三女)あり(京都、上京、相國寺北門前町)

神田勝次

高砂銀行(株)事務取締役  
兵庫縣在籍  
妻 きぬ 明一〇、七、一生、兵庫、角田喜代藏長女  
養子 正 大六、七、一生、兵庫、角田喜代藏二男  
君は兵庫縣人久野林吉の弟にして明治二十一年十月を以て生れ先代きぬの夫となり大正四年家督を相続す現時高砂銀行事務取締役たり(兵庫、加古、高砂町)

神田金樹

從四位、男爵  
東京府華族  
妻 熊千代 慶應二、六、一生、佐賀、土、高木秀長女  
母 慶應二、六、一生、佐賀、土、高木秀長女  
當家は先々代孝平より顯る孝平は舊美濃國岩手藩士にして夙に蘭學を修め幕府に仕へて藩書取調掛開成所教授となり維新後大學大丞兵部令文少輔元老院議官貴族院議員帝國學士院會員等に歴任し明治三十一年

勳功に依り華族に列し男爵を授けらるる先代乃武は舊松井家より入つて其後を襲ぎ明治四年米國に留學しアムハースト大學を卒業し歸朝後東京大學第一高等學校東京帝國大學高等商業學校東京外國語學校各教授東京外國語學校校長東京商科大學名譽教授等に歴任し歐米に渡航すること數回アムハースト大學より名譽法學博士の學位を受く又貴族院議員に列し語學界の權威として著聞す君は乃武の長男にして明治十八年二月を以て生れ大正十三年家督を繼承す東京帝國大學農學部及札幌農科大學に學び歐洲に遊學す家族は尙第十學(明二七、一、一生、法學士)同喬夫(同三〇、六、一生、文學士)同妻多惠子(同三五、一、一生、大阪、廣岡三三長女)あり妹英芝(同二〇、八、一生、御茶の水高等女學校出身)は法學博士河津通に同孝(同三一、一、一生、學藝院女學部出身)は東京府人豊川順彌に同文子(同三七、四、一生、女子學藝院出身)は福岡縣人松本健次郎(同二五、七、一生、御茶の水高等女學校出身)は男爵高木喜寬第故醫學博士高木健二の末亡人たり(東京市外中野町中野三三五電四谷五八七五)參照(男爵高木喜寬、河津通、豊川順彌、廣岡三三、松本健次郎、松本幸次郎、柳末幸次郎、上德兵衛、前田松苗、松井萬緑の項)

神田兼太郎

龜戸コックス(名)代表社員、コックス商、東京府在籍  
妻 たつ 明六、一、一生、兵庫、今村幾太郎養子  
男 謙太郎 大二、八、一生  
女 光子 明四二、八、一生  
君は兵庫縣人車利三郎の三男にして明治五年九月を以て生れ同二十四年先代くへの入夫となり家督を相続すコックス商を營み現に龜戸コックス會社を主宰す家族は尙二男兼二(大、六、七、一生)庶子富久子(同七、七、一生)生母、東京、岡田あい(同繁子)同二、九、一生、生母同上)あり二女富美(明四四、八、一生)は前記岡田あいの養子となれり(東京、小石川、金富町一〇電小石川二二六九)

神田喜三郎

正五位勳四等、日本電氣(株)大阪支社長、岐阜縣士族  
妻 良子 明三一、一、一生、廣島、青盛常太郎二女  
君は山口縣人神田柳助の長男にして明治十八年五月を以て生れ大正二年家督を相続す明治十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格し朝鮮總督府事務官同總務官長監理官航空局書記官兼陸軍省參事官關東廳事務官官長官秘書官等に歴任し昭和二年前記現職に轉ず兼に國際航空委員會代表委員並に平和條約實施委員として海外に派遣さるる家族は尙二男精一郎(大、六、一生)長女明子(同一、三、一生)二女慶

神田澤次

廣島縣多額納税者、醫師  
廣島縣在籍  
妻 良子 明三一、一、一生、廣島、青盛常太郎二女  
君は山口縣人神田柳助の長男にして明治十八年五月を以て生れ大正二年家督を相続す明治十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格し朝鮮總督府事務官同總務官長監理官航空局書記官兼陸軍省參事官關東廳事務官官長官秘書官等に歴任し昭和二年前記現職に轉ず兼に國際航空委員會代表委員並に平和條約實施委員として海外に派遣さるる家族は尙二男精一郎(大、六、一生)長女明子(同一、三、一生)二女慶

神田吉松

周東産業銀行(株)頭取、華浦銀行(株)取締役、柳井町長、酢商  
山口縣在籍  
妻 ヤス 明三三、六、一生、山口、神田純一妹  
男 恒治 大八、一、一生  
君は山口縣人神田吉松の二男にして明治三十一年六月を以て生れ大正六年先代父の養子となり同十五年家督を相続す酢商を營み柳井町長にして前記銀行の重役たり家族は尙長女芳子(大、一、四、一生)二女光子(昭二、四、一、一生)あり妹勝子(明四〇、三、一生)は山口縣人土族村上季平に嫁せり(山口、玖珂、柳井町電五)參照(神田純一の項)

神田孝一

正五位勳四等、專賣局技師、東京地方專賣局製造課長、富山縣在籍  
父 豊吉 萬延元、一、一生、現戸主  
母 はつゝ 明元、一、一生、富山、田中恒次郎長女  
妻 よそい 明三四、三、一生、富山、長岡久藏長女  
男 豊 明四四、一〇、一生  
君は富山縣人神田豊吉の長男にして明治二十年一月を以て生れ同二十八年縣立宮城農學校を卒業し栃木縣農事試験場技師となり同三十八年專賣局技師に進み現時東京地方專賣局製造課長たり(埼玉、北足立、浦和町)

神田澤次

廣島縣多額納税者、醫師  
廣島縣在籍  
妻 良子 明三一、一、一生、廣島、青盛常太郎二女  
君は山口縣人神田柳助の長男にして明治十八年五月を以て生れ大正二年家督を相続す明治十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格し朝鮮總督府事務官同總務官長監理官航空局書記官兼陸軍省參事官關東廳事務官官長官秘書官等に歴任し昭和二年前記現職に轉ず兼に國際航空委員會代表委員並に平和條約實施委員として海外に派遣さるる家族は尙二男精一郎(大、六、一生)長女明子(同一、三、一生)二女慶

神田七次郎

富山縣多額納税者、中越製布(株)社長、富山縣在籍  
妻 はる 明二〇、一、一生、富山、石原重次二女  
男 嘉一 明四四、三、一生  
君は富山縣人先代七次郎の長男にして明治十三年二月を以て生れ同三十八年家督を繼承す前名嘉一を改め製布す麻布商を營み尙ら前記銀行會社の重役にして同縣多額納税者たり家族は尙二男達三(大、元、一、一生)四男祐吉(同六、七、一生)四女あむ(同八、六、一生)五女あひ(同一、五、一生)あり長女あむ(明三七、一、一生)は富山縣人久世理作二男嘉與に三女よ(同四一、一、一生)は富山縣人宇野次郎三男憲太郎に嫁しよ(同二〇、七、一生)は同縣人宇野藤和郎三男賢徳に嫁し弟順三(同一、八、四、一生)は同妻かず(同二二、一、一生、富山、青井勝太郎)を伴ひ分家し同孝吉(同三一、三、一生)も亦分家せり(富山、東磯波、出町)參照(宇野次郎、久世理作の項)

神田純一

正五位勳六等、關東廳内務局長  
山口縣在籍  
妻 ミチ 明二四、一、一生、山口、古林新治妹  
男 眞一郎 大、四、一〇、一生  
君は山口縣人神田柳助の長男にして明治十八年五月を以て生れ大正二年家督を相続す明治十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試驗に合格し朝鮮總督府事務官同總務官長監理官航空局書記官兼陸軍省參事官關東廳事務官官長官秘書官等に歴任し昭和二年前記現職に轉ず兼に國際航空委員會代表委員並に平和條約實施委員として海外に派遣さるる家族は尙二男精一郎(大、六、一生)長女明子(同一、三、一生)二女慶

子同(一四、一五)三女マサ子(同二一、二二、二三、二四、二五、二六)六生あり妹ト  
 ヌ(同二八、二九)は山口縣人小田百太郎長男靜治に同  
 ヤス(同三三、三四)は同縣人神田吉松に同ヌ(同三  
 五、一五)は同縣人高田治郎に嫁し姉マツ(同九、一八)生  
 は分家せり(旅順、朝日町官舎)  
 參照 神田吉松の項

神田 新市 島根縣多額納税者、小間物商  
 島根縣在籍  
 母 トモ 安政三、六生、島根、神田爲八二女  
 妻 クラ 明一五、一〇生、島根、飯塚惣太  
 郎養子  
 養子 敏夫 明三一、八生、養子敏夫妻、島根、  
 根、山田金右衛門弟  
 養子 千代子 明三七、三三、養子敏夫妻、島根、  
 尾原佐七姪

君は島根縣人神田嘉兵衛の長男にして明治六年十一月  
 を以て生れ先代捨次郎の養子となり同三十二年家督を  
 相続す小間物商を營み島根縣多額納税者たり家族は尙  
 孫秀子(大一一、一二)生、養子敏夫長女あり妹クラ  
 (明一九、七)生、島根縣人尾原佐七に嫁せり(松江、  
 天神町)  
 參照 尾原佐七、山田金右衛門の項

神田 甚兵衛 兵庫縣在籍  
 兵庫縣在籍  
 妻 し 明七、一五生、兵庫、卜部寛三妹  
 男 祺一郎 明二七、五生、慶應義塾理財科出  
 身、日本毛織會社員  
 婦 まち 明三三、四生、長男祺一郎妻兵庫、  
 鷺尾幸治郎長女  
 男 順次郎 明三〇、一五生、經濟學士  
 明三六、七生、二男順次郎妻、千  
 葉、坪野平太郎四女  
 婦 晴子 明四〇、七生、兵庫縣立高等女學  
 校出身  
 女 喜美子 明四〇、七生、兵庫縣立高等女學  
 校出身

君は兵庫縣人先代甚兵衛の長男にして文久三年二月を  
 以て生れ明治二十八年家督を相続し前名英太郎を改め  
 襲名す資産家たり家族は尙三男三郎(明四三、七)生、孫  
 治子(大一一、八)生、長男祺一郎長女同亮一(同四、  
 九)生、同長男同守人(同四、一)生、二男順次郎長  
 男あり長女美恵子(明三二、三)生は栃木縣人三妻造

船所技師工學士田波元助に三女詮子(同三七、一)生、  
 兵庫縣立高等女學校出身)は愛知縣人伊藤金左衛門に  
 嫁し弟健太郎(同二、一)生は兵庫縣人川崎シナの養子  
 となれり(神戸、大手町北林一六電報局一四八)  
 參照 淡路部順治郎長部文治郎(淡路部一四八)の項

神田 清右衛門 和歌山縣多額納税者、熊野共同銀  
 行(株)頭取、大正石工業(株)社長、  
 市川銀行、市川土地、東洋捕鯨各  
 (株)取締役、山林業、和歌山縣在籍  
 妻 ユキエ 養母 明二五、一五生、和歌山、神田清二  
 郎妻  
 男 清一 明三六、二生  
 女 壽鶴子 明四三、六生  
 女 志乃生 大二、二生

君は和歌山縣人先代清右衛門の二男にして明治十三年  
 九月を以て生れ同四十六年家督相続と共に襲名して前  
 名清之助を改む同三十四年明治大學を卒業し實業界に  
 入り現時熊野共同銀行頭取たる外前記銀行會社の重役  
 にして和歌山縣多額納税者たり家族は尙五男七郎(大  
 五、二)生、四女紀里枝(同九、一〇)生、六男壽末(同  
 一〇)生、七男眞藏(同三、四)生、八男勇清(同三、  
 九)生あり弟清治(明一七、八)生は分家し二男清二(同三  
 八、五)生は其養子となれり(和歌山、西牟婁、串本町)

神田 寅藏 大阪府在籍  
 大阪府在籍  
 妻 エイ 元治元、九生、養父彌助二女  
 養子 仙太郎 明一七、四生、長女タメ夫、奈良  
 辻内平五郎長男  
 女 千代子 明四七、一五生、養子仙太郎長女  
 孫 千代子 明四五、一五生、養子仙太郎長女

君は奈良縣人門西新三郎の弟にして元治元年八月を以  
 て生れ明治三十年先代彌助の養子となり家督を相続す  
 屋敷を神實と稱し材木商を營む家族は尙孫實雄(大二、  
 八)生、養子仙太郎長男(同五、八)生、同三女  
 同實(同一〇、一)生、同三男(同清)同三、三)生、同  
 四男(同博)同二、一)生、同五男あり(大阪、浪速、新  
 川二ノ二一六電報二一五八)

君は栃木縣人神田貞の二男にして明治十二年三月を以  
 て生れ大正二年兄孝一方より分れて一家を創む明治三  
 十四年東京專門學校政治經濟科を卒業し同年支那四川  
 省に教育顧問として招聘せらるる同三十八年米國コロ  
 ビヤ大學に學び更に英國オックスフォード大學に留學  
 す歐洲各國視察後歸朝し同四十二年東京大阪朝日新聞  
 社の聘に應じ支那北京特派員となり在支十年に及ぶ大  
 正六年朝日新聞社本報社務となり北米及南米を歴遊し  
 て歸朝後支那部長外務部長事務局長等に當り現に  
 朝日新聞社社員たり大正十三年以來衆議院議員に當選  
 する事二回現に立憲民政黨所屬たり家族は尙二女和子  
 (大三、一)生、二男雄次(同六、一〇)生、三女安子(同  
 九、二)生、三男東介(同二〇、一)生、四女洋子(同  
 一五、八)生あり(栃木、那須、黒田原町)

神田 正義 山梨縣多額納税者、農業  
 山梨縣在籍  
 妻 光 明三四、一五生、山梨、内藤守兵  
 衛四女  
 男 文 衛 大一四、一〇生

君は山梨縣人神田文吉の長男にして明治二十六年十一  
 月を以て生れ同四十二年家督を相続す農業を營み現に  
 山梨縣多額納税者たり家族は尙弟廣義(明三〇、六)生  
 叔母こと(慶應元、一)生あり(山梨、南巨摩、増穂  
 村)

神田 政吉 神田組、運送業  
 大阪府在籍  
 妻 ム 明一〇、一五生、大阪、藤田キ  
 私生子  
 男 政次郎 明三〇、八生  
 男 彦三郎 明三四、一五生  
 男 梅之助 明三七、三三  
 女 末子 明二七、一五生

君は大阪府人藤田政吉の長男にして明治十年一月を以  
 て生れ同四十二年家督を相続し襲名す神田組と稱し運  
 送業を營む家族は尙六男政夫(大三、一)生、孫政忠  
 (昭二、七)生、二男政次郎(昭二、七)生、大坂、佐治(かね)

あり長女ヨシエ(明四〇、一)生、は大坂府人野與作  
 長男政一に嫁せり(大阪、浪速、櫻川一ノ一〇七六電  
 櫻川三〇)

神田 光平 入間銀行(株)頭取、川島屋商店  
 (株)取締役、埼玉縣在籍  
 父 亦右衛門 嘉永三、六生  
 母 せい 安政二、五生、埼玉、小峰清次郎  
 長女  
 妻 和可 明一四、七生、埼玉、利根川鼎吉  
 長女  
 男 仁平 明三五、八生、長男仁平妻、埼  
 玉、町田新吉三女  
 婦 さい 明四〇、一五生  
 男 邦武 明四〇、一五生  
 女 英子 明四三、五生

君は埼玉縣人神田亦右衛門の長男にして明治十年五月  
 を以て生れ大正元年家督を相続す現時入間銀行頭取た  
 る外前記會社の重役たり家族は尙四女女子(大三、八  
 生)四男完治(同八、三)生、五女治子(同二二、二)生  
 あり長女利喜(明三八、三)生は東京府人田中謙太郎に  
 嫁し弟心廣(同二二、六)生は同妻ヨウ(同二九、五)生、  
 東京、田中兼三郎二女)を伴ひ分家せり(埼玉、入間、  
 入間川町)

神田 彌七 大阪印刷、堂島ホテル各(株)取締  
 役、大阪府在籍  
 妻 シケ 明二〇、五生、大阪、水野八治郎姉  
 女 ヨシ 明四四、一〇生

君は大坂府人先代彌七の二男にして明治九年二月を以  
 て生れ同三十五年家督を相続して前名龜吉を改む現時  
 大阪印刷會社及び堂島ホテルの重役たり養子チエ(明  
 三七、一)生、大阪、山口常一妹は分家せり(大阪、西、  
 江戸堀下通五ノ一九電土佐堀三三二)

神田 鑑藏 神田銀行、丸之内銀行各(株)頭取  
 横濱倉庫(株)取締役、朝日信託各(株)社長  
 横濱倉庫(株)取締役、日本酒造  
 田(株)代表社員、邦興(株)代表社員、神  
 田(株)代表社員、神田(株)代表社員、神  
 田(株)代表社員、東京府在籍

妻 さは 明二〇、九生、和歌山、清水景吉  
 姉、日本女子大學校出身  
 男 俊 清 明四一、一〇生

君は愛知縣人神田清三郎の長男にして明治五年八月を  
 以て生れ同三十二年家督を相続す果世酒造を業とせし  
 が後公債證券買賣を營み同四十五年財界視察の爲歐米  
 諸國を巡遊す東京株式取引員にして現に神田銀行頭取  
 外前記會社の重役たり東京商業會議所議員に推  
 送る家族は尙二男謙一(大一一、六)生あり(東京、牛  
 込、市谷砂土原町一ノ二電牛込八〇三)  
 參照 清水景吉の項

神津 邦太郎 佐久銀行(株)取締役、神津牧場主  
 農業、長野縣在籍  
 妻 すみ 明一五、一五生、長野、坂井正太郎妹  
 男 勝辰 明二五、一五生  
 婦 賀子 明三一、一五生、長男勝辰妻、長  
 野、小山辰平六女

君は長野縣人神津九郎兵衛の長男にして慶應元年十月  
 を以て生れ明治十八年家督を相続す農業を業とし現に神  
 津牧場主にして佐久銀行取締役たり長女田鶴(明二二、  
 二)生は長野縣人掛川利兵衛に二女糸子(同二七、二  
 二)生は東京府人磯崎清に嫁し三女みち(同三一、六)生  
 は分家し妹はまじ(同元、正)生は其の長女五つの家籍  
 に入れり(東京、麹町、平河町六ノ二)

神津 俣祐 從四位勳三等、理學博士、東北帝國  
 大學教授、理學部勤務、長野縣在籍  
 妻 千代 明三〇、一〇生、神奈川、中村源  
 三二女

君は長野縣人神津清三郎の四男にして現戸主藤平の弟  
 なり明治十三年六月を以て生る同三十八年東京帝國大  
 學理科大學を卒業し大學院に入る同四十年農商務技師  
 に任じ大正元年十二月地質學研究のため獨逸英米各國  
 に留學を命ぜられ同五年八月東北帝國大學理科大學教  
 授に任じ翌六年十二月理學博士の學位を授與せらる  
 (仙臺、米ヶ袋下町八)  
 參照 神津藤平の項

神津 猛 中信銀行(株)頭取、長野貯蓄銀行  
 佐久鐵道各(株)取締役  
 長野縣在籍

妻 てう 明一六、六生、長野、鹽川五右衛  
 門長女  
 男 得一郎 明三四、七生  
 男 寅雄 明三五、九生  
 男 文雄 明四一、二生  
 女 明子 明四二、二生  
 女 千枝子 明四四、二生

君は長野縣人神津包重の孫にして明治十五年一月を以  
 て生れ同二十五年家督を相続す現時中信銀行頭取たる  
 外前記銀行會社の重役たり家族は尙六男康雄(大八、二  
 七)生、七男和夫(同二〇、一)生あり長女百合子(明三八、  
 三)生は長野縣人大澤市郎右衛門二男達男に養子たに  
 (同三〇、九)生、長野、神津謙太郎長女)は同縣人牧晴  
 雄に嫁せり(長野、北佐久、志賀村)  
 參照 大澤市郎右衛門の項

神津 藤平 長野縣多額納税者、河東鐵道、小  
 諸倉庫、共業土地、長野電氣鐵道、  
 長野温泉自動車各(株)社長、中  
 信銀行、東信電氣、長野電燈各(株)  
 取締役、東信電氣、長野電燈、佐  
 久鐵道(株)取締役、野澤信油(資)  
 代表社員、長野縣在籍  
 妻 伊久藏 明二九、八生  
 男 安 明三三、三三、長男伊久藏妻、長  
 野、佐藤八郎右衛門姪  
 女 せつ 明四〇、二生  
 女 とし 明四三、一五生  
 女 きよこ 明四五、五生

當家は長野縣北佐久郡志賀村に於ける舊家にして往時  
 名主を勤めたる家柄なり先々代孝太郎に與會津津よ  
 り藥種人蔘を移植す縣民今尙以て之を徳とす君は先代  
 清三郎の二男にして神津俣祐の兄なり明治四年十二月  
 を以て生れ同三十五年家督を相続す同二十九年慶應義  
 塾を卒業し現時河東鐵道會社々長の外前記銀行會社の  
 重役たり家族は尙五女きよ(大六、二)生、長男伊久藏(同  
 一二、三)生、長男伊久藏長男(同二五、一)生、一男、  
 同二男あり妹美子(明一七、八)生は長野縣人井出和  
 太郎長男太郎に同養子(同二〇、一〇)生は同縣人神  
 津善之助二男仁重郎に嫁し弟五祐(同二四、一〇)生は